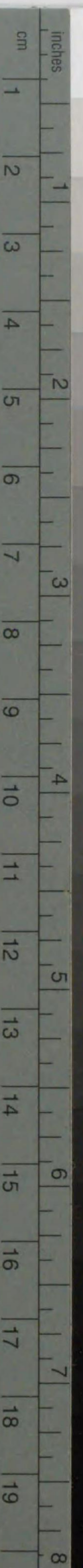


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue	Cyan	Green	Yellow	Red	Magenta	White	3/Color	Black
[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]

593-8
1200501526709

24. 10. 26

3-48

~~593~~
~~29/108~~
~~D/5~~
(29)
29/108
D/5
593
8



雄山閣編輯局編

大日本地誌大系

御府内備考五

第三十九卷

雄山閣版



593-8

大日本
地誌大系 御府内備考五例言

- 一 本卷は御府内備考正編の内卷之百四卷より同百四十卷までを収録したり。
- 一 卷之百二十六卷より百三十九卷に至る本所の分は原書欠本にして百四十卷の中之郷三の一冊を存する而已なり、尤も舊幕府引繼書の中の文政町方書上に據り、百二十七卷より百三十九卷に至る十二冊並びに百四十二卷の小梅之二、百四十五卷龜戸の二冊が、東京府文獻叢書の編纂當時誰かの手によつて補編として作られたるものあれど、本卷は原書に従つて補編の分は茲には掲載せざる事とせり、何れ他日に於て補ふことを考ふべし。
- 一 本卷の原本は左の諸氏により淨書せらる、濱中茂昌、内山毘世、北村季和、山本思明、宮澤猶興、遠藤惟政等の人々なり。
- 一 本卷の校訂は島田筑波氏が東京府廳藏本の原書に據り嚴密の校訂を施したり。
- 一 御府内備考の正編は本卷を以て終る、別に神谷信順が編纂に係る續御府内備考百四十四卷あり、これは江戸の神社と寺院の沿革を記せしものなり。

昭和六年九月一日

編者 識

例言

御府内備考

自卷之百四
至卷之百四十
總目次

卷之百四

白金之三

附錄

六軒茶屋町

永峰町

卷之百五

目黒

中目黒町

下目黒町

卷之百六

高輪之一

總說

高輪原

桂坂

洞村

卷之百七

高輪之二

北町

中町

卷之百八

品川之一

總說

品川臺町

品川臺町了眞寺門前

品川臺町本立寺門前

品川臺町寶塔寺門前

北品川善福寺門前

北品川養願寺門前

北品川正徳寺門前

北品川稻荷門前

北品川清徳寺門前

北品川東海寺門前

南町

北横町

臺町

小臺町

常光寺門前

下高輪國昌寺門前

下高輪證城寺門前

下高輪保安寺門前

下高輪智將院門前

卷之百九

品川之二	三三
南品川貴布禰門前	三三
南品川貴布禰社地門前	三三
南品川本榮寺門前	三三
南品川蓮長寺門前	三三
南品川願行寺門前	三三
南品川妙蓮寺門前	三三
南品川海藏寺門前	三三
南品川常行寺門前	三三
南品川長徳寺門前	三三
南品川妙國寺門前	三三
南品川妙國寺内門前	三三
南品川品川寺門前	三三
南品川海雲寺門前	三三
南品川海晏寺門前	三三
品川之三	四二
附録	四三
品川溜	四三
卷之百十一	四六

深川之一

總説	四六
小名木川	四六
洲崎原	四六
六萬坪築地	四六
十萬坪築地	四六
永代橋	四六
新大橋	四六
福島橋	四六
八幡橋	四六
坂田橋	四六
外記殿橋	四六
小橋	四六
洗濯橋	四六
大島橋	四六
松島橋	四六
石島橋	四六
蓬萊橋	四六
潮見橋	四六
平野橋	四六
金岡橋	四六
築島橋	四六

永居橋	五九
富岡橋	五九
千島橋	五九
綠橋	五九
下ノ橋	五九
中ノ橋	五九
上ノ橋	五九
田中橋	五九
豐島橋	五九
元木橋	五九
丸太橋	五九
江川橋	五九
相生橋	五九
松永橋	五九
海邊橋	五九
龜久橋	五九
要橋	五九
青海橋	五九
吉岡橋	五九
富島橋	五九
崎川橋	五九
大榮橋	五九

卷之百十二

福永橋	六六
扇橋	六六
高橋	六六
新高橋	六六
萬年橋	六六
猴子橋	六六
中ノ橋	六六
北ノ橋	六六
猿江橋	六六
大島橋	六六
御船藏 附安宅丸及船塚	六六
鯨船並鞘起立書	六六
御船藏	六六
御船藏	六六
靱藏	六六
石置場 附櫛樹植付場	六六
石置場 石灰置場	六六
三十三間堂	六六
會輔堂	六六
元番所跡	六六
屋鋪地名並里俗小名	六六
深川之二	六六

佐賀町	七三
佐賀町代地	七二
熊井町	七六
相川町	八三
清住町	八五
清住町代地二ヶ所	八七
富吉町	八八
諸町	九一
卷之百十三	九三
深川之三	九三
中島町	九三
北川町	九五
奥川町	九六
蛤町 四ヶ所	一〇三
卷之百十四	一一一
深川之四	一一一
大島町	一一二
大島町代地二ヶ所	一一三
築出新地	一一四
越中島拜借地	一一六
定凌屋敷	一一七
定凌屋鋪續上納地	一一九

越中島町	一一九
本所茅場町二丁目代地	一二一
南松代町代地	一二三
佃町	一二三
久右衛門町分	一二四
三左衛門屋鋪	一二四
久右衛門町分	一二四
伯隆屋鋪	一二九
卷之百十五	一三〇
深川之五	一三〇
黒江町	一三〇
黒江町代地	一三〇
永代寺門前町	一三四
永代寺門前仲町	一三七
永代寺門前山本町	一四三
永代寺門前東仲町	一四五
三拾三間堂町	一四七
卷之百十六	一四九
深川之六	一四九
宮川町	一四九
島田町	一五一
入船町	一五二

木場町	一五八
吉祥寺門前	一六四
卷之百十七	一六六
深川之七	一六六
小松町	一六六
松賀町	一六七
松賀町續拜借屋鋪	一六八
一色町	一六九
伊澤町	一七二
松村町	一七四
坂本町代地	一七七
北本所代地町	一七六
南本所石原代地	一七九
富岡町	一八〇
卷之百十八	一八一
深川之八	一八一
中川町	一八一
今川町	一八三
富田町	一八四
堀川町	一八六
材木町	一八六
東永代町	一八八

西永代町	一八九
永堀町	一九〇
三角屋鋪	一九一
富久町	一九三
萬年町一丁目	一九三
萬年町二丁目	一九四
萬年町三丁目	一九六
卷之百十九	一九八
深川之九	一九八
平野町	一九八
海福寺門前	二〇三
冬木町	二〇三
龜久町	二〇四
大和町	二〇五
六人屋敷	二〇七
鶴歩町	二〇八
扇町	二一〇
茂森町	二一一
六萬坪町	二二二
卷之百二十	二二四
深川之十	二二四
伊勢崎町	二二四

東平野町	二二八
西平野町	二二九
山本町	二三〇
西永町	二三一
吉永町	二三二
久永町一丁目	二三三
久永町二丁目	二三四
鳥崎町	二三五
鳥崎町續町	二三六
三好町	二三七
元加賀町	二三八
卷之百二十一	二三九
深川之十一	二四〇
海邊大工町四ヶ所	二四一
卷之百二十二	二四二
深川之十二	二四三
海邊大工町裏町	二四四
海邊大工町代地町四ヶ所	二四五
靈巖寺表門前町	二四六
靈巖寺裏門前町	二四七
源左衛門屋鋪	二四八
扇橋町	二四九

南本所扇橋代地町	二五〇
北本所代地町	二五一
猿江町代地	二五二
石島町	二五三
末廣町	二五四
卷之百二十三	二五五
深川之十三	二五六
元町	二五七
八名川町	二五八
御船藏前町	二五九
八幡旅所門前	二六〇
要津寺門前	二六一
六間堀町	二六二
神明門前	二六三
常盤町壹丁目	二六四
常盤町貳丁目	二六五
常盤町三丁目	二六六
卷之百二十四	二六七
深川之十四	二六八
森下町	二六九
三間町	二七〇
富川町	二七一

東町	二六八
西町	二六九
猿江裏町	二七〇
卷之百二十五	二七一
深川之十五	二七二
上大島町	二七三
下大島町	二七四
泉養寺門前	二七五
古元町	二七六
南松代町	二七七
北松代町壹丁目	二七八
北松代町貳丁目	二七九
北松代町三丁目	二八〇
北松代町四丁目	二八一
北松代町裏町	二八二
卷之百四十	二八三
中之郷之三	二八四
八軒町	二八五
五ノ橋町	二八六
中之郷代地町四ヶ所	二八七
御仲間新町	二八八

横川町	二八九
横川町	二九〇
横川町御用屋鋪	二九一
御府内備考 卷之百四十四 總目次終	二九二

御府内備考卷之百四

白金之三

附録

六軒茶屋町

永峰町

以上二ヶ町は臺町に續きて目黒町の間ニ挾りたれば白金の六軒茶屋町白金の永峰町と都下の人は稱すれと左にあらす二ヶ町とも皆上大崎村の内なり故に姑く白金の附録とす

六軒茶屋町

一當町起立之年代相分不申町銘之儀者在原郡上大崎村高内ニ而往古村地ニ有之候砌六ヶ所之商ヒ家有之候ニ付六軒茶屋と里俗ニ唱來町方ニ相成候節々町銘ニ相成候趣申傳候尤其頃者御代官御支配ニ而百姓町家ニ有之處

正徳三巳年閏五月中町御奉行坪内能登守様丹羽遠江守様松野壹岐守様御勤役中町方御支配ニ相成申候

一町内惣間數百七拾三間三尺五寸南側表間口東西え九拾六間半餘同裏巾東西え九拾壹間同裏行南北え拾壹間半ハ三拾四間半迄不同ニ御座候北側表間口東西え七拾六間半餘同裏巾東西え七拾六間半同裏行南北え貳拾五間ハ三拾四間迄不同ニ御座候

但北側間口之内御武家方並除地村方懸り之分貳拾間四尺八寸相除キ申候間兩側不同ニ御座候且町内持往還横町共道巾間數相除キ申候

一四隣 東之方白金臺町拾壹町目西之方永峰町高福院井戸新右衛門様御屋鋪南之方森佐渡守様御抱屋鋪上大崎村北之方松平讃岐守様御下屋鋪上大崎村一櫻長屋

右者表間口貳拾七間四尺五寸裏行三拾間半裏巾貳拾八間有之候地面ニ古來彼岸櫻有之當時朽木ニ相成形チ斗ニ而右際ニ同木を植添有之候
三代將軍様御鷹野 御成之節花盛ニ有之候を 上覽之上夕日之櫻と 上意有之候趣ニ而夕日之櫻と申傳候尤書留等茂無御座年代相知不申申傳ニ御座候
但右地所西之方ニ 御成道と申傳候幅壹間之野道跡

御座候

一 御高札永峰町と組合ニ而右町之内ニ場所所有之候
一 惠了庵 三間四方
右者年代者相知不申先年惠了と申者相住罷在候由ニ而
由緒並安置佛等茂無御座候得共道心者抔相住居來當時
茂道心者相住罷在候

一 御檢地

右ハ元祿十丁丑年十二月織田越前守様御檢地御改ニ御
座候

一 反別壹町四反九畝五步

但御年貢之儀者上大崎村高四百三拾三石八斗四升七
合之内え相籠り上納仕候尤六軒茶屋町永峰町兩町合
高三拾八石七斗貳升ニ而壹町限り高分ケ之儀相知不
申候

一品川領ニ御座候

一 町御奉行所御代官兩御支配ニ御座候

一 稻荷社 間口壹間 奥行九尺

右者町内北之方御除地八拾八坪之内ニ有之候

以上戊子書上

永峰町

坪數之通先年ノ御抱添ニ相籠り居候尤町入用其外共町
並之通御差出ニ御座候

一 抱屋敷 貳百八拾坪

右者町内西之方ニ而有馬佐兵衛様御所持之處寛政八丙
辰年五月中高木新五郎抱屋敷ニ相成申候尤上大崎村並
永峰町入合ニ而三千貳百貳拾貳坪之内え當町並之分前
書之坪數之通之通御抱添ニ相籠居候尤町入用其外共町
並之通御差出ニ御座候

一 御高札

右者町内中程北側ニ有之正徳三巳年九月中町御奉行坪
内能登守様御掛りニ而相渡申候

一 大下水 巾四尺五寸

右者當町中程ニ有之横切下水ニ而六軒茶屋町と持合ニ
而堀割之年代相知不申候

一 下水 貳ヶ所共巾貳尺五寸

右壹ヶ所者西之方下目黒村通ニ有之壹ヶ所者下目黒町
境と有之貳ヶ所共文化六巳年武家方御組合道造之節堀
割ニ相成申候

一 用水堀 巾壹間

右者麻布領馬込領世田ヶ谷領品川領四ヶ領之内拾四ヶ
村え相掛り候用水ニ而四谷御上水多摩郡下北澤村ノ分

一 當町起立之年代相分不申町銘之儀者荏原郡上大崎村高
内ニ而往古村地ニ有之候御同郡上目黒村ノ山續キニ有
之候由を以里俗永峰と相唱來町方ニ相成候節ノ町銘ニ
相成候趣申傳候尤其頃者御代官御支配ニ而百姓町家ニ
有之候處正徳三巳年閏五月町御奉行坪内能登守様丹羽
遠江守様松野壹岐守様御勤役中町方御支配ニ相成申候
一 町内間數三百拾八間壹寸南側表間口東西え百五拾七間
餘同裏中東西え百四拾九間三尺同裏行南北え拾七間半
ノ貳拾貳間半迄北側表間口東西え百貳拾六間半餘同裏
中東西え百拾九間半同裏行南北え九拾間ノ貳拾三間半
迄同中表間口東西え三拾四間餘同裏中東西え三拾貳
間同裏行南北え拾四間半ノ貳拾五間迄不同ニ御座候
一 四隣 東之方六軒茶屋町西之方松平佐七郎様御家來高
木新五郎上大崎村下目黒村入合抱屋敷下目黒村同村淨
覺寺下目黒町南之方兵部卿様御抱屋敷上大崎村森佐渡
守様御上屋敷北之方高福院上大崎村松平主殿頭様御抱
屋鋪松平佐七郎様御家來高木新五郎抱屋敷
一 抱屋鋪 三百八拾坪
右者町内末之方ニ而元島津筑後守様奥方様御所持之處
文政二卯年十二月中一ツ橋様御抱屋敷ニ相成申候尤上
大崎村並永峰町入合三千七百坪之内え當町並之分前書

水仕候尤用水並左右共九尺通上大崎村用水式地所ニ而
村方懸リニ御座候間堀割年代相分不申先年三田村え相
掛候樋口ノ壹ト樋ニ而相懸リ候ニ付三田用水と唱候趣
ニ御座候

一 石橋 長四尺五寸 巾三間三尺五寸

右者町内中程大下水え懸渡有之

一 石橋 貳ヶ所共長貳尺五寸巾三間壹尺ノ三間三尺六寸

右者貳ヶ所町内西之方下水ニ懸渡有之候

一 石橋 長壹間巾六間

右者前書用水堀ニ懸渡有之

一 御檢地

右者元祿十五年十二月中織田越前守様御改ニ御座候
一 町内反別貳町壹反壹步

但右御年貢之儀者上大崎村四百三拾三石八斗四升七
合之内え相籠り上納仕候尤六軒茶屋町永峰町兩町合
高三拾八石七斗貳升ニ而壹町限り高分ケ之儀相知不
申候

一 當町品川領ニ御座候

一 町御奉行御代官兩御支配ニ御座候

東叡山御支配羽黒山役所
日本橋仙壽院配下
品川宿寶生院弟子
羽黒修驗了

右者當町清右衛門店ニ住居仕罷在候

土御門江戸御役所藏兵庫支配
萬作娘 阿部龜朝

右者當町庄兵衛店ニ住居仕罷在候

一 舊家

名主 太右衛門

右先祖永井太右衛門儀者生國山城國ニ而天正二年之頃御當地之罷出上大崎村之内只今之場所ニ住居仕則當町草創致候由申傳古來ノ町内南側表田舎間拾壹間壹尺貳寸裏行貳拾間裏巾拾間此坪貳百五坪之草創地唯今以所持仕候右太右衛門ノ當代迄九代相續仕苗氏者永井と唱候得共由縮之義者明和九辰年二月中類焼之砌古書物焼失仕候ニ付委細相知不申且先祖ノ持傳候古器物武具等之類無御座候得共往古ノ庭中ニ躑躅之太木一株有之銘を淀川と號高サ壹丈五尺程横貳丈四尺程株之根廻り壹丈程有之候古木御座候古江戸砂子ニ出候由申傳候先年ハ大木ニ御座候處右類焼之砌焼失仕其後追々芽立當時之丈尺程ニ相成申候

濱中茂昌戊子淨書

御府内備考卷之百四終

東西之表四拾七間裏巾四拾七間但目黒川相隔申候南北之奥行東之方拾八間同西之方ニ而拾八間北側東西之表三拾八間裏巾三拾九間南北之奥行東之方ニ而拾八間同西之方ニ而拾八間

但町内持往還横町共道巾間數相除申候

一四隣 東之方明王院西之方下目黒町南之方芝増上寺御靈屋料下目黒村北之方青山山下野守様御抱屋鋪

一飛地

右者下目黒村續ニ有之

右間數小間拾三間北側東西之表拾三間裏巾九間南北之奥行東之方ニ而拾六間同西之方ニ而拾八間
右四隣 東之方下目黒村西之方同斷南之方下目黒町北之方同斷

一飛地

右者下目黒町續ニ有之

右間數小間拾壹間東側南北之表拾壹間裏巾九間東西之奥行南之方拾貳間同北之方ニ而貳拾九間
右四隣 東之方下目黒村西之方瀧泉寺南之方下目黒町北之方同斷

一自身番屋之儀者下目黒町と組合相勤申候

一目黒川 幅凡四間程

御府内備考卷之百五

目黒

目黒は今も上目黒村中目黒村下目黒村と分れて廣き地名なり名義及村にかゝる事蹟は在方分に記してこゝに略せり目黒町と稱せる處は永峰町續より瀧泉寺脇通り不動の門前までにして全く不動への道筋なれば往來も多かりしゆへ町に開きしものと見へたりよりて今白金六軒茶屋永峰目黒と次第してこゝに載ぬ

中目黒町

一當町往古之儀者在原郡中目黒村之内ニ而寛永十一年芝増上寺 御靈屋料ニ相成町方起立之儀者年代不知百姓町家作仕罷在候處延享三寅年中町御奉行能勢肥後守様馬場讚岐守様御勤役中町方御支配ニ相成其節ノ中目黒町と相唱候
一町内間數惣小間百九間内下目黒町續小間八拾五間南側

右者町内未申之方有之水源之義者玉川分水ニ而在原郡赤堤村大田村三宿村同上目黒村中目黒村ノ當町之相掛り隣村大崎村ノ品川宿ニ掛り夫々海上之流落申候

一石橋長八間三尺中貳間

右者前書目黒川ニ掛ケ渡有之寶永年中何方僧ニ御座候哉西蓮と申者此橋ヲ建立仕候由ニ申傳右橋際ニ碑壹基有之橋供養佛北八丁堀岡崎町施主森田屋茂兵衛鏡炮洲屋鋪御詠哥講万人講中但碑之裏ニ寶曆十四申年五月ノ明和六丑年九月納右之通彫付有之候尤碑之三方ニ法名數多彫印有之候全橋出來候共碑駝と相分り不申候此橋之名太鼓橋ノ世間流布仕候得共本名者一圓相唐橋と相唱候又略シ候而唐橋共相唱申候

一町内反別六反七畝拾七步

右者芝増上寺 御靈屋料地方御役所之相納候

一當町一圓ニ馬込領ニ而御座候

一町方御支配ニ而芝増上寺 御靈屋料ニ御座候

一舊家

家持植木屋 源 右衛門

右先祖傳太夫儀者三河國上賀茂郡城屋敷村出生ニ而同所住居仕代々相續仕罷在候處天正年中故有テ紀州和歌山ニ移住仕罷在候其後慶長年中京都紀伊郡吉祥院村ニ

移住仕代々相續仕來候處譯合有之私從弟石原伍三郎之家名譲り渡文化四卯年四月中御當地之罷出當町之住居仕候尤苗字之儀ハ表向相用不申候得共石原氏ニ而罷在候

一文政九戌年正月十二日御鳥見山内助治郎様御場所爲御見分と御出被遊候節被仰付候儀者
内府様近々目黒通品川筋 御鷹野 御成ニ付御猶豫所ニ相成御立寄之儀被仰付候同十三日御場御掛り私宅御見分被遊夫々大御見分之儀者

村越伯耆守様
本目信濃守様

戸田五助様
御見分相濟二月二日

御成ニ付御召替所と被仰出然處二月朔日ニ山内助治郎様被仰付候儀者明二日朝 御膳所と被仰出候則前夜御道具並職人御幕方御普請方御役人様御一同御詰被遊候 御成首尾能相濟依之白銀貳枚頂戴仕候ニ付御役人様方之御禮廻り仕候乍恐冥加至極難有仕合奉存候
一 去三月私庭前之蓮池ノ自然と三寸五分横貳寸餘之蓬萊箕龜女雄二ツ右池ノ出候ニ付御鳥見様之御届申上其後御取次奉願上候而

御城之乍恐奉差上候則御留ニ相成申候

下目黒町

以上戊子書上

一 當町往古之儀者在原郡下目黒村之内ニ而寛永十一戌年芝増上寺 御靈屋料ニ相成町方起立之儀者年代不知百姓町家作仕罷在候處延享三寅年中町御奉行能勢肥後守様馬場讃岐守様御勤役中町方御支配ニ相成其節ノ町名下目黒町と相唱申候

一 町内間數惣小間七百間内永峰町續小間五拾八間三尺北側東西之表五拾八間半裏中五拾九間半南北之與行東之方ニ而拾八間同西之方ニ而六間

一 四隣 東之方淨覺寺西之方中目黒町南之方大圓寺明王院北之方青山下野守様御抱屋鋪

一 中目黒町續小間八拾貳間南側東西之表四拾貳間半裏中四拾間但下目黒村田畑相隔申候南北之與行東之方ニ而貳拾間同西之方ニ而貳拾間北側東西之表三拾九間半裏中三拾壹間半但右同斷田畑相隔申候三ヶ所ニ有之南北之與行東之方ニ而拾貳間同西之方ニ而拾八間

右四隣 東之方中目黒町西之方右同町南之方芝増上寺御靈屋料下目黒村北之方右同斷

右之場所里俗丹方町と相唱申候

但右之場所里俗丹方町と相唱申候尤反圍中ニ有之候町故反圍町ニ可有御座候得共先年ノ丹方町と相認來候

一 中目黒町飛地續々同所飛地迄小間百七拾間半東側南北之表六拾八間裏中六拾七間三尺但禪宗威徳寺境内相隔申候西東之與行南之方ニ而拾五間同北之方ニ而拾五間西側南北之表百貳間半裏中百三間餘但律宗幡龍寺門中相隔申候東西之與行南之方ニ而九間同北之方ニ而拾貳間

右四隣 東之方芝増上寺 御靈屋料下目黒村威徳寺西之方右同斷律宗幡龍寺南之方瀧泉寺北之方中目黒町飛地ノ下目黒村之内
右之場所里俗耕地町と相唱申候尤耕地之場所町家ニ取建候ニ付右様ニ申習シ來候

一 中目黒町飛地續々小間三百拾間貳尺南側東西之表百六拾九間餘裏中百七拾四間半南北之與行東之方ニ而拾貳間同西之方ニ而拾三間同横町東西之表拾八間裏中同斷南北之裏行東之方ニ而貳拾間同西之方ニ而同斷同裏通南側東西之表五間半裏中拾七間餘南北之與行北之方ニ而貳拾二間半同南之方ニ而拾七間

北側 東西之北ノ西之折廻し長延表百七間半餘裏中百七間餘南北之與行東之方拾三間同西之方拾一間半

右四隣 東之方下目黒村西之方瀧泉寺南之方在原郡桐谷村北之方瀧泉寺
右之場所里俗片町仲町と相唱申候

右同所續々小間九拾八間貳尺

東側 南北之表三拾壹間裏中五拾八間半餘東西之與行南之方ニ而六間同北之方ニ而拾壹間

西側 南北之表三拾貳間裏中三拾五間東西之與行南之方ニ而五間同北之方ニ而拾三間

南側 東西之表貳拾六間三尺裏中貳拾九間南北之與行東之方ニ而拾三間同西之方ニ而七間

北側 東西之表八間半餘裏中九間半南北之與行東之方ニ而四間同西之方ニ而拾三間餘

右四隣 東之方下目黒村西之方在原郡戸越村南之方同村北之方瀧泉寺
右之場所里俗瀧前町と相唱申候

但當所不動尊境内ニ瀧有之右門前通ニ付瀧之前と申儀ニ而唱來候
一 坂 幅三間登り凡八拾間程

右者永峰町ノ入口ニ有之行人坂と相唱往古木食行者此

邊ニ住居仕候ニ付里俗行人坂と申傳候
但シ坂口南北ニ古碑建有之候碑文左之通

清林院木食心譽一道
名法願成就石碑建立可書
活土寺上
奉迎享三丙寅年二月十二日
本住持清林院住持
元禄十六癸未七月十八日
成就

- 一中目黒町ニ懸渡唐橋之儀者委細中目黒申上候
- 一町内反別三町七反四畝程
- 一當町之儀者町方御支配所ニ而芝 御靈屋料ニ御座候
- 一當町内一圓馬込領ニ御座候
- 一右者町内秀五郎店ニ住居仕罷在候
當山修驗觸頭 清法院觸下 寶院
- 一右同所彦四郎店ニ住居仕罷在候
節渡世家持 治右衛門
- 一舊家
- 一右先祖治右衛門儀者生國近江國ニ而郡之儀者相知不申
鈴木氏ニ而御座候然處慶安年中御當地ニ罷出當所ニ住

仰仍狀如件

五月日

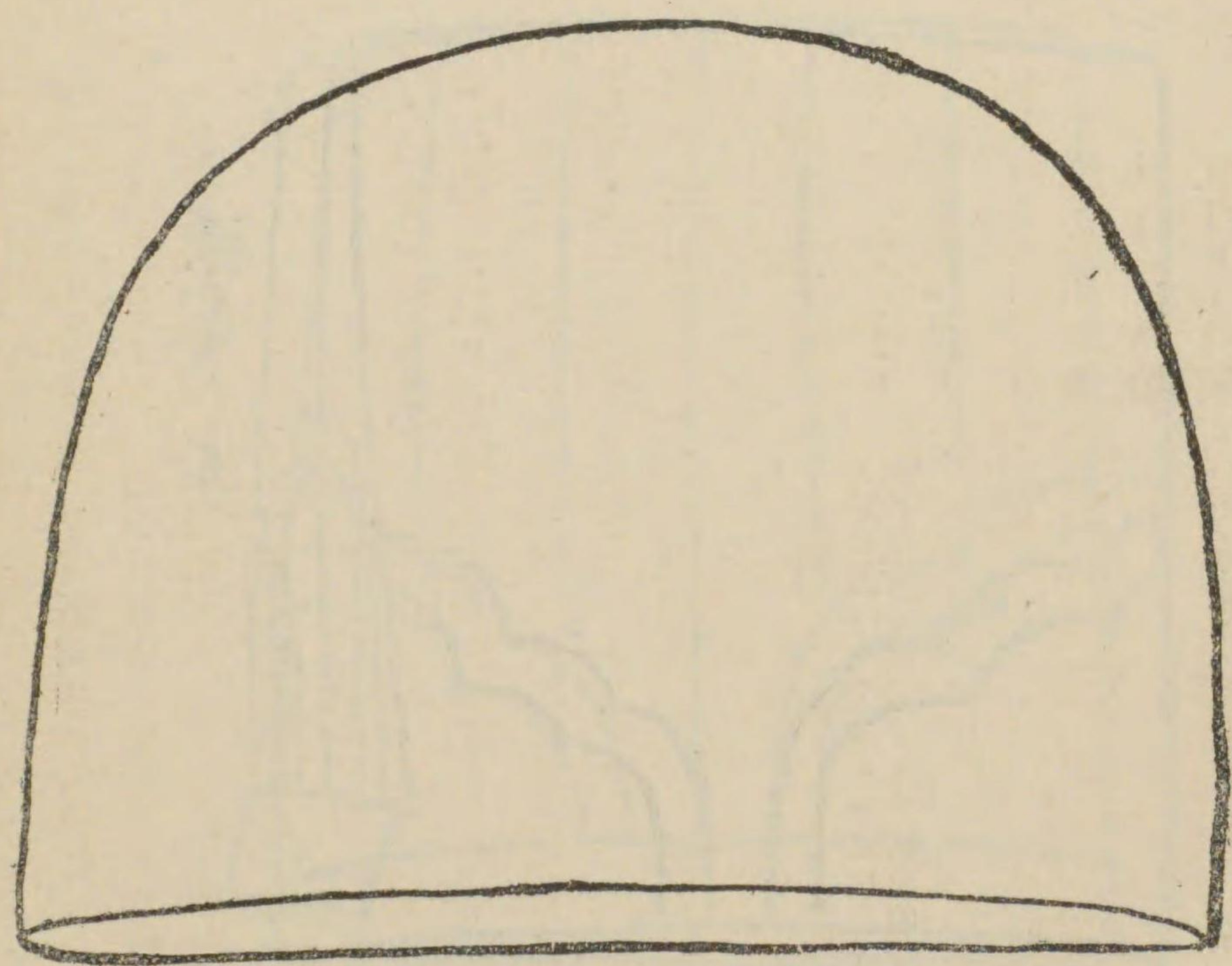
中務 花押 陳氏

- 右之通ニ認有之候寫
- 一麝香猫三疋繪屏風 一
- 但貳枚折ニ而筆者不知候
- 一短刀 壹腰
- 但銘吉光長六寸七分
- 一日蓮上人 直筆 一幅
- 但八字題目ニ而弘安三歲庚辰八月日俗彌太郎與之下有之候
- 一木像不動尊 一體
- 但作人不知立像長三寸餘
- 此外系圖古書物道具類數多御座候處天明年中類燒之砌
- 悉燒失仕候由ニ而委細之儀相知不申候
- 陳三官冠三品共毛織之樣ニ相見之申候糸ニ而者無之候

居仕農家御座候處何之頃哉陳三官と申唐人渡來り其節
先祖鈴木氏節製法傳授ヲ請候儀申傳ニ御座候右傳書ヲ
以於當所ニ節製シ方渡世仕候處自然と弘り當所之名物
と相成申候先祖治右衛門儀寶永六丑年三月申死仕法名
快岸宗俊と申當代迄五代相續仕凡百七十八年來節家業
仕候

- 一年々正月元日東叡山
- 御門主様之製法之節當所瀧泉寺ノ献上ニ御座候
- 一目黒筋之 御成之節瀧泉寺 御膳所之節私製之節右瀧泉寺ノ献上ニ相成申候
- 一先祖ノ持傳候品左之通ニ御座候
- 一唐人冠 三ツ
- 一右者陳三官之冠之由申傳候寫末ニ認入差上申候
- 一額 陳三官と記有之 長貳尺壹寸五分左右堅貳尺二寸五分 但扇地紙ノ形ナ
- 一陳氏之と有之古書物一枚
- 一言左之通
- 一就陳節無類
- 一宜任天下一被
- 一成御菓子所
- 一下者也

高廿七寸三分程



興

長七寸五分

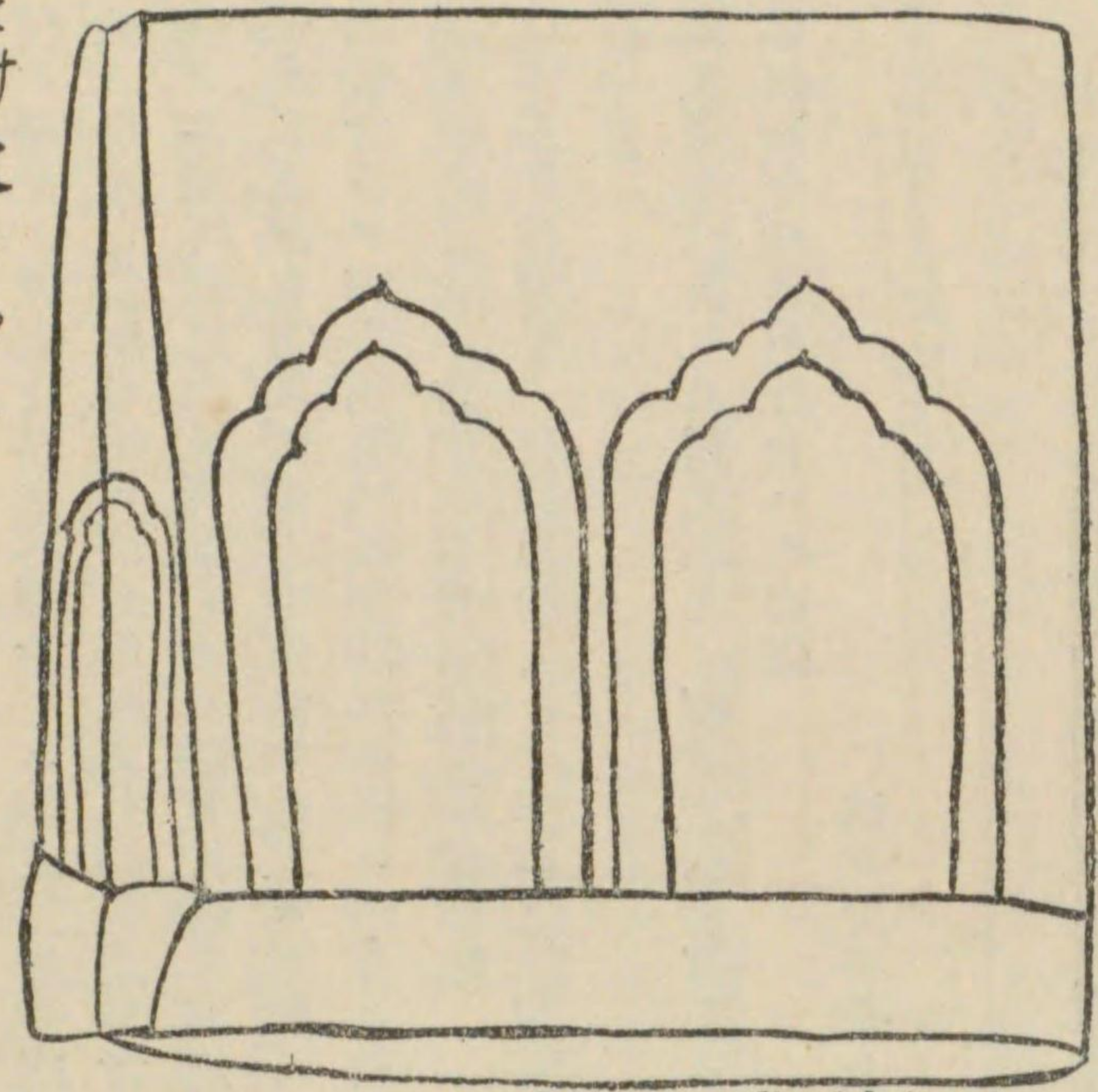
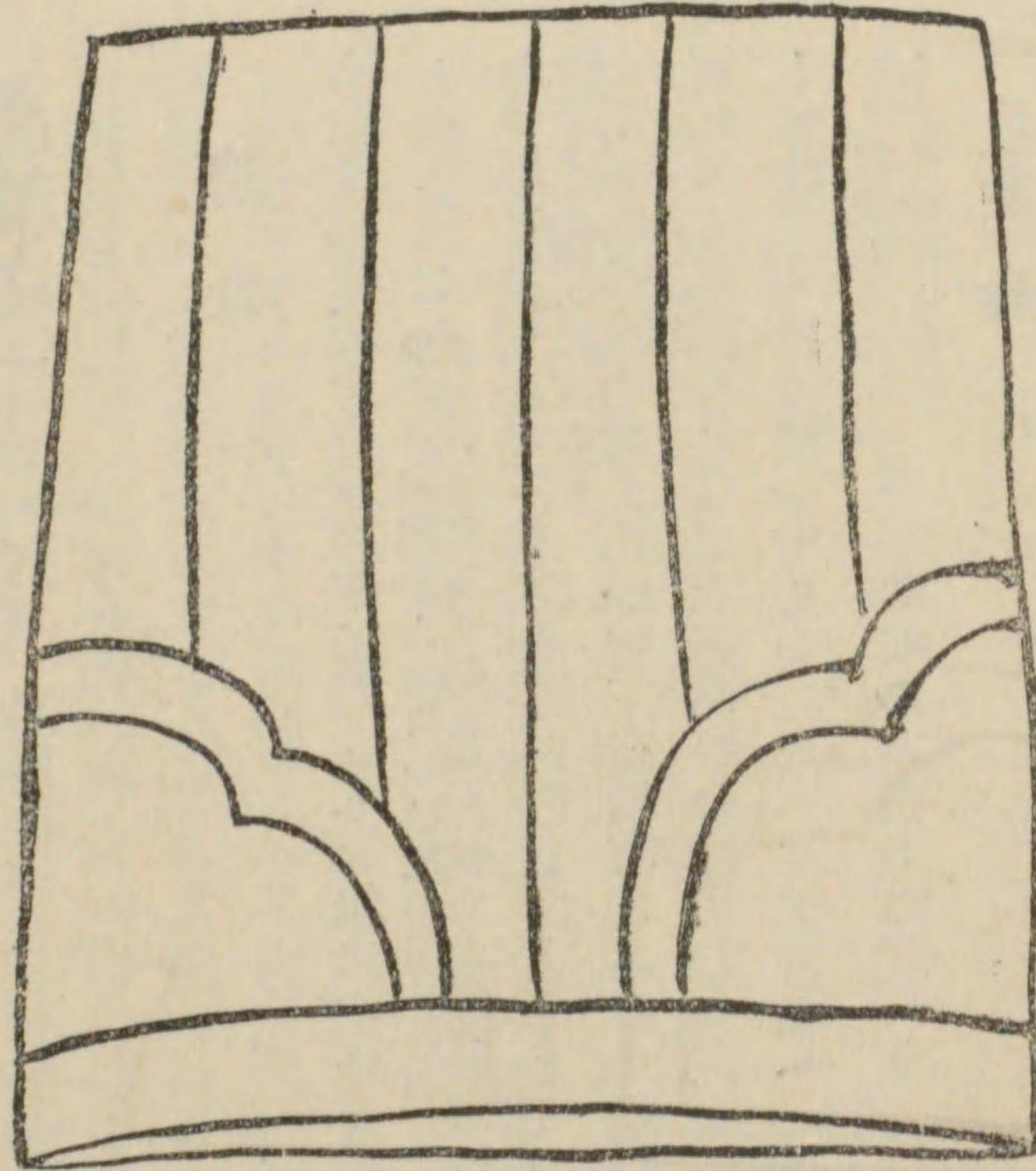


表 長七寸五分

七寸五分



裏

長七寸五分

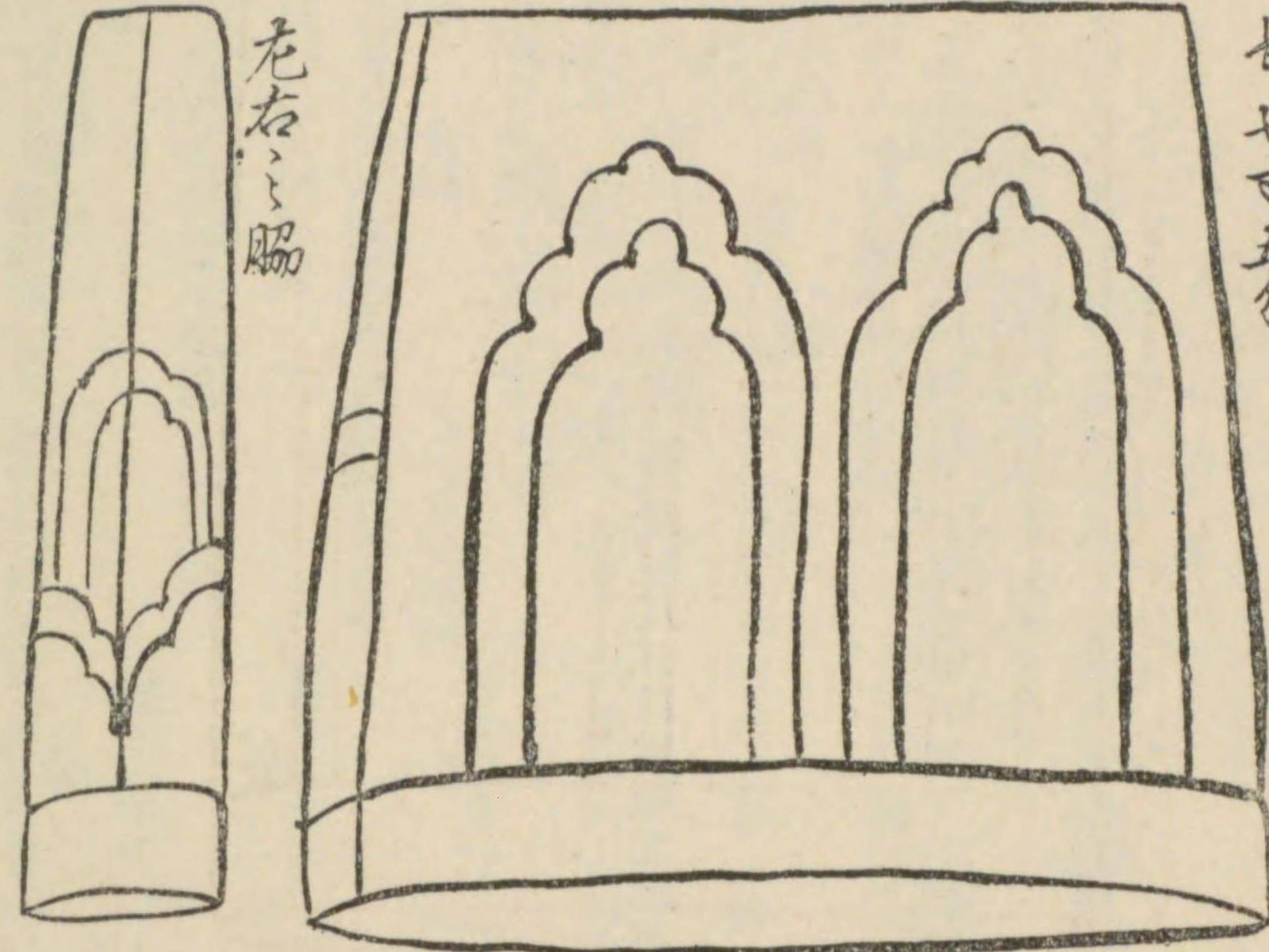
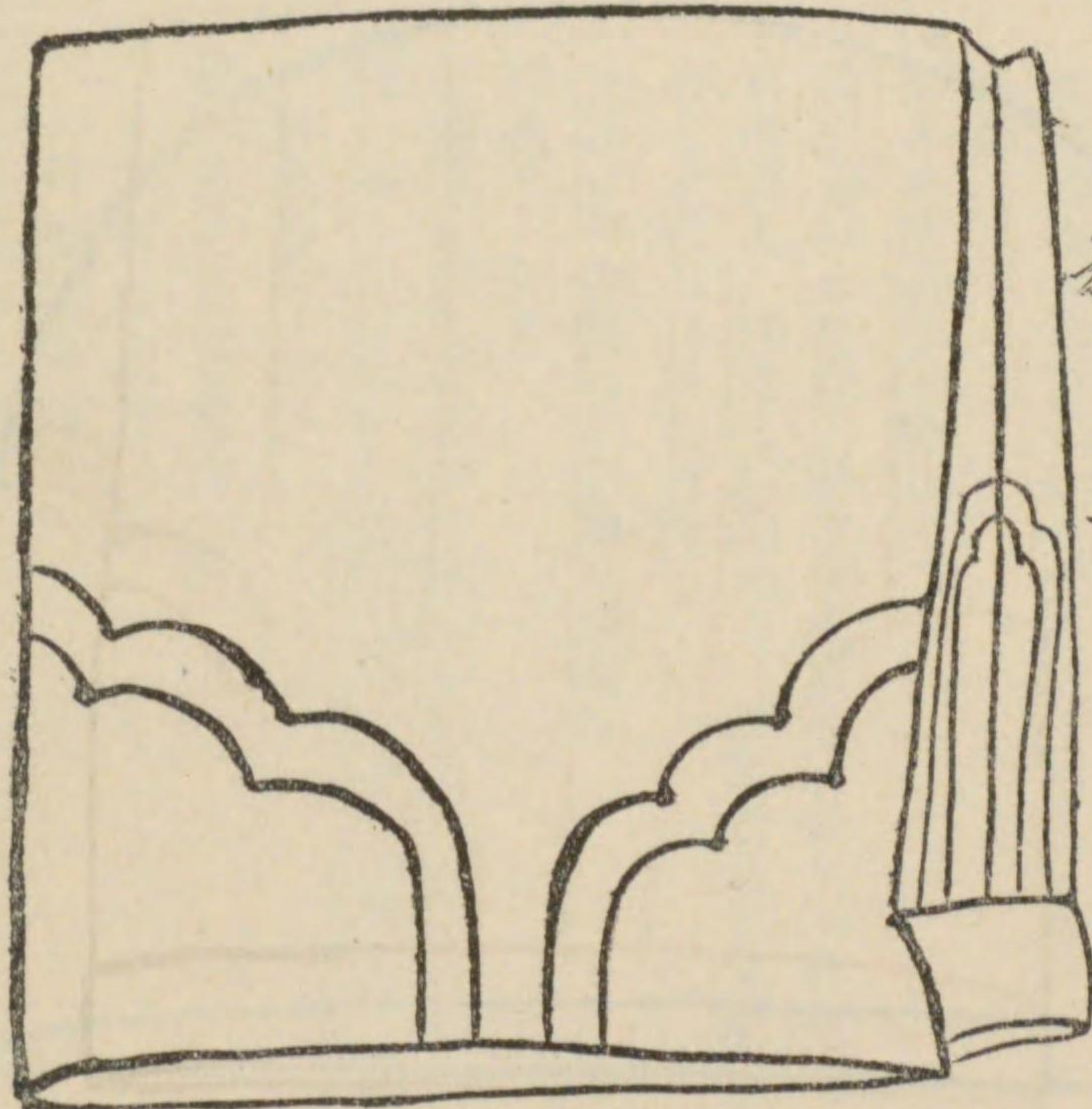


表 長七寸五分

長七寸五分

左右之脇

横七寸五分



裏

餅花屋 家持 清 兵 衛

一 右清兵衛家名者伊勢屋と號シ先祖清兵衛儀年代不知當所不動尊門前居室ニ而竹ヲ網シ是え五色ニ粉り候色餅ヲ付ケ餅花と號商仕候處其頃者外ニ類品茂無御座追々賣弘メ自然と當所名物ニ相成申候尤右餅花之形者利劍ニ表シ惡魔降伏之由又青葉之木ニ餅を付候も有之是者五穀成就之譚を方取候義と申傳候其後追々當所ニ右品を商候者多ク御座候得共最初清兵衛家ニ而作り初候義ニ而先祖清兵衛ノ當代迄四代右餅花家業仕候
一 文化十子年正月廿一日目黒筋え 御成之節御買上ニ相成申候

一文政九戌年二月二日目黒筋え 御成之節御買上ニ相成申候冥加至極難有仕合ニ奉存候

以上戊子書上

濱中茂昌戊子淨書

御府内備考卷之百五終

郎氏綱豆相兩國の軍を引率し江戸の城へおしよせたり江戸の城主上杉修理太夫朝興居ながら敵をうけんは武略の無に似たりとて品川へうつて出道にて敵をまちかけたりさるほどに小田原の先陣田目六郎と上杉家の先手曾我神四郎と品川の前なる高輪原にてかけ合上杉の軍兵等あしなみみたれて城中さして引返すと此比まで廣き原なりし事おしてしるべし

桂坂

北町北横町より二本榎の方へ通る坂なり此邊薦かつらの多くはへりしゆへ名とすといふ此説のごときは蔓坂と書べきか又江戸砂子に鬘を掛て身をやつせし出家の此坂にて頓死せるよりの名とて鬘坂と記たり

洞村

土人ほら村と唱ふ東禪寺の南の方にて下高輪村民居住の邊をすべといへり窪き地なれば洞と名付しならん江戸志に螺の出たる所と書しはその據をきかず

以上戊子編次

内山毘世戊子淨書

御府内備考卷之百六終

御府内備考卷之百六

高輪之一

總説

高輪は高き繩手と云の下略なりしを後に文字を書改めしなるべし 地名に何繩手と云ものは郡中大森村内には繩手と云古名あり是北條役帳に六郷殿三貫四百文なりと云類あればなり 此邊町と成しは古くよりの事にて正保の郷帳にも上高輪町下高輪町とみゆ元祿改の郷帳にもしか記たり今は上高輪町を變名して芝田町と稱し車町二本榎伊皿子町もおしなへて芝と唱へ 是町方なり郷帳等にては今下高輪町のみ舊名に従へり 以上高輪町と書す

高輪原

古くは此邊武藏野につゞきて廣き原なりしと見ゆれど今は原の名残りもなし按に小田原記に云大永四年正月上杉の家老太田源六同じき舍弟源三郎謀叛を起し小田原衆と引合相圖を定めしかば時刻をうつさず北條新九

御府内備考卷之百七

高輪之二

北町

一 當町之儀者往古荏原郡下高輪村之内ニ有之候處一躰人家少ク殊ニ海邊繩手ニ有之右海際ヲ高と唱候ニ付高繩手と唱來候趣申傳其後起立不相知輪之字ニ書改年月不知町家作ニ相成當時北町中町南町北横町臺町小臺町常光寺門前國昌寺門前證誠寺門前保安寺門前知將院門前共拾壹ヶ町ニ相分レ尤地方御用ニ者今以下高輪町と而已相認メ申候當町之儀者北之方え寄り候ニ付北町と唱元御代官御支配ニ御座候處正徳三巳年町方御支配ニ相成其節之御奉行坪内能登守様御番所ニ而被仰渡候
一 町内南北え表百九拾七間四尺七寸五分裏幅貳百六間五尺東西え裏行北之方三拾間南之方貳拾六間
但片側町ニ御座候

一 四隣 東之方海手南之方東禪寺大門西之方如來寺常照

寺常光寺安泰寺持地所並同所北横町本多伊豫守様御下屋鋪北之方芝車町

一町内里俗西北横町ヲ庚申堂横町と申候者同所常照寺ニ庚申堂有之候故右之通唱來候儀ニ御座候

一御高札

右者高輪六ヶ町並下高輪村惣持ニ而同所中町ニ建有之委細之儀者同町ニ而申上候通ニ御座候

一自身番屋 間口貳間奥行三間

右者町内中程海手ニ有之起立之儀者古來町内店並ニ有之候處享保年中松野壹岐守様御番所ニ願上町内海手ニ相建町用相勤來候尤六ヶ年以利文政六未年正月中三田古川町ニ出火之節類焼仕候ニ付同年五月中町御奉行榊原主計頭様御番所ニ御願申上御間濟ニ相成先規之通相建町用相勤申候

一石橋 幅貳間壹尺石長サ三尺程不同

右者里俗庚申堂横町入口下水ニ掛渡有之起立之儀者享保十四酉年當町並北横町同所續下高輪村百姓方と割合出銀仕自普請ニ而石橋出來申候

一石橋 幅六間貳尺長サ五尺程不同

右者町内北之方ニ寄有之候往還横切大下水ニ掛渡有之候

一下水 巾三尺壹寸

右者往還横切大下水ニ而町内北之方ニ寄有之候

一海岸石垣 凡長サ貳百拾間三尺高サ壹丈貳尺程宛

右海手石垣並往還横切下水之儀者明曆三丁酉年始り萬治二亥年迄ニ松平陸奥守様御手傳ニ而出來仕候ニ付其後崩所等出來仕候節者地方御掛リニ而繕等被仰付候

一葭簀小屋 海手長延百八拾九間三尺奥行三間

右起立之儀者享保十三申年七月中願之通被仰付毎年三月朔日ノ十月晦日迄葭簀張ニ而水茶屋渡世仕其後願人有之定家作仕度段寶曆十辰年十二月中奉願候處町内迷惑ニも相成可申哉も難斗奉存候間同年ノ爲冥加北町中町南町右三ヶ町ニ而壹ヶ年ニ金拾貳兩と永拾文宛御代官御役所ニ上納仕候

一廿六夜待

右者例年七月廿六日夜月の出拜シ候迎芝車町大木戸邊ノ品川谷ツ山下迄群集致候右者萬治之頃始り追々多人數罷出候様相成候由申傳候往古者信心之者斗罷越海際ニ而眞孤ヲ敷夜中念佛題目等ヲ唱月の出ヲ待候由今者遊人多ク罷出茶屋之賑ひ往來商人等も出候得共中ニ者眞孤ヲ敷月の出ヲ待候者も有之流石ニ古風相殘申候

守様御下屋鋪ニ相成南之方少々北町町地ニ御座候先年者裏葉之柵と申大木其外雜木生茂り有之海中ノ者浮洲之様ニ相見ヘ候ニ付右之通唱來候由ニ茂申傳候

一御檢地

右者元祿八亥牛九月中織田越前守様御檢地ニ御座候

一町内反別壹町六畝五歩八合七寸

一當町麻布領ニ御座候

一町御奉行御代官兩御支配ニ而當時中村八太夫様御代官所ニ御座候

以上戊子書上

中 町

一當町起立之儀者同所北町ノ申上候通ニ御座候町名之儀者北之方ニ北町有之南之方ニ南町有之候ニ付中町と唱古來ノ人扁者付不申候元御付官御支配ニ御座候處正徳三巳年町方御支配ニ相成申候其節之町御奉行坪内能登守様御番所ニ而被仰付候

一四隣 東之方海手南之方松平豊後守様南町分町並御抱屋鋪西之方下高輪村並松平豊後守様御拜領屋鋪明源寺安泰寺北之方東禪寺大門

一町内里俗當町ノ芝二本榎ニ通り候横町ヲ洞横町と申候右者同所續下高輪村之内字洞村と申場所ニ續居候ニ付右之通相唱申候

當町西裏手ヲ裏町と唱申候右者下高輪村と向合候場所ニ而裏通りニ有之候故ニ唱ニ御座候

當町北之方ニ寄下高輪村ニ通り候横町ヲ安泰寺横町と申候右者同村ニ安泰寺と申寺有之候故之唱ニ御座候

一千貳百貳坪 松平豊後守様 町並御抱屋鋪

但活券地面數五ヶ所分

右者寛政八辰年七月中松平豊後守様御抱屋鋪御圍入ニ相成御年貢並七分積金町入用等町並ニ相勤申候

一御高札

右者高輪六ヶ町下高輪村惣持ニ而正徳元卯年ノ高輪中町海手空地ニ有之候處致大破候ニ付取仕舞置候由其後明和二酉年六月中依田豊前守様御番所ニ再應御願申上候處御糺之上古來地方掛り御高札ニ付伊奈備前守様ニ御引渡ニ相成右御役所ニ而御糺之上同三戌年十一月古

來之通相建候様被仰渡候ニ付則先規之通場所之相建置申候所去ル文政六未年正月申三田古川町之出火之節右場所類燒仕候ニ付掛札之儀者取仕舞置申候其後町内困窮仕候而今以再興御願も不仕候然ル處右地所之儀古來者空地ニ御座候處寶曆十辰年十二月之海手空地之冥加永被仰付拜借地ニ相成其御高札取仕舞置候時節故場所ヲ見落一躰割地ニ仕候ニ付其後者御高札地面冥加永者北町中町南町之割合上納仕候
但御高札場在所之儀者南之方石橋之北之方之少々隔り相建罷在候

- 一 自身番屋 間口貳間奥行三間半
- 一 右者町内中程之北之方之寄海手ニ有之起立之儀者同所北町之申上候通ニ御座候
- 一 物揚場 登り四間四尺五寸巾拾四間
- 一 右者町内自身番屋之北之方之少々隔有之候
- 一 松平豊後守様御抱屋鋪海手物揚場 壹ヶ所
- 一 右者起立相知不申御屋鋪海手ニ有之諸車御屋鋪御一手切ニ而御持被成町内ニ而者差構不申候
- 一 渡舟場
- 一 右者正徳年中之深川船持共之者共日々罷越旅人ヲ相乗候ヲ渡世ニ仕且品川筋 御成之節者不殘引拂壹艘御

用船ニ呼置申候在所之儀者物揚場ニ而渡世仕候
一 堀井戸 六ヶ所
右者町内地面内ニ有之候水悪鋪候ニ付海手拜借地之内之文政元寅年六月中岩瀬伊豫守様御番所之相願堀立申候
但内貳ヶ所者起立年代相知不申候

- 一 石橋 中六間貳尺石長サ五尺程宛不同
- 一 右者町境北之方之拾五間餘隔り横切大下水ニ掛渡有之候
- 一 石橋 中五間三尺貳寸長サ六尺程ツ、不同
- 一 右者松平豊後守様町並御抱屋鋪際ニ而横切大下水ニ掛渡有之起立相知不申往古板橋ニ御座候處寛政三亥年町方御懸りニ而御入用ヲ以石橋ニ相成申候其後度々繕等御入用ニ而被成下置候
- 一 下水 北之方一ヶ所 南之方一ヶ所 中三尺三寸程 中四尺
- 一 右者町内往還横切大下水ニ而委細者同所北町之申上候通ニ御座候
- 一 海岸石垣 長サ百六拾九間高サ壹丈之壹丈壹尺程不同
- 一 右委細者同所北町之申上候通ニ御座候
- 一 廿六夜待
- 一 右委細者同所北町之申上候通ニ御座候

- 一 葭簀小屋 凡長延百五拾六間壹尺奥行三間
- 一 右同斷
- 一 御檢地
- 一 右同斷
- 一 町内反別八反八畝三步壹合三夕
- 一 此高九石三斗壹升四合
- 一 當町麻布領ニ御座候
- 一 町御奉行御代官兩御支配ニ而當時中村八太夫様御代官所ニ御座候

以上戊子書上

南 町

- 一 當町起立之儀者同所北町之申上候通ニ御座候町名之儀者北之方ニ北町有之中ニ中町有之南之方ニ當町有之候
- 一 付南町と唱申候元御代官御支配ニ御座候處正徳三巳年町方御支配ニ相成申候其節之町御奉行坪内能登守様御番所ニ而被仰渡候
- 一 町内南北之表貳百五間壹尺六寸裏巾貳百八間三尺壹寸東西之裏行南之方貳拾三間程北之方貳拾壹間
- 一 但片側町ニ御座候
- 一 四隣 東之方海手西之方下高輪村分松平豊後守様御抱

屋鋪有馬玄蕃頭様松平采女正様酒井飛彈守様御下屋鋪下高輪村分抱屋敷南之方北品川宿之内八ツ山北之方高輪中町松平豊後守様町並御抱屋鋪
一 町内里俗同所南町有馬玄蕃頭様御抱地之内道敷ニ相成候御地所之芝二本榎え通り候横町をもしやもじ横町と申儀者同地續ニ釋地大明神と申祠御座候ニ付右之通唱來候儀ニ御座候

- 一 六百七拾七坪 松平豊後守様 町並御抱屋鋪
- 一 右者寛政八辰年七月中御同人御抱屋鋪御圍入ニ相成候御年貢並七分積金町入用等町並ニ相勤申候
- 一 南之方壹ヶ所 有馬玄蕃頭様
- 一 一九百六拾九坪 町並御抱屋鋪
- 一 北之方壹ヶ所 成居申候
- 一 但北之方地所者下高輪村分御同人屋鋪御通行路ニ相成居申候
- 一 右者年月不知御同人御抱屋鋪ニ御圍入ニ相成御年貢並七分積金町入用等町並ニ相勤申候
- 一 貳百六拾三坪 酒井飛彈守様 町並御抱屋鋪

右同斷

一御高札

右者高輪六ヶ町下高輪村惣持ニ而同所中町ニ建有之委細之儀者右町内ニ而申上候通ニ御座候

一自身番屋 間口貳間奥行三間半

右者町内中程ノ北之方ニ寄海手ニ有之起立之儀者同町北町ノ申上候通ニ御座候尤文政六未年正月申三日古川町ノ出火之節類焼仕候ニ付同年八月中町御奉行筒井伊賀守様御番所ニ御願申上御聞濟ニ相成先規之通相建町用相勤申候

一物揚場之儀者高輪六ヶ町並下高輪村惣持ニ而同所中町ノ申上候通ニ御座候

一有馬立蕃頭様物揚場 壹ヶ所

右者起立相知不申御屋鋪海手ニ有之候ニ付諸掛り等者御屋鋪御一手切ニ而御持被成町方ニ而者差構不申候

一石橋 巾六間貳尺石長サ五尺程ツ、不同

右者町内北之方ニ寄候横切大下水ニ掛有之候

一石橋 巾五間壹尺餘石長サ六尺程ツ、不同

右者町内南之方ニ寄候横切大下水ニ掛有之右石橋起立之儀者同所中町ノ申上候通ニ御座候

一海岸石垣 凡長サ貳百六拾壹間高サ壹丈方壹丈壹尺迄不同

右委細者同所北町ノ申上候通ニ御座候

一下水 貳ヶ所南之方壹ヶ所者申三尺北之方壹ヶ所者申四尺

右者町内往還横切大下水ニ而委細者同所北町ノ申上候通ニ御座候

一廿六夜待

右委細者同所北町ノ申上候通ニ御座候

一葭簀小屋 長延百九拾六間奥行三間

右同斷

一御檢地

右同斷

一町内反別壹町六反六畝步

此高拾七石三升三合三夕

一當町麻布領ニ御座候

一町御奉行御代官兩御支配ニ而當時中村八太夫様御代官所ニ御座候

以上戊子書上

北横町

一當所往古之儀同所北町ノ申上候通ニ御座候町名之儀者同所北町横町ニ有之候ニ付北横町と唱申候元御代官御支配ニ御座候處正徳四年町方御支配ニ相成享保十六

亥年七月大岡越前守様御番所ニ而家作御改御免被仰付候

一町内東ノ南ニ折廻表七拾四間三尺裏巾七拾貳間三尺裏行東之方九間南之方八間

但片側町

一四隣 東之方下高輪北町西之方下高輪村並松平左兵衛督様御下屋鋪南之方常光寺本多伊豫守様御下屋鋪南之方常照寺正覺寺

一町内里俗庚申堂横町と相唱申候右者常照寺境内ニ庚申堂有之候故之唱ニ御座候

一御高札

右者高輪六ヶ町下高輪村惣持ニ而同所中町ニ建有之委細之儀者右町内ノ申上候通ニ御座候

一自身番屋 間口貳間奥行三間

右者町西北之角ニ有之起立相知不申候御願濟ニ而相建町用相勤申候

一物揚場

右者高輪六ヶ町並下高輪村惣持ニ而同所中町ノ申上候通ニ御座候

一石橋 巾九尺貳寸石長サ三尺程ツ、不同
右西南角横切下水ニ掛有之候

一下水 巾貳尺程

右者町内西南之方ニ有之候往還横切下水ニ御座候

一御檢地

右者町内北町ノ申上候通御座候

一町内反別壹反八畝貳拾貳步

此高壹石八斗七升四合

一當町麻布領ニ御座候

一町御奉行御代官兩御支配ニ而當時中村八太夫様御代官所ニ御座候

一米拾俵

長次郎店
權左衛門
當午百一歲

右權左衛門儀生國因州不知郡古見村百姓半次郎倅ニ而寶永七庚寅年夏出生仕貳拾歲之節江戸表ニ罷出其節芝松本町ニ市右衛門と申同國者駕昇渡世致罷在候ヲ便り市右衛門方ニ暫同居致日雇等相稼其後廿五六歲之頃同町ニ而別段ニ店借請住居致小肴賣渡世仕四拾壹歲之節はつと申當才之女子有之候者ヲ妻ニ貫請候由ニ御座候其後芝金杉邊ニ罷在貳拾ヶ年以前迄者芝車町權八店ニ罷在其後下高輪村百姓商家宇兵衛店ニ倅長之助方ニ同居仕候處同人商賣ニ罷出候障ニ相成且厄介ニ相成候ヲ嫌ヒ別宅致則倅長之助宅と向ひ合候場所ニ而當時

罷在候高輪北横町長次郎店之引移申候然ル處權左衛門儀稀成長壽ニ付文政七年二月十七日米拾俵被下置候間難有可奉存旨根岸肥前守様御番所之被召出於御白洲被仰渡難有頂戴仕候
以上戊子書上

臺 町

一當町内起立之儀者同所北町ニ而申上候通ニ御座候町名之儀者下高輪之内高場ニ有之候ニ付臺町と相唱候由尤御代官御支配ニ御座候處正徳四年町方御支配ニ相成享保十六亥年家作御改御免之儀大岡越前守様御番所ニ而被仰付候

一町内貳ヶ所ニ分有之南之方南北ニ表九間裏巾七間東西ニ裏行三拾九間半北之方南北ニ表四拾貳間五尺三寸裏巾四拾三間七寸東西ニ裏行南之方拾四間北之方拾七間四尺五寸

但片側町

一四隣 南之方分東之方泉岳寺境内南之方下高輪證誠寺門前西之方細川越中守様御中屋鋪北之方下高輪智將院門前北之方 東之方長應寺境内南之方正源寺境内西之方細川越中守様御中屋鋪北之方芝伊皿子臺町
一御高札

留候得共心遣不仕候様ニ取斗爲給申候尤安五郎儀も平日酒好ニ御座候處自身者去春中ノ禁酒仕母之者酒調遣候様ニ致申候然ル處母儀も段々快方仕候得共一體老衰之儀ニ而起居も不自由ニ御座候間近來者遠方之家業者相止母之氣分ヲ見合宣時節ニ者近所之仕事ニ罷出候得共朝飯爲給候而者罷出猶亦晝前ニ者罷歸リ晝飯之用意並藥等も爲給夕方迎も仕事仕舞次第急罷歸其間ニも仕事を見合節々宿元ニ歸見萬事心附申候右躰家業之外者一向他行等不仕母を大切ニ致候事而已心懸罷在候尤兄弟四人有之惣領女子ニ而牛込拂方町八百屋万藏と申者妻ニ罷成次女者青山御手大工町續武家地ニ罷在松平安藝守様御鑄師青木吉藏と申者妻ニ罷成三男右安五郎ニ而四男者高輪臺町金八店ニ罷在音次郎と申同所抱人足相勤申候安五郎儀是迄度々妻ヲ呼候様世話致候者茂有之候處万一母ヲ龜末ニ致候者ニ而者却而不宜敷候間母之存生中者呼申間敷と申度々相斷申候一躰母者疍癩持ニ而六ヶ鋪氣情ニ御座候處年來少も心逆ひ不申極貧之中右躰孝養ヲ盡候段輕キ者ニ者奇特成儀ニ付其段申上候處爲御褒美鳥目拾五貫文被下置難有頂戴仕候
右者文化十一戌年二月八日町奉行根岸肥前守様御番所之被召出右之通被下置候

右者同所中町ニ有之委細者右町ノ申上候

一物揚場

右委細者同所北町ノ申上候通御座候

一御檢地

右同斷

一町内反別貳反九畝貳拾步

此高貳石九斗六升七合

一當町麻布領ニ御座候

一町御奉行御代官兩御支配ニ而當時中村八太夫様御代官所ニ御座候

一御褒美鳥目拾五貫文

宇八店 安

母 安

主 安

同七拾七歲

津

右安五郎儀御當地出生ニ而三田南代地町欠付人足相勤爲渡世仕罷在老母壹人有之當戊七拾七歲ニ相成候處平日孝心ニ仕聊も母之氣に背候儀無之爲渡世之者ニ者不似合柔和ニ有之母儀去十一月廿日頃ノ老病ニ而打臥二便等茂不自由ニ御座候ニ付貧窮ニ者有之候得共日々少々ツ、酒調置不絶母ニ爲給病中絶食之節も酒者好ミ候ニ付相進候處母儀も貧窮ヲ存罷在候間日々酒調候儀差

以上戊子書上

小 臺 町

一當所往古之儀者同所北町ノ申上候通ニ御座候當町之儀者南北貳ヶ所ニ相分有之南之方ニ有之候地所之儀者圓福寺境内御年貢地五拾五坪五合之處万治二亥年藤堂采女様奥津内記様屋鋪御改御勤役之節願濟ニ而町家作仕其後正徳三巳年五月中町方御支配ニ相成申候北之方有之候地所之儀者長圓寺境内御年貢地之内九拾坪之場所町家作致有之候右者長圓寺開山傳譽國道寬永八未年伊皿子道往寺境内之中光雲寺北隣表拾四間半裏行貳拾七間之地ヲ道往寺開山法譽念無ノ申請一字起立仕三代目住持生譽專往代寬文四辰年右寺地桑山伊兵衛様依御所望當寺之場所と相對替ニ相成此地之引移申候右寺地之内表五間裏行六間ツ、之町屋三軒以前ノ居附ニ而有之御代官伊奈半左衛門様御支配ニ御座候由其後年月不知町方御支配ニ相成申候前書貳ヶ所ヲ合而高輪小臺町と相唱申候右者小高キ場所ニ御座候故相唱申候由ニ御座候
一町内南之方町屋東西ニ表拾三間裏巾同斷南北ニ裏行四間

但片側町

一右四隣 東之方圓福寺境内西之方同斷南之方木下大和
守様本多豊後守様御下屋鋪北之方圓福寺境内
一町内北之方町屋東西之表拾五間裏中同斷南北之裏行六
間

但片側町

一右四隣 東之方高野山在番所西之方永信寺南之方長圓
寺北之方芝本榎承教寺門前
一町内里俗北之方壹ヶ所ヲ但馬横町と申候右者同所ノ北
横町之通候場所ニ松平左兵衛督様御下屋鋪有之先年但
馬守様と申上候ニ付右之通相唱候ニ御座候
南之方壹ヶ所ヲ本多横町と申候右者同所南之方ニ本多
豊後守様御下屋鋪有之候ニ付右之通相唱申候

御高札

右ハ同所中町ノ委細申上候

一物揚場

右ハ同所中町ノ申上候通ニ御座候

一御檢地

右者同所北町ノ申上候通ニ御座候

一町内反別七畝拾七步

此高七斗五升六合六夕

一葭簀小屋

申貳間半
奥行三間

右同斷

一當町麻布領ニ御座候

一町御奉行御代官兩御支配ニ而當時中村八太夫様御代官
所ニ御座候

以上戊子書上

下高輪國昌寺門前

一當門前起立之儀者先年麻布飯倉邊村地之砌周防國出生
ニ而久兵衛と申者御當地之罷越同村之内之住居仕候處
年代不知候得共其頃防州山口瑠理光寺花翁圭岳弟子圭
佐と申僧久兵衛肉縁之者ニ付相尋來同人方之同居仕元
和八戌年右圭佐壹ヶ寺造立仕度旨心願を立其節久兵衛
地所之内之草庵ヲ建修行有之候處寛永三丙寅年之頃同
村之内之地所拜領仕圭佐師範圭岳を爲開山國昌寺造立
御免有之候由申傳候明曆三酉年正月十八日辰ノ刻本郷
丸山邊ノ出火ニ而同寺類焼仕候砌御用地ニ被召上同年
下高輪村之内之替地被下置則國昌寺建立有之候處寛文
年中町御奉行島田出雲守様御勤役中門前家作願濟ニ相
成候旨申傳候處元祿十五年二月十一日又候類焼仕其砌
書留等焼失仕候ニ付委細之儀ハ相分兼申候且又鎮守之

一當町麻布領ニ御座候

一町御奉行御代官兩御支配ニ而當時中村八太夫様御代官
所ニ御座候

以上戊子書上

常光寺門前

一當門前起立之儀者元和元乙卯年中常光寺開山大譽秀應
芝ニ而寺地拜領仕承應元辰年御用地ニ相成明曆二申年
中當時之場所ニ而替地拜領仕候其節ノ右境内町家相立
候趣申傳元寺社御奉行御支配ニ御座候處延享三寅年二
月中ノ町御奉行御支配ニ相成申候

一町内西側南北之表貳間半裏中同斷東西之裏行拾貳間

但片側町

一四隣 東之方海手西之方常光寺南之方高輪北町北之方
同斷

一自身番屋之儀者無御座同所北町自身番屋借り請町用相
勤申候

一海岸石垣

右委細者同所北町ニ而申上候通ニ御座候

一廿六夜待

右同斷

儀者高輪町ニ勸請有之候稻荷ニ御座候年々九月九日十
日兩日祭禮之砌青銅五百文宛初穂錢差出來候別當之儀
者社地ニ罷在天台宗來成院ニ御座候

一町内間數三拾四間南北之表三拾四間裏中同斷東西與行
南之方八間

但片側町ニ御座候

一四隣 南之方貳本榎承教寺東之方當寺境内下高輪證誠
寺北之方三田南代地西之方貳本榎廣岳院門前町

一自身番屋之儀者同門前續下高輪證誠寺門前自身番屋と
組合町用相勤來候

一舊家

右久兵衛先祖儀者周防國出生ニ而麻布飯倉邊ニ材木渡
世仕來候處防州山口瑠理光寺弟子圭佐と申僧先祖久兵
衛肉縁之者ニ付右圭佐御當地之相尋來同居仕罷在候處
何卒願望壹ヶ寺造立仕度有願ニ付右久兵衛地所之元和
八戌年頃草庵造立仕圭佐並久兵衛事跡相續俸久五郎之
相讓リ法名久圓と相改佛道修行仕候處寛永三寅年之頃
同村之内之壹寺造立御免有之候ニ付其節圭佐之師範防
州山口瑠理光寺花翁圭岳和尚ヲ爲開山國昌寺造立有之
候依之其旨瑠理光寺之申傳候處喜悅被致候其砌彼之寺
ニ大明僧陳元贊と申圭佐懇意ニ付寺建立承り相歡御當

久 兵 衛

地飯倉え参り参ケ年程も逗留被致居候由申傳其頃三浦
與次右衛門磯貝治郎右衛門福野七郎右衛門右三士住僧
圭佐並久圓等都合五人之者とも柔術傳授被致候由申傳
久圓儀者同傳法相守子孫え傳其後三浦與次右衛門儀者
同傳法ヲ守三浦流柔術と相改其末葉と申事聞傳承り候
其外磯貝福野等者餘流ニ相改候哉ニ申傳於國昌寺ニ柔
術初り候様申傳候然處明曆三酉年正月十八日本郷丸山
ヨ出火之砌麻布國昌寺類焼仕候砌御用地ニ被召上同年
當所え替地被下置候其節先祖久兵衛儀者當所え被召連
右圭佐僧ヲ爲貳代目相改國昌寺建立之節同寺地所之内
え表田舍間七間三尺奥行八間之地面分地同様ニ書面代
々住僧ヨ繼書印書被成下候只今以所持仕罷在候其後寛
文中之頃島田出雲守様御勤役中當門前町並ニ家作御
免ニ相成其節ヨ右門前支配仕來り凡先祖久兵衛ヨ貳百
七ケ年程國昌寺門前ヲ不離住居仕罷在候往古之譯柄敷
當時ニ至迄國昌寺住職之砌者何方ヨ被參候而も久兵衛
宅ヨ入院規式等相勤來申候往古ヨ書留等も有之旨申傳
候處去ル元祿十五年二月此邊一圓ニ類燒之砌燒失仕候
ニ付乍恐相分兼申傳而已奉申上候

下高輪證誠寺門前

以上戊子書上

一門前町屋起立之儀者往古西久保丸山ニ證誠寺罷在候節
ヨ町屋有之承應二己年寺社御奉行松平出雲守様御勤役
中當所え替地被仰付門前町屋之儀茂同様引移申候其後
延享二丑年能勢肥後守様御勤役中町方御支配ニ被仰付
候尤先年類燒之節書物等燒失仕候ニ付委敷儀者相分不
申候古門前町屋ニ付年季切替願者無御座候
一町内間數東西え表間口貳拾間裏中同斷南北え奥行拾三
間東西え表間口拾貳間裏中同斷南北え奥行拾壹間但表
門ヨ西之方
表門ヨ東之方東西え表間口拾壹間裏中同斷南北え奥行
拾貳間右同斷町屋東西え表間口拾六間裏中同斷南北え
奥行七間
一四隣 東之方高輪臺町西之方國昌寺南之方泉岳寺北之
方細川越中守様中屋敷
一自身番屋 間口五尺五寸
右者當寺表門脇ニ有之建始之年月等扣有之候處先年類
燒之節燒失仕候ニ付駈と相分兼申候尤當番屋之儀者當
所續國昌寺門前同智將院門前同保安寺門前都合四ヶ所
と組合町用相勤罷在候

下高輪保安寺門前

以上戊子書上

下水ヨ之水吐口に御座候是又右御屋敷ヨ兩寺え相預り
居申候

以上戊子書上

下高輪智將院門前

一當門前町屋起立之儀往古西久保飯倉ニ智將院罷在候處
明曆三酉年當所え替地被仰付候然處境内がけ窪ニ而
往還ヨ見下シ候ニ付表通間口拾七間奥行貳間細川越中
守様御持之地所ニ御座候を智將院え相預り右表間口之
内九間並右奥行貳間之外ニ同寺地所之内奥行四間を相
加へ表圍之爲正徳三己年六月中寺社御奉行所え奉願上
町屋相建申候其後延享二丑年能勢肥後守様御勤役中町
方御支配ニ被仰付候尤先年類燒之節書物等燒失仕候ニ
付委敷儀者相分不申候
一町内間數東西え表間口三間南北え裏行六間
但シ表門ヨ東之方
表門ヨ南之方東西え表間口六間南北え裏行六間
一四隣 東之方當寺境内ヲ隔保安寺北之方細川越中守様
中屋敷西之方下高輪臺町南之方智將院境内
一里俗ニ當町内を貳本榎がけと申傳候得共貳本榎ニ而者
無御座下高輪ニ御座候尤町屋表間口ヨ奥行貳間之後口

一當門前町屋起立之儀往古西久保飯倉之内ニ保安寺罷在
候處明曆三酉年當所え替地被仰付候然處境内がけ窪ニ
ニ而往還ヨ見下シ候ニ付表通間口拾九間奥行貳間細川
越中守様御持之地所ニ御座候を保安寺え相預り右表間
口之内拾六間並右奥行貳間之外ニ同寺地所之内奥行六
間を相加へ表圍之爲正徳三己年六月中寺社御奉行所え
奉願上町屋相建申候其後延享二丑年能勢肥後守様御勤
役中町方御支配ニ被仰付候處尤先年類燒之節書物等燒
失仕候ニ付委敷儀者相分不申候
一町内間數門ヨ南之方東西え表間口八間南北え裏行八間
門ヨ北之方東西え表間口八間南北え裏行八間
但片側町ニ御座候
一四隣 東之方一向宗正源寺西之方眞言宗智將院南之方
當寺境内北之方細川越中守様中屋敷
一町内里俗當町内之儀を貳本榎がけと申傳候得共貳本榎
ニ而者無御座下高輪ニ御座候尤町屋表間口ヨ奥行貳間
之後口はがけニ相成居候故惣體ニがけと申傳候
一自身番屋之儀者證誠寺門前自身番屋と組合町用相勤申
候委細之儀者證誠寺門前ヨ申上候通ニ御座候
一下水 中貳間長四拾六間
右者當寺と智將院之境ニ有之細川越中守様御屋敷表通

者がけニ相成居候故物體にがけと申傳候
一自身番屋之儀者證誠寺門前自身番屋と組合候而町役相勤申候

以上戊子書上

北邨季和 戊子淨書
濱中茂昌

御府内備考卷之百七終

奥行七間七寸五拾九間半迄不同ニ御座候
西側南北え表間口百八間餘裏巾百五間東西え奥行貳拾間半三拾四間壹尺迄不同ニ御座候

一四隣 東之方紀州様御家來豊田九右衛門抱屋敷西之方上大崎村分畑北品川分南之方松平陸奥守様御下屋敷寶塔寺北品川北之方白金猿町細川中務少輔様御屋敷

一抱屋敷 八百四坪

御醫師 河野良 以

右者寶永七寅年中御買請御所持被成町家作補理有之御年貢諸役町並ニ御勤被成候

但外ニ右家屋敷後三反三畝歩之山地北品川分地所本文家屋敷沽券狀ニも書添有之當町ニ而引請罷在候

一畑屋鋪 壹ヶ所

右者河野良以様御抱屋鋪隣町家地續北品川分之地所ニ有之候得共町内沽券狀ニ者右畑屋鋪壹反書添有之候ニ付當町ニ而引請罷在候

一自身番屋 間口三間 奥行貳間

右者町内西側南角町内持明地え先年ニ相建有之候得共御願濟年代相分不申候

一坂 長凡七拾間程 中四間餘不同ニ御座候

御府内備考卷之百八

品川之一

品川は今も南北品川宿及歩行新宿と稱して町奉行の支配ニ屬せすたゞ白金につゞきし邊に臺町と云もの少しく在り其の餘は寺院の門前町のみ町方の支配に入れり故に村にかゝりし事蹟は略して載せず

品川臺町

一當町起立之年代相分不申候町名之義者荏原郡北品川高内ニ而往古村地ニ而有之候砌高場ニ付品川臺と相唱來町方ニ相成候節町銘ニ相成候趣申傳候尤其頃者御代官御支配ニ而百姓町家ニ有之候處正徳三巳年閏五月中町御奉行坪内能登守様丹羽遠江守様松野壹岐守様御勤役中町方御支配ニ相成申候

一町内間數貳百七拾五間貳尺二寸
東側南北え表間口百五十七間餘裏巾百五拾間餘東西え

右者當町ニ上大崎村下大崎村寶塔寺門前え相懸り入合ニ而西之方松平上總介様御下屋敷内高場ニ而往古東西え坂向合罷在候間里俗ニ相生坂と相唱候義ニ御座候

一横切下水 中四尺

右者品川臺町白金猿町と兩境ニ候間委細之儀者猿町ニ而申上候

一石橋 巾四尺 長三間半

右者前書横切下水ニ懸渡有之候御檢地

右者元祿八亥年中織田越前守様御改ニ御座候

一反別貳町貳反九畝貳步七合五夕

内貳町貳反一畝貳拾貳步北品川分壹反七畝拾步下大崎村分

右御年貢之儀者前書貳ヶ村惣高之内え相籠村方ニ上納仕候

一當町品川領ニ御座候

一町御奉行所御代官中村八太夫様兩御支配ニ御座候
以上戊子書上

品川臺町了眞寺門前

一右門前町家之儀者起立相分不申候延享二丑年中町御奉

行大岡越前守様御勤役中町方御支配ニ相成申候尤永代門前ニ御座候

一門前町家間敷西側表間口南北之三拾四間同裏行東西之九間半ノ五間半迄不同ニ御座候

但片側町往還並了眞寺門道中間敷相除キ申候

一四隣 東之方品川臺町松平陸奥守様御下屋敷西之方北品川南之方品川臺町北之方河野良以様御抱屋敷北品川分

一自身番屋之儀者品川臺町之組合町用相勤申候

一御檢地之儀者品川臺町同様ニ御座候

一當所品川領ニ御座候

以上戊子書上

品川臺町本立寺門前

一右門前町家御免之年代相分不申候延享二丑年中町御奉行大岡越前守様御勤役中町方御支配ニ相成申候尤永代門前ニ御座候

一門前間敷東側表間口南北之貳間裏中四間同裏行南之方ニ而拾四間半北之方ニ而六間半

但町内持往還道中間敷相除申候

一四隣 東之方當寺境内西之方了眞寺門前河野良以様御

抱屋鋪南之方壽昌寺北之方品川臺町

一自身番屋之儀者品川臺町之組合町用相勤申候

一御檢地

右者元祿八亥年織田越前守様御改ニ而本立寺境内御年貢地千七百拾九坪之内ニ御座候

一當所品川領ニ御座候

以上戊子書上

品川臺町寶塔寺門前

一右門前町家之儀起立相分不申候延享二丑年中町御奉行大岡越前守様御勤役中町方御支配ニ相成申候尤永代門前ニ御座候

一町内間敷 東側一側表間口南北之貳拾五間半裏中貳拾間同裏行東西之六間半ノ拾四間半迄不同ニ御座候

但町内持往還道中間敷相除申候

一四隣 東之方寶塔寺境内西之方上大崎村下大崎村南之方當寺境内下大崎村北之方上大崎村品川臺町

一御高札之儀者品川臺町同所了眞寺同所本立寺當寺門前四ヶ町組合ニ而白金猿町之方ニ相建有之候

一自身番屋之儀者同所臺町之組合町用相勤申候

一當所品川領ニ御座候

一御檢地

右者元祿八亥年織田越前守様御改ニ而當寺境内御除地千八百三拾九坪之内ニ御座候

以上戊子書上

北品川善福寺門前

一當町起立之儀者元和二辰年中御願濟ニ相成候由申傳候得共駢と致候儀相分り不申候尤延享三寅年二月中町御奉行能勢肥後守様島長門守様御勤役中町方御支配ニ相成候尤永代門前ニ御座候

一町内 東西間口拾三間裏中拾三間半南北裏行拾三間半

一四隣 東之方品川步行新宿西之方同寺境内南之方東海寺大門北之方品川步行新宿

一御檢地之儀者元祿八亥年織田越前守様御改御座候右者同寺境内御除地千三百七十四坪之内ニ御座候

一當所品川領ニ御座候

以上戊子書上

北品川養願寺門前

一當町起立之年代相分り不申候尤元和年中と申傳候得共諸書物等者不殘八ヶ年以前類焼之砌焼失仕相知不申候

尤町方御支配ニ相成候年月並其節之町御奉行御姓名等相分り不申候

一町内南側町屋 東西間口九間半裏中同斷南北裏行貳間四尺ノ三間迄

一北側町屋 東西間口九間裏中拾一間半南北裏行拾三間

一四隣 東之方北品川宿西之方同寺境内南之方正徳寺門前北之方養願寺境内

一御檢地之儀者元祿八亥年中織田越前守様御改御座候右者養願寺境内御除地七百八十八坪之内ニ御座候

一當所品川領ニ御座候

以上戊子書上

北品川正徳寺門前

一當町起立之儀者永仁六戌年中と申傳候得共書留無御座相分り不申候勿論其後類焼之時ニ家作奉願候儀有之由申傳而已ニ而是又年曆等相知不申候尤貞享四卯年中類焼仕其頃者社御奉行御支配ニ而其節之御奉行大久保安藝守様御勤役中猶又家作奉願候得者願之通被 仰付候尤其後寶曆十一巳年二月廿日町御奉行土屋越前守様依田豊前守様御勤役中町方御支配ニ相成申候尤永代門前ニ御座候

一町内表門脇北側町屋 東西間口六間半裏巾同斷南北裏行拾一間

一西側町屋 南北間口拾三間餘裏巾八間東西裏行拾一間必拾三間迄

一南側町屋 東西間口拾間餘裏巾貳拾三間餘南北裏行十間一尺必拾間一尺五寸迄

一裏門脇北側町屋 東西間口拾一間裏巾三間南北裏行十七間必十九間半餘迄

一四隣 東之方北品川宿西之方北品川稻荷門前北品川宿地内南之方北品川宿之内馬場町北品川宿北之方北品川養願寺門前並境内北品川宿

一町内里俗北馬場町と相唱申候右者北品川馬場町續ニ付右正徳寺ノ稻荷門前邊迄一圓里俗右之通相唱申候

一下水 右同寺門前北品川馬場町兩境場所ニ板橋掛渡有之中四尺長三間下水並板橋共堀割掛渡年代相知不申尤右馬場町並稻荷門前と組合普請等三ヶ所ニ而仕來申候

一御檢地之儀者元祿八亥年織田越前守様御改御座候右者同寺境内八百六十六坪餘之内御除地七百五十四坪御年貢地百十貳坪之内ニ御座候

一當町品川領ニ御座候

以上戊子書上

北品川稻荷門前

一右門前之儀者當所稻荷神社小泉出雲拜領地ニ而門前起立之儀者寛永十四丑年東海寺御殿爲御用地稻荷社地之内南之方差上候ニ付地坪何程差上候哉爲替地此所ニ被致拜領其節ノ門前百姓家八軒建來其後貞享四年十月酒井河内守様之家作之儀奉願候處願之通被 仰付同十二月内地改方深津彌市郎様安藤傳十郎様之御達相濟元祿十五年八月門前類燒ニ付家作奉願御見分之上被 仰付屋鋪改方杉浦彌市郎様前田金三郎様御達相濟申候延享二丑年寺社御奉行大岡越前守様青山因幡守様町御奉行能勢肥後守様馬場讚岐守様御勤役之節町御奉行御支配ニ相成申候尤永代門前ニ而年季切替等無御座候

一町内 東西間口六十七間裏巾五拾貳間半餘南北裏行東之方十四間餘西之方貳十一間必貳間半迄

一四隣 東之方正徳寺門前町屋西之方同寺持畑地東海寺大門並稻荷社地南之方北品川宿本照寺光嚴寺東海寺門前町屋北之方北品川宿

一町内里俗北馬場と相唱申候委細者同所正徳寺門前ノ申上候通ニ御座候

以上戊子書上

北品川東海寺門前

一當町内之儀者寛永十五寅年中 大猷院様東海寺御建立被遊境内拜領地ニ御座候内當町前町家作起立仕候得共御願濟之年代相知不申候元寺社御奉行御支配ニ御座候處延享十二丑年中町御奉行能勢肥後守様馬場讚岐守様御勤役中町方御支配ニ相成申候尤永代門前ニ御座候

一町内北之方ノ南之方之折廻シ間口九十間半裏巾百十三間半 東西裏行北之方ニ而十六間南北裏行西之方ニ而同斷 但同寺役人住居並境内間數除之且又片側丁ニ御座候 一四隣 東之方本照寺光嚴寺境内西之方清徳寺門前東海寺境内南之方目黒川北之方東海寺大門稻荷門前

一當町前並清徳寺門前二ヶ町ヲ里俗長者町と唱申候 一當町品川領ニ御座候 以上戊子書上

濱中茂昌 戊子淨書 山本思明

御府内備考卷之百八終

一床番屋

右町内西角店並ニ有之當町並正徳寺門前養願寺門前三ヶ所組合ニ而町用相勤尤建始年代相知不申候

一御檢地之儀者元祿八亥年織田越前守様御改御座候 一當町品川領ニ御座候 以上戊子書上

北品川清徳寺門前

一右門前之儀者天正十九卯年十一月中同寺之御朱印被下置境内御除地之内ニ御座候門前起立之儀者年代不相知元寺社御奉行御支配ニ御座候處延享二丑年閏十二月町奉行御能勢肥後守様馬場讚岐守様御勤役中町方御支配相成申候

一町内 南北間口五十貳間裏巾同斷東西裏行南之方十五間北之方二拾二間 但同寺門中間數除之 一四隣 東之方東海寺門前西之方清徳寺境内南之方東海寺境内北之方稻荷社地 一當町前並東海寺門前里俗長者町と唱申候 一御檢地之儀者元祿八亥年織田越前守様御改御座候右者同寺境内御除地三千貳百十七坪半之内ニ御座候

御府内備考卷之百九

品川之二

南品川貴布禰門前

一當町起立年代相分不申候尤延享三寅年中町御奉行能勢肥後守様馬場讚岐守様御勤役中町方御支配ニ相成申候尤永代門前ニ御座候

一町内北側東西之表三拾間五尺裏巾同斷南北之奧行五間貳尺八間迄不同同横町西側南北之表拾間裏巾同斷東西之奧行五間八間迄不同但道幅除之

一四隣 東之方南品川宿西之方貴布禰明神社内南之方南品川宿北之方南北品川境川島津筑後守様御抱屋鋪

一町内里俗町内一圓天王横町と相唱候右者貴布禰明神牛頭天王神明三社相殿故之唱ニ御座候

一石橋 掛渡三尺長サ三間餘

右町内中程下水ニ掛有之町内持ニ御座候

南品川貴布禰社地門前

一當町起立之儀者二百三拾八年以前天正十九卯年十一月中大明神之爲 御寄進品川領之内ニ而高五石乍恐東照御神君様 御朱印被下置私共門前之儀者貴布禰明神祇園兩旅所屋鋪地ニ而享保十八丑年中寺社御奉行松平玄蕃頭様之神主方被相願町屋相建神領百姓住居仕唯今以寺社御奉行所御支配ニ御座候尤古來之書留無御座巨細之儀相分不申候

一門前西側南北之表廿五間半裏巾廿八間半東西之奧行北之方拾間南之方四間東側南北之表廿九間裏巾三拾壹間半東西之奧行北之方九間南之方同斷

一四隣 東之方南品川宿後地町西之方本覺寺境内南之方南品川宿内高場所北之方品川宿

一下水

右町内中程ニ有之堀割年代相知不申候

一御檢地

右者元祿八亥年中織田越前守様御檢地ニ御座候尤貴布禰社内 御朱印御除地千四百廿貳坪之内ニ御座候

一當町品川領ニ御座候

以上戊子書上

一門前里俗當所貴布禰社地門前ニ付宮門前と相唱申候一御檢地

右者元祿八亥年織田越前守様御檢地ニ御座候尤當所惣坪六百六拾五坪之内祇園旅所御年貢地三百三拾壹坪貴布禰御除地三百三拾四坪ニ御座候

一當所品川領ニ御座候

以上戊子書上

南品川本榮寺門前

一當町前起立之儀者萬治年中と申傳候得共享保年中之度々類焼仕諸書物等不殘焼失仕申傳而已ニ而相分不申候尤延享三寅年中能勢肥後守様馬場讚岐守様御勤役中町方御支配ニ相成申候尤永代門前ニ御座候

一町内北側東西之表四間半裏巾同斷南北之奧行拾壹間但町内持道巾本覺寺大門等相除申候

一四隣 東之方南品川宿西之方蓮長寺門前南之方南品川心海寺境内北之方本榮寺境内

一町内里俗當町之西之方ニ當り海藏寺門前邊迄一帶南馬場町と相唱申候右者往古村地ニ有之候砌馬場ニ而も有之候哉申傳而已ニ而駁と相分不申候

一御檢地

南品川蓮長寺門前

右者元祿八亥年中織田越前守様御檢地ニ御座候尤當所本榮寺境内御年貢地八百貳拾九坪之内ニ御座候

一當町品川領ニ御座候

以上戊子書上

一當町起立之儀者弘安年中と申傳候得共其後年月不知類焼ニ而中絶仕家作無御座候處元祿三年年中寺社御奉行戸田能登守様御勤役中蓮長寺之御願被申上先規之通家作被 仰付延享三庚寅年町御奉行能勢肥後守様馬場讚岐守様御勤役中町方御支配被 仰付永代門前町ニ御座候

一町内北側東西之表拾間裏巾同斷南北之奧行拾貳間

一四隣 東之方本榮寺門前西之方妙蓮寺門前南之方願行寺門前北之方蓮長寺境内

一町内里俗南馬場町と唱候儀者同所本榮寺門前ニ而申上候通ニ御座候

一御檢地

右者元祿八亥年織田越前守様御檢地ニ御座候

一當所蓮長寺境内御除地千百壹坪之内ニ御座候

一當町品川領ニ御座候

以上戊子書上

南品川願行寺門前

一當町起立之儀書留無之相分不申候得共往古ノ門前町屋
 = 御座候處元祿十五年二月中類燒仕候 = 付同年閏八
 月中寺社御奉行阿部飛彈守様之願行寺ノ被願上古來之
 通家作御免被仰付先規之通町家相立申候其後延享三寅
 年ノ町御奉行能勢肥後守様馬場讚岐守様御勤役中町方
 御支配 = 相成永代門前 = 御座候
 一町内南側東西之表三拾五間半裏中同斷南北之裏行八間
 一四隣 東之方心海藏寺境内西之方海藏寺門前南之方願行
 寺境内北之方妙蓮寺門前
 一町内里俗南馬場町と唱候儀者同所本榮寺門前ノ申上候
 通御座候
 一下水
 一右者南品川宿持 = 而惡水積 = 御座候右下水之掛渡有之
 候石橋之儀者宿内持 = 御座候尤町内中程横切下水 = 御
 座候
 一御檢地
 一右者元祿八亥年織田越前守様御檢地 = 御座候
 一當町願行寺境内御除地貳千九坪御年貢地百六拾坪之内

= 御座候

以上戊子書上

南品川妙蓮寺門前

一當町起立年代共相分不申候尤延享三寅年中能勢肥後守
 様馬場讚岐守様御出勤中町方御支配 = 相成申候尤永代
 門前 = 御座候
 一町内北側東西之表三拾八間半裏中同斷南北之裏行拾間
 半ノ拾四間迄不同
 但町内持道巾妙蓮寺大門等相除申候
 一四隣 東之方蓮長寺門前西之方天龍寺並海藏寺門前角
 南之方願行寺門前海藏寺門前北之方妙蓮寺境内
 一町内里俗南馬場町と唱候儀者同所本榮寺門前ノ申上候
 通 = 御座候
 一御檢地
 一右者元祿八亥年中織田越前守様御檢地 = 御座候
 一當町妙蓮寺境内御除地千五百三拾坪之内 = 御座候
 一當町品川領 = 御座候

以上戊子書上

南品川海藏寺門前

一當町品川領 = 御座候

以上戊子書上

南品川常行寺門前

一當町起立之儀年代等相分り不申候尤延享三寅年能勢肥
 後守様馬場讚岐守様御勤役中町方御支配 = 相成申候尤
 永代門前 = 御座候
 一町内南側東西之表四拾五間裏中同斷南北之裏行拾間南
 側西角裏手東西之表拾四間裏中同斷南北之裏行拾間同
 横町西側南北之表三拾七間裏中同斷東西之裏行拾貳間
 五尺同東側南北之表三拾四間裏中三拾五間東西之裏行
 拾貳間五尺
 一四隣 東之方願行寺西之方南品川分烟南之方常行寺境
 内並海藏寺境内北之方本光寺境内並南品川宿分妙蓮寺
 門前大龍寺境内
 一門前里俗南馬場町と唱候儀ハ同所本榮寺門前ノ申上
 候通 = 御座候
 一石橋 掛渡三尺巾九尺
 一右者當町横町出口下水掛渡有之町内持 = 御座候
 一下水
 一右者町内前通 = 有之堀割年代等相分不申候
 一御檢地
 一右者元祿八亥年織田越前守様御檢地 = 御座候
 一當町海藏寺境内御年貢地千五百八十四坪御除地五百四
 拾三坪合貳千百貳十間貳拾七坪之内 = 御座候

一右門前起立之儀者往古武州荏原郡大井村之内 = 而嘉祥
 元年中慈覺大師開山開基 = 而寺地有之候處承應二年中
 當所之引地 = 相成再建有之候其節大井村寺地ノ同様引
 越地所貫請草創境内百姓 = 御座候然ル處南品川宿續 =
 御座候 = 付門前町家相願候得者則常行寺御奉行所之御
 願被申上承應年中起立仕候趣申傳候享保年中ノ數度之
 類燒之砌諸書物等燒失仕其餘之儀者相知不申候延享三
 寅年中能勢肥後守様馬場讚岐守様御勤役中町方御支配
 相成申候尤表門前 = 御座候且又裏門前之儀者拾ヶ年季
 町家 = 御座候
 一右古門前南側東西之表九間裏中貳拾壹間南北之裏行東
 之方拾三間西之方四間西側南北之表貳拾貳間裏中同斷
 東西之裏行九間
 但折廻シ片側町
 一四隣 東之方南品川宿西之方常光寺境内南之方長徳寺
 境内北之方荏原郡之内二日五市村願行寺境内
 常行寺新門前

一右新門前起立之儀者明和五子年五月中拾ヶ年季町屋ニ仕度旨寺社御奉行久世出雲守様御勤役中常行寺ノ御願濟ニ相成其節町御奉行依田豊前守様牧野大隅守様御勤役中則町方御支配ニ相成當子年迄六拾壹ヶ年ニ相成申候

一右新門前同寺裏手西側南北之表四拾九間裏中同斷東西之奥行八間ノ拾間迄不同北側東西之表四拾八間裏中同斷南北之裏行七間

一四隣 東之方常行寺境内西之方南品川宿畑地南之方妙國寺境内北之方海藏寺境内

一新門前里俗熊野門前と相唱申候右者往古ノ常行寺境内ニ熊野社有之候ニ付一圓右様相唱申候

一御檢地 右者兩門前共元祿八亥年中織田越前守様御檢地ニ御座候

一右兩門前共常行寺境内御年貢地御除地合坪數五千七百九拾八坪之内ニ御座候

一兩門前共品川領ニ御座候

以上戊子書上

南品川長德寺門前

一右門前起立之儀古來ノ數度之類燒ニ而書留等燒失仕年代相分不申候尤延享三寅年中能勢肥後守様馬場讚岐守様御勤役中町御奉行所御支配ニ相成申候尤永代門前ニ御座候

一町内間數西側南北之表間口拾間裏中同斷東西之奥行三間半ノ四間迄ニ不同ニ御座候

一四隣 東之方南品川宿西之方當寺境内南之方南品川宿北之方右同斷

一御檢地 右者元祿八亥年織田越前守様御改ニ御座候

一當町品川領ニ御座候

一東海道往還歩行役人足相勤候起立者寛文五巳年中寺社御奉行井上河内守様御勤役中町内町屋之品川宿役相勤候様被仰付歩行人足日々六厘壹毛壹ヶ年ニ貳人貳分品川宿同様定役相勤申候

一當町之儀長德寺境内御除地貳百拾坪外ニ御年貢地貳千三拾五坪之内ニ御座候

以上戊子書上

南品川妙國寺門前

右門前起立之儀者弘安八年妙國寺開基仕其後年曆相分

不申右寺地之内町家追々起立仕社御奉行所御支配ニ御座候處延享二丑年壬十二月中能勢肥後守様馬場讚岐守様御勤役中町方御支配ニ相成申候尤古書物燒失仕候ニ付巨細之儀者相分不申候

一町内間數東側南北之表間口百三拾三間裏中同斷東西之奥行拾五間

西側南北之表間口百貳拾壹間半裏中同斷東西之奥行拾壹間

同横町南側東西之表間口拾五間半裏中同斷南北之奥行拾壹間

同北側東西之表間口拾九間半裏中貳拾三間半南北之奥行八間ノ拾壹間迄不同ニ御座候

一四隣 東之方海邊西之方妙國寺境内南品川宿地内品川寺門前南之方品川寺門前北之方南品川宿四丁目

一町内里俗之唱青物横町と相唱申候右者妙國寺門前ノ大井村邊之相懸り候横町ニ而兩側共前栽物問屋渡世仕候者數多有之勿論外商賣躰之者茂入交り有之候場所ニ御座候得共右青物問屋渡世之者共多分ニ付日々在方ノ前栽物差出之右問屋共賣捌候儀ニ御座候間一圓青物横町と相唱申候

一自身番屋 間口壹間四尺 奥行三間半

右者地所別段ニ奉願東側中程ニ而町内持明地之古來ノ相建有之候得共御願濟年代等相分不申候尤當時有之候番屋之儀者文政六未年正月申類燒之以後別段地所不奉願當時假番屋ニ而萬事御用向町用等相勤來候

一御高札 右者品川浦ノ羽田浦迄浦附貳拾ヶ所持合ニ而中村八太夫様御代官所武州荏原郡南品川宿地内境橋東之方海邊ニ建有之候

一御檢地 右者元祿八亥年織田越前守様御改ニ而右者妙國寺境内古跡拜領不入地貳萬貳千七百七拾七坪半餘之内ニ御座候

一當町品川領ニ御座候

一町内地先海面之起立不相分海苔ヒトと相唱秋彼岸前後其年之氣候ニ隨ヒ旬を撰鹿菜相建稼來候尤當所地先海面迄地頭妙國寺拜領仕候儀ニ御座候間

御公儀様之運上等差上不申候勿論右海苔ヒトと相建候者共ノ冥加として年々地頭之銀子差出候

一私共町内之儀者往古ノ別段宿役等相勤不申每年御茶壺通行之節往返共杖拂人足都合拾三人宛差出申候右者何年以前ノ勤來候哉起立年代譯柄等相分不申人足割合左之通ニ御座候

一八人 南品川妙國寺門前
一貳人 同所 海藏寺門前
一貳人 同所 願行寺門前

同所 妙蓮寺門前
同所 蓮長寺門前
同所 本榮寺門前
同所 常行寺門前
一壹人 以上戊子書上

拾三人

南品川妙國寺内門前

一妙國寺古門前起立之儀者天正十八寅年中家作御願濟ニ相成候得共其節之御奉行御役人方御姓名等一向相分不申候勿論社御奉行御支配ニ而永代門前ニ御座候且又同妙國寺新門前之儀者安永五申年正月申中十ヶ年季貸屋仕度旨社御奉行土岐美濃守様御勤役中妙國寺ノ御願申上候得者願之通御免被仰付當子年迄五十三ヶ年ニ相成申候勿論是又社御奉行御支配ニ御座候
一妙國寺内古門前間數北側東西之表間口四拾四間半餘裏中同斷南北之奥行拾間
同寺内新門前間數北側東西之表間口百拾六間餘裏中同

南品川品川寺門前

一當門前起立之儀者往古ノ村地ニ而御座候哉地名年代不
相分其後承應元辰年五月中境内四千八百坪餘品川寺拜
領仕右坪數之内千五百貳拾五坪六合元祿十一寅年中寺
社御奉行坂本内記様御勤役中門前町屋家作奉願上其節
家作拾五軒御聞濟ニ相成其後追々家作相増當時之町屋
ニ相成寺社御奉行所御支配ニ御座候處延享二丑年十二
月中町御奉行馬場讚岐守様御勤役中町方御支配ニ相成
申候寛文五巳年中寺社御奉行井上河内守様御勤役中町
内町屋之品川宿役相勤候様被仰付歩行人足日ニ壹人九
厘宛壹ヶ年三百九拾貳人品川宿同様定役ニ相勤申候
一町内間數小間百參拾貳間五尺

以上戊子書上

東側南北之表間口五拾壹間半裏中同斷東西之奥行南之
方ニ而拾貳間同北之方同斷
西側南北之表間口五拾間半餘裏中同斷東西之奥行南之
方ニ而拾貳間同北之方同斷
横町南側東西之表間口三拾間半餘裏中同斷南北之奥行
東之方ニ而拾貳間同西之方同斷
但片側町屋ニ御座候

一四隣 東之方海邊西之方當寺境内南之方南品川海雲寺
門前南品川宿之内三軒家町北之方南品川妙國寺門前横
町南側四隣東之方南品川妙國寺門前西之方當寺境内南
品川宿地内南之方當寺境内北之方南品川妙國寺門前南
品川宿

一里俗町内一圓觀音前と唱申候右者品川寺本尊ハ水月正
觀世音ニ而本堂を里俗ニ觀音堂と相唱右前町ニ付觀音
前と相唱候儀と奉存候
一浦御高札之儀者妙國寺門前ニ而申上候通ニ御座候
一自身番屋 間口三間 奥行四間

右者町内東側中程ニ古來ノ有之舊記書留無御座建始年
代相分不申文化十四年十一月申中兩品川本榮寺門前ノ出
火之節類焼仕假番屋ニ而町用相勤罷在候處文政六未年
正月申三田古川町ノ出火之節假番屋類焼仕候ニ付先規

有來り候所ノ北之方之五間引寄當時之場所之相建申度
段同年四月中榊原主計頭様御番所之奉願上願濟ニ而相
建申候
一御檢地
右者元祿八亥年織田越前守様御繩入除地ニ御座候
一當所品川領ニ御座候
一町内東側地内海邊附之儀者年代不相分往古ノ波除岩結
御普請所ニ御座候處年々及大破地主共難儀至極仕候ニ
付品川海邊附一同申合年月不相知御代官大貫次右衛門
様御勤役中石垣御普請奉願候處御吟味之上寛政七卯年
新規石垣御普請被仰付及破損候節者古來之通其時々崩
所並裏埋共御取繕御普請被仰付候儀ニ御座候尤御代官
所御掛ニ而當時中村八大夫様御掛リニ御座候
一海苔ヒ之儀者前書妙國寺門前ニ而申上候通候得共延
享三寅年ノ十ヶ年季請御運上御上納仕來申候右海苔之
儀者秋土用後ノ追々生シ十月下旬ノ取揚製方致候御運
上場所地先海面ニ而五ヶ所七分三厘貳毛壹ヶ所長五拾
間ニ横三拾間
但御運上壹ヶ年永四貫百九拾壹文六分宛御代官御役
所之差出申候
一海手大汐滿之節者深サ三尺程小汐之節者深サ五六寸程

一御座候

一海手大汐之節者凡五町半程も干潟ニ相成申候

一海手小汐之節者凡四間程も干潟ニ相成申候尤日月之長短ニ寄不同ニ御座候

一沖ニ而魚類漁之儀者町内ニ漁船漁師等壹人茂無御座候ニ付相知不申候

以上戊子書上

南品川海雲寺門前

一當町起立之儀者寛永三寅年中家作御願濟ニ相成申候尤其節之御役人御姓名等書留無之駭と相分不申候尤延享

二丑年中町御奉行能勢肥後守様馬場讃岐守様御勤役中町方御支配ニ相成申候

一町内間數西側南北之表間口拾九間半裏中同斷東西之奧行拾壹間拾壹間壹尺五寸迄不同ニ御座候

但片側町家ニ御座候

一四隣 東之方南品川宿内三軒家町西之方當寺境内南之方海晏寺門前北之方品川寺門前

一町内里俗ニ一圓觀音前と相唱申候右者品川寺門前ニ而申上候通ニ御座候

一御檢地

右者元祿八亥年中織田越前守様御繩入ニ而海雲寺境内惣坪千二百四拾四坪半之内ニ而門前町家之儀者御年貢地之内ニ御座候

一當町品川領ニ御座候

一寛文五巳年中寺社御奉行井上河内守様御勤役中町内町家之品川宿同様宿役相勤候様被仰付歩行人足日ニ貳分五厘五毛宛壹ケ年ニ八拾四人定役ニ相勤申候

以上戊子書上

南品川海晏寺門前

一當町起立之儀者古村地ニ而御座候哉地名年代不相分

建長三亥年當町地先海中ニ大成鮫住ハ洲ニ上候ニ付其頃住居罷在候者共相集右魚捕候處腹中ノ正觀世音之木像出現致其頃ハ鎌倉御治世ニ而執權最明寺時頼卿右出

現之木像ヲ本尊ニ致始メ而海晏寺ヲ御建立有之鮫上り候場所ニ付鮫洲と地銘致其時代年月不相分庄右衛門七

兵衛不睡茂左衛門仁左衛門作右衛門孫十郎と申者家作

致居來其後元和三巳年猶又家作七軒相増都合十四軒出來夫ノ追々當時町屋ニ相成申候尤右時代之者跡式相續

致候者無御座候

右海晏寺除地之内町屋相立候ニ付年月不知海晏寺門前

と相唱寺社御奉行所御支配之處延享二丑年中町御奉行能勢肥後守様馬場讃岐守様御勤役中町方御支配ニ相成申候

一町内間數小間貳百貳拾五間壹尺五寸

東側南北之表間口百拾貳間餘裏中同斷東西之奧行南之方ニ而拾四間餘同北之方ニ而拾四間半不同ニ御座候

西側南北之表百拾三間裏中同斷東西之奧行南之方ニ而拾七間ノ同北之方ニ而拾九間迄不同ニ御座候

但町内往還道巾並門幅相除申候

一四隣 東之方海邊西之方當寺境内南之方大井村内御林町壹丁目北之方南品川宿内三軒家町海雲寺門前

一町内里俗之唱往古ノ町内並南之方隣町大井村御林町ヲ惣名ニ鮫洲と相唱候右者起立之儀ニ申上候通鮫上候所

故唱來候且又町内北之方續品川寺門前迄ヲ一圓ニ觀音前と唱申候

一浦御高札之儀者前書妙國寺門前ニ而申上候通ニ御座候

一自身番屋 間口壹間半 奥行三間半

右者御願濟ニ相成候儀者往古之儀ニ而右地所之儀茂西側海晏寺大門南角ニ有之古來ノ番屋地と唱町内持ニ而御願濟年代駭と相分不申候

一御檢地

右者町内東西兩側共並當寺境内合テ壹萬七千九百三拾坪餘御除地ニ而門前町屋鋪之分町人とも所持罷在候處正保元申年中大河内與兵衛様御檢地之節右除地之内東側ニ而八畝廿步御年貢地ニ相成申候其後元祿八亥年織田越前守様御檢地之節東側之分五反四畝貳步猶又御年貢地ニ相成南品川宿高之内ニ籠有之當時御代官中村八太夫様御懸ニ御座候

一町内東側反別五反四畝貳步

一町内東側地内海邊付波除岩結御普請所之儀者前書海雲寺門前ニ而申上候通ニ御座候

一町内宿役歩行人足之儀者前書海雲寺門前ニ而申上候通ニ御座候

一海苔ヒノ之儀者又前書海雲寺門前ニ而申上候通ニ御座候

但御運上場所當所地先ニ而六ケ所九分九厘壹ケ所長五拾間横三拾間壹ケ年御運上高永五貫貳百四拾四文差出申候

以上戊子書上

北邨季和 戊子淨書 濱中茂昌

御府内備考卷之百九終

御府内備考卷之百十

品川之三

附録

品川溜

品川寺の西の方往來を隔て畑中に在り當溜は貞享四年九月廿六日井戸新右衛門より非人頭松右衛門へ預ケ人せしより始りて元は松右衛門か小屋内に入置しかその後預ケ人多に成しゆへ溜地所の事願ひ上しかは元祿十三年松右衛門居小屋續ニ於て今の如く地を賜はりしとなりその始末等は享保十年松右衛門か書上に載せ及今の藤左衛門か書上にも記したれば考證の爲に全文を左に出せり

乍恐以書付奉申上候

一貞享四年卯九月廿六日井戸新右衛門様初而御預之もの被仰付させ候是諸御奉行様方御預御用被爲

番所様御與力植竹藤右衛門様中山出雲守様御與力阿部喜太夫様御立合ニ而右金子被下置奉頂載則貳間半ニ七間之二階なしの溜ニケ所取建御預のもの入置申候

一元祿十四年巳十二月十一日松前伊豆守様御番所ニ而被爲 仰付日本橋江戸橋貳ケ所御小屋ニ入候非人高貳百八拾人翌午年五月廿一日落着仕候此節之非人六十二人片付申候尤始終之内増減御座候一人ニ付粥米黒米ニ而壹合味噌薪奉請取粥爲給申候此時御役人松前伊豆守様御與力吉田十郎兵衛様保田越前守様御與力長岡金右衛門様伊奈半左衛門様御手代小川角左衛門様奥田武右衛門様同廿二日御小屋不殘諸道具共ニ善七私兩人を被下置取拂申候

一正徳四年午十二月九日中山出雲守様御番所ニ而被爲 仰付中橋御小屋え非人入申候此人數高三百八十人翌未三月廿九日落着仕候此時之非人高四十人重病ニ而善七私方え御預尤始終之内増減御座候粥米味噌薪右同斷ニ被下置候此時御役人中山出雲守様御與力吉田政右衛門様坪内能登守様御與力滿田作兵衛様松野野壹岐守様御與力中村三左衛門様同日御小屋不殘諸道具共ニ善七私兩人被下置取拂申候

仰付候二十六年以前辰年迄者私園之内手下小屋ヲ溜ニ拵入置申候處段々御預ケ之ものも多く罷成候ニ付溜地松前伊豆守様保田越前守様え奉願候

一元祿十三年辰七月十一日右奉願候溜地則私居小屋續ニ而被爲下置候此坪五百貳十三坪四合餘此節御立合者松前伊豆守様御與力中村次郎右衛門様保田越前守様御與力樋口次郎左衛門様木原與右衛門様御手代善兵衛殿樽屋藤左衛門様御手代次郎兵衛殿喜多村彦兵衛様御手代權兵衛殿伊奈半左衛門様御手代岩田庄藏様品川宿名主茂兵衛殿

右之通御立合にて右溜地御渡被遊候ニ付此溜地貳間半ニ七間惣二階之溜新規ニ私入用ニ而取建御預ケ之もの入置申候同十五年午二月十一日溜類焼仕候ニ付溜取建金右兩御番所え奉願候得者同三月八日金子百兩可被下置旨被爲 仰出同十三日樽屋藤左衛門様ニ而岡本又右衛門様田口六右衛門様山田勘助様松波常右衛門様御立合ニ而右金子百兩御渡被遊奉頂載則貳間半ニ五間惣二階有之候溜ニケ所取建御預ケ之もの入置申候七年以前享保四年亥二月十三日溜類焼仕候ニ付先年之通溜取建金御願申上候得者翌子年二月廿七日當御番所様御内寄合え被爲召出金子拾五兩當御

一川廻之義丹羽遠江守様御在役之節濱御殿 御成之節正徳三年巳八月被爲 仰付唯今迄相勤申候

一享保六年丑十月六日兩溜え敷申候疊一方貳十五疊ヅ、御入用ニ而敷申候様ニと此時御見廻上坂安左衛門様藤田六郎右衛門様御立合ニ而被爲仰付候御預之もの御扶持米一日壹人ニ黒米五合宛雜用錢一日壹人ニ拾五文宛藥代銀一貼ニ付貳分ヅ、元祿十二年卯被下置候松前伊豆守様御内寄合ニ而同年七月十八日被爲仰付奉頂戴候

一七年以前溜類焼迄者御加役様方御預ケも御座候得共溜類焼仕御加役様方御預も大勢御座候ニ付當分可差置處無御座候ニ付御願申上歸牢並御預替奉願片付申候兩御番所御預斗居通奉願候勿論溜取建候而以後御加役様え申上候得者御聞届被遊先年之通御預可被遊旨御意御座候得共今以兩御加役様之御預不奉願兩御番所様の御預御座候尤寺社御奉行様御勘定方様よりは先年之通不時ニ御あづけ被爲仰付候

右之通可奉書上旨被爲仰付候乍恐書付奉差上候三十九年以來諸奉行様方御預被爲仰付相勤申候右之通相違無御座候以上

享保十年巳八月三日

品川 松右衛門

乍恐以書付奉申上候

一私先祖由緒並溜起立其外數箇條取調奉書上候様被仰付候處元祿十五年二月十一日享保四亥年二月十三日兩度類燒之節古帳燒失仕候哉書留帳面相分不申候ニ付申傳之趣又者殘候古帳面ニ書載有之候分共兩様左奉書上候

一非人頭以前之儀を長九郎と申參河國生所ニ而武家ニ候哉或者郷士百姓ニ候哉參河長九郎と申御當地之出品川邊ニ住居致候處及零落ニ當溜圍之内其頃御除地ニ而往古切支丹宗門之累族住居之跡ニ而石地小路道滿屋敷と申此處之居小屋出來住居致候處追々流浪之者共寄集寛永十二年十二月中自然と長九郎頭分ニ罷成候由申傳ニ御座候

一芝方非人頭之譯寛文中 中之御番所渡邊大隅守様御勤役之節江戸町無宿非人共多右狩込被 仰付候砌於 御評定所ニ芝方非人頭ニ被 仰付其節松右衛門と改名仕候由

一品川溜起立之儀者元祿十三辰年七月十一日溜地五百貳拾三坪四合御拜領仕自分入用を以溜取建申候其節左之御名前之御役人様方御立會被遊候尤夫迄者御預之者者居小屋之差置申候

溜地御拜領之節御立會

樋口治郎左衛門様
中村八郎左衛門様
木原與右衛門様

伊奈半左衛門様
御役人中様

榊屋藤左衛門様
御手代中様

品川宿名主

茂兵衛殿
庄藏殿

一御拜領地並私居面共

此内譯

一溜地五百貳拾三坪四合

是ハ元祿十三辰年七月十一日拜領仕候

一古來ノ居地面四百拾九坪

是ハ御除地

一地面三百坪三尺

是ハ元祿八亥年織田越前守様御檢地御改之節北品川法禪寺火葬場地ニ御座候處讓受申候

一同 三拾六坪

是ハ居地續大井村山之内長吏小頭彌左衛門地ニ御座候處元祿八亥年買請候地面ニ御座候

合坪數

千貳百七拾八坪三合四夕

右坪數之儀者先前ノ町御奉行様書上來候振合ニ御座候

一前書自分入用ヲ以取建候溜者元祿十五年二月十一日類燒仕候ニ付 御入用金頂戴仕溜取建申度段其節北御番所松前伊豆守様之御願奉申上候處保田越前守様御内寄合之節願之通被 仰付金百兩被下置溜取建申候其後享保四亥年二月十三日又候溜類燒仕候間御入用金奉願上頂戴仕候上則溜取建夫ノ引續溜御修復之度毎ニ御入用金奉頂戴候

一前書御役人様方御役名之儀者御三人共其頃 御年番ニ候哉又ハ御牢屋御見廻り役御勤被遊候哉北之御役人者樋口治郎左衛門様南之御役人中村八郎左衛門様中之御番所御役人木原與右衛門様と奉存候

一惣圍之内間數之儀者間口四拾貳間五尺奥行少シ筋違ニ而左者三拾五間右者三拾三間裏幅三拾五間ニ御座候

一持場所之儀者東者芝口橋通沙留川筋ヲ限西者土橋ノ幸橋之内櫻田御堀端際通糶町壹町目大通南之方片側四ツ谷御門迄南者碑文谷村ノ六郷川筋通南之分片側羽田村ヲ限北者四ツ谷御門ノ大通南之方片側内藤新宿ヲ限穩田村ノ碑文谷村迄ニ御座候

一非人勤方之儀者手下小屋頭共日々諸奉行所様之罷出溜御用相勤尤小屋頭共之心底ニ寄夫々役筋ニ輕重茂有之又者抱非人共者溜御預並御呼出等有之候節右人足ニ差出申候

一淺草非人頭善七等引合之儀者一躰私勸進場所等者前書之通少場所ニ而町方纔ニ致在方而已多右ニ準手下小屋共到而少人數故善七と者持場所人數共格別ニ相違仕三分一ニ茂相當リ不申候得共非人頭之儀者同格ニ而溜御用其外之儀者同様ニ相勤申候尤右持場所人數共善七と者引合不申然共御用筋等者吳々手當致シ大切ニ相勤申候

一溜間數之儀者大溜梁間三間桁行拾間貳之溜梁間三間桁行五間女溜梁間貳間桁行貳間半外ニ間口三尺奥行壹間之圍三ヶ所御座候

一惣圍之内四隣之儀者三方共畑壹方ハ往來ニ而向品川寺林ニ御座候

一鎮守社之儀關大明神と唱往古より蟬丸公勸請致候由申傳ニ相成候
一古來ノ所持致候品御尋ニ御座候得とも昔時三河長九郎義有故候歟身分下賤ニ相成候上縱慥成由緒書又者所持之品有之候共其頃賣拂候哉但讓遣候歟慥不成義

ニ而往古々傳來致候品と申利休居士之偽筆ケ間敷茶
道之書物壹卷當時者類ニ出來其外古物之品所持不仕
殊更類焼及兩度ニ候間焼失茂難斗相見近代ニ茂右有
無申傳決而無御座候

文政十一子年

品川非人頭
藤左衛門
以上戊子書上

内山毘世戊子淨書

御府内備考卷之百十終

西は淺草川にそへり、案に深川も本所と同じく、万治
寛文の頃より市店屋敷等出來しは勿論なれど、伊勢貞
丈が隨筆中に、明曆三年正月十八日十九日兩日の大火
の時、深川に在しかし藏の中に、米拾万七千貳百三拾
貳俵大豆壹万八千五拾四俵大麥壹万五千三拾俵小麥壹
万貳千俵下り酒四万七拾九樽鹽三万八千六百八拾俵
胡椒三万九拾四俵荳蔻胡椒千六百八拾俵水油六千四百貳
拾樽魚油貳万七拾樽蕎麥千六百八拾俵燒灰八萬八千
三百三俵薪五拾七万九千九拾七束主なしとなれりと載
るによれば、地割なき前にもすでに商人の藏など多く
建たりしとみゆ、されとそれもやうやく小屋かけやう
の藏なりしなるべし、此餘市店町並など多く置れし事
等は、大抵本所と同時なりし如くなれば、その條と合
せ考ふへし、

一深川起立之義者書留等茂無之疑と相知不申候得共古
來者武州葛飾郡之内往古者下總國內に御座候由一説申傳候海濱之地所ニ
而一圓萱野ニ而御座候よし然處當町開發人深川八郎
右衛門並外六人之者一同攝津國出生之ものニ而
御入國前御當地を罷下當所を幽に殖生之住居營み罷
在候處乍恐
神君様此邊始而爲御鷹野被遊 御成候御場先ニ

御府内備考卷之百十一

深川之一

總說

深川は、慶長の比勢州の人深川八郎右衛門といひしが
此地に來りて新墾せしまゝに、たゞちにその氏をもて
地の名とすと云傳ふ、事は末に出す元町の呈書の猿江
町泉養寺の記録に詳なり、泉養寺は即八郎右衛門の開基
せる寺にて、昔は深川元町の
處に在し江戶志に、昔は鱒河と書て、鱒多くおりし地
なりといへるは、おそらくは無稽の説なるべし、此深
川と稱するもとはわづかなる村なりしが、後に市店
屋敷など多く出來て、深川町と改められ、又何の比よ
りか此邊の總名とはなれり、今みるところをもてい
は、東西も南北もそのわたり凡二十四五丁、南は海岸
に邊し、北は六間堀森下丁富川丁西丁猿江丁大島丁に
及び、東は大抵十間川十萬坪の東を流れ龜戸柳
島の間へ通る川なりに境ひ、

而八郎右衛門被召上地名被遊 御尋候處當邊萱野而
已多く村里茂隔候ニ付地名茂無御座候段奉申上候處
左候ハ、其方苗字を以深川と名付新田開發可致旨奉
蒙

上意則慶長元年申年々起立仕次第一ヶ村ニ相立深川村
と號候よし前書ニ申上候通り後年追々町並家作出來
仕候ニ付惣名深川村と名目相唱在町とも御代官御支
配ニ御座候處其頃惣深川地境之義者南之方者小名
木川を境北之方者本所を境西者大川を限り東之方者
同領猿江村邊ヲ限り一圓深川町と號候由其後正徳三
巳年五月中町並屋鋪之分者丹羽遠江守様松野壹岐守
様坪内能登守様御勤役中町御奉行所御代官所兩御支
配ニ相成候義ニ御座候深川町惣高之内當町分高四拾
六石五斗八升此反別三町八反八畝五步御水帳高ニ御
座候處元祿十五年右町内之内高拾六石九斗八升此反
別壹町四反壹畝拾七步之場所松平遠江守様堀田伊豆
守様御屋鋪御用地ニ被召上爲代地本所法恩寺前並同
寺東之方ニ而元高拾四石三升貳合此反別壹町壹反六
畝貳拾八步本所相生町四丁目五丁目之内ニ而元高貳
石九斗四升八合此反別貳反四畝拾七步右貳ヶ所ニ而
代地被下置候然ル處右法恩寺前代地之儀者本所法恩

寺前深川代地と相唱候處近邊所々代地多く度々間違候ニ付有來深川元町元町代地と相唱申度安永五申年中牧野大隅守様御番所々奉願上願之通被 仰付候後深川元町代地と相唱申候且又本所相生町四丁目五丁目代地之義者其頃同町上ケ地之内を代地ニ被下置候よし申傳深川代地ニ御座候得共相生町之内ニ相籠り同町名相唱其砌村方御年貢諸役斗本村方え請取上納仕來公事出入其外町役之儀者同町ニ而仕來候儀ニ御座候且六間堀町代地之義も深川元町代地續本所相生町五丁目之内ニ而代地被下置候譯柄前書之通御座候是者六間堀町より申上候

但前書六人もの之内今西甚兵衛金子佐右衛門苗字不相知作右衛門と申もの者名前申傳候得共其餘之姓名者相知不申候尤右之内今西甚兵衛子孫之義者只今以て名主役相勤罷在候其餘之もの子孫之義追々斷絶仕候哉當時相知不申候本文深川八郎右衛門義深川町方貳拾七ヶ町並村方とも子孫代々名主役相勤相續仕候處七代目八郎右衛門義組合清住町大達彌兵衛と申もの家名退轉仕右跡式取建方之義ニ付組合一同不念之義有之御咎茂難斗候ニ付大勢之者を厭ひ八郎右衛門壹人之越度ニ申成し寶曆七丑年十月七日入牢仕同

年十一月十一日出牢仕御預ニ相成候處同晦日病死仕候依之御詮義中之ニ茂御座候間名跡相續願茂難相成家斷絶仕候尤開祖代々菩提所猿江泉養寺ニ墳墓御座候且右之もの義者當所開發人子孫殊ニ前書大勢ニ代り候而越度を引請絶家仕候義ニ付無縁ニ相成候茂歎ケ鋪深川廿七ヶ町申合せ年々少々宛出銀仕追善等不怠仕元町名主忠右衛門書上

深川起立記

深川小名木川ノ南之方町々譯書

十七番組深川惣町數百拾町之内小名木川ノ南之方町數六拾九町

但右町續ニ所々之引ケ地並代地有之候得共此分其最寄續丁々起立之節又ハ起立後ノ追々引ケ地等ニ罷成候事ニ可有御座義ニ而右之内ニ而名主組合違候も有之候歟ニ付引ケ地代地起立ハ相調不申右之分町名下ケ札ニ仕候

下ケ札

深川

靈岸寺表裏門前町

三十三間堂町

末廣丁

中島丁

北川丁

松村丁

南松代丁代地二ヶ所

海邊大工町代地三ヶ所

佐賀丁代地三ヶ所

清住丁代地貳ヶ所

猿江丁代地

南本所石原丁代地三ヶ所

北本所丁代地貳ヶ所

深川坂本丁代地

同所佃丁

本所茅場丁代地

一深川久右衛門町壹丁目貳丁目

右ハ築立地之内元祿十六未年買受地正徳三巳年町支配ニ成

配ニ成

一深川海邊大工町同所裏町

右ハ元和年中ノ寛永年中迄海邊新田百姓地を町屋ニ御代官え相願正徳三巳年閏五月町支配ニ成其節ノ兩支配ニ而年貢其外百姓高役相勤町並屋鋪ニ有之候

一深川永代寺門前町同所仲丁同東仲丁同所山本丁

右者寛永四卯年葭沼之場所永代寺拜領承應二巳年四月門前町ニ成天和戌年十二月焼失いたし家作御差留之處元祿十巳年如元町並ニ成延享二丑年閏十一月町支配ニ成先年ノ地子金子右寺え差出

一深川清住町富吉町相川町熊井町諸丁黒江町大島町佐賀丁

右者寛永六巳年海手汐除堤干潟之所獵師丁ニ取立度段御代官え相願元祿十五年九月願之通町並ニ成正徳三巳年町支配ニ成先年ハ無年貢ニ而御茶御着差上御成先御役舟御用等相勤候處寛文十戌年右御役之外高入被仰付年貢相勤

一深川扇橋町同所蛤町之内

右慶安年中ノ天和年中之内海邊新田並深川村百姓地を町並ニ御代官え相願正徳三巳年町支配其節ノ兩支配ニ年貢其外百姓高役相勤候元祿年中ノ右町名相附候

但右蛤丁之内享保十七未年同十九寅年右兩度地面壹ヶ所ツ、百姓地を町並ニ相願ひ右蛤丁之内ニ有之候

一深川鶴歩町

右者元祿十一寅年中御築立之場所御代官懸りニ而
買受地ニ成其後御用地ニ被 召上享保八卯年猶又買
受地ニ成同二十一年辰年貢御高入ニ成町並ニ成鶴步
町と名付

一 深川奥川町

右者元祿十三辰年御堀並川々芥改役四人之者拜借地
ニ成其節町支配ニ而公役銀其外御役等不致

一 深川平野丁一色町元加賀丁此三ヶ丁拜領地入交り伊
勢崎丁此丁拜借地材木丁中川丁富久丁

右元祿十三年々十五年迄之内元木場丁屋割之地所並
水地萱野御築立地町屋割之所追々御代官之買受地願
古丁同様町屋鋪ニ成正徳三巳年町支配公役銀勤拜領
地之分起立難知分ハ其町内町人共買受地仕候節ハ拜
領地と相成候事と相見候

一 深川冬木丁此地地地渡り等ニ而入交買受代金不知島
崎丁續丁同所永堀町西永代丁今川丁富田丁堀川丁松
賀丁同所万年丁壹丁目貳丁目此二ヶ町拜領地入交同
三丁目此丁拜領地

右元祿十三辰年中北木置場町屋鋪之地所並御築立地
町屋割之所御代官之願買受地古丁同様丁屋ニ成正徳
三巳年町支配ニ成公役銀勤

右元祿年中御築立地六万坪御圍之内正徳元年御代官
之願買受ニ成正徳三巳年町支配公役銀勤

一 深川六人屋鋪此丁起立買受大和丁之内籠内譯金高不
知

右者大和丁之内ニ而元祿十四巳年水野萱野之場所御
築立之所相願古丁同様町並ニ成享保十三年御取上ヶ
地ニ成同十四年小間遣六人々拜領被仰付町方支配ニ
而公役銀勤

一 深川築出新高地買受代金無之

右享保十九年三河丁善兵衛外壹人海手出洲築立地ニ
仕拜領丁屋ニ而年々上金仕丁方懸其後受負人度々相
替尤起立ハ今以養生所御入用附町支配上納地

一 深川源左衛門屋鋪

右者御代官支配百姓地之處延享四卯年町方支配町並
屋鋪ニ相願兩支配ニ成其後右町之内地代上納仕家作
御免町並ニ仕度段天明三卯年願之通ニ成年貢其外百
姓高役勤

一 同所定凌屋鋪

右者天明二寅年中川屋長兵衛本所割下水五ヶ所凌御
本ノマ、
普所相勤永々定凌相勤年々上納金可致旨ニ而越中島
丁石置場之内明地之場所を拜借地ニ願古丁同様町並

一 深川吉永丁扇丁茂森丁大和丁宮川丁龜久丁木場丁蛤
丁之内同所山本丁西永丁三好丁西平野丁東平野丁
東永代丁小松丁同所伊澤丁此丁拜領地面ニ公役銀
勤

右元祿十四巳年中元木置場丁屋割之所並水地萱野之
場所御築立町屋割之地所御代官之願買受地古丁同様
町並正徳三巳町支配ニ成公役銀勤

右之内拜領地ハ買受仕候節又者追々拜領ニ相成候事
と相見候

一 深川久永町壹丁目貳丁目島田丁同所島崎丁此丁代地
之分買受代地相除

右元祿十五午年中御築立地町屋割之地所御代官之願
買受地古丁同様町並ニ成正徳三巳町支配ニ成公役銀
勤

一 深川石崎町

右元祿年中御築立地十萬坪御圍之内正徳元年相願古
丁同様町並ニ成同三巳年町支配公役銀勤

一 深川入舟丁此丁拜領地入交ニ付拜領地ハ代金無之
右元祿十四年々寶永三年迄水地萱野之場所御築立之
地所御代官之願買受地正徳三巳年町支配公役銀勤

一 深川六万坪町

ニ成割下水定凌屋鋪と町名相唱度旨同五巳五月相濟
町支配

一 深川定凌屋鋪續上納地

右者天明二寅年和泉屋文藏深川定凌屋鋪續殘地波ニ
而缺荒地之場所を自分入用ニ而家作地ニ取立年々上
納金致拜借致度段願濟古丁同様丁並拜借地ニ成町名
ハ天明五巳年五月願濟町方支配

一 深川海福寺門前丁

右者寶曆十一巳年右寺年季町屋ニ相願當時年中ニ有
之候

一 深川入舟丁 但武士方拜領地ニ而公役銀勤

一 同所越中島丁 但同斷

一 同所富岡丁買受代金不相知公役勤

一 同所松賀丁續拜借屋鋪拜領地ニ付買受代金無之

一 同所富久町向三角屋鋪起立書留不相知

右町々町支配ニ有之候合七拾貳丁

凡四拾ヶ町買受代金惣合貳万七千七拾五兩銀九匁
九分五厘拜領地武士町人共町數拾九丁但町並屋鋪
百姓地ニ而取立五丁取立地拾丁起立不知三丁右之
通有之候標與左衛門書上

芥改書上
御尋ニ付申上候

私共奉蒙芥改御用候最初之儀元祿拾五年迄者 御當地町々並芥船等甚猥ニ而御堀川々等茂自然と埋り其上所々川々流出候芥船鋪又者芥船共上總濇埋一向通船相成不申川口埋候義故出水之節者乍恐川上御田地御橋等之障ニ茂相成可申哉等奉存同年二月當御役所様え私共先祖之者共奉願上候もの深川永代浦入海干潟凡拾五万坪程之所私共え被下置候者御新田取立可申候間江戸中捨芥右之入海干潟え捨候様ニ被爲仰付被下置候様ニ奉願上候得者御吟味之上願之通被爲仰付被下置候則御高札御建被下置候始而芥捨場と申義相定候依之先祖之もの共入用金を以深川熊井町八幡前迄古川を浚夫より又幅六間長八百間程之處芥船往來之新川を堀其外芥船手配通路之小川枝川貳千間餘堀立毎日芥引キ人足ヲ入築立普請仕候且又右岸上總濇埋通船相成不申候場所も早速浚取可申候間右拾五万坪之外ニ町屋鋪三千坪被下置候様ニ奉願上候得者又御吟味之上願之通被爲仰付被下置候所其節者相應之町屋鋪有合不申候ニ付拜領地之義者被仰付茂御延引ニ御座候然共右奉願上候義ニ付早速普請ニ

取掛上總濇之義者横幅貳百間長サ貳拾町餘之處幅田人足を入レ則貳ヶ年之内ニ浚取夫より無滯通船相成申候ニ付其後者此上總濇通を芥濇共申異名ニ申傳候尤右浚芥出之義者右之拾五万坪之所え積送り地形段々築立申候處翌寅年御用地ニ被召上右貳ヶ所之普請ニ夥敷物入仕候義難澁仕候ニ付先達而被仰付候三千坪之町屋鋪を何卒御渡被下置候様ニ奉願上候得者被爲 聞召譯元祿拾三辰年右町屋鋪三千坪之内え深川萬徳院前ニおゐて水地六百五十七坪三合之所當御役所様並築地御奉行深津八郎右衛門様町奉行松前伊豆守様保田越前守様御勤役中御吟味之上私共居屋敷ニ被下置候故則築立之町名號奥川町と私共四人代々此所ニ住居仕候尤殘地貳千三百餘坪之義者追而地面見立願出候様被爲仰付被下置候處其後何分相應之地面茂見當不申候ニ付御願も不奉申上候勿論右拜領地面之義三千坪之都合不仕候内之義ニ付子孫ニ至万一鹿末成儀茂御座候而者奉恐入候ニ付拜借地ニ被爲成置被下置候様ニ奉願上今以拜借地と仕來候義ニ御座候是又前書申上候築立拾五万坪之處近來一圓木場町と申候右三拾五万坪築立後者拾万坪芥捨場ニ被爲仰付候間段々出精仕芥船共漕をくらせ地形高相成則千田

新田と申ニ罷成其後六万坪芥捨場被爲仰付候間段々私共指配芥船漕送らせ地形高罷成候處享保九辰年猿江御鷹場之内水地之處捨芥を以埋立候之様急御用被爲仰付候ニ付晝夜出精仕芥船指配仕候而地形築立さし上申候其後享保拾三申年右六万坪之築立場を私共先祖之者とも新開新田仕石小田新田と申ニ罷成芥捨場無御座候ニ付越中島續松平伊豆守様御屋鋪下夕干潟之處見立芥捨場ニ奉願上候處享保拾五辰年町御奉行諏訪美濃守様御勤役之節當御役所様御掛ニ而御吟味之上芥捨場ニ被爲 仰付被下候ニ付精仕候て芥船漕送らせ則地形高罷成芽生立候ニ付芥請負之ものとも方より茅御上納仕來候處願人御座候て寶曆六子年右地面御引渡被爲遊會融新田と申ニ罷成候其後享保拾九寅年右場所之續稻垣對馬守様御屋鋪下夕干潟之處見立候而又々芥捨場ニ奉願上候所町御奉行稻生下野守様御勤役之節是亦當御役所様御懸ニ而御吟味之上芥捨場ニ被爲 仰付候ニ付段々芥船指配仕漕おくらせ地形形成仕候ニ付願人御座候而寶曆八寅年右之内ヲ海苔干場新田家作地ニ被 仰付御定杭御打渡被爲遊置候内西之方ハ安永八亥年松平右京大夫様御抱屋鋪ニ相成東之方今以芥捨場ニ御座候依之最初永代

浦築立候より以來御新田都合ニ而者凡三十八万坪餘築立仕候並明和二酉年御堀浚之節除土場所之義私共方え御尋被仰付候ニ付石小田新田地先八万坪之干潟見立言上仕候處則右除土場ニ被 仰付御手傳様私共方え除土船御命印被下晝夜出精仕候而芥船共差配仕右之場所え積送らせ候間此所當時平井新田と申ニ罷成候 私共芥改役勤方之義者元祿拾二卯年正月當御役所様ニ而被爲仰付被下置候尤日除船帶刀ニ而相勤候様ニ被仰付被下置候御役船貳艘ツ、私とも四人え御船ニ而御渡被爲遊被下毎日御堀並所々川々ニ乘廻り相改申候品ハ川々え芥猥ニ捨不申候様ニ吟味仕御堀川々え掃込芥等爲致不申候様ニ相制又者町々芥請負もの共積出し候芥船とも猥ニ川々え捨申候ニ付是又相改或者江戸芥船等田舎芥船相對仕川中ニ而船船積移候義數多御座候處此者とも儀肥芥ニ相成候芥者田舎え積參石瓦木切等肥芥ニ相成不申分ハ川中え猥ニ捨候義茂有之又者芥船とも不相應ニ落重積候而乗出し候節風破ニ而働成兼候得者川中途中ニ而猥ニ芥土刴捨候義茂御座候ニ付是等相改早速搔上させ御定メ芥捨場所ニ漕おくらせ申候依之汐時ニ寄夜中ニも罷成

相勤申候且又最初御建被爲遊被下置候御高札之内深川越中島御高札之義者地所共ニ私共え御預被爲遊候ニ付右御高札見守並上總藩通芥船猥ニ不狩成義不仕候様私共方々晝夜番人附置申候尤私共御役之義者乍恐御殿中ニ而御下ヶ紙ニ而被爲仰渡候趣茂御座候間並捨芥を以所々御新田築立候義鍛鍊仕候ニ付役名を永代築地芥改と被爲 仰付被下置候段當御役所様奉蒙 御意冥加至極難有仕合奉存候段先祖共より代々申傳候尤享保拾四酉年火災之節書留諸帳面等有増焼失仕候ニ付委細之義者相知不申候尤前書ニ申上候古來之御役船日々貳艘ツ、被下置候分去ル寛政元酉年七月右御役船日々壹艘ツ、減少改方之義者是迄之通相心得陸よりも見廻り相改候様被爲仰付候依之當時御役船日々壹艘ツ、請取之乘廻り尙又陸よりも見廻り相改申義ニ御座候且又私共右奉蒙御役御用候ニ付万端御役所様蒙御下知御用向相勤來候處身分之義者古來々町方人別ニ相加申候右御尋ニ付奉申上候以上

寛政四壬子年五月

永代築地芥改役

秋田利右衛門印

深尾久右衛門印

石川善之助幼少ニ付後見
石川源助印
關根彌七幼少ニ付後見
關根喜六印

伊奈右近將監様

元御役所

小名木川

小名木川は、淺草川と中川とへ通したる枝流なり、西は万年橋の下より東は中川御番所の前まで、川長凡一里十町といふ、川幅は二十間餘なり、江戸鹿子名所大間にあり、正保の頃の地圖には、此川をうなきさやほりとしるせり、うなきさは堀といふの誤なるべし、すでに延寶八年遠近道印の撰へる地圖には、鰻澤川筋とあり、やとすとは横の通音なれば誤りしもむへなり、又堀と川とは古は混して唱へたるもの多し、横川を横堀といふの類是なり、今小名木川とするものは、うとをととは豎の通音なれば、土人のかく誤り傳へたらんをそのまゝ文字に書かへしよりの事なるへし、又此川のつゞき西小松川村と東小松川新田との間より、下今井村まで川路凡壹里廿町ばかりありて、利根川に通ぜり川幅はこれも二十間ばかりなり、これを舟堀川と呼べ

り、又小名木川と舟堀川とを通じて、總名を行徳川ともいふ、行徳通船の川なればかく稱せしならん、事蹟合考云、天正十八年八月 御入國被遊候と不日に行徳の鹽濱へ船路早速堀通し可申旨被 仰付忽船路出來いたし候是今の高橋通りなり、これは甲州の武田信玄動すれば小田原鹽留にあひて、國中上下ともに難義いたし候を以て

神君早速に行徳の鹽江戸入自由をなさしめ給ふ、されば今日に至りて江戸行徳の鹽を以て第一と用ひ候、元來江戸浦泥濱にて、鹽を焼に叶ひがたく、ことに至極邊土の葦本書いりなるいる故なり、行徳は凡千年の餘に及びて燒候よし、此鹽利根川の筋を吾妻領碓氷峠の下まで養ふなり、尤此鹽は手藁には入す椎實尻の指渡し二尺ばかり口の廣きある籠にて通用するなり、又

御入國已來専ら同國同じ入海の西浦六郷大師河原専らに燒り、その下鹽ながら行徳についで江戸を養ふなり、皆神君の御下知に出る所なりと云々、今も行徳領の海岸に鹽濱若干あり、

洲崎原

洲崎原は、入舟町の南海岸にそひたる處にて、東西の徑り貳百八十五間、南北三十間余りの原なり、此地は元祿の始に築立し地にて同十六年買受の年貢地となり、その後正徳三年町並の御ゆるし有て久右衛門丁といふ、軒を連ねたる町並なりしが、寛政三年高波の災にかゝりて、人家をことごとくおし流され、これがために死する人多し、よりにて釣命にて、永く原野となさしめ、家居する事を禁せられたり、今も吉祥寺門前と入舟町の西とに禁制の石標あり、その文下に見へたり。

明地見守九ヶ町惣代寺門前町名主伊右衛門書上

久右衛門町壹丁目

久右衛門町貳丁目

入船町之内

佐賀町代地之内

立蹟明地

一右四ヶ町明地の儀者寛政三亥年八月六日同九月四日高波之節海手石垣扣土手打崩町家流失溺死人等有之右石垣御普請所之義ニ付品々町年寄樽與左衛門方ニ而取調有之同六年十二月十一日町御奉行小田切土佐守様御懸リニ而久右衛門町外貳ヶ町とも右御番所え惣地主共被召出爲後難右地面被召上地主共え銘々御地代金百坪

二付金九兩壹分之割合を以被下置永ク明地ニ被仰付右四ヶ町明地之内佐賀町代地之義者元御年貢地ニ付御代官大貫次右衛門様御引渡ニ相成同所御掛ニ而寛政七卯年十月中深川獵師町並海邊新田え右明地見守被仰付同久右衛門町壹丁目貳丁目入船町明地之義者樽與左衛門掛ニ而同九巳年閏七月中吉祥寺門前町入船町並同町拜領屋敷町方共三左衛門屋敷伯隆屋敷永代寺門前町同仲町同東仲町同山本町右九ヶ町え見守被仰付若右明地之内異變有之入用出銀之義者吉祥寺門前町外四ヶ町者小町ニ有之相除永代寺門前町外四ヶ町ニ而割合出銀可致旨申渡有之候處文化十四丑年九月十七日右右衛門町立跡明地之内同壹丁目立跡明地之分此坪貳千四百六拾坪餘同貳丁目立跡明地之分七百拾七坪餘貳ヶ所合三千七百拾七坪餘同所入船町立跡明地之内千貳拾壹坪餘與御醫師澁江長伯様御持ニ相成御藥草植付場御願濟之上御同人様御手付飯田源之助殿梅澤新十郎殿近藤金之助殿町御奉行永田備後守様組與力後藤三郎兵衛殿岩瀨加賀守組與力中村又藏殿町年寄手代並地割方手代共出役御引渡相濟文政三辰年四月廿三日右明地石垣際土手外三尺通相除久右衛門町貳丁目立跡明地分千九拾坪壹合同入船町立跡明地之分三百八拾坪五夕貳ヶ所合千四百

七拾坪壹合五夕御藥草植付場ニ御願濟之上前書同斷出役有之御引渡相濟其外石垣通並土手道式之分私共町々ニ而當時見守仕罷在候義ニ御座候前書之通ニ而寛政六寅年久永ク明地ニ被仰付候御趣意ニ付町御奉行小田切土佐守様御懸りニ而右明地東西え高地面より六尺幅壹尺四方之右傍示同七卯年五月八日御建被置候御文言之寫左ニ申上候
葛飾郡永代浦築地
此所寛政三年波あれの時家流れ人死するもの少からす此後高なみの變はかりかたたく流死の難なしといふへからす是によりて西は入船町を限り東は吉祥寺門前に至るまで長貳百八拾五間餘の所家居とり拂ひ永ク明地になしをかるゝものなり
寛政六甲寅十二月 日
一四ヶ所立跡明地並道式下水とも
惣坪數五千四百六拾七坪四合六夕壹才
此御代金五百五兩貳分銀拾四夕四分八厘五毛
内譯
一千九百三拾五坪壹合貳夕五才 久右衛門町壹丁目
此御代金百七拾八兩三分銀拾四夕九分四厘三毛
一千九百六拾七坪七合五夕 久右衛門町貳丁目

此御代金百八拾貳兩ト銀壹及壹厘貳毛

一千三百四拾七坪壹合貳夕五才 入船町之内

此御代金百貳拾四兩貳分銀六夕六厘四毛

一貳百拾七坪四合六夕 佐賀町代地之内

此御代金貳拾兩ト銀九分三毛

右者道式下水相除全地面坪數ニ御座候

一四隣 東之方吉祥寺門前町南之方海手ニ而永代浦西之

方入船町川向北之方木場町入船町

一元石垣扣土手 長千五百間餘土手式中五間半々六間迄

高サ壹丈八尺迄

右石垣扣土手之義者元祿十一寅年中新規皆御入用を以

元稻垣和泉守様御屋敷當時松平阿波守様御屋敷武州

葛飾郡葛西領砂村新田迄石垣扣土手御築立有之候

一當時波除堤 長貳百八拾間餘平均高五尺八寸馬踏六尺

鋪三丈壹尺

右波除堤之義者享和元酉年十月中川凌御普請之節右凌

土を以前書波除堤御築立御普請有之候

六萬坪築地

六萬坪築地は、茂森町の東川を隔てむかひの地なり、大抵東西へ六丁南北壹丁半もあるべし、六萬坪と名付

しものは、その大數をいへるなりと、此地は元祿の頃まで海なりしを、江戸市中の芥をもて新に築立しとなり、始は御代官の預り地なりしを、正徳元年願人有てその西方三分の一を買受の年貢地とし、同き三年町並の御ゆるし有て六萬坪町と名付たり、残りし三分の二は、享保十三年より新墾して石小田新田と唱へたりしが、幾ほともなく町地ともに残りなく、細川越中守に賜ひて、今もその下屋鋪なり、

十萬坪築地

十萬坪築地は、石島末廣兩丁の東なり、反別にして廿八町六反餘の地といへり、江戸砂子云、十萬坪築地は、その始め江戸市中の芥を集て築立しと、或書に云、享保八年江戸の町人近江屋庄兵衛井籠屋万藏、十萬坪築地を新田開發すべきよし願ひ上しが、頓てその望に任せられ、三年を歴てその功を終りて千田新田と名付とあり、しかれば此地の築立は、古き事にして、新田となりしは享保十年の事とみへたり、その後一旦松平薩摩守が抱地となりしを、寛政八年一ツ橋殿の御所望に依て、御讓地となりそれより幾ほどもなく、或云寛政十一年の事なり御同人野州の御領所と御切替地になりたり、由て今

は一ツ橋殿十萬坪の御領地と唱へり、

永代橋

新大橋

以上二橋は、第七卷御曲輪内の條に載す。

福島橋

福島橋は、富吉町の東より、中島町と北川町との間へ渡る橋なり。

八幡橋

八幡橋は、仲町大路の續き黒江町より中島町と北川町との間へ通る橋なり、永代橋の方より八幡宮へ詣る入口の橋なれば、土人常に八幡橋と呼しを後その名に定めしといふ。

坂田橋

坂田橋は、蛤町と伊澤町との間にかゝれり。

外記殿橋

外記殿橋は、黒江町より大島町へ渡る橋なり、此邊にもと何氏外記といふ人の屋鋪ありしにより名とすとい

へり。

小橋

小橋は、中島町より相川町へ通ふ橋なり。

洗濯橋

洗濯橋は、中島町より越中島町へ渡る橋なり、此橋下を流るゝ川は、淺草川の支流にしてその水すめれば土人常に衣類などそゝくを以て橋をかく名付しといへり。

大島橋

大島橋は、大島橋の南より越中島町へ通る橋なり。

松島橋

松島橋は、蛤町と大島町との間にかゝれり。

石島橋

石島橋は、蛤町より黒船稻荷の社地へ架したる橋なり。

蓬萊橋

蓬萊橋は、富岡八幡表門の前より佃町へ渡る橋なり。

潮見橋

潮見橋は、仲町大路の東三十三間堂町の邊より入舟町へ通る橋をいふ。

平野橋

平野橋は、入舟町より洲崎原へ通る橋なり。

金岡橋

金岡橋は、入舟町より木場町へ渡るの橋なり。

築島橋

築島橋は、島田町より木場町へ通る橋なり、島田町出來し初に、かけ渡せし橋なれば築島橋と名付しといふ。

永居橋

永居橋は、東仲町より大和町へ通る橋なり。

富岡橋

富岡橋は、一色町と黒江町との間より寺町の方へ渡る橋なり、寺町の法乘院に名高き閻魔堂あるを以て里俗

には閻魔橋とも呼へり。

千島橋

千島橋は、松賀町の北より堀川町へ渡る橋なり、

緑橋

緑橋は、一色町の西より松賀町へ渡る橋なり、松賀町の緑をとりて名付しといへり。

下ノ橋

下の橋は、佐賀町の中ほとにて、淺草川の支流に架せる橋をいふ。

中ノ橋

中の橋は、下の橋より北に當りてこれも淺草川の支流に架す。

上ノ橋

上の橋は、中の橋より又北にあり、佐賀町の境より仙臺堀に渡せり、以上三橋上中下と名付しものは、淺草川の上流下流を以て稱さるなるべし。

田中橋

田中橋は、中川町と富田町との間に渡せり。

豊島橋

豊島橋は、西永代町と堀川町との間に架す。

元木橋

元木橋は、東永代町と堀川町との間に架す。

丸太橋

丸太橋は、材木町より平野町へ渡る橋なり、昔此邊木置場なりし頃、かりそめの歩みの爲に丸木をもて橋となせしその蹟なれば、丸太橋と稱し來るといふ。

江川橋

江川橋は、寺町陽岳寺の東より佐賀町代地へ渡したる橋なり、

相生橋

相生橋は、万年町の西より長堀町へ通る橋なり。

松永橋

松永橋は、今川町の東より長堀町へ渡る橋をいふ。

海邊橋

海邊橋は、万年町の北より伊勢崎町と西平野町との間にあり、昔此邊田圃なりし時なへて海邊新田と稱せしゆへ、橋にもその名をおはすといへり。

龜久橋

龜久橋は、龜久町と平野町との間にあり。

要橋

要橋は、扇町より吉永町へ渡る橋なり、扇町のちなみに、要橋と名付といへり、

青海橋

青海橋は、吉永町の東より久永町へ通る橋なり。

吉岡橋

吉岡橋は、平野町の東より吉永町へ渡せり。

富島橋

富島橋は、吉永町の北より三好町へ渡る橋をいふ。

崎川橋

茂森町と島崎町との間に架せり。

大榮橋

大榮橋は久永町より横川に架して石島町へ通せり。

福永橋

福永橋は島崎町と扇町との間に渡せり。

扇橋

扇橋は扇橋町の北の方にて横川に架す對岸も同町にて此橋の名を町名におはせしなれば古き橋なる事論なし森尙謙か儼熟集に詩あり、
題便面橋下隻履
孤橋高架徑路幽。隻履下來誰得收。躬作帝師興漢業。昭々千古一留侯。

高橋

高橋は常盤町より大工町へ通る小名木川に架せる橋なり案に本所深川邊の橋は洪水の時流失せざる爲に皆兩

新高橋

新高橋は、西町の南より扇橋町へ通る橋をいふ、此橋は近き年かり掛はじめたるが高橋にもおとらぬ高き橋なれば新高橋の名を表せしといふ。

萬年橋

萬年橋は清住町御船藏の脇より小名木川に掛し橋なり。

猿子橋

猿子橋は元町と六間堀町との間に六間堀に架したる橋をいふ。

中ノ橋

中の橋は六間堀町の内にて同し堀に架す、猿子橋と北の橋との間の橋なれば橋名となせしならん。

北ノ橋

北の橋も同じ六間堀に架して、中の橋より北ニ當りたれば北の橋と稱せしなるへし、又中の橋に對して、猿子橋を上ノ橋と呼ひ此橋を下ノ橋ともいへり、

猿江橋

猿江橋は、横川に渡せり、東岸猿江町なるを以名とす。

大島橋

大島橋は、十間川に架せり、大島町に添たる橋なればその名とす。

御船藏附安宅丸御船塚

御船藏は、石置場の北の方にあり、淺草川の東岸に添て、長三丁許の間に大小十四宇建並へり、御構の内四千八百九十坪ありといふ、事蹟合考云、本所御船藏は古來兩國川筋にありしが、貞享年中堀田筑前守正俊元老として萬事取あつかはれし時、年々御失脚のよしにて安宅丸を取すしになさるゝ時、かの大船をおきし川のひかし岸の地に、惣御船藏うつりしとなり、今猶

を、寛永十年向井將監に仰せて相州三崎より江戸へ御取寄ありしなり、未だいつれの説正しとする事をきかす。

寛永記云、十二年六月二日

將軍家於品川沖安宅丸

上覽あり、同廿年六月十日安宅丸の御船を浮められ御船遊ひあり、諸大名の御供船ともを漕ならへ天幕を走らかし武具を飾り御船しるし川風に翻り、誠に見る目も潔く、深川中川新田島佃島川も陸も見物の貴賤さゝめき渡り、目を驚し、今日の暮ゆくそらを惜まぬものはなかりけりと、延寶八年の地圖をみるに、此處に入堀なりて、鎖をもて安宅丸をつなき置るさまを圖せり、此頃までも御船藏いまた建さりしとみゆ、名所大全云、一年大嵐吹たりし時、安宅丸多くの鎖を切て伊豆の海をさして馳けるを、三崎の番所にておしとめけるとそ、その後は堤をしつらへ、又わたり二三尺斗りの鐵鎖四五十筋を以繫きをかれたり、其頃この鎖大路の中にまたかり出たれば、人々試に擧しにいかなる力勝れたるものにも一環ならずしてはあけざりしと、枯木集に云、天和二年戊二月八日、瀬名貞雄云、安宅丸た

そのまゝに御船藏立ならへりと、寛文記十年の條に、今度長崎に於て阿蘭陀作の船末次平藏に仰付らる處に長崎より薩摩湯へ五日に着船、それより江戸品川へ十日に着す、是去年長崎にて米五百俵つゝ遠廻しせし船なり、長十五間横三間三尺一寸深サ八尺一寸艦六十丁立なり、いよゝ渡海の義たより能は、又船數仰付らるべきよしにて、右の船は御船手間宮酒之丞天野孫左衛門ニ御預なりと、此御船も此處に置しなるへし、江戸安見圖をみるに、兩國橋の東南の方に、唐船といふものつなきたるさまを圖せり、是則阿蘭陀船なるへし、淡海に云、天地丸は八十丁立大龍丸は六十丁立龍王丸は五十丁立なりと、是等の御船もみな當所の御藏におさめ置れしならん。

安宅丸御船塚 御船藏の間にあり、十間四方許の塚なり、江戸名所大全云、安宅丸は常に都を以かこはれたり、三重の御書院及び諸番所御釜殿御厩までおもかまへられしと、或書に長三十八間堀の治世略記云、寛永十二年六月二日向井將監忠勝に命せられ、安宅丸上覽あるへき旨仰出さる、抑此御船は、去々年より將監に仰せて相州三崎に於て造らしめ給ふと、又再校江戸砂子によれば、阿宅丸は、元小田原北條家の軍船なりし

年戌九月十一日被仰出小笠原丹後守鍋島帶刀右奉行被仰付尤向井將監可申合命ありし事御日記にみゆと、是によれば二月は十二月のあ、安宅丸と申す長百間の大船なるに論なし、破り捨候と、此時埋みて塚となしたるへし、江戸砂子云、安宅丸御たゝみあそはされし時の俗説に、此船はもと伊豆の下田浦にてうちたる故にや、御船出の度こゝに船のひゝき自然と、伊豆へゆかんゝとうなりたるゆへ御潰し遊されよしなりと、續砂子云、寛永九年伊豆國より、按に寛永九年といひ伊豆、安宅丸江戸入の時元祖猿若勘三郎へ金の魔を賜はり、御船の先へ立て、木やり音頭といふことをしけり、その魔は今に勘三郎の家に持傳ふといふ

鯨御船鞘起立書

本所壹之橋御石置場際

町御奉行支配

一鯨船鞘 間口五間 壹棟

此内ニ鯨船貳艘納有之候

但船銘先丸乙丸と相唱八挺宛相立申候

右船大サ

鋪 同五尋

上口幅六尺八寸
鋪同貳尺貳寸

右鯨船之義者寛保二戊年乍恐 御上意之よし加納
遠江守様ヲ以町御奉行石河土佐守様之被 仰渡御同
人様御掛ニ而翌亥年四月中出來仕候

一鯨船先丸乙丸と相唱候義者先え出來候を先丸跡ニ出
來候ヲ乙丸と申候並右船藏鞘と相唱候義者御召之御
船ニも無之出水手當之船ニ候得者御船藏共難申依之
鞘と相唱候様被仰渡候事

一地所之義も御石置場内水戸様御矢來際ノ北之方え間
口拾間西川表ノ東之方え與行廿壹間並壹之橋通入口
道桐油干場之内間口貳間貳尺東ノ西え與行拾四間貳
尺此地坪貳百五拾坪程同年四月中御普請御奉
行水谷信濃守様ノ請取申候

一鞘後口ニ役所 間口三間半 壹棟
但此立坪拾七坪五合 奧行五間

右者兩御組與力方本所掛有之御下役御同心三人宛有
之並本所道役之者本所深川内御用向御調物等有之候
節町役人共呼出其外本所附町屋鋪上納地代金等月々
取立候節御出役有之候且最寄出火等有之候節者御奉
行様被爲入候事

御船藏

御船藏は、永代橋より少しく南の方なる川端にあり、
これより路を隔て、東のかたに水主屋敷あり、

糶藏

糶藏は、元町の北の方淺草川と六間堀との間にあり、
南北五十間東西八十間餘の構にして、その中に數字建
連ねり、此地はもと橋富町といひし町地なりしか、寛
政九年御用地に上られ、同き十年新に此藏を建らる、
或書に寛政十年より享和元年まで四年を歴て五間に三
十間の土藏十一棟を建らるゝとあり、又是よりさき寛
政四年より同八年までに向柳原へ十二棟を作られ、そ
の後此地にも建させられ、又近き年筋違橋の内に建そ
へられて文化二年まで都合二十九棟出來しとあり、

石置場蹟

附櫛樹植付場
石灰置場

石置場跡は、新大橋の北に當れり、此邊古はうちひら
けて眺望よき處なりしか、近き頃櫛樹をうへられ、又
側に會所出來たれば地形ことかはれり、櫛樹植付及石
灰會所を立られし始末は、深川本村名主忠右衛門が書

但右役所近來鯨舟鞘番所と相唱申候尤平日ノ切ニ
致置候

一表番屋壹ヶ所間口貳間半 但鞘番住居
此立坪拾三坪七合五夕

附

鯨船水主之義者深川海邊大工町舟持共兩國橋役舟
相勤出水度ニ罷出相働キ其度々御褒美錢被下置候
尤右者兩國橋役舟之者ト相唱右橋東西南之方河岸
ニ舟稼場助成拜借地被下置候此譯者兩國橋東西廣
小路御取調之節役舟小頭共被召呼尋巨細相分可
申候

但兩國橋東橋番所際ニ右役舟之者出小屋有之候
事

右之通御座候以上

文政十一年九月

右見守鞘番
治兵衛

御船藏

御船藏は、清住町より北に當りて万年橋の側にあり、
こゝより路を隔て、東の方に水主屋鋪あり。

出に委しければ、左にしるす。

武州葛飾郡

深川本村之内

櫛樹植付場

並

御用石灰置場

一右場所起立之義者古者武州葛飾郡深川村川通土手敷
地ニ御座候處先年御天守御普請之節松平右衛門尉様
御石被猷殘石被差置候而より御石置場ニ相成候よし
申傳候得とも年久鋪義ニ而年月書留無御座委細之義
者相知不申候勿論御石置場と申名目而已ニ而七八十
年來御石被差置候儀無御座舊來野地同様有之候處御
不用地之由右御場所間數南拾六間三尺餘北拾六間壹
尺東五拾三間貳尺餘西四拾五間此坪七百九拾四坪有
之場所三拾八ヶ年已前寛政三亥年中御懸り御普請御
奉行様ノ御代官伊奈右近將監様御役所え右場所御引
渡ニ相成其砌元地御糶有之深川町惣石高之外ニ者候
得共同所御年貢地ニ續キ候地所ニ付深川本村名主忠
右衛門え進退被仰付候然ル處寛政十年御代官大貫
次右衛門様御懸リニ而右御場所え櫛樹植付ニ相成夫
已來櫛樹植付場と名目相唱申候尤前書ニ申上候土手
敷崩地跡之よし申傳候往古ノ高除之地所と奉存候得

共書留メ無御座駢と相知不申候

但御植付場之内御用石灰置場拜借地ニ相成候義者末ニ申上候

一御植付場間數田舎間五拾三間貳尺餘

南北ニ表間口五拾三間貳尺餘

東西ニ裏行 南拾六間三尺餘

此坪七百九拾四坪

但右地所河岸通ニ而追々欠崩當時右間數程者無御座當時之姿者繪圖面ニ申上候

一御植付場家數貳軒

櫛見守番人

壹軒

御用石灰置場並會所共

壹軒

一櫛木御植付場

壹ヶ所

表間口四拾壹間

裏中八間半

裏行

南之方拾五間 北之方貳拾三間半

右者前書御植付場惣坪之外ニ而北之方武家方持物揚場ヲ相隔有之前書同様往古御石置場ニも御座候哉奉存候得共右場所書留無御座候難相分候尤右寛政三亥年御石置場深川本村名主忠右衛門ニ進退被仰付候節

より右場所者武家方ニ進退被仰付候義と奉存候尤櫛御植付之義者寛政十午年前書同様御植付ニ相成異變取計ひ之義者武家方ニ而進退有之櫛植付並實入等ニ相成候節斗深川本村ニ而前書御植付場同様進退仕貳ヶ所共實生之節者番人罷出俵拵仕御代官所ニ相納來申候

一櫛見守番屋之義者同所南之方ニ有之間口三間與行貳間此坪六坪去ル寛政十午年御代官大貫次右衛門様ニ御願申上出來仕尤爲助成茶飯菓子類商ひ御免被成下候所手狭ニ付往年之もの休息所ニも不相成難義仕候ニ付去ル文化七午年五月中御願申上候處間口四間南裏行三間半北裏行貳間夫ニ南ニ貳間折西ニ壹間半折裏中貳間此坪拾壹坪貳合五夕ニ増坪被成下置同年八月中願之通被仰付候

一御用石灰置場 壹ヶ所 蛸殼灰竈持之もの並會所 共拜借地

表間口拾八間半

裏幅拾九間程

裏行 南五間六寸 北拾壹間壹尺五寸

此坪百五拾坪四合

右者文化九申年中颯敷灰竈持芝金杉通三丁目家持松屋佐助同所朋町家主八王子屋彌兵衛兼房町家持福

島屋平右衛門芝口貳丁目勘兵衛店越前屋市郎右衛門南大工町家持伊勢屋惣兵衛竹川町家持鳥羽屋清六箱崎町貳丁目庄兵衛店小川屋清兵衛北新堀町家持加田屋彦兵衛大鋸町家持松屋榮次郎深川猿江代地町家持山形屋八左衛門右拾人之者共ニ御勘定御奉行柳生主膳正様ニ御願申上同年八月中櫛木御植付場惣坪七百九拾四坪之内南之方ニ寄前書間數坪數之通拜借地被仰付同様御代官御支配場所ニ御座候

但壹ヶ年地代金拾五兩宛山田茂左衛門様ニ毎年十一月一季ニ相納申候

深川本村名主 忠右衛門書上

三十三間堂

三十三間堂丁の北の方にあり、南北へ六十六間、東西へ四間、四面廻り椽の堂なり、案に六十六間の堂にして柱間二間にて三十三間、本尊千手觀音を安置す、觀音の堂は東へむかへり、西の椽に射場あり、是京都大佛の三十三間堂をうつせるなりと、堂守を堺屋久右衛門といふ、按に此堂はしめは兩替町の弓師備後といふものゝ願によりて、寛永十九年堂地を淺草にて下し賜はり今堂の立し地を造營成しかその時此堺屋か先祖久右衛門普請の請負たりしに、材木料遲滞せしゆへそのよ

公に願ひ出しかば、正保元年十月二日評定所ニ於て松平伊賀守等が立合にて、此後堂屋鋪とも永代久右衛門へ賜はるべきよしひ渡されしとなり、且その年堂前稽古人より、出錢等の提書を賜はりして、今もその舊側にまかせて寄附する事といへり、掟の文左のごとし、

定 一白銀五枚 堂銀

一白銀六枚 箭檢見

一鳥目壹貫文 燈明錢

一鳥目壹貫文 燦錢

右之通被致矢數候方ニ可被出之也

一鳥目壹貫文 板錢

一鳥目壹貫文 箭檢見

一鳥目壹貫文 札錢

右之通堂前稽古之方ニ可被出之勿論堂守ニ斷可有之掾之上より芝矢一切射へからざるもの也

右之趣御奉行ニ得御下知候之間違背不可有之者也

寛文十戌年十二月

其後しばしば修理ありしが、その時々御金或は材木等

を下し賜はり、又諸侯より寄附金の御ゆるしをもち
ふりしといふ、然るに元禄十一年九月六日、浅草の三
十三間堂類焼せしかば、かの堂地をは收公せられて今
の所へ移されしとなり、此時も材木若干を賜はり、諸
侯よりの寄進を御ゆるしありしとなり、その詳なる事
は、享保十年堂守久右衛門が書出したる記録あればそ
の全文を左に記す

浅草三拾三間堂由来之覺

一浅草三拾三間堂者元來新兩替町弓屋備後思立ニ而地
屋敷之義ハ松平伊賀守様之申上 御公儀様之被
仰付堂屋鋪地拜領仕取立申候私請取から木立斗千五
百兩之契約ニ而寛永十九年壬午年造り立霜月廿三日
ニ相渡申候同廿年未年ノ備後御弓之射手衆相集候而
箭代等取申候事ニ御座候然共右から木立千五百兩之
金子壹兩も私方え濟不申候依之申年御訴訟申上候處
ニ 御公儀様ノ急度金子濟申候様ニと被爲仰付候
得共如何仕候哉相濟候義成不申候ニ付甲申十月二日
ニ御評定所え私並備後被召出松平伊賀守様松平出雲
守様安藤右京進様朝倉石見守様神尾備前守御倉義之
上ニ而堂屋敷數共ニ永代堺屋久右衛門ニ被下候間難
有奉存支配可仕候之由ニ急度被爲仰付則備後儀御拂

被成堂地立のき申候甲申十月二日ニ拜領仕當年迄八
拾三代々支配仕候義其紛無御座候事

定

- 一白銀五枚 堂銀
- 一白銀六枚 箭檢見
- 一鳥目壹貫文 燈明錢
- 一鳥目壹貫文 燼錢
- 右之通被致矢敷候方ノ可被出之也
- 一鳥目壹貫文 板錢
- 一同 壹貫文 箭檢見
- 一同 壹貫文 札錢
- 右之通堂前稽古之方ノ可被出候勿論堂守之斷可有之
縁之上より芝矢大切射べがらざるものなり
- 右之趣御奉行え得御下知候之間違背不可有之者也
- 年號月日
- 一右御定目渡邊大隅守様島田出雲守様之御願申上寛文
十年戌極月廿八日頂戴仕候
- 先年御修復被爲 仰付候覺
- 一神尾備前守様石谷將監様御時明曆三年酉十一月四日
ニ爲御修復料銀子百貫目拜領仕候
- 一渡邊大隅守様島田出雲守様御時寛文十年戌八月十一

日爲御修復料金子千兩拜領仕候

一島田出雲様甲斐庄飛彈守様御時延寶八年申十一月九
日爲御修復料金百六拾兩拜領仕候
一甲斐庄飛彈守様北條安房守様御時貞享三年寅三月御
普請方之被爲仰付御修復出來仕候
一北條安房守様能勢出雲守様御時元禄六年酉九月十日
爲御修復料金五百兩拜領仕候
一元禄十一年寅九月六日浅草三拾三間堂類焼ニ付則川
口攝津守様松前伊豆守様之御訴申上候
一同十月十三日松前伊豆守様之被召出堂地之義者御用
ニ付被召上候代地之義者追而被仰付候由被仰渡候
一同十二月廿三日松前伊豆守様之被召出御代地之義深
川八幡近所ニ而御渡被遊候段被仰渡其上御材木大小
千六百本掛ケ椽檜木六百挺被下置候間難有可奉存旨
被爲仰付候
一元禄十二年卯五月廿五日深川ニ而只今之地面拜領仕
候
一御入用之義諸大名様之勸金左之通割合を以頂戴仕候
一金五兩 但壹万石ノ貳万九千九百石餘迄
一金七兩 但三万石ノ四万九千九百石餘迄
一金拾三兩 但五万石ノ九万九千九百石餘迄

- 一金廿兩 但拾万石ノ拾四万九千九百石餘迄
- 一金三拾兩 但拾五万石ノ十九万九千九百石餘迄
- 一金四拾兩 但貳拾万石ノ廿四万九千九百九十九石餘
迄
- 一金五拾兩 但廿五万石ノ廿九万九千九百石餘迄
- 一金六拾兩 但三十万石ノ三十九万九千九百石餘迄
- 一金八拾兩 但四十万石ノ四十九万九千九百石餘迄
- 一金百兩 但五拾万石以上
- 勸金都合金三千五百四拾三兩
- 右之通割合勸金頂戴仕元禄十四年巳十一月迄ニ不殘
御普請出來仕候
- 一元禄十六年未十一月廿二日夜大地震ニ堂破損仕候ニ
付則御訴申上其後御修復御願申上候得者寶永七年寅
七月十日松野壹岐守様へ被召出爲御修復料銀子五百
枚御搏木貳千挺拜領仕候
- 一正徳三年巳十二月廿二日之火之節三拾三間堂類焼
仕候ニ付丹羽遠江守様松野壹岐守様坪内能登守様御
訴申上候堂御造立之儀先年通之被爲仰付被下候様ニ
段々御願申上候得者正徳五年未九月十九日ノ中山出
雲守様之被召出先年之通從 御公儀様御材木千七
百三拾四本御搏木壹万挺被下置候間難有可奉存旨被

仰渡候

一入用金之儀先年之通割合を以御大名様方勸金頂戴仕正徳六年申六月迄ニ御普請不殘出來仕候勸金都合金三千五百貳拾八兩但此節乾字金なり右之通相違無御座候以上

享保十年巳七月

堂守

久 右衛門

會 輔 堂

會輔堂は、石置場のむかひの方少し北によりてあり、浪士菅野幸三郎武真か屋敷の學校なり、武真の家祖は彦兵衛直養とて武州埼玉郡小針村の産なり、享保の始儒をもて江府へ 召出され今の屋敷を賜ひ及黄金若干を賜はりて、新に學校を建させられ、士民の子弟を教授すべきよし仰せありしと、その後又別にそこはくの町地を賜はり、その入資を塾の費に當られしとなん、延享四年五月廿六日、直養行年七十歳にして死せり、其子を勘平要中といふ、業を繼て學に勤め、寛政年中教化大におこなはる、嘗て日講といふ事をはしめ、日々經義を講じて、往來の貴賤をして隨意に聽聞せしめしかば、來會するものに百を以かそへしといふ、要中死後其子直要に傳へ、孫順正より今の武真に至る、

眞養の墓碑谷中玉林寺にあり、創業の大略に銘したれば左に記す、

故兼山先生諱直養呼曰彦兵衛姓菅野氏蓋爲菅原族先世關西人迨祖宗眞君長武之埼玉郡小墾邑服聖人訓誦彝倫文以導同人爲衆矜式考曰好近妣大川氏先生以天和辛酉二月七日生于邑幼而好學受業邑之東先生年甫十四慨然有興學造士之志見藤先生聞晦菴朱夫子之學大說棄舊聞而鄉之年四十餘益精研矢心爲世其志在興學校傳不朽會享保之始 治教方興置下銛達因請置塾汎導士民禮也 官准其請 命下府尹 賜黃金數鎰 恩貸地以相攸乃請艦庫側割私田庄村塾成堂曰會輔取諸語東堂祠朱夫子二仲以祭開六藝之舍以毓才且布列士君子之席庶人綿葛日講聖道四方來觀嚮至 賜園壹式坊後替 賜園松坂坊以其入資塾費士庶多從游者延享丁卯夏五月二十有六日病風卒七十瑩玉林精舍嗟先生爲人素推履義殉道事親孝睦家姬加藤氏有男女皆天一子要中繼塾師云如其行實履歷有門生口碑存焉銘曰道之東也 先吁後喁 誨人不倦 聖世有輔 延享丁卯之秋 江風子選 安永巳亥夏五月二十六日男菅野要中書並建 元番所跡

元番所蹟は、万年橋の北なり、昔此所に川船番所といふもの有て、江戸より下總國行徳の方へ往來する船を改めしといへり、或書に、正徳四年九月廿六日深川船役の御番水野甲斐守山口勘兵衛二人に仰付らるゝと見ゆ、是にても古くより番所ありし事推て知らる、その後中川の御番所出來たる時此船番所を廢せられて、其跡は伊奈半十郎が屋鋪に賜ひしとなり、今はそれもかはりて松平遠江守の屋敷となれり。

屋鋪地名並里俗小名

町名及び橋名等を以て呼名とするものは略

安宅 御船藏前町邊をいふ、安宅丸の御船を埋みし向ひなれば小名とす、こは古くよりの唱へとみへて、正保記に、二年八月廿六日 將軍家御船にて龍の口より隅田川へ渡御安宅丸の邊より陸に上らせ給ふたと書て、此頃既に地名のことくいひしなり。

綱打場 松村町邊の里俗名なり。

亥ノ堀 扇橋町石島町末廣町邊の通稱なり、此町に添たる川は、元祿八亥年に堀改られしかば、亥ノ堀川と名付られ、後その名をおはせしと云。

銚子場 海邊大工町の内高橋際をいへり。

わぐら 富岡町邊をいふわんぐらとも唱へり。干鯛場 小松町の里俗名なり、干鯛の間屋住して常に乾場とするよりの唱へなり。

永代場 東西永代町を通して呼へり。

藪之内 元加賀町の内なり。

寺町 万年町二丁目三丁目及平野町を通して寺町と稱す、此片側寺院立つける故の小名なり。

海岸側町の邊をいふ。

八幡町 永代寺門前町惣名の里俗名なり。

土橋 永代寺門前東仲町内の里俗名なり、昔此處に土橋を架せし名の残りしなりといふ。

やぐら 裾つき

同門前山本町内の里俗名なり、以上三所は假初の通稱なれと、今は全くの地名に呼べり、此餘同寺門前町には某横町と稱する里俗名多けれど、小名といふには當らざるを以て略して取らす。

古石場 新石場 越中島町を古石場と呼ひ、越中島續定波屋鋪拜借の邊を新石場と稱す。

油堀 佐賀町の内下ノ橋によりたる方をいふ、橋下の川を里俗油堀と稱するより襲ひし名なり。

江川場 佐賀町代地蛤町續の處をいふ。

土器町 黒江町の裏手より一色町坂本町代地邊を通じていふ。

元番所 大川より小名木川分水の口にて、今松平遠江守か屋敷の邊をいふ、昔川口の番所といふものこゝに在し故の遺名なり。

元木場 上ノ橋より下ノ橋迄の間を通じていへり、此所にむかし木場所ありしゆへの名なり。

仙臺河岸 松平陸奥守の藏屋敷あるを以て呼名とす。小名木川 元川名なれども、その邊の地名にも唱へ來れり、里俗誤り呼てうなき川うなき澤ともいへり。六間堀 是も川の名なれど、近き邊の屋敷地名に書來るものまゝあり。

以上戊子編次

内山 毘世 淨書

御府内備考卷之百十一 終

主役御免ニ相成候得共年數相立書留無之相譯り不申候夫々佐賀町者藤左衛門一人ニ而支配致罷在候元祿十一寅年十二月中町内北之方松平陸奥守様町並御抱屋鋪八百四拾貳坪御用地ニ被召上陸奥守様御屋鋪地ニ渡り當時上之橋向松平陸奥守様御藏屋鋪地所之内大川通之分 右代地無之高潰ニ相成申候且又同年八月中伊奈半左衛門様御懸りニ而永代橋御掛渡之節當町河岸地面之内貳百七十七坪橋臺御用地ニ被召上同十二卯年四月中御普請御奉行深津八郎右衛門様御懸りニ而上之橋川筋新規堀割中之橋下之橋川巾堀廣ケ之砌當町地面千七百四十四坪御用地ニ被召上候處右川筋堀割並堀廣御用地之分者同十三辰年十一月元木置場之内堀川町續ニ而千七百七拾坪今川町續ニ而四百九十坪蛤町續ニ而八十五坪黒江町續ニ而百三十一坪九合代地被下置永代橋際御用地之分者同十五年海手石垣通入船町續ニ而貳百七十七坪代地被下置尤右之内今川町續堀川町續貳ヶ所代地之儀者當町續合之地所ニ付其砌より代地と相唱不申當町之内え籠罷在黒江町續蛤町續入船町續右三ヶ所之内者佐賀町三代地と相唱申候且又元祿十三辰年中當町續當時稻荷小路南側之内元神田佐久間町外三拾四ヶ町材木置場拜領屋鋪御取拂跡百六拾五坪御拂地ニ相成候ニ付當町町人御買請奉願候處享保十七

御府内備考卷之百十一

深川之一

佐賀町

一町内起立之儀者同所熊井町同様貳百壹ヶ年以前寛永六巳年開發人藤左衛門次郎兵衛外六人ノ地所築立之儀御代官伊奈半十郎様願出候願之通被 仰付同年築立出來惣名深川獵師町と唱右藤左衛門次郎兵衛儀名主役相勤住居之最寄ヲ以自分名前之町銘相付上之橋之方ヲ次郎兵衛町中之橋より下之方ヲ藤左衛門町と唱尤御用筋等者右小譯ニ不拘開發人共五ニ申合御藥御用其外諸役相勤無年貢地ニ御座候處寛文十戌年伊奈半十郎様御繩入有之御年貢上納被 仰付元祿八亥年六月四日酒井河内守様安藤對馬守様再御檢地有之候砌當町高四拾六石九斗七升貳合此反別三町五畝廿三步ニ御定有之其砌獵師町町銘改候節當町之儀者肥前國佐賀之湊ニ形テ似寄候と申儀ヲ以佐賀町と相改申候其後次郎兵衛儀者名

子年九月中寛播摩守様御檢地見取町屋鋪ニ被仰付同年新高入ニ相成御年貢上納致尤町内續合之地所ニ付當町之内ニ籠り申候其後正徳三巳年町御奉行所御支配ニ相成地方者先々之通御代官所ニ而兩御支配ニ相成申候尤右入船町續代地之儀者寛政三亥年中高波之節家作押流荒地ニ相成候ニ付同六寅年右貳百拾七坪之場所御買上ニ相成申候右之通高反別増減有之當時者高四十三石貳斗八升此反別三丁六反廿歩ニ相成申候尤此外當所起立委細之儀者熊井町ノ申上候通ニ御座候 但開發人藤左衛門跡藤右衛門儀子孫相續任名主役相勤罷在候處八ヶ年以前巳年中御仕置後月行事持ニ相成翌午年七月四日地方者理左衛門ニ支配付被仰付同十二月廿四日町方之儀者當分理左衛門ニ御預支配被仰付候且又入船町續代地跡之儀藥草御植付場ニ相成候而も差障り無之哉之趣御代官大貫次右衛門様御尋有之候處右地所外々ニ相渡候儀ニ御座候ハ、元當町地内之儀ニ付町内ノ手入仕見取場ニ被仰付候様右御役所ニ願出文政五午年中より土地相應之見取永上納仕候儀ニ御座候 一南之方相川町續飛地之儀者起立ノ右場所ニ有之右者町内續當時御船手古屋平左衛門様御組屋鋪有之場所先年

者淨土宗玄信寺眞言宗法乘院右貳ヶ所共獵師町起立の相建有之此分當町之地所ニ而右飛地先年者町内ニ續合候場所ニ有之處寬永十八巳年中玄信寺法乘院之地所御用地ニ被召上其節之御船手方天野孫左衛門様御役屋鋪ニ相渡候由申傳候右故當時飛地ニ相成申候尤右貳ヶ寺之儀者深川寺町ニ而替地被下置當時同所ニ罷在候

一當町之内高野山金剛三昧院末眞言宗清光寺儀者町内起立之節當所ニ罷在元祿八亥年御檢地之砌一畝歩境内除地ニ被仰付同十六未年中寺社御奉行永井伊賀守様々同寺ニ奉願屋鋪御改赤井六兵衛様瀧川清右衛門様伊奈半左衛門様双方御掛ニ而六歩之所猶又右清光寺拜領地ニ相成申候尤右替地同所續明地ニ而被下置候ニ付反別増減無之候且又先年當町之内拾貳歩同寺持添地といふし御年貢上納町並之諸役相勤申候

一町内間敷上之橋際中之橋際迄之内東側南北之間口貳拾五間三尺七寸裏中廿八間半東西之南裏行廿四間貳尺八寸北之方廿八間七尺三寸南側東西之間口十七間五尺四寸裏中同斷南北之裏行西之方廿三間五尺八寸東之方廿三間壹尺五寸北側東西之間口四間八寸裏中四間裏行廿一間貳尺三寸北側河岸边東西之間口十貳間五尺三寸裏中同斷南北之裏行四間西側河岸边西南北之間口貳

拾八間四尺六寸裏幅廿八間八寸東西之裏行八間三尺中之橋際下之橋迄之内東側南北之間口八十四間壹尺裏中七拾六間五寸東西之裏行南之方廿四間壹尺五寸北之方三拾六間五尺貳寸十間川通南側東西之間口五間一尺貳寸裏中五間八寸南北之裏行廿間五尺壹寸里俗稻荷小路北側東西之間口五間壹尺六寸裏中三間壹尺四寸南北之裏行廿貳間里俗油堀北側東西之間口拾九間貳尺八寸裏中拾八間九尺五寸南北之裏行東之方裏行廿五間七寸西之方十七間三寸同所北續南側東西之間口拾七間貳尺壹寸裏中拾八間九尺五寸南北之裏行西之方十貳間四尺貳寸東之方四間貳尺三寸堀川町境東木戸際北側東西之間口三拾八間貳尺九寸裏中同斷南北之裏行廿六間壹尺同向河岸边南側東西之間口三拾八間貳尺九寸裏中同斷南北之裏行四間西側河岸边南北之間口八十七間四尺三寸裏中八十四間貳尺七寸東西之裏行南之方九間一尺七寸北之方七間三尺下之橋南角ノ古屋平左衛門様御組屋鋪際迄東側南北之間口百十九間四尺三寸裏中百廿三間三尺四寸東西之裏行南之方三拾壹間貳尺北之方貳拾貳間貳尺壹寸下之橋南角ノ永代橋際北角迄河岸边南北之間口八十五間四尺八寸裏中八十五間貳尺八寸東西之裏行南之方八間貳尺壹寸北之方九間三尺同永代橋際

南角ノ御船藏御地所際迄河岸边西側南北之間口八間五尺六寸裏中八間四尺七寸東西之裏行南之方七間貳尺北之方八間三尺

一四隣 東之方御船手御組屋鋪坂田助三郎殿御屋鋪松平備中守様御下屋鋪深川堀川町柴田善之丞様鈴木吉五郎殿御屋鋪深川中川町同所今川町西之方大川通南之方御船手御組屋鋪北之方松平陸奥守様御藏屋鋪

一相川町續飛地間敷東側南北之間口五間三尺六寸裏中五間貳寸東西之裏行十九間半同向河岸边西側南北之間口五間四尺六寸裏中五間五尺貳寸東西之裏行南之方八間貳尺北之方八間四尺五寸

一右四隣 東之方御船手御組屋鋪北之方同斷西之方大川通南之方深川相川町

一町内里俗中之橋川筋ヲ中之堀と相唱下之橋左右川岸通ヲ油堀と相唱上之橋際中之橋迄ヲ上佐賀町と相唱中之橋際下之橋迄ヲ中佐賀町と相唱下之橋際ノ南木戸際迄ヲ中佐賀町と相唱下之橋際ノ南木戸際迄ヲ下佐賀町と相唱申候且又右中佐賀町中程横町ヲ稻荷小路と相唱申候右者横町ニ佐賀稻荷有之候ニ付右之通相唱申候中之橋南河岸边通東之方ヲ八戸前と相唱申候右者先々ノ右場所ニ土藏八戸前建有之候儀ヲ以相唱申候

一御高札 三枚

右者正徳三巳年中御代官伊奈半左衛門様御掛ニ而御支配内之相建候筈之處同年壬五月中獵師町之儀町御奉行所御支配ニ相成候ニ付坪内能登守様御掛ニ而當所地先御見分有之候所荷物揚場之障ニ相成候間場所替相願右永代橋付地所之相建獵師町小譯ヶ八ヶ町並越中島町之見守被仰付當時修復之節御高札同雨覆駒寄共一式右九ヶ所より入用差出御書替奉願候儀ニ御座候

一右場所之建添有之候御高札 壹枚

右者貞享元子年九月二日伊奈半左衛門様御掛ニ而相川町之内里俗相川半町角屋鋪河岸边之初而相建其後享保六丑年二月中大岡越前守様御掛相成御文言御書替之上當時之場所之御建添ニ相成申候尤見守御修復等前書同様ニ御座候

一御高札 壹枚

右者町内下之橋里俗油堀入口ニ有之建始之儀者正徳三巳年七月中木場町ノ願出同年右之場所之相建當時修復見守等之儀者右町材木問屋方ニ而取計申候
一自身番屋 間口西間半 奥行五間五尺
右者下之橋際ニ有之正徳年中當時之場所之相建來候旨申傳ニ而建始年月等書留燒失仕相分不申候

一商番屋 間口九尺 奥行三間

右者上之橋際ニ有之寛永五子年中御願濟之上相建候由申傳ニ御座候

一商番屋 間口九尺 奥行四間

右者下之橋通堀川町境木戸際ニ有之御願濟之譯右同斷

一商番屋 間口九尺 奥行四間半

右者御船藏脇南木戸際ニ有之御願濟之譯右同斷

一商番屋 間口九尺 奥行貳間

右者下之橋際ニ有之文政三辰年十二月六日榊原主計頭様御番所之御願濟之上右場所之新規相建申候

一床番屋 間口貳間 奥行三間半

右者上之橋際ニ有之寛永五子年中右場所之相建候旨申傳ニ而書留等相譯不申候

一床番屋 間口九尺 奥行貳間

右者下之橋際ニ有之建始年月右同斷

一川 巾貳拾間

右者北之方上之橋川筋ニ而東之方今川町之地方先ヲ流レ西之方大川通え落里俗仙臺堀と唱候儀者右川北之方ニ陸奥守様御藏屋鋪有之候故右之通相唱申候尤川筋之儀一跡者先年清住町南之方ニ有之當時川筋之場所者町内

續合之町並地ニ而右地面後口東之方地境者元木置場入堀有之候處元祿十二卯年深津八郎右衛門様御掛ニ而當町之内地面被召上右木置場跡入堀之續當町地面並往還共横切堀割ニ相成右入堀之方大川通え流落候儀ニ相成申候

一川 巾拾間

右者中之橋川筋ニ而東之方中川町之地方先ヲ流西之方大川通え落堀割之儀者年月等相譯不申候得共寛永六巳年地所起立之堀割有之旨申傳ニ而其後元祿十二卯年前書深津八郎右衛門様御掛ニ而町人所持屋鋪御用地ニ被召上川幅拾間ニ御堀廣有之候

一川 巾拾五間

右者下之橋川筋ニ而東之方堀川町之地方先ヲ流西之方大川通え落堀割年月等相譯不申候得共前書中之橋川筋同様ニ而元祿十二卯年川巾拾五間ニ御堀廣ケ有之里俗油堀と唱候儀者同所南河岸通東之方當時松平備中守様御屋鋪續深川佐賀町町屋ニ地油商人會所有之右川通油荷出入運送致候ニ付右名目ヲ付候儀ニ御座候

一上之橋 長廿間 巾三間

一中之橋 長六間 巾三間

獵師町之内佐賀町と相唱當時山田茂右衛門様御代官所ニ御座候

以上戊子書上

佐賀町代地

一右代地之儀者元祿十二卯年四月中築地御普請御奉行深津八郎右衛門様御掛ニ而元地上之橋川筋新規御堀割有之中之橋下之橋兩川幅御堀廣ケ有之候節元地町屋鋪合千七百六拾四坪御用地ニ被召上候處同十三辰年中右貳ケ所之代地被下置佐賀町代地と相唱申候其外委細之儀者元地ノ申上候通ニ御座候

一町内東西之間口六間壹尺裏巾六間三尺南北之裏行廿間
一四隣 東之方深川黒江町西之方同斷北之方川向同町南之方深川坂本町代地同一色町
右黒江町續代地

一町内東西之間口六間裏幅五間三尺貳寸南北之裏行東之方八間五尺貳寸西之方八間三尺七寸
一四隣 東之方深川蛤町西之方川向黒江町南之方北本所代地北之方堀向深川蛤町
右蛤町續代地

一當所東之方蛤町之内干鰯場有之候ニ付右場所並當所ヲ

一下之橋 長拾一間 巾三間

右三橋之内上之橋者元清住町南之方ニ先年有之候川筋之相掛中之橋下之橋者當時之川筋ニ掛候處寛永十八巳年大火之節諸材木等焼失致御用御差支ニ相成其上所々町中ニ材木類高積仕置候由ニ而河岸附ニ而諸材木炭薪等商賣仕候者共致住居候神田佐久間町同所久右衛門町日本橋邊本材木町三十間堀本八町堀邊都合三拾五ケ町之町人共深川木置場ニおいて揚場屋鋪被下置候右屋鋪之儀者當町東之方ニ續合候場所ニ有之川筋通船並材木筏等乘込候砌右橋下狹ク差支候哉三橋共右三十五ケ町材木問屋共入用ヲ以通船差支無之様兩橋臺築上ケ其砌ノ材木問屋共方ニ而懸來候處元祿十二卯年右木置場屋鋪之分御用地ニ被召上候ニ付同年築地御奉行深津八郎右衛門様御掛ニ而上之橋川筋者町内地面内之御堀替有之同年右堀割之場所新規橋御掛渡當町上之橋と相唱並中之橋下之橋之儀も築地方御入用ヲ以御懸替有之候儀ニ御座候其後正徳三巳年町御奉行所御掛ニ相成當時御入用ヲ以出來仕候

一御檢地

右者熊井町ノ申上候通御座候

一地方之儀者御代官御支配ニ而武彗葛飾郡西葛西領深川

里俗江川場と唱候尤右之譯相譯り不申候得共川向黒江橋通ヲ黒江川と申右川筋迄汐流入候ニ付江川場と唱候儀ニも有之哉委細者蛤町より可申上候

一川 中六間半

右黒江町續代地北之方地先ヲ相流寛永年中ノ堀割有之旨申傳東之方黒江町ノ西之方ニ流落申候

一入堀 中拾間餘

右者蛤町續代地之方ニ而北之方ニ有之先年者中三間程有之候處享保年中干鯛問屋方ニ而左右道式之地所ヲ堀廣ケ當時中拾間餘有之並同所ニ懸候橋之儀も是亦其砌より蛤町一手ニ而懸渡候ニ付掛始等委細之儀者蛤町ノ可申上候

一右地所之儀者干鯛問屋共會所建有之住居人人別者蛤町ニ差出申候

以上戊子書上

熊井町

一町内起立之儀者當町名主理左衛門ノ六代以前利左衛門並彌兵衛次郎兵衛藤左衛門新兵衛助十郎助右衛門彦左衛門右八人儀 先年 酒井雅樂頭様御屋鋪内ニ罷在 此御當時里俗トウかん堀 御中屋鋪ニ御座候由貳百壹ヶ年以前寛永六巳年中深川海

手潮除堤之外干潟之處町場ニ取立申度旨御代官伊奈半十郎様之願出候處酒井雅樂頭様土井大炊頭様之被仰立言上之上願之通被仰付同年右場所築立出來漁師共住居致候ニ付町銘深川獵師町と唱右町之内境ヲ相立八人之者五ヒニ申合名主役相勤銘々住居之最寄ヲ自分名前之町銘相付當町之儀者則利左衛門町と唱爲冥加翌午年ノ壹ヶ月三度宛きすふつこせいご等之御茶御看差上其外臨時御看蜆蛤御用被仰付相勤川筋 御成之節御賦御道具積送御役船御用次第差出候ニ付右地所無年貢ニ有之其後茂品々御役船人足等被仰付相勤候處追々住居人相増候ニ付寛文十戌年伊奈半十郎様ノ地先河岸屋鋪之外本家之方御繩入有之右御手附永田九郎兵衛殿牛込彌三郎殿石丹才兵衛殿永田八兵衛殿出役有之獵師町屋鋪高九町六反八畝貳拾壹步ニ相定同年ノ始而御年貢永貳拾壹貫五百三拾八文上納被仰付其後貞享五年四月廿八日御年貢町屋鋪永代賣御免元祿二巳年高役被仰付候處同八亥年六月四日酒井河内守様安藤對馬守様再御檢地但御檢地御水帳之儀者河内 獵師町地面並河岸屋鋪石共高百四拾三石七斗四升四合此反別十一町九反七畝廿六步内當町分高八石五斗九升六合此反別七段壹畝十九步ニ御定有之右御檢地ノ石高相増且亦獵師町小澤町銘名

主共名前ヲ以唱來候處當町之儀者利左衛門苗字熊井と唱候ニ付熊井町と改同十一寅年三月中御檢地御奉行御連印御水帳相渡其後元祿十五年十一月中家作御改御免之町並屋鋪ニ仕度段屋鋪御改赤井六兵衛様瀧川清右衛門様之願出候處同十一月十日河岸屋鋪之外不殘家作御免ニ相成同十七申年十一月中猶又河岸家作御改御免之儀赤井六兵衛様阿部甚三郎様之願出同月九日願之通被仰付候其後正徳三巳年壬五月中右町不殘町御奉行所御支配ニ相成地方者前々之通御代官所ニ有之當時兩御支配ニ御座候

但前書御茶御看上納之儀寛政四子年三月中町入用減方之節正錢ニ而六拾六貫七百文獵師町八ヶ町ノ年々上納仕尤活手長海老百疋宛御用之儀者今以相勤々毎年七月十五日相納並 御成之節御紙御道具積送御役船共是又獵師町一統ニ而相勤申候

獵師町之内小澤町銘

深川熊井町

同所相川町

同所諸町

同所富吉町

同所佐賀町

同所清住町

同所大島町

同所黒江町

一町内東側南北之表六拾四間五尺九寸裏巾五拾間三尺七

寸東西之裏行南之方貳拾間八寸北之方貳拾壹間八寸南側東西之表九間三尺九寸裏巾九間壹尺南北之裏行東之方貳拾三間西之方貳拾壹間西側河岸地面東西之表六拾七間四寸裏幅七拾壹間壹尺四寸南北之裏行南之方拾間北之方八間貳尺

一四隣 東之方増上寺末正源寺富吉町西之方大川通南之方相川町飛地北之方相川町

一町内並外拾貳ヶ所獵師共住居之所里俗惣名濱拾三町と唱候右町名左之通

大島町

中島町

熊井町

奥川町

黒江町分

東黒江町

横店

壹丁目

貳丁目

上貳丁目

相川町分

半町

永代町門前町 門前町

北之方相川町向合之所里俗かき店と唱候右者先年蠣商ひ致候者共住居仕候ニ付其砌ノ相唱候尤當時者右渡世之者無御座候

一浦御高札 壹枚

高サ壹尺五寸五分

横 七尺九寸
厚 壹寸六分

定

一 公儀之船はいふに不及諸廻船ともに難風に逢時者助船出し船破損せざる様成程精を出すべき事

一 船破損之時其所近き浦之者精を出し荷物船具等取揚へし其取上所之荷物之内浮荷物者貳拾分一沈荷物者拾分一但川舟者浮荷物者三拾分一沈荷物者貳拾分一取揚候者ニ遣すべき事

一 沖にて荷物はぬる時は着船の湊におゐて其所之代官手代庄屋出合穿鑿をとけ船に相殘荷物舟具等之分證文ヲ出すへき事

附り船頭浦之者と申合荷物ぬすみ取はねたると偽り申ニおゐては後日ニ聞といふとも船頭はいふに不及申合する輩に至るまで其罪重かるべき事

一 湊に永々船を懸置輩あらは子細を所

之者相尋日和次第早々出船いたすへし其上ニ而も難澁仕らは何方之船と承届近邊者其地頭御代官遠方は御勘定奉行迄急度申達へき事

一 御城米廻之刻船具水主不足之悪船え是を積へからず並日和能節船破損におゐては船主船頭曲事たるべし

惣而理不盡成義申掛又者私曲これあるにおゐては申出へし縦同類といふとも其科をゆるされ御褒美を下さるへき事

一 自然寄船並荷物流來におゐては取揚置へし半年過迄荷主これなきにおひては揚置之輩これを取へし若右の日數過荷主出來たるといふともこれをかへすへからず、然といふとも其所之地頭代官差圖受へき事

一 博突惣而賭之勝負堅停止たるへき事右之條々可相守之若於相背有可被行罪科もの也

正徳元年五月 日 奉行

右者先年深川中島町ニ建有之候處元祿七戌年川口攝津守様能勢出雲守様御懸ニ而町内河岸先石垣際より出幅九尺七寸此坪數四坪御入用ヲ以御高札場ニ御築立有之當町並富吉町相川町え見守被仰付當時御修復等御入用ニ御座候

一 添御高札 壹枚

高サ壹尺六寸三分
横 四尺九寸
厚 壹寸七分

前々より浦々高札相建

公儀之船者不及申諸廻船とも猥成儀無之様ニ被仰付候所遭難風候節も所之者共船之助ニ者不相成却而破船候様ニいたし懸荷物を刳させ或者上乘船頭と申合不埒之儀共有之様ニ相聞不届ニ候御料者御代官私領者地頭々常々遂吟味毛頭不埒不仕様ニ急度可被申付候若此上不埒之儀於有之者後日相聞候共其ものはいふに及はず所之者迄可被行罪科其上其所之御代官地頭迄可爲越度事

一 御城米近年破船多く候ニ付今般諸事相

改別而大切ニ可仕旨申渡し船足之儀も深く不入様ニ大坂船者大坂奉行其外國々者其所支配之御代官船足定之通極印を打船頭水主之人數を不減少様ニ急度申付令運漕管ニ候依之湊え寄候船之分者船頭水主人數並ニ船足極印之通無相違哉送り狀ニ引合急度相改帳面ニ記し置上無船頭印形致させ右書物其所ニ留置御料者御代官私領者地頭え差出之御代官並地頭御勘定奉行迄可被差出候且又極印船足深ク入候船有之候者積候俵數委細に改之御城米之外船頭私之運賃を取他之米穀或者商賣之荷物等積入候か又者水主人數定之内令減少候ハ私ニ積候荷物者其所ニ取揚置水主人數不足之分者其所ニ而慥成水主雇セ爲出船其上にて右之譯早速御勘定奉行え可訴事

一 破船有之節浦之者出有荷物船具等取上候刻盜取候歟又者不届之仕方於有之者船頭より不隱置有躰に早速可訴之事

右之條々急度可相守若違犯之輩於有之者
詮議之上可被行罪科不吟味之子細も候者
其所之支配之御代官又者地頭迄可爲越度
もの也

辰八月

右者正徳二辰年松野壹岐守様坪内能登守様御掛ニ而浦
御高札際え御建有之是又御修復等御入用ニ有之當町並
同所富吉町相川町え見守被仰付候

一商番屋

九尺四方

一床番屋

九尺四方

右者町内北角ニ有之寶永年中右場所え相建來り候旨
申傳ニ而願濟年月等書留燒失仕相分兼申候

一御檢地

右者元祿八亥年御改有其節之御役人左之通

酒井河内守様御家來

御檢地惣奉行

大河内勘兵衛殿死去ニ付

跡役

内藤半左衛門殿

同御檢地元

西郷又左衛門殿

同斷

大山兵太夫殿

同竿奉行

八森 七兵衛殿

同斷

高須重左衛門殿

同斷

梶木 彈助殿

同竿手目付

宇野七郎兵衛殿

同御檢地奉行

青木彌三右衛門殿

同斷

川崎吉右衛門殿

同斷

細井 久太夫殿

同竿取

花岡喜左衛門殿

同斷

神田彌右衛門殿

同斷

山口權右衛門殿

右御水帳之儀者當時獵師町名主共方ニ御渡し有之候

一町内地方者古來御代官御支配ニ付武州葛飾郡西葛西

領深川獵師町之内熊井町と唱當時山田茂左衛門様御代

官所ニ御座候

一舊家

名主 左衛門

右先祖之儀舊記者天明六年中類火之節燒失いたし相
譯り不申候得共本家之儀者往古紀伊國ニ住居致候由
本家苗字熊井と申名前者相分不申候得共紀州様え仕候
由私六代以前理左衛門儀者其節本家之次男ニ而御當
地え罷出本家之家名ヲ名乘酒井雅樂頭様御屋鋪内ニ罷
在候得共御家來ニ者無之寛永六巳年當町開發いたし名
主役相勤候處實子無之候ニ付國許本家之實甥引取養子
相續人ニいたし則二代目理左衛門ニ而同人義國許實家
之弟名前不知呼寄同居爲致置候處右之者
西御丸表御坊主ニ被召出子孫當時熊井宗甫と申相勤罷
在候旨先々より申傳候得共祖々父之代より國元通路不
致當時本家相續人之有無相譯り兼申候

以上戊子書上

相川町

一町内起立之儀者熊井町同様寛永六巳年當名主新兵衛
拾三代以前開發人新兵衛外七人地所築立之儀御代官伊
奈半十郎様え奉願候處願之通被仰付同年築立出來之上
惣名獵師町と唱當町之儀右新兵衛名主役相勤罷在住居
之最寄ヲ以自分名主町銘相附新兵衛町と唱御茶御用其
外諸役相勤無年貢地ニ御座候處寛文十戌年伊奈半十郎

様御繩入有之御年貢上納被仰付元祿八亥年六月四日酒
井河内守様安藤對馬守様再御檢地有之候御當町之分高
拾三石三斗五升四合此反別壹町壹反壹畝八步ニ御定有
之其御町銘之儀も相川町と相改申候右者新兵衛家名相
川と申候ニ付相唱候儀ニ御座候其後正徳三巳年町御奉
行所御支配ニ相成地方者前々之通御代官所ニ而當時兩
御支配ニ御座候此餘之儀委細熊井町より申上候通ニ御
座候

一町内東側南北之間口七拾貳間三尺九寸裏巾六拾七間貳
尺壹寸東西え裏行北之方貳拾九間三尺九寸南之方貳拾
壹間四尺三寸西側河岸地面南北之間口七拾三間四尺七
寸裏巾七拾五間貳尺貳寸東西え裏行北之方八間四尺五
寸南之方八間三尺九寸

一四隣 東之方富吉町御船手御組屋鋪西之方大川通南之
方熊井町北之方佐賀町

一熊井町續飛地間數東側南北之間口三拾三間壹尺八寸裏
巾貳拾五間壹尺六寸東西え裏行北之方貳拾間八寸南之
方貳拾貳間三尺壹寸西側河岸地面南北之間口三拾四間
五尺三寸裏巾三拾八間三尺東西え裏行北之方拾間五尺
南之方拾三間貳尺

一右四隣 東之方諸町富吉町西之方大川通南之方川向中

島町北之方熊井町

一諸町之内飛地間數南北之間口三間三尺九寸裏中三間三尺四寸裏行東西共拾八間貳尺壹寸

一右四隣 東之方諸町西之方同斷北之方富吉町正源寺南之方川向中島町

一熊井町續飛地之儀者起立ノ飛地ニ有之諸町之内ニ有之候飛地之儀者熊井町續飛地之方地先道貳拾貳間中四間此坪數九拾坪之地所先年町内町屋鋪ニ而家作川岸迄建續有之諸町表通往還貸地ニ相成居候而不辨利ニ付相對ヲ以諸町ニ讓渡右町内道式ニ致し西之方ニ往來相附右代り地面諸町之中程ニ而間口三間三尺九寸裏行拾八間貳尺壹寸此坪數六拾六坪貳合之地面壹ヶ所諸町ノ讓請申候尤右年月之儀者書留燒失仕委細之儀者相分不申候

一右飛地河岸通長貳間四尺貳寸與行貳間此坪數五坪四合之場所土藏建有之去ル文政七申年中ノ月に壹坪ニ付銀壹分宛上納仕候

一里俗町内並外拾貳ヶ所漁師共住居之所濱十三ヶ町と相唱申候且町内蠟渡世之者住居致居候場所ニ付蠟店と唱候又漁師共方ニ而者々さばとも申唱候熊井町續飛地之分里俗相川半町と唱申右者間數三十間餘之場所ニ付相

唱申御儀に御座候

一川 中六間

右者東之方諸町ノ町内飛地地先ヲ西之方大門通え流落申候尤名目者無御座堀割年月之儀者相分兼候得共寛永六巳年地所起立之節ノ堀割有之候旨申傳ニ御座候

一橋 長四間幅九尺

右者前書川ニ掛有之熊井町續飛地ノ中島町ニ渡ル橋ニ而名目者無之掛始年月相分不申候得共寛文元丑年御入用ヲ以御掛替有之候旨申傳其後實永二酉年十二月中假橋御掛渡同六丑年八月中本橋御掛替有之並當時町内中島町熊井町富吉町右四ヶ町ニ而見守被仰付候

一御捨地

右者委細熊井町ノ申上候通ニ御座候

一地方者御代官御支配ニ而武州葛飾郡西葛西領深川獵師町之内相川町と相唱當時山田茂左衛門様御代官所ニ御座候

一御褒美銀三枚

組合持火之見櫓番人 七

右久七養母 七

一老養扶持一日米五合宛

右久七儀養母ニ孝行之旨達 御聽右之通御褒美並老養扶持被下置候右被仰渡書左之通

深川相川町外三ヶ町 組合持火之見櫓番人 七

一 右方儀三拾年以前本郷丸山田町庄八方ニ奉公致候内主人庄八致病死候處跡相續人無之庄八妻いよ儀身寄其外可便方無之流浪致候を見兼養子ニ相成株式も無之相川町長兵衛店を借請火之見櫓番人ニ相成實母之如ク孝行ヲ盡し候ニ付近邊之者共世話致妻ヲ呼迎母之養育等爲致候様度々申勸メ候得共妻ヲ貰ひ候而も萬一母之心ニ不叶節者不宜旨申之無妻ニ而罷在深切ニ致介抱候ニ付町内之者共感心いたし其方老年ニ茂及店賃差出居候茂大儀ニ可有之と存町内自身番屋裏之方ヲ仕切三ヶ年前爲引移母子住居爲致候處去年中火之見櫓修復之節最早年も寄櫓上り下りも如何ニ候間外之番人ヲ取替可申旨町々名主共申之候得共其方儀廿ヶ年餘篤實ニ櫓番致其上母ニ孝行ヲ盡候越外町々家主共一同感心致し是迄之通櫓番爲致置母子寢臥相成程之場所ヲ補理差置右いよ儀者當辰七拾四歳ニ而氣短ニ相成其方ヲ強ク呵リ候儀茂有之候處少も心ニ逆ヒ不申數年來孝行を盡候段寄特成事ニ御付褒美として銀三枚被下いよえ者老養扶持として一日ニ米五合宛被下候間難有可奉存候

右久七養母 七 辰七拾四歳

清住町

一 其方儀養子久七依孝行老養扶持として一日ニ米五合ツ、被下候間難有可奉存 寛政八辰年七月廿三日 以上戊子書上

一 町内起立之儀者熊井町同様寛永六巳年開發人彌兵衛外七人地所築立之儀御代官伊奈半十郎様ニ奉願候處願之通被仰付同年築立出來之上惣名深川獵師町と唱當時之儀者右彌兵衛名主役相勤住居之最寄ヲ以自分前之町名相付彌兵衛町と唱御茶御用其外諸役相勤無年貢地ニ御座候處寛文十戌年伊奈半十郎様御繩入有之御年貢上納被仰付元祿八亥年六月四日酒井河内守様安藤對馬守様再御檢地有之其御當町分高拾石六斗七升六合此反別八反八畝廿九步ニ御定有之町名之儀も清住町と相改申候尤何故右様相唱候哉相分不申候其後元祿十丑年十一月中町内北之方榊原式部大輔様御所持之町屋鋪貳反八畝八步同町内人所持之屋鋪貳畝貳拾四步都合三反壹畝貳步此高三石七斗貳升七合御用地ニ被召上小笠原彦太夫様御屋鋪ニ相渡同十一寅年十二月中町内人所持屋鋪六

畝貳步此高七斗貳升八合御用地ニ被召上松平陸奥守様御屋鋪ニ相渡申候其後元祿十四巳年右町人所持屋鋪御用地之分扇橋町西側ニ而元坪之貳步増畝貳拾六步代地被下置式部大輔様御所持町屋鋪御用地之分寶永三戌年中元木置場之内永堀町續ニ而元坪之壹步増畝反八畝九步代地被下置候右貳ヶ所之分清住町代地と相唱陸奥守様御屋鋪御用地之分者潰地高引ニ相成申候其後彌兵衛儀者名主役御免被仰付月行事持ニ相成申候尤年月相知不申其後正徳三巳年町御奉行御支配ニ被仰付地方者前々之通御代官所ニ而兩御支配ニ相成申候且又安永九子年六月町内北之方榊原式部大輔様御所持町屋鋪五畝廿五步此高七斗之地所猶又御用地ニ被召上靈運院境内ニ相渡候ニ付此分高引當町高五石五斗貳升貳合反別四反六畝壹步ニ相成申候其後天明八申年同所中島町名主忠太郎之支配付被仰付候處右忠太郎儀文化八未年名主役御免ニ付其節ノ組合持ニ相成申候其餘之儀者委細熊井町ノ申上候通御座候

但右彌兵衛子孫之儀者相知不申候

一町内東側南北之間口六拾壹間貳尺六寸裏中五拾七間壹尺七寸東西之裏行南之方貳拾七間北之方拾七間九寸北側東西之間口五間五尺貳寸裏中五間五尺五寸南北之裏

行東之方拾四間一尺西之方十四間五尺南側東西之間口四間裏中四間四尺南北之裏行七間西側川岸地面南北之間口拾四間貳寸裏中同斷東西之裏行南之方壹間三尺北之方壹間四尺

一四隣 東之方海邊大工町代地大屋右京様御下屋鋪西之方大川南之方松平陸奥守様御藏屋鋪北之方靈運院

松平越中守様御家來
内藤彌藤左衛門

一町並抱屋鋪三百五拾五坪五合
右者文化十二亥年八月中町人所持之屋鋪右同人被讓請抱屋鋪ニ相成住居被致候

一町内地先川岸之内長四拾五間中壹間三尺此坪數六拾七坪五合之處 御公儀地ニ有之物揚場並物置場等相建格別之辨利ニ御座候間冥加五ヶ年以前文政七申年中ノ壹ヶ月壹坪ニ付銀壹分宛上納仕候

一自身番屋 間口貳間
裏行貳間三尺

右者町内西之方大川端ニ有之建始願濟年月相知不申候

一石垣 長七拾五間貳尺八寸
右地先川岸銘々自分修復ニ御座候

一御檢地
右者熊井町ノ申上候通御座候

一町内地方之儀者御代官所ニ付武州葛飾郡西葛西領深川

獵師町之内清住町と相唱當時御代官山内茂左衛門様御支配ニ御座候

一稻荷社 境内拾七坪五合

右地所町内東之方裏通ニ有之町内活券地之内割餘り地ニ御座候尤神稻荷と相唱町内持ニ御座候

以上戊子書上

永堀町續

清住町代地

一町内起立之儀者元地之内榊原式部大輔様御所持町屋鋪元祿十五年十一月中御用地ニ被召上候分寶永三戌年當所元木置場之内ニ而右代地貳反八畝九步被下置見取場ニ有之候處享保十七子年九月中寛播摩守様御檢地有之町並屋鋪ニ被仰付高入ニ相成三石三斗九升六合之高ニ御定有之候

一町内西側南北之間口四拾五間貳寸裏中同斷東西與行南北共拾八間五尺

一四隣 東之方川向松平和泉守様御中屋鋪西之方材木町海邊大工町代地南之方日置主馬様御屋鋪北之方海邊大工町代地

一自身番屋 間口貳間
與行貳間三尺

右者町内東之方川端ニ有之建始年月相知不申候

一川 巾拾間

右者町内前通之川ニ而廿間川横川ニ御座候

但川岸通長四拾五間之處石垣地先銘々自分修復ニ御座候

扇橋町續

清住町代地

一町内起立之儀者元地之内町人所持屋鋪元祿十五年十一月中御用地ニ被召上候分同十四巳年當場所ニ而貳畝廿六步右爲代地被下置見取場ニ有之候處享保十七子年九月中寛播摩守様御檢地有之町並屋鋪ニ被仰付高三斗四升七合ニ御定有之候

一町内西側南北之間口四間八寸裏中同斷東西之與行南北共貳拾間

一四隣 東之方川向扇橋町西之方源左衛門屋鋪南之方海邊大工町代地北之方扇橋町

一川 中貳拾間

右者町内前通り川ニ而亥之堀川と相唱申候
但川岸通長四間八寸之處關板自分修復ニ御座候

以上戊子書上

富吉町

一當町起立之儀者熊井町同様寛永六巳年開發人助十郎外七人地所築立之儀御代官伊奈半十郎様之奉願候處願之通被仰付同年築立出來之上惣名深川獵師町と唱當町之儀右助十郎名主役相勤住居之最寄ヲ以自分名前之町銘相付助十郎町と唱諸役相勤無年貢地ニ御座候處寛文十戌年伊奈半十郎様御繩入有之御年貢上納被仰付元祿八亥年六月四日酒井河内守様安藤對馬守様再御檢地有之候御當町分高九石九升貳合此反別七反五畝貳拾三步ニ御定有之且又其御町銘之儀も富吉町と相改申候尤何故右様相唱候哉相分不申且又元祿十五年迄町内諸町續南側地所之内ニ一向宗西念寺と申寺有之右境内町内御除地ニ而三畝壹歩有之候處同年月日不知同寺儀同所黒江町御年貢地之内ニ引移候ニ付右黒江町境内御除地ニ相成當町分同寺御除地之分振替り御年貢地ニ被仰付三斗六升四合新高入ニ相成候ニ付當町高九石四斗五升六合反別七反八畝貳拾四歩ニ相極り申候其後助十郎儀も如何ニ相成候哉書留等燒失仕是又相分不申正徳三巳年町御奉行所御支配ニ相成地方者前々之通御代官所ニ而當時兩御支配ニ御座候且又年代相分不申權之丞と申者

名主役相勤罷在候處天明七未年中御科被仰付候ニ付其砌月行事持ニ相成罷在候處翌申年六月中同所中島町名主忠太郎之支配付被仰付候然ル處右忠太郎儀文化八未年中名主役御免被仰付其節ノ跡組合持ニ被仰付候此餘之儀者委細熊井町ノ申上候通ニ御座候

一町内惣間數百三拾貳間五尺三寸

一正源寺大門西之方南側東西表間口八間餘同裏中七間餘南北東裏行貳拾壹間半餘西裏行貳拾貳間餘

一同寺大門東之方南側東西表間口六間半餘同裏中四間半餘南北東裏行拾九間半餘同西裏行貳拾間餘

一同續地面東西表間口拾間同裏中拾間南北東裏行拾九間餘同西裏行拾九間半餘

一同續地面東西表間口拾間同裏中四間半餘南北東裏行拾八間半同西裏行同斷

一同續地面東西表間口四間半同裏中三尺南北東裏行七間半同西裏行七間半餘

一續地面東西表間口七間餘同裏中貳間南北東裏行拾五間半餘同西裏行拾七間半

一熊井町續南側東西之表間口壹間同裏中同斷南北之裏行貳間

一相川町續北側東西表間口四間同裏中同斷南北東裏行拾

九間半餘同西裏行同斷

一右地面續北側東西表間口五間餘同裏中五間餘南北東裏行貳拾間餘同西裏行同斷

一同續地面東西表間口八間半同裏中八間半餘南北東裏行貳拾間同西裏行同斷

一北側ニ而中横町西側南北表間口三間餘同裏中八間東西南裏行拾八間餘同北裏行同斷

一北側東西表間口四間餘同裏中同斷南北東裏行拾間餘同西裏行同斷

一右地面續裏之方ニ東西表間口四間餘裏中同斷南北東裏行拾間同西裏行同斷

一同續地面南北表間口貳間半餘同裏中壹間餘東西西南裏行四間餘同北裏行同斷

一北側東西表間口三間餘同裏中四間餘南北東裏行貳拾壹間餘同西裏行同斷

一同續地面東西表間口三間餘同裏中三間半餘南北東裏行拾九間半餘同西裏行同斷

一同續地面東西表間口八間餘同裏中九間餘南北東裏行拾九間同西裏行同斷

一同續地面東西表間口四間半餘同裏中五間餘南北東裏行拾八間餘同西裏行拾七間半餘

一同續地面東西表間口五間同裏中七間餘南北東裏行拾八間同西裏行同斷

一同續地面東西表間口五間同裏中七間半餘南北東裏行拾八間同西裏行同斷

一同續地面東西表間口貳間餘裏中貳間半餘南北東裏行拾八間同西裏行同斷

一同續地面東西表間口八間餘同裏中拾貳間南北東裏行拾八間同西裏行同斷

一東横町西側南北表間口六間餘同裏中六間餘東西西南裏行拾九間餘同北裏行拾九間餘

一同續地面南北表間口四間餘同裏中四間餘東西西南裏行拾九間餘同北裏行拾九間餘

一同續地面南北表間口貳間半餘同裏中貳間半東西西南裏行拾九間餘同北裏行同斷

一同續地面南北表間口拾間半餘同裏中七間半餘東西西南裏行拾九間餘同北裏行拾九間餘

一四隣 東之方川向北川町西之方熊井町相川町境南之方正源寺諸町北之方古谷平左衛門様御組屋敷小堀下總守御下屋敷丹羽市之丞様御屋敷

一除地七百貳拾貳坪

淨土宗 正源寺

右者寛永六年起立之節ノ同寺境内御除地ニ相成申候委

細之儀者同寺申上候

一南側之内正源寺續地面 四拾坪三合貳夕八才

右者正源寺入口手狭ニ付享保十三年六月同寺之右之分貸置候分ニ御座候

一自身番屋 表間口壹間裏行東西共四間貳尺

右者町内北側横町西角ニ有之起立之年月書留焼失仕相分不申候

一商番屋 表間口壹間

右者町内西之方熊井町境ニ有之起立之年月は又相分不申候

一床番屋 表間口貳間

右者町内東之方河岸通橋際ニ有之願濟年月等相分不申候

一物置場 拾六坪

右者町内東之方河岸通床番屋後ニ有之文政七申年九月物置場ニ願上候ニ付河岸冥加として壹ヶ月銀壹匁六分宛上納仕候

一福島橋 長七間

中貳間

右掛渡シ年月名目之譯相分不申候得共元祿十六未年三月二日御入用ヲ以御掛替有之候ヨリ來御入用橋ニ御座候尤當町北川町諸町中島町四ヶ町ニ而見守仕候

一川 中八間

右者町内東之方ヲ相流北之方ノ南之方諸町之方ニ流行申候

一稻荷社

右者町内北之方ニ有之當町起立之節より勸請いたし置候趣ニ而町内鎮守ニ有之寶永八卯年四月廿二日本多彈正少弼様之御願申上古跡ニ被爲仰付候尤稻荷神體木像ニ而立像丈ケ六寸程有之作人相知レ不申候

一御檢地

右者元祿八亥年御檢地ニ而御役人御姓名委細熊井町申上候

一町内地方者御代官御支配ニ付武州葛飾郡西葛西領ニ御座候

一御褒美銀五枚

右者兼而母之對し孝心有之其外奇特成事有之神妙之至之旨寛政三亥年三月十七日初鹿野河内守様御番所之被召出於御白洲御褒美として前書之通被下置候尤清庵儀者其後病死仕跡退轉仕候

一御褒美鳥目拾貫文

右者幼少之御盲人ニ罷成養每みよ事法瑞病氣中大切ニ

一御褒美鳥目拾貫文

茂兵衛店醫女

右者幼少之御盲人ニ罷成養每みよ事法瑞病氣中大切ニ

介抱いたし孝心ヲ盡し病死後茂無懈怠墓參り等いたし

旁以孝心奇特成儀ニ付文化八未年二月廿二日根岸肥前

守様御番所之被召出於御白洲爲御褒美前書之通被下置

候右し儀未た町内小兵衛店ニ罷在候

以上戊子書上

諸町

一町内起立之儀者熊井町同様寛永六巳年開發人彦左衛門

外七人地所築立之儀御代官伊奈半十郎様之奉願候處願

之通被仰付同年築立出來之上惣名深川獵師町と唱當町

之儀右彦左衛門名主役相勤住居之最寄ヲ以自分名前之

町銘相付彦左衛門町と唱御茶御用其外諸役相勤無年貢

地ニ御座候處寛文十戌年伊奈半十郎様御繩入有之御年

貢上納被仰付元祿八亥年六月四日酒井河内守様安藤對

馬守様再御檢地有之候御當町分高四石三斗六升四合此

段別三反六畝拾壹步ニ御定メ有之且又獵師町一統町銘

相改候御當町之儀者彦左衛門家諸と唱候ニ付諸町と相

改申候其後彦左衛門儀者名主役御免ニ相成候處數年相

立書留等相分不申候得共私四代以前理左衛門之支配付

被仰付正徳三巳年町御奉行所御支配ニ相成地方者前々

之通御代官所ニ而當時兩御支配ニ御座候此餘之儀者委

細熊井町より申上候通ニ御座候

一町内惣間數六拾壹間三尺五寸東西之表間口六拾壹間半

餘裏巾五拾七間餘南北之東裏行拾九間半餘西裏行拾七

間半餘

一四隣 東之方富吉町西之方相川町飛地南之方川向中島

町北之方正源寺

一自身番屋 間口三間貳尺

右者町内西木戸際ニ有之正徳年中ノ當時之場所之相建

來候旨申傳ニ而願濟年月等相分不申候

一商番屋 間口貳間四尺五寸

右者町内東木戸際ニ有之寶永年中ノ右場所之建來候旨

申傳ニ而願濟年月等書留無御座相分不申候

一物置場

右者町内地先河岸地之内長三拾八間壹尺五寸巾貳間此

坪數五拾三坪九合貳夕

御公儀地ニ有之處年來物置等相建格別辨利も御座候ニ

付爲冥加五ヶ年以前文政七申年中より壹坪ニ付月々銀

壹分宛上納仕候義ニ御座候

一川 巾六間

右者東之方富吉町ノ町内地先を流西之方相川町地先大

川通之流落申候名目無御座堀割年月之儀者相分兼候得

共寛永六巳年地所起立之節ノ堀割有之候旨申傳ニ御座

候

一 福島橋

右者富吉町ノ北川町ニ懸渡有之委細之儀ハ前書富吉町ニ而申上候通ニ御座候

一 町内西木戸際相川町地先道式貳拾貳間半餘巾四間此坪數九拾坪之地所先年者相川町並屋敷ニ而家作建續有之當町表通往還袋地ニ相成居不辨利ニ付相對ヲ以右地所相川町ノ譲り受道式にいたし西之方ニ往來相付右代り地面町内中程ニ而間口三間九寸裏行拾八間貳尺壹寸此坪數六拾貳坪六合餘之地面壹ヶ所相川町ニ相渡申候尤右年月之儀者書留燒失委細之儀者相分不申候

一 御檢地

右者元祿八亥年御檢地ニ而御役人御姓名委細熊井町ノ申上候

一 地方者御代官御支配ニ而武州葛飾郡西葛西領深川獵師町之内諸町と相唱當時山田茂左衛門様御代官所ニ御座候

以上戊子書上

北村季和 濱中茂昌 淨書

御府内備考卷之百十二 終

御府内備考卷之百十三

深川之三

中島町

一 町内起立之儀者先年類燒之節書留燒失仕相知不申候然レ共當町者南小田原町南本郷町靈岸島川口町三ヶ町代地之由申傳元祿十一寅年十二月廿六日保田越前守様御番所御掛リニ而右三ヶ町御用地ニ被召上候御沙汰之旨町年寄奈良屋市右衛門方ニ而取調之上翌廿七日松前伊豆守様於御内寄合右三ヶ町御用地ニ被召上翌卯年四月中代地被下候由右代地三ヶ町之内南本郷町元地惣間數六拾六間六尺之内表京間貳間半南小田原町壹丁目元地惣間數不相知表京間廿四間壹尺四寸川口町元地惣間數不相知表京間九間壹尺三寸右三ヶ所代地當町ニ被下置右代地間數坪數合シ見候處殘地間數四拾七間餘有之代地後當町葺沼之所買受等相願知不申尤此邊買請地多分御座候由申傳ニ有之右本郷町元地之儀者元祿四年之

右者町内南之方橋際ニ有之

一 床番屋 間口九尺 奥行貳間

右者町内北之方有之

一 商番屋 間口九尺 奥行貳間

右者町内北之方橋際ニ有之右四ヶ所共御願濟建初年代相知不申候

一 川岸地 長京間三拾三間半 奥行

東之方八間五尺九寸 西之方七間貳尺五寸

右者町内南之方川端ニ而古來ノ有來候川岸地ニ有之候處文政七申年十月ノ冥加銀上納被仰付東西川端道通地先之分土藏物置等建有之候場所者亦冥加銀同年同様被仰付上納仕候

一 川

右者町内三方有之南之方巾貳拾間長町内地先分四拾壹間半西之方巾八間長同斷九拾三間四尺七寸東之方巾八間長同斷六拾貳間五尺三寸南之方ニ有之候分者東之方十間川流末ニ而里俗大島川と相唱築出シ新地ノ大川ニ相流申候東西貳ヶ所ニ有之候分ハ何れ茂北之方油堀ノ之枝川ニ而名目無之前書大島川ニ合シ申候堀割年代相知不申候

一 橋 長七間 巾貳間

比東叡山御山内ニ有之候聖堂本郷ニ被遊御再建候ニ付御用地ニ被召上築地ニ代地被下南本郷町と相唱當町中島町と相唱候譯葺沼ニ而三方川付三ヶ町合中島町と名付候由里俗其砌不相辨江戸町ノ引地ニ付江戸町と相唱漸年經一同本名相覺中島町と呼來候由古町ノ引地ニ付御祝儀御能町人入之節者元地三ヶ所ノ申通シ町内家主共拜見ニ罷出御錢頂戴仕來候町方ニ而勿論組合深川町々ニ者無御座候

一 町内間數京間八拾貳間貳尺貳寸南北ニ表間口八拾貳間貳尺貳寸裏行南之方三拾三間半同北之方ニ而三拾壹間半裏巾八拾七間半餘

一 四隣 東之方川境同所大島町同所蛤町西之方川境同所相川町同所諸町南之方川境同所築出新地同所越中島拜借地北之方同所北川町

一 自身番屋 間口貳間 奥行三間半

右者町内西角川附ニ有之建初年月相知不申町内一手持ニ御座候

一 床番屋 間口九尺 奥行同斷

右者町内南之方有之

一 商番屋 間口九尺 奥行貳間

右者町内西角の相川町え渡り候橋ニ而

公儀御入用ニ而寛文元五年御役名不知岡田五郎助様御懸リニ而新規御普請有之其後寶永二酉年同斷石川吉太夫様御掛リニ而御修復有之其後同五子年中橋臺關板ニ有之候處新規石垣ニ相成同斷都筑十左衛門様御掛リニ而築御立有之同六丑年中原佐一右衛門様御掛リニ而新規懸直御普請有之其後新規修復年月時々書留無之相知不申候尤見守之儀當町並同所相川町同所熊井町同所富吉町右四ヶ町え被仰付置損所等出來致候節者其時々御訴申上候

一橋 長六間半 巾壹丈

右者 公儀御入用橋ニ而町内南之方の大島町え相渡り候掛初修復之年月書留無之相知不申候尤見守之儀當町並右大島町貳ヶ町え被仰付置損所等出來致候節ハ御訴申上候

一橋 長七間 巾貳間

右者福島橋と相唱 公儀御入用橋ニ而町内北之方町え相渡申候掛初修復之年月書留無之相知不申橋名之起申傳無御座候尤見守之儀當町並北川町諸町富吉町右四ヶ町え被仰付置損所等出來致候節者御訴申上候此餘築出新地え相渡候橋之儀者同町一手持ニ而則同所ハ申

上候

一此邊御拳場内ニ而小鳥見方え差出候御證文等武州葛飾郡西葛西領深川中島町と認め來申候

一御褒美鳥目拾貫文

清兵衛店

十四歳 吉

右者孝行奇特ニ付爲御褒美前書之通被下置候其節被仰渡候書寫左之通

其方儀父新助四ヶ年以前酉年八月頃ハ相煩罷在候節母婦ト俱々父ニ附添晝夜看病致シ食事等心付介抱致候所去亥十二月中新助者病致追々困窮相増同人病中母ふじ儀も相煩次第ニ手足痛歩行成艱ルニ付其方は貝類をむき日々商ひニ出ルなれ共母を介抱致ながら商ひ致ニ付實德茂纔ニ而母え十分給物等與ル事も出來兼右之儀を母に爲知間敷と存利徳も有之趣申聞母え者相應之給物を與其方者右給残りを少々宛給其上同所北川町日蓮宗道心順教儀病之加持祈禱致すとて毎夜母を肩ニ懸ケ又者脊負連參り介抱不絶看病致追々快相成朝夕商ひニ出歸宅之節者榮種杯調參り母え與へ又ハ亡父新助存生之中酒を好候とて時々佛壇え酒を備母ふじ病氣茂當時全快致故猶々商ひ出精致シ右躰母え孝心を盡候趣相聞幼年ニ者奇特成儀ニ付爲褒美鳥目拾貫文とらせ遣

又

北川町

以上戊子書上

一町内起立之儀者先年類焼之節書留燒失相知不申候然共當町之内西紺屋町助成地並北新堀町代地之由申傳西紺屋町助成地之儀者百四拾年程已前元祿年中爲火除鎌倉町ハ敷奇屋町迄川岸行拾五間ニ被仰付右地面内切縮候丈ヶ代地被下置候所西紺屋町之儀者神田紺屋町三町分南紺屋町北紺屋町六ヶ町共紺屋頭土屋五郎左衛門並御疊藏縁染御用之儀者土屋内藏助右兩人取次ニ而受取染上御國役染壹ヶ年銀六貫三百目限り差出候御定ニ而地面裏行手狭ニ相成候得者御染物干場等ニ差支迷惑仕候ニ付御國役減方奉願候處御國役ニ付減方と申儀無之外御國役ハ茂響御用御差支ニ相成候間右御用數方助成地見立可相願旨被仰渡當町ニ而表間口京間拾五間壹尺貳寸裏巾拾七間五尺五寸南裏行拾五間貳寸北裏行拾五間三尺五寸此坪貳百六拾九坪九合九分有之右助成地ニ被下候様元祿六酉年中保田越前守様町方御勤役之節奉願候得者願之通被仰付只今以西紺屋町持助成地ニ御座候北新堀町代地之儀者元祿十一寅年十一月中永代橋新規

御掛渡シニ付御代官伊奈半左衛門様御見分之上松前伊豆守様町方御勤役之節北新堀町表壹間通被召上往還道中五間之處壹間御加え六間ニ相成同十三辰年中當町之内代地被下候得共間數坪數相知不申尤當町北川町と名付候譯元名主方取調候得共相知不申北新堀町引地故北川町と名付候儀ニ者全無之往古ハ北川町と申町銘有之候由ニ御座候

一町内間數京間百四拾三間四尺三寸
一東側南北え表間口貳拾九間半餘裏巾折廻シ四拾壹間餘東西え南裏行拾間半餘北裏行拾四間餘
一西側 南北え表間口七拾三間餘裏巾七拾六間餘西東え南裏行貳拾間半餘北裏行拾五間半餘
一東之方南側南北え表間口四拾間半餘裏巾三拾七間餘東西え南裏行拾三間北裏行拾三間

但片側町家
一四隣 東之方川向黒江町西之方川向富吉町南之方中島町北之方黒江町代地蛤町
一自身番屋 間口貳間半 裏行三間
一商番屋 間口九尺 裏行九尺

右者町内西之方橋際ニ有之

右者町内東之方橋際ニ有之

一床番屋

間口九尺
裏行九尺

右者町内東之方橋際前書商番屋向有之右番屋三ヶ所共
建初並時々修復年月書留無之相知不申候

一川

右者町内東西ニ有之西之方川中八間名目無之中島町え
流大川え流出し東之方川中八間名目無之中島町え築
出新地え流夫々大川え流出申候尤堀割年月相知不申
候

一橋

長七間
巾貳間

右者八幡橋と相唱 公儀御入用橋ニ而當町々黒江町え
相渡候掛初修復之年月書留無之相知不申候

一橋

長サ七間
巾貳間

右者福島橋と相唱 公儀御入用橋ニ而當町より諸町富
吉町兩町え相渡候掛初修復年月書留無之相知不申候
一當町御奉行一手御支配ニ而兩御支配ニ者無之候
一此邊 御場内ニ有之御鳥見方え御證文等差出候節者
武州葛飾郡西葛西領深川北川町と認來候

一御褒美銀五枚

清右衛門店春養娘

さ

よ

右さよ儀三拾八ヶ年已前寛政三亥年中年來兩親を大切
ニいたし孝心を盡し其外奇特成事共有之且手跡指南仕
迎茂深切ニ教諭致候段神妙之至り其段申上候得者同年
二月十五日町御奉行初鹿野河内守様御番所え被召出爲
御褒美前書之通被下置候其後さよ儀年月不相知同所黒
江町え久兵衛店え引移り右手跡指南仕候處四ヶ年已前
病死仕跡相續方之儀是又相知不申候
但前書被仰渡候書留相知不申其節之記銀ニ有之趣を
以申上候

一御手當鳥目五拾貫文

傳 兵 衛

右者町内半藏店疊職傳兵衛妻さよと申三拾八歳ニ罷成
候もの五ヶ年已前文政七申年八月三日夕刻女子三人引
續出產致候ニ付御月番町御奉行筒井伊賀守様御番所え
御訴申上御見分被下置銘々口書差出大切ニ養生致候様
被仰渡同月五日御手當として前書之通被下置候然ル處
翌六日曉七ツ時頃三子共病死仕候ニ付猶又其段御訴申
上御檢使被下死骸取片付被仰付候儀ニ御座候
以上戊子書上

奥川町

一町内起立之儀者元禄十五年申芥改役忠兵衛三郎兵衛平

兵衛與市と申四人之者共申合伊奈半左衛門様御役所え
奉願永代浦入海干潟之處其外所々芥を以築立候節右築
立場所之外ニ町屋鋪三千坪相願置候處同十三辰年前書
坪數之内深川万徳院前水地之處六百五拾七坪三合之地
伊奈半左衛門様並築地御奉行深地八郎右衛門様御奉行
松前伊豆守様保田越前守様御勤役之節御吟味之上四
人之者え被下置候町屋敷ニ御座候尤其砌々伊奈半左衛
門様御支配ニ御座候處身分地所之儀者町方御支配奉請
當所住居仕候町銘之儀者地面出來揚候節三四銘書記伊
奈半左衛門様え窺候處奥川町と號候宜と被仰渡候趣承
傳候

一町内間數南北え表間口四拾五間餘裏中三拾五間餘東西
え南裏行拾三間半北裏行拾六間餘
一四隣 東之方川向松村町黒江町西之方大島町代地万徳
院南之方川向黒江町北之方蛤町三丁目
一町屋鋪拜領人名前左之通

一百八拾四坪壹合

芥改役 伊 兵 衛

右先祖與市儀住居之儀書留燒失其後代數相替り相續ニ
付相知不申外三人之者申合奉願上深川寄洲之場所え江
戸中之芥ヲ以多分之地所築立仕其後當所ニ而地所被下

置後引移住居仕私迄右芥改役七代相勤罷在候由緒之儀
者寛政四年伊奈右近將監様元御役所え書上候寫を以末
ニ申上候其節姓名秋田利右衛門跡相續仕候

一百七拾四坪四合

同 芳 次 郎

右先祖三郎兵衛儀者前書伊兵衛同様ニ而外三人之者申
合前書之通地所築立仕同様地所被下置候後引移私迄六
代役儀相勤寛政四年書上候石川吉之助跡相續仕候

一百六拾四坪四合

同 藤 太 郎

右先祖平兵衛儀住居之儀前書同様ニ而外三人之者申合
前書之通地所築立仕同様地所被下置候後引移私迄八代
役儀相勤寛政四年書上候深尾久右衛門跡相續仕候

一百三拾四坪四合

同 鐵 次 郎

右先祖忠兵衛儀住居之儀者前書伊兵衛同様ニ而相知不
申外三人之者申合前書之通地所築立仕同様地所被下置
候後引移私迄六代役儀相勤寛政四年書上候關根彌七跡
相續仕候

右四人之者共々寛政年中町御奉行初鹿野河内守様御勤
役中伊奈右近將監様之御役所ニ而御尋有之候節書上候
古來由緒之儀左之通御座候

御尋ニ付申上候

一私共奉蒙芥改御用候最初之儀元祿十五年迄者御當地町々並ニ芥船等甚々猥ニ而御堀川々等茂自然と埋り其上所々川々々流出候芥夥敷又芥船上總滞之積參り干潟滯通茂不相辨猥ニ芥捨來候ニ付上總滞埋り一向通船相成不申川口埋候儀故出水之節者乍恐川上御田地御橋等之障リニ茂相成可申哉と奉存同年二月當御役所様々私共先祖之者共奉願上候者深川永代浦入海干潟凡拾五万坪之所私共え被下置候ハ、御新田取建可申候間江戸中捨芥右之入海干潟え捨候様被爲仰付被下置候様ニ奉願上候得者御吟味之上願之通被仰付被下置則御高札御建被下置候ハ始而芥捨場と申儀相定候依之先祖之者共入用金を以深川熊井町ハ八幡前通迄古川ヲ浚夫ハ又幅六間長八百間程之處芥船往來之新川ヲ堀其外芥船手配り通路之小川枝川二千餘間餘堀立毎日芥引人足ヲ入築立普請仕候且又右上總滞通船相成不申場所茂早速浚取可申候間右拾五万坪之外ニ町屋敷三千坪被下置候様奉願上候得者又御吟味之上願之通被仰付被下置候處其節者相應成町屋敷有合不申候ニ付拜領地之儀ハ被仰付茂御延引ニ御座候然レ共右願上候儀ニ付早速普請ニ取掛リ上總滞之儀者横幅貳百間長サ貳拾町餘之所堀田人足

ヲ入則貳ケ年之内浚取り夫ハ無滞通船相成申候ニ付其後者此上總滞通を芥滯と申異名ニ申傳候尤右浚芥土之儀者右之拾五万坪之所え積送地形段々築立申候處翌更年御用地ニ被召上右貳ケ所之普請ニ夥敷物入仕候ニ付難澁仕候間先達而被爲仰付候三千坪之町屋敷何卒御渡シ被下置候様奉願上候得者被爲聞召譯ケ元祿十三辰年右屋敷三千坪之内え深川万徳院前ニおゐて水地六百五拾七坪三合之所當御役所様並築地御奉行深津八郎右衛門様町御奉行松前伊豆守様保田越前守様御勤役之節御吟味之上私共居屋敷ニ被下置候故則築立之町銘奥川町と私共四人代々此所ニ住居仕候尤殘地貳千三百坪之儀者追而地面見立願出候様被下置候所其後何分相應成地面も見當不申候ニ付御願も不奉申上候勿論右拜領地面之儀三千坪之都合不仕候内之儀ニ付子孫ニ至り万一鹿末成儀も御座候而者奉恐入候ニ付拜領地ニ被爲成置被下置候様ニ奉願上今以拜借地と仕來候儀ニ御座候且又前書奉申上候築立拾五万坪之所近來一圓木場町と申候右拾五万坪築立後者拾万坪芥捨場ニ被爲仰付候間段々出精仕芥船共漕送らせ地形高ク相成則千田新田と申ニ罷成其後六万坪芥捨場ニ被仰付候間段々私共差配捨船漕送らせ地形高ク罷成候處享保九辰年江御鷹場之内

配仕場所え積送らせ候間此所當時平井新田と申ニ罷在候

水地之處捨芥ヲ以埋立候様急御用被爲仰付候ニ付晝夜出精仕芥船差配仕候而地形築立差上申候其後享保十三申年右六万坪之築立場を私共先祖之者共御開發仕石小田新田と申ニ罷成芥捨場所無御座候ニ付越中島續松平伊豆守様御屋敷下干潟之所見立芥捨場ニ奉願上候處享保十五辰年町御奉行諏訪美濃守様御勤役中當御役所様御掛ニ而御吟味之上芥捨場ニ被爲仰付被下候ニ付出精仕候而芥船漕送らせ則地形高罷成芽生立候ニ付芥受負之者共方ハ茅御上納仕來候處願人御座候而寶曆六子年中右地面御引渡被爲遊曾融新田と申ニ罷成候其後享保十九寅年右場所之續稻垣對馬守様御屋敷下干潟之所見立候而又々芥捨場奉願上候處町御奉行稻生下野守様御勤役之節是又當御役所様御掛ニ而御吟味之上芥捨場ニ被爲仰付候ニ付段々芥船差配仕漕送らせ地形成仕ニ付願人御座候而寶曆八寅年右之内を海苔干場新田家作地ニ被仰付御定杭御打渡被爲遊置候内西之方者安永八亥年中松平右京大夫様御抱屋敷ニ相成東方今以芥捨場ニ御座候依之最初永代浦築立仕候並明和二酉年御堀浚之節除土場之儀私共方え御尋被仰付候ニ付石小田新田先八万坪之干潟見立言上仕候則除土場ニ被仰付御手傳様ハ私共方え土船御合印被下晝夜出精仕候而芥船共差

一私共芥改役勤方之儀者元祿十二卯年正月當御役所様ニ而被爲仰付被下置候尤日除船帶刀ニ而相勤候様被仰付被下置候儀貳艘宛私共四人え御船ニ而御渡被爲遊被下毎日御堀並ニ所々川々乘廻り相改申候品者川々え芥猥ニ捨不申候様ニ吟味仕御堀川々え掃込芥等爲致不申候ニ捨申候ニ付是又相改或者江戶芥船等田舎芥船仕相え捨申候ニ付是又相改或者江戶芥船等田舎芥船仕相對仕川中ニ而船ハ船え積移レ候儀數多御座候處此者共儀肥ニ相成芥者田舎へ積送り石瓦木切等肥芥ニ相成不申分者川中え猥リニ捨候儀も有之又者芥船共不相應ニ荷重ニ積候而乗出シ候節風波ニ而働キ成兼候得者川中ニ途中而猥リニ芥土刳捨候儀も御座候ニ付是等相改早速搔上させ御定芥捨場所え漕送らせ申候依之汐時ニ寄り夜中ニ茂罷出相勤申候且又最初御建被爲遊被下置候御高札之内深川越中島之御高札之儀者地所共ニ私共え御預ケ被爲遊候ニ付右御高札見守並ニ上總滞通り芥船猥リニ不埒成義不仕候様ニ私共方ハ晝夜番人附置申候尤私共御役之儀者乍恐御殿中ニ而御下ケ紙被爲仰渡候趣茂御座候旨並ニ捨芥ヲ以所々御新田築立候儀鍛練仕

候ニ付役名永代築地來改と被爲仰付被下候段 當御
前様奉蒙御意冥加至極難有仕合ニ奉存候段先祖ノ代々
申傳候尤享保十四酉年火災之節書留諸帳面等有増燒失
仕候ニ付委敷儀者相知不申候尤前書ニ申上候古來ノ之
御役船日ニ貳艘宛被下置候分去ル寛政元酉年七月ノ右
御役船日々壹艘宛減少改方之儀者是迄之通り相心得陸
ノ茂見廻り相改候様被仰渡候依之當時御役船日々壹艘
宛請取之乘廻り尙又陸ノ茂見廻り相改申候儀ニ御座候
且又私共右奉蒙御役御用候ニ付万端御役所様蒙御下知
御用向相勤來り候處身分之儀者古來ノ町方人別ニ相加
申候右御尋ニ付奉申上候以上

寛政四子年五月

永代築地改役

秋田 利右衛門

保尾 久右衛門

石川善之助幼少ニ付

石川 源 助

關根彌七幼少ニ付

關 根 喜 六

伊奈右近將監様

元御役所

一右四人之者川々見廻之節者日々役船壹艘宛舟方渡世之
者ノ差出右賃錢之儀者月々御郡代之書上川船御役所ニ

一當町ノ黒江町大島町川筋永代寺門前川通六万坪拾間川
地藏堀砂村邊川筋右之通見廻順其外横川枝川等迄も心
付見廻候儀ニ御座候尤陸廻之儀も右ニ順シ見廻候儀ニ
御座候

一御高札之儀者深川越中島之方ニ建有之元祿十二卯年正
月中伊奈半左衛門様御掛ニ而初而御建被遊被下置芥改
役四人之者之見守被仰付右地所坪數百貳拾坪程之所是
又右四人之御預ケ被遊被下置候其後御高札御修復御書
替等度々有之候得共右御文言並ニ年月等書留燒失仕相
知不申寛政八辰年二月猶又御書替建直奉願上候書留左
之通御座候

乍恐以書付奉願上候

一永代築地見土捨改役之者共奉申上候深川越中島ニ御入
用を以御建被遊私共之御預ケ被置候芥御高札之儀實曆
十一巳年伊奈半左衛門様御役所之奉願上御調之上町御
奉行所土屋越前守様之御達有之其後右御番所ニ而御高
札奉受取御立合ニ而御建被下置候處其後御願不申上年
來相重り候ニ付何卒此度板申矢來共新規ニ被遊御書改
御建替被遊被下置候様奉願上候則御高札寸尺等別紙繪
圖面ヲ以奉願上候以上

願人 石川 源 助

寛政七卯年六月

御府内備考卷之百十三 深川之三

而御渡被成受取來り候右見廻場所乘廻順左之通相勤申
候

一奥河町ノ北川町通中島町川口ノ大川之出石川島見廻夫
ノ稻荷橋川通八丁堀川筋京橋川通御堀之出數奇屋川岸
ノ辰口飯田町川堀留迄乘返し一石橋川通日本橋川通小
網町川通靈岸島川通夫ノ崩橋永久橋川通大川之出仙臺
堀之入永代町小松町松村町川通

一當町ノ黒江町川筋八幡裏川通犬和町川通扇橋川通小名
木澤川通中川御番所前迄夫ノ乘戻海邊大工町川通万年
橋大川之出干鰯場之川

一當町ノ蛤町川通一色町川筋佐賀町下橋ノ大川之出大橋
兩國橋神田川之入牛込揚場迄見廻夫ノ乘戻本所一ツ目
堅川通六間堀乘込万年橋下大川之出

一右同斷大川之出大橋兩國橋淺草川筋千住大橋迄所々見
廻

一當町ノ黒江町川通佐賀町下之橋ノ大河之出本所一ツ目
堅川筋市川近邊迄見廻四ツ目横堀扇橋出末廣橋石川町
久右衛門町洲崎川通永代寺門前川通蛤町横堀之

一當町ノ北川町川通中島町大川之出佃島鐵炮洲本湊町拾
軒町川岸邊品川近邊迄見廻金杉橋川通 御濱御殿下木
掘町川沙留新橋川筋八丁堀川筋大川之出ル

同 大槻庄兵衛

同 秋田利右衛門

同 關根彌七

大貫次右衛門様

御役所

前書之通願書差出置候處其後町年寄衆ノ御尋有之翌辰
年二月廿三日町御奉行小田切土佐守様御番所ニ而芥改
役四人之者之御高札御渡被遊同日右御場所之御立合之
上御建替被遊候趣被仰渡左之通御名前ニ御座候

小田切土佐守様御組年寄同心

上田 其八殿

坂部能登守様御組同心

佐久間儀左衛門殿

大貫次郎右衛門様御手代

篠崎勇右衛門殿

御作事方小役

原 鐵之丞殿

御作事小細工方細手大工

久保田源左衛門殿

町年寄奈良屋市右衛門殿代

庄 兵衛殿

右之通御立合ニ而御建替相濟申候

差上申證文之事

一江戸中ちりあくた捨船深川越中島後芥捨場所え捨へし

御文言之御高札壹枚

右御高札年久敷罷成朽損御文言見兼候ニ付御建替奉願上候處今日御高札新規御建替前々之通私共え御預ヶ被成慥ニ奉預り候然上者大風雨出火之節者不及申常々大切ニ見守可申候爲念御受書仍而如件

永代築地芥改役

源 助
庄 兵衛
利 右衛門
彌 七

上田其八殿
佐久間儀左衛門殿

一御高札御文言左之通

江戸中ちりあくた

捨船深川越中島後

芥捨場所え遣し捨へし

若中途ニ捨におゐてハ

曲事たるへきもの也

戊七月

一芥御高札之儀江戸中ニ拾五ヶ所御建被遊候處越中島御高札之儀者地所共私共御預ヶニ付右之通御座候外拾四ヶ所之儀者御建初年月並ニ御高札御文言度々御書替等之儀書留等無之勿論私共え御預ニも無之相知不申箇所附之儀左ニ申上候

一深川越中島

一芝金杉裏一丁目

一淺草御藏之後稻荷社下石垣際

一同所平右衛門町

一元新錢座

一本湊町稻荷橋川岸

一船松町入堀川岸

一明石町橋際

一同町海手角

一濱御殿貳拾間橋出口

壹ヶ所
壹ヶ所
壹ヶ所
壹ヶ所
壹ヶ所
壹ヶ所
壹ヶ所
壹ヶ所
壹ヶ所
壹ヶ所

等有之候ニ付四ヶ所別々ニ相分ヶ左ニ申上候

永代寺門前仲町南裏通
蛤 町

一北新堀大川端

一靈岸島四日市新川口

一元濱町川口

一濱町阿部豊後守殿屋敷前

一箱崎田安屋敷大川方

一川 中八間

右者町内東西地先ニ有之名目無之北之方松村町々南之方黒江町え相流申候堀割年代相知不申候

一此邊 御場内ニ有之御鳥見方え御證文等差上候節者

一武州葛飾西葛西領深川奥川町と認メ來り候

一當町町御奉行一手御支配ニ而兩御支配ニ者無之

一非人小屋

右者町内東之方川端ニ有之深川非人頭孫太郎支配ニ而源七と申者住居仕當町番非人ニ御座候最初住居之譯相知不申候

以上戊子書上

蛤 町

一當町之儀町名者一跡ニ相唱候得共起立年代並地所之儀も四ヶ所ニ相離れ其内壹ヶ所ニ相立有之候内ニ茂飛地

御府内備考卷之百十三 深川之三

内ニ相成候場所所有之右者起立之子細年月等相知不申
芝廣岳寺門前家主藤次郎と申者家作地運上場ニ御請
負致追々築立家作致シ海苔干場と相唱候處度々之風
波ニ而打崩シ築立手戻仕家作取拂被仰付候ニ付安永
七戌年中海邊新田年寄半右衛門東地續四丁五反四畝
貳拾壹歩之場所譲り受御代官伊奈半左衛門様々奉願
見取屋敷ニ致同八亥年中より松平右京大夫様御抱屋
敷ニ相成當時松平阿波守様御家老稻田九郎兵衛殿御
抱屋敷ニ所持被致同所東續ニ壹丁七反壹畝拾六歩之
場所猶又寛政七卯年前書半右衛門御買受奉願追々地
代金上納見取屋敷ニ致享和元酉年十二月同中右阿波
守様御母公様々御譲り渡申當時右九郎兵衛殿一手ニ
所持被致夫々東之方三丁七反七畝拾八歩之水面之場
所者天明五巳年十一月藤次郎が當村名主八左衛門々
讓受伊奈攝津守様々奉願見取地ニ致所持仕寛政五丑
年中安藤對馬守様々御讓渡當時龜井大隅守様松平越
中守様御所持御抱地ニ相成海邊新田と相唱申候
一町内 惣間數百三拾貳間四尺五寸
一 中横町 西之方東西之間口六拾壹間餘裏巾六拾三間餘
南北之西裏行貳拾五間半餘東裏行拾八間
一 東之方東西之間口七拾間半餘裏巾同斷南北之西裏行拾

五間餘東裏行八間餘
一四隣 東之方同所永代寺門前町西之方川境蛤町之内里
俗上貳丁目分南之方川境松平伊豆守様御下屋敷海邊新
田黒船稻荷社地北之方同所黒江町同所永代寺門前町
同所永代寺門前町
一里俗唱之儀者横町之西之方ヲ壹丁目東之方ヲ貳丁目と
相唱申候
一河岸地 幅三間之四間長百貳拾間餘
右者町内南之方地先ニ有之物置場ニ致罷在建もの物置
等用辨仕候分者去ル文政七申年中之壹坪ニ付銀壹分
宛冥加上納仕候
一自身番屋 間口三間 奥行三間
右者町内南之方川岸地ニ有之起立年月等相知不申尤町
内一手持ニ御座候
一床番屋 間口貳間 奥行九尺
右者町内西之方松島橋際ニ有之橋番屋ニ御座候起立年
月相知不申候
一川 幅拾間餘
右者町内南之方之西之方地先を相流上は東之方同所永
代寺門前町之方之末は同所大島町之方之流行申候川名

唱無之御堀割等之年月舊記申傳無之相知不申候

一松島橋 長七間 巾九尺

右者町内西之方里俗蛤町上貳丁目之相渡候板橋ニ而掛
渡起立年月書留無之相知不申前々御入用橋ニ御座候
正徳四年八月十三日御町方之御見分ケ所書之内ニ有
之當町並上貳丁目と組合見守仕候尤橋名之起り舊記申
傳無之相知不申候
一下水 長東北折廻シ八拾間餘 巾三尺

右者町内北之方裏通有之

但新規修復等永代寺門前仲町蛤町組合取斗申候且又
古來蜷川と申川筋之跡之由申傳も御座候得共其子細
相分不申候

一御檢地

右者海邊新田一躰ニ而元祿八亥年酒井河内守様御水帳
所持仕候

一町内反別六反壹畝拾貳歩

一葛飾郡西葛西領之内ニ而海邊新田之分一躰ニ御座候

一町御奉行所御代官兩御支配ニ而當時山田茂左衛門様御

代官所ニ御座候

深川大島町北續ニ有之 蛤町

一當町之儀者武州葛飾郡西葛西領海邊新田之内ニ而伊奈
半左衛門様御代官所ニ有之起立之儀者同町壹貳丁目之
申上候通ニ而當所者古來内藤外記様御所持被成寛永五
辰年之揖助右衛門様之御讓請ニ相成寶曆十二年午年六
月中小川新九郎様之町人並木甚太郎讓受其以來町人所
持ニ罷成候尤町並屋敷ニ相成候年代相知不申候且町内
東續ニ公役相勤候町御奉行所御一手御支配之地所有之
古來同所黒江町地内之由申傳御賄藏跡地之由書留有之
候處御賄藏御取立御取拂等之年月相知不申熊野屋勘吉
伊勢屋六兵衛と申者兩人御用炭薪置場ニ拜借致置候處
元祿十三辰年築地御用地ニ被召上同十四巳年御拂地ニ
相成候を前書兩人御買請仕當町之組入町屋相建無年貢
地ニ而町役人足相勤候處享保七寅年十二月之町々一同
公役銀上納ニ被仰付壹ヶ年公役銀金壹兩貳分銀六匁宛
相納申候

一町内 惣間數百貳拾七間壹寸

一八幡橋通黒江町續東西之北表間口三拾壹間裏巾同斷

但自分道明置候ニ付前書間數之内ニ御座候

南北之東裏行拾六間餘西裏行同斷

一同所南之方裏通南北之西表間口五拾貳間半餘裏巾同斷

但西之方並北之方道地者自分道ニ明置候ニ而前書間

數之内ニ御座候
東西之南裏行六拾間餘北裏行同斷
一公役地之分南北之東表京間四拾三間餘裏中四拾七間半餘

但東北折廻し自分道ニ付前書同斷
東西之南裏行貳拾間餘北裏行拾六間

一四隣 東之方川境蛤町之内里俗壹丁目松平伊豆守様御下屋敷西之方川境同所北川町同所中島町南之方同所大島町北之方同所黒江町

一里俗唱之儀者上貳丁目と相唱申候
一川 巾七間餘

右町内東之方同町里俗壹丁目家前川之枝川ニ而當所町屋中ニ有之末者西之方同所中島町同所大島町之方之流行御堀割年月等も舊記無之相知不申尤里俗外記殿堀と相唱來候右者古來内藤外記様御所持被成候間異名仕候哉川名起子細相知不申候

一入堀 長六拾間巾三間
右町内惡水吐ニ而里俗下水堀と異名致シ古來武家方御所持之頃有來候由ニ有之堀割起立年月等相知不申候

一松島橋 長七間巾九尺
右町内東之方里俗蛤町壹丁目と相渡候板橋ニ而尤御

入用橋ニ有之委細者前書壹丁目申上候
一橋 長五間五尺巾七尺

右者當所町屋中ニ有之川之自分入用を以懸渡有之候橋ニ而古來武家方御所持之頃有來候由申傳橋名無之掛渡候起立年月等も書留無之相知不申候

一橋 長三間巾壹間
右者當町内惡水吐下水堀之自分入用を以掛渡置候橋ニ而古來有來候由申傳而已ニ而起立年月等相知不申候

一御檢地之儀者海邊新田一畝ニ而元祿八亥年酒井河内守様御水帳所持仕候

一町内反別壹丁六反壹畝四步九厘
尤此内公役地之分 三畝九步九厘

但惣名海邊新田反別之内ニ御座候
一葛飾郡西葛西領之内ニ而海邊新田之分一畝ニ御座候

一町御奉行所御代官所兩御支配ニ而當時山田茂左衛門様御代官所ニ御座候
元權左衛門店六兵衛俸 彦 八

一御褒美銀五枚
右彦八儀六兵衛之孝心盡候段入 御聽寛政五丑年三

月中小田切土佐守様御懸リニ而爲御褒美前書之通被下置候右被仰渡候御書付寫左之通

深川蛤町 權左衛門店 六兵衛俸 彦

丑三十歲 八

其方儀親六兵衛者當丑七十六歲ニ相成右之腕痛同方半身不叶ニ付渡世も出來兼其方壹人ニ而蜷蛤之類商ニ出妻も宿元ニ而渡世之手傳致俱々相稼候得共日々纒之商ひ高殊ニ四人暮ニ而引足不申其方並妻子とも時節之衣類も着兼朝夕之食事も十分ニ者致兼候得共六兵衛之者手當厚食物等者別而心付寒暑之衣類迄万事行届候様致六兵衛申儀聊も不相背酒好候得者何時ニ而も調來爲給入湯ニ罷越候節も付添參彼是心付候故湯屋方ニ而も取扱を感じ湯錢も不取入湯爲致近所之者も渡世之手傳いたし候由相聞某方六兵衛之孝心成ルいたし方ニ付爲御褒美銀五枚被下置候間難有可奉存

元茂助店 幸八俸 善

太 郎

一御褒美鳥目拾貫文
右者孝行奇特ニ付文化十四年五月中永田備後守様御掛リニ而爲御褒美前書之通被下置候其節被仰渡候御書付左之通

其方親幸八者日雇稼又者小看等賣步行候處一躰稼ニ疎く其上病身者ニ而困窮致母しげ者拾壹ヶ年以前病死致幸八儀者七ヶ年以前痛積相煩其上物身腫しびれ候而步行不自由ニ相成追々手業不相成必至と困窮致シ祖母とよ其方兩人ニ而漁獵むきみ等手傳致少々宛之賃錢貫請取續居候處とよ儀者五ヶ年以前致死去幸八儀者引續相煩候處身寄之者も無之其方弟勇次郎を相手ニ致獵業貝類むきみ等相稼キ去々午年中むきみ賣ニ步行若年者壹人之稼ニ而親子三人給續罷在親幸八ニ者隨ひ少茂氣ニ背候儀無之商ひ歸り候得者食物等之世話致或者好物之品調歸幸八之爲給彼是孝心盡候故弟勇次郎儀も其方を自然と見習夫々稼之手傳致親兄を慕ひ罷在商ひ手透之節者手習等致弟之教之遣し万事實意を盡家業精出し親子睦敷致若年ものニ者孝心奇特之趣相聞候ニ付爲褒美鳥目拾貫文とらせ遣ス

深川蛤町 茂助店 幸八俸 善 太 郎 西十六歲

一當所之内反別三反五畝貳拾八步之場所町内南之方ニ而慶安三寅年松平伊勢守様地所御取立御所持御座候處貞

享三寅年九月町人孫三郎と申者之買受町並屋敷ニ相成
 其後元祿八亥年酒井河内守様御檢地高之海邊新田反別
 高ニ入候町並屋敷ニ相成並北之方同所奥川町續反別貳
 反壹畝者里俗壹貳丁目と唱候場所反別之内ニ御座候處
 元祿十二卯年築地御用地ニ被召上當所万徳院後古來木
 挽町木場御取拂跡地ニ而被下置且西之方同所北川町續
 反別六畝拾三步者是又里俗陽岳寺前と唱候場所反別
 之内ニ御座候同年築地御用地ニ被召上同様古來木挽町
 木場跡ニ而代地被下置元地ニ而元追々伊奈半左衛門様
 之奉願建來候通同様町並屋敷ニ御座候處正徳三巳年閏
 五月中之町御奉行兩御支配ニ被仰付地方之儀者御代
 官所御支配ニ而郷中村役共相勤御年貢町並屋敷ニ御座
 候

一町内 東西之間口六拾七間餘南北之西裏行拾九間餘東
 裏行拾七間
 但北表片側

一同所北南地尻拾八間南三間壹尺五寸ニ三拾六間三尺之
 入組東貳拾九間四尺西五拾間餘
 但北裏之方町屋地尻之續地ニ付間口裏行之差別無御
 座候

一四隣 東之方同所奥川町西之方川境小堀織部様御下屋

鋪同所小松町南之方同所大島町代地之内万徳院境内同
 所黒江町代地因速寺境内同所北川町北之方家前川坂田
 橋川境同所伊澤町同所松村町

一里俗唱之儀者三丁目と唱申候
 一身番屋 間口三間半入組有之
 右者町内西北角道地ニ有之起立年月等相知不申尤町内
 一手持ニ御座候

一川 巾拾四間餘
 右者町内北之方之西之方地先を相流上者東之方同所奥
 川町之方之末者同所小松町之方之流行申候川名無之御
 掘割之年月舊記も無御座相知不申候

一坂田橋 長六間幅七尺
 右町内北之方同所伊澤町同所松村町之相渡候板橋ニ而
 古來之有來候處掛渡起立年月等相知不申正徳三巳年町
 々町方御支配ニ被仰付候節深川筋橋々御引渡ニ相成翌
 午年九月十八日中山出雲守様御寄合ニ而右坂田橋も向
 後者向前もやいニ橋掛々修復可仕旨被仰渡候以來當
 町並當町並同所松村町同所伊澤町右三ヶ町ニ而持合候
 自分橋ニ御座候且橋名之起り舊記申傳等も無之相知不
 申候

一御檢地之儀者同町壹貳丁目之申上候通ニ御座候

一反別之儀者當町分七反三畝貳步
 但海邊新田惣反別之内ニ御座候

一町御奉行御代官所兩御支配ニ而當時山田茂左衛門様御
 代官所ニ御座候

里俗深川寺町裏續 町

一當町之儀も海邊新田之内伊奈半左衛門様御代官所ニ而
 起立之儀者同町里俗壹貳丁目之申上候通ニ有之當所反
 別壹丁三反六畝九步之場所承應三午年之岩手佐五右
 衛門様御所持ニ而上ヶ地ニ成其後御拂地ニ相成延寶三
 卯年小川新九郎様御買受御所持被成享保十一年九月
 當所年寄次右衛門讓受其後町並屋敷ニ致糠干鬮置場ニ
 取立申度段追々伊奈半左衛門様之奉願同十九寅年之町
 家作御免ニ相成當時干鬮間屋とも寄合持ニ而干鬮賣場
 ニ所持致里俗江川場又者干鬮場と唱且又北之方川境
 陽岳寺前元反別壹反八畝拾八步之場所古來新之丞と申
 者所持仕元祿六酉年之久和屋九兵衛所持仕候處同十二
 卯年右反別之内壹反六畝拾三步築地御用地ニ被召上當
 所残り反別貳畝步有之右代地者同所北川町續元木挽町
 木場御取拂跡地ニ而被下置當時同町里俗三丁目之内ニ
 有之並南之方ニ而反別壹丁貳反四畝貳拾七步之場所承
 應三午年之有賀半右衛門様御所持被成候處其後年月不

相知町人所持屋敷ニ相成享保十二未年閏正月之町家作
 御免被成當時町人共所持仕里俗三文字屋敷と唱且北
 之方川境里俗寺町裏通反別貳反壹畝拾三步之場所久世
 出雲守様上地ニ而天和一戌年より運上場ニ候處元祿
 八亥年御拂地ニ相成反別壹丁三反四畝六步仁兵衛と申
 者之御買受仕同年酒井河内守様御檢地ニ而御高請仕海
 邊新田惣高ニ入右反別之内壹丁壹反貳畝貳拾參步者寺
 院持添地ニ讓受殘反別貳反壹畝拾三步之場所寶永年中
 迄ニ町家作御免被成候町並屋敷ニ而里俗寺裏と唱申
 候

一町内 里俗江川場組南北之間口拾九間裏巾三拾七間半
 餘東西之南北共裏行百四拾四間半餘

一里俗陽岳寺前東西之間口六間裏巾四間南北之東西共裏
 行九間半

一里俗三文字屋敷東西之間口八拾壹間半餘裏巾八拾三間
 餘南北之西裏行三拾九間餘東裏行六拾間

一里俗江川橋際寺裏東西之間口三拾間裏幅貳拾七間餘南
 北之西裏行三尺東裏行五間三尺

一同所續心行寺後東西之間口九間裏巾八間南北之西裏行
 貳拾八間餘東裏行三拾間

一同所東續中道同所冬木町通南北之間口三間裏巾同斷東

西之南北共裏行四拾五間半餘
一同所 南北之間口貳拾四間裏中同斷東西之南北共裏行七間半餘

一四隣 東之方同所富岡町天野染藏様御添屋敷御賄方御組屋敷川境同所西平野町西之方深川佐賀町代地川境同所黑江町南之方南本所石原代地深川平野町添地同所冬木町北之方同所平野町陽岳寺法乘院玄信寺心行寺海福寺増林寺惠然寺正覺寺

一町内里俗東之方佐賀町代地續之場所を一圓江川場と相唱于鬮商賣人共持地面ニ御座候江川之譯相知不申候南之方平野町添地續之場所を三文字屋敷と相唱右者三ヶ町地面並有之候ニ付唱來候儀ニも有之候哉ニ被存候西北之方地面之儀ヲ一圓寺裏と相唱候儀者寺町寺院後口通りニ付唱候儀ニ被存候

一自身番屋 間口三間 奥行九尺
右者當町西境佐賀町代地先道地ニ有之起立年月相知不申候

一入堀川 長百貳拾間幅拾間餘
右者古來ノ里俗江川と申幅三間程之古川有來候處享保十一年年中ノ干鬮置場ニ取立候節川幅狹候間西境佐賀町代地地主ニ相對致地所借地致右川縁通地並地面内

共堀添長幅前書之通入堀川ニ致川浚其外都而一手持之自分入堀川ニ有之堀割之起立川名之起等相知不申候

一川 中拾間餘
右町内南之方ノ西之方地先を相流上者東之方同所富岡町之方ノ末者北之方同所平野町之方ニ流行申候尤川名無之御堀割之年月相知不申候

一川 中拾間餘
右町内南之方地先ニ有之上者南之方同所冬木町之方ノ末者北之方同所万年町之方ニ流行川名並御堀割年月等相知不申候尤里俗仙臺堀と異名仕候

一江川橋 長四間半 中壹丈
右者佐賀町代地ノ蛤町里俗陽岳寺前ニ相掛ケ有之橋掛之起立年月等相知不申里俗江川橋と唱最寄持合候自分橋ニ候處享保十一年年中相對を以干鬮賣場一手持自分橋ニ仕候

一下水堀 長百間餘幅壹間
右北之方入堀川ノ東地尻御賄方御組屋敷境南之方富岡町之方ニ相流修復渡共向合掛リニ而取斗申候
一家前川岸無之道幅五間程有之川端之方中貳間又者貳間半通り之場所地先之者物置場ニ致罷在候間右建モノ物

御府内備考卷之百十四

深川之四

大島町

置等ニ用辨仕候分者去ル文政七申年中ノ壹坪ニ付銀壹分宛冥加上納仕候
一御檢地領名之儀者同町壹貳丁目ノ申上候通ニ御座候
一反別之儀者當町分右四ヶ所合貳丁八反四畝拾九步之場所ニ御座候
但海邊新田惣反別之内ニ御座候
一町御奉行所御代官兩御支配ニ而當時山田茂左衛門様御代官所ニ御座候

以上戊子書上

濱中茂昌淨書

御府内備考卷之百十三終

一當町起立之儀者熊井町ノ申上候趣ニ而寛永六巳年中彌兵衛治郎兵衛藤左衛門新兵衛利左衛門助十郎彦左衛門助右衛門右八人地所築立之儀御代官伊奈半十郎様之願出候處願之通被仰付同年地所築立出來之上惣名深川獵師町と唱當町之義者名主無之其砌ノ月行事持ニ而町名大島町と相唱申候右者新地出來以前者當地所南東之方海岸付ニ而西北之方地窪ニ有之島之形ニ相成居候ニ付相名付候哉ニ御座候夫ノ御茶御用其外諸役相勤無年貢地ニ御座候處寛文十戌年伊奈半十郎様御繩入有之御年貢地被仰付元祿七戌年十二月十七日當名主助之丞九代以前助右衛門之支配付被仰付同八亥年六月酒井河内守様安藤對馬守様再御檢地有之當町之高拾六石此反別壹町三反四畝五步御定有之其後正徳三巳年中町御奉行所

御支配ニ相成尤地方者前々之通御代官所ニ而當時兩御支配ニ御座候其餘委細之儀者熊井町ノ申上候通ニ御座候且又正徳元卯年五月中越中島町之内御奥六尺衆拜領地ニ渡り候節當町川岸屋敷之内中程ニ而拾九坪之坪橋臺御用地ニ被召上越中島町之渡候橋出來致當所川岸地面續東角ニ而右代地元坪之通被下置候尤當町地續之義ニ付其砌ノ別段代地ト相唱不申町内之籠罷在候且當所代地之義者北之方蛤町之邊東寄ニ而當町續候地所大猷院様御代御茶屋御用地ニ被召上寛文二寅年中右代地南之方川向越中島町續ニ而被下置其後元祿十二卯年町内東之方地先川筋堀割ニ付潰地ニ相成同十三辰年奥川町續ニ而代地被下置候右貳ヶ所ヲ大島町代地ト相唱申候尤右越中島町續代地之義者元祿八亥年御檢地後ニ付新高入ニ相成反別貳反相増候ニ付當町高拾八石五升此反別壹丁五反四畝五歩ニ相成申候

一 町内惣間數貳百五拾八間九寸

一 北側 東西之表間口百拾九間餘裏中百七間餘南北之西裏行貳拾三間餘東裏行貳拾七間

一 南側西角東西之表間口百拾八間半餘裏中百間半餘南北之西裏行七間東裏行七間半餘

一 同側東角東西之表間口貳拾間餘裏中貳拾間半餘南北之

西裏行八間東裏行八間半餘

一 四隣 東之方松平伊豆守様御屋敷西之方川向中島町南之方越中島町當町代地定淺屋敷北之方蛤町

一 里俗之唱當町並別拾貳ヶ町獵師共住居之處惣名濱拾三町ト唱候

一 自身番屋 間口三間 奥行四間

右者町内西之方橋際ニ有之先年ノ右地所ニ有來候得共建始年月等相分不申候

一 橋 長七間 中九尺

右者町内ノ中島町之渡候橋ニ而名目無之掛始年月相知不申寶永二酉年御掛替有之候尤當町並中島町ニ而見守仕候

一 橋

右者町内ノ越中島町之渡候橋ニ而越中島町一手持ニ御座候間委細之義者右町ノ可申上候

一 川

右者町内東南西之三方地先ヲ相流里俗大島川ト相申唱候南之方中拾六間西之方中八間半東之方中八間右南西之三方ニ有之候川筋者町内起立之比ノ堀割有之東之方ヲ相流候川之義者元祿十二卯年築地御普請御奉行深津

八郎右衛門様御掛ニ而町内町人所持屋敷御用地ニ被召上右川筋御堀割有之候

一 町内一手ニ而相勤候

上覽魚獵之義者享保二十卯年八月朔日

惇信院様 西御丸之被爲入候節初而簀引御用被仰付其砌ノ兩御丸様御三卿様魚獵上覽御用之節者簀引又者投網長繩船活いなせいごこかひ蚯蚓之類大小蜆蛤等撰立御鳥見方ノ御沙汰次第

御成先之差出シ尤蜆蛤之義者

御成之節ニ不拘御用被仰付候節者直ニ 御本丸之差上右御手當等者前々ノ御鳥見方御掛ニ而都度々々被下置候義ニ御座候

一 御檢地

右者元祿八亥年御檢地ニ而御役人御姓名委細熊井町ノ申上候

一 町内地方者御代官御支配ニ而武州葛飾郡西葛西領深川獵師町之内大島町ト相唱當時御代官山田茂左衛門様御支配ニ御座候

以上戊子書上

一 右代地之儀者元祿十二卯年築地御普請御奉行深津八郎右衛門様御懸ニ而元地之内東之方川筋新規御堀割之砌貳百貳拾八坪之處御用地ニ被召上堀道式ニ相成同十三辰年中元木挽町三丁目木置場之地所ニ而右代地ニ被下置候

一 町内間數拾貳間四尺五寸

一 万徳院大門西之方東西之間口五間餘裏中五間餘南北之西裏行拾七間半餘東裏行拾八間

一 同斷東之方東西之間口七間半餘裏中同斷南北之西裏行拾八間東裏行拾八間半餘

一 四隣 東之方奥川町西之方黑江町代地南之方川向黑江町北之方万徳院越中島町續

一 右代地之義者先年元地續北之方町並屋敷之内古來之義ニ而坪數等書留御座候得共右地所

大猷院様 御代御茶屋御用地ニ被召上淺草川邊ニ而一旦代地被下置候處是又御船藏御用地ニ被召上候旨申傳其後寛文二寅年六月廿五日越中島町續ニ而右代地被下置候處其砌水地ニ而家作出來兼御支配並御年貢等茂無之候ニ付追々地高ニ致御代官伊奈半左衛門様御支配付ニ相願御年貢上納致元地之高入被仰付候様度々御訴訟仕候處享保二十卯年願之通被仰付大島町分ニ相成御年

大島町代地奥川町續

貢上納被仰付同年ノ町並ニ相成候義ニ御座候尤右之節
御檢地等無御座候
一 町内間數三拾間東西之間口三拾間裏中同斷南北之裏行
貳拾間
一 四隣 東之方越中島町西之方定浚屋敷南之方曲淵日向
守様拜領御下屋敷北之方川向大島町元地
一 當代地御代官御姓名其外之義者委細元町ノ申上候且又
代地之義者一町ニ相立不申自身番屋無之万事元町之組
合罷在候

以上戊子書上

築出新地

一 當町起立之儀者九十五年以前享保十九寅年中稻生下野
守様大岡越前守様町方御勤役之節同所越中島脇御石置
場後口西之方海表幅凡百拾五間程之處自分入用を以築
立町屋ニ仕度尤海中滯通出州三千坪程在之候間此出州
を相浚右浚土を以地面築立可申左候得者廻船通行之辨
利ニも可相成且又新規中島町之長拾九間之橋自分入用
を以相懸新規修復共永々可仕右地代として上納金壹ケ
年三拾兩宛差上永拜借地ニ仕度旨三河町三丁目町人善
兵衛神田永井町町人權兵衛證人千住宿久右衛門名住所

不知外壹人都合四人申合稻生下野守様御番所之奉願候
處追々御吟味之上願之通被仰付稻生下野守様組與力本
所懸リ松浦安右衛門殿大岡越前守様同斷中田與一右衛
門殿町年寄樽屋藤左衛門奈良屋市右衛門喜多村彦右衛
門地割役樽屋三右衛門立合榜示杭御打渡有之築立出來
之上養生所付上納地ニ相成申候其後度々拜借人相替當
時疊町家持重藏同人方ニ同居金三郎兩人幼年ニ付後見
同町家主喜右衛門新看町家持與兵衛右三人之者共御請
負相續仕罷在候

一 町内間數 東西之南之方長延百貳拾壹間半北之方同九
拾三間南北之東之方同貳拾八間西之方同三拾貳間半
但町内之義者新規築立地之義ニ付間口裏行之差別無
之候間小間割諸入用之義ハ坪割を以差出來申候
一 四隣 東之方戸田備後守様下屋敷西之方大川口南之方
海手北之方同所定浚屋敷續上納地同所越中島拜借地大
島川向同所中島町
一 町内里俗町内を一圓ニ新地と相唱申候
一 自身番屋 間口三間 奥行貳間
右者町内西之方橋際ニ有之當所起立之節ノ相建候義ニ
可有御座候へ共書留燒失仕巨細之義相分り不申候
一 川 幅貳拾間

右者十間川流末ニ而大島川と相唱町内北之方ヲ相流大
川口流出申候

一 橋 長拾九間 幅七尺

右者町内ノ中島町之相渡り候橋ニ而大島川ニ懸渡シ有
之名目無之里俗新地橋と相唱申候右者當町起立之處ニ
申上候通拜借上納請負人一手持ニ而享保十九寅年以來
新規修復共仕來り申候義ニ御座候

一 稻荷社 間口九尺 奥行三間半

右者町内東之方有之柴稻荷と相唱來勸請之年代相知不
申町内持ニ有之候

一 芥改高札場

右者町内西北之方ニ相建有之東西之南之方拾六間北之
方拾三間南北之東之方拾三間西之方五間此坪百三拾七
坪七合五夕之場所當町起立以前ノ芥改持場ニ而御郡代
並ニ町方御懸り御府内十五ヶ所被建置候内ニ有之御文
言並個所共左之通

江戸 中ちりあくた
捨船 深川越 中島後
芥捨場へ遺捨べし
若中途ニ而捨るおゐてハ
曲事たるへき者也

御府内備考卷之百十四 深川之四

戊七月 簡所附

- 一 芝金杉裏壹町目海際 一ヶ所
- 一 淺草御藏稻荷社下石垣際 一ヶ所
- 一 同所 平右衛門町末 一ヶ所
- 一 元新錢座 一ヶ所
- 一 本湊町稻荷橋河岸 一ヶ所
- 一 船松町入堀河岸 一ヶ所
- 一 明石町橋際 一ヶ所
- 一 明石町海手角 一ヶ所
- 一 濱御殿貳拾間橋出口 一ヶ所
- 一 深川榊原越中守屋敷跡 一ヶ所
- 一 北新堀大川端 一ヶ所
- 一 靈岸島四日市新川口 一ヶ所
- 一 元濱町川口 一ヶ所
- 一 濱町阿部豊後守屋敷前 一ヶ所
- 一 箱崎田安殿屋敷大川之方 一ヶ所
- 以上
- 右之通書留有之候
- 一 町御奉行一手御支配ニ御座候
- 一 當町之儀者葛飾郡西葛西領之内ニ有之候

一非人小屋

右者當町東之方ニ有之最初立始年月相知不申候
以上戊子書上

越中島拜借地

一町内起立之義者百九年前享保五子年因幡町家持町人
角谷彦三郎と申者石方御用相勤候節久能惣御門番榊原
越中守様元上地跡御石置場水地場所坪數三千九百坪餘
自分入用ヲ以築立爲御忠節兩國橋上之御上場脇之關板
並本所一ツ目御石置地ニケ所都合三ケ所永々新規御修
復共可仕候間右水地之場所永拜借地ニ被成下置候様材
木石御奉行様へ奉願同六丑年中願之通被仰付御石置場
跡御地面築立元文四年中一ケ年金三拾兩宛上納仕
其後寛延元辰年中右地所家作御免被成下候ハ、爲其加
兩國橋上之御上り場箱櫃ニ有之候高水之節保方不宜自
然と御入用相懸り候ニ付右 御上り場並ニ御供船着場
二ケ所自分入用を以石垣石壇新規修復共仕前書御用相
勤上納金共是迄之通可相納旨奉願候處同七巳年二月廿
七日能勢肥後守様町方御勤役之節御同所於御内寄合大
岡越前守様御列座ニ而願之通被仰付同年四月六日右兩
御番所言上帳ニ被置置候然ル處天明二寅年七月中牧野

天隅守様町方御勤役之節御同所御懸リニ而右彦三郎拜
借地之内貳千貳百六十八坪餘御用地ニ被召上殘坪千六
百三拾貳坪永拜借地ニ被仰付御普請場所御用勤方ハ仕
來之通尤上納金貳拾兩相減金拾兩宛年々上納可致旨被
仰付同八卯年四月廿九日曲淵甲斐守様町方御勤役之節
右兩御番所言上御帳末ニ記被置且又町銘是迄深川越中
島角屋鋪と書上來候處已來深川越中島拜借地と相唱申
度旨寛政三亥年四月中町年寄樽與左衛門方へ申立願之
通申渡有之當時彦三郎連綿相續いたし罷在候御普請場
所御用相勤並ニ上納金共相納來候義ニ御座候

但前書御用地ニ被召上候場所之義者當時同所定浚屋
鋪並ニ同所續上納地ニ相成申候

一町内惣間數 五拾五間東西之表間口五拾五間裏中六拾
五間南北之東裏行三拾貳間餘西裏行貳拾貳間

一四隣 東之方深川定浚屋鋪同所町續上納地西之方同
所築出新地南之方同所築出新地北之方大島川向同所中
島町

一町内里俗新石場と相唱申候右者當町並ニ定浚屋鋪同所
續上納地ヲハ新石場と相唱越中島町ハ古石場と相唱候
譯元一圓御石置場ニ而越中島町之分當時石置場ニ無之
當所並ニ定浚屋敷邊賣石置場等有之候故右之通相唱申

候又此邊一圓ニ越中島と唱候者榊原越中守様元御屋敷
上り地ニ付彼之唱有之候

一自身番屋之儀者町内無之同所築出新地之組合町用相勤
申候

一川 中貳拾間

右者十間川流末大島川と相唱東之方定浚屋敷ノ西之方
築出新地へ相流申候

一町内町御奉行一手御支配ニ御座候

一町内葛飾郡西葛西領之内ニ有之候

一稻荷社 間口九尺裏行貳間半

右者町内東之方ニ有之豊授稻荷と相唱候由來相知不申
候神躰丈ケ八寸勸請之年代相知不申町内持ニ有之候
以上戊子書上

定浚屋敷

一町内起立之儀者四拾八年前天明元丑年中三俣富永町
ニ罷在候町人中川屋長兵衛と申者本所割下水五ケ所御
普請皆御入用を以御目論見有之町中入札町觸有之右長
兵衛落札ニ付町年寄樽屋與左衛門懸リニ而證據金差上
候得共右御普請御見合ニ付證據金御下ケ有之依之右長
兵衛相願候者今度御目論見御仕様書之通本所割下水五

ケ所自分入用を以相浚以來永々定浚致並一ケ年金百廿
兩宛上納可仕候間深川越中島角屋彦三郎拜借地之内千
五百坪右割下水定浚爲助成と永拜借地ニ仕度旨天明二
寅年二月中牧野大隅守様町方御勤役之節奉願候得者同
年七月廿四日願之通被仰付同月廿八日牧野大隅守様組
與力仁杉幸右衛門殿曲淵甲斐守様組與力嶋佐次右衛門
殿町年寄地割方手代共立合地渡有之町銘之義深川定浚
屋鋪と相唱申度旨同五巳年五月中町年寄奈良屋市右衛
門方之申立伺之上同月六日同人方ニ而申渡有之候當時
右長兵衛續合宗五郎と申もの割下水定浚並年々上納金
差上請負連綿と相續致當町ニ罷在候

但本文拜借人長兵衛元住居三俣富永町と申町深川拾
七番組之内ニ有之名主治左衛門と申もの相勤罷在候
處寛政二戌年二月中大川浚御普請之節右町御取拂ニ
相成名主治左衛門義ハ退役致外之引移申候

一前書定浚御請負場所南北本所割下水五ケ所三分左之通
南割下水 長五百三拾壹間
中貳間

但西之方本所御米藏際ノ東之方横川通長崎橋之際
迄
北割下水 長三百間餘
中貳間
但西之方松倉町源向寺前堀留ノ東之方横川縁迄

東南割下水 長貳百五拾間 里俗菊川堀又ハ齋藤堀と唱

但西之方横川通菊川橋際ハ東之方猿江御材木藏後

東中割下水 長五百五間 里俗金糸堀と唱候

但西之方横川通長崎橋際ハ東之方拾間川縁迄

但西之方北本所出村町本法寺大法寺境堀留ハ東之

一町内間敷 東西之表間口六拾三間裏巾六拾間半南北之

一四隣 東之方曲淵日向守下屋敷西之方越中島拜借地南

一町内里俗新石場と相唱申候右者賣石置場在之候ニ付申

一自身番屋町内ニ無御座候同所築出新地自身番屋之組合

一川之義者前書越中島拜借地ニ而申上候通ニ御座候

一町内東之方ハ南之折廻シ地境ニ在之候道地之譯並同所

御高家戸田備後守様御留守居曲淵日向守様兩御屋敷起

立之儀者當町並越中島拜借地築出新地當町續上納地越

中島町右五ヶ町地先年破欠水地ニ在之候所三十七ヶ

年以前寛政二戌年二月中町御奉行初鹿野河内守様御勘

定御奉行久世丹後守様御郡代伊奈攝津守様御目付坂部

十郎左衛門様御懸リニ而大川浚御普請之節右水地場所

土捨場ニ被仰付一圓御埋立地出來之上同年五月二日御

勘定方ハ町方之御引渡ニ相成同十二月八日町方ハ加役

方之御引渡被成長谷川平藏様御懸リニ相成人足寄場付

地所と相唱候所同七卯年四月十五日人足寄場御奉行村

田鎮太郎様同元ハ役金指專八郎様伊奈重左衛門様御懸

リニ而町方之御引渡ニ相成近々一ツ橋様御拜借地ニ相

成候御沙汰御座候處道地無之御差支ニ付當町東之方大

島町境ニ而中貳間通被召上新規式被仰付同南裏之方

ニ而右替地被下置同五月三日一ツ橋様炭薪置場御拜借

地ニ相渡候處同十月三日御返地ニ相成如元町方之御請

取同十午年六月中當町南裏通より同所續上納地築出新

地迄折返シ中貳間通長七十六間之道式願之通御除被下

同月十七日備後守様日向守様兩御屋敷ニ相渡候儀ニ御

座候

一町御奉行所一手御支配ニ御座候

一町内葛飾郡西葛西領之内ニ有之候

一稻荷社 間口七尺五寸 奥行八尺

右者町内南之方中程ニ有之寶生稻荷と相唱候由來相知

定浚屋鋪續上納地

一當町起立之儀者四拾七年以前天明二寅年七月中深川越

中島角屋彦三郎拜借地之内御用地ニ被召上同所定浚屋

敷ニ相渡右殘地貳百五拾坪餘有之候處深川大島町ニ罷

在候町人和泉屋文藏と申者右御地所家作地ニ取立申度

尤登冥加年々金四拾兩致上納永拜借地ニ仕度旨同年八

月中牧野大隅守様町方御勤役之節右御役所之奉願候得

者同十月廿四日御同所ニ而願之通被仰付同十一月四日

牧野大隅守様組與力本所懸リ仁杉幸右衛門殿曲淵甲斐

守様組與力同島佐次右衛門殿町年寄並町地割役手代共

立合之上地渡有之町名之儀者深川定浚屋敷續上納地と

相唱申度旨同五巳年五月中町年寄奈良屋市右衛門方之

申立伺之上願之通同月六日同人方ニ而申渡有之當時拜

借人文藏續合のもの泉屋文藏連綿相續いたし上納金

御府内備考卷之百十四 深川之四

一町御奉行所一手御支配ニ御座候

一當町葛飾郡西葛西領之内ニ有之候

越中島町

一當町起立之儀者往古島ニ有之其節乍恐久能山惣御門番

御勤被遊候神原越中守様御武士地御拜借之御屋敷ニ而

有之候處海面之築出し候御地面ニ而歳々辰巳之風強ク

御座候而高波之節御屋敷段々欠崩レ御屋敷地流失致し

候ニ付御上り地ニ被遊候由申傳ニ御座候然ル處百四拾

年程以前元祿年中大川落口上總湊縁通り埋り出水之節

吐方不宜候由ニ而御浚御用被仰付右浚土ヲ以神原越中

守様御上地跡之土捨場ニ相成右浚土ニ而地高ニ相成原

地ニ而有之候處去ル百拾八歳以前正徳元卯年右原地之

場所御家人様方四拾三人之御拜領町屋敷ニ被仰付其砌

私の四代以前祖々父平助と申者御拜領地御一統様御預り申上地守役相勤 御公邊向其外共ニ平助万事取賄來り申候

一町内間敷 表小間七拾七間五尺八寸南側東西え表間口四拾五間半餘裏中五拾五間半餘南北え裏行東之方拾三間半餘同西之方拾四間半餘西側南北え表間口拾九間半餘裏中拾八間半餘東西え裏行北之方拾四間半同南之方拾四間半餘

一南側裏通り西側南北え表間口五間餘裏中五間餘東西え裏行南之方拾三間餘同北之方拾四間北側東西え表間口七間餘裏中七間半南北え裏行東之方九間同西之方九間半餘

一四隣 東之方松平伊豆守様御下屋敷西之方大島町代地南之方曲淵日向守様御下屋敷赤井彦之丞様御屋敷越中島新田松平阿波守様御家來稻田九郎兵衛抱屋敷越中島新田平助請地北之方川向大島町

一越中島町之儀御拜領之砌者右問屋之賣石之置場ニ貸シ置候地所茂有之候事故年來も相立候事故里俗自然と宇ニ古石場と唱來申候

一町屋敷拜領人名前左之通
御本丸御小人 池田 三藏
一七拾坪餘

- 一同 御留守居番同心 小股和助
- 一同 御本丸御小人頭 持
- 一同 御本丸御小人 門田 佐五兵衛
- 一同 同御小人 中根 銀十郎
- 一同 御本丸御小人頭 持
- 一同 御本丸御小人 小野澤 重三郎
- 一同 御本丸御小人 永田 吉之丞
- 一同 御本丸御助方 久保田 傳十郎
- 一七拾貳坪餘 御本丸表陸尺 進藤 彌八郎
- 一七拾六坪餘 御裏御門御切手番同心 長谷川 平四郎
- 一七拾貳坪餘 御本丸御留守居番同心 大島 周藏
- 一八拾坪餘 御普請方御門番人 池田 衆助
- 一七拾坪餘 御本丸御廣鋪御小人 佐々木 鐵之助
- 一七拾貳坪餘 右者正徳元卯年五月中之御拜領ニ而其節の地主様方御

持替ニ相成候義無御座當時御勤向前書之通ニ御座候

一拜借地 千貳百坪 平 助
右者町内地續辰巳之方ニ有之此地所起立之儀者前書申上候御家人様方御拜領地ニ罷成平助地守致シ候地所段々取立來候内海端ニ有之候故御拜領地辰巳之方ニ而御家人様方御地所欠崩流失致シ候御地所茂有之候ニ付打捨置候得者亦々御拜領地不殘退轉可致と奉存候ニ付去ル九十九年以前享保十五戌年町御奉行諏訪美濃守様え右波欠ヶ流失之地所地續波強ク突掛ヶ候場所開發築立之儀奉願上願之通リ築立被仰付其後歳々物入丹誠仕候地所出來之上町屋家作御免之義並御拜領地ニ奉願上候處延享四卯年十月中町御奉行馬場讚岐守様御番所え平助義被召出願之通リ被仰付其節の御冥加金壹ヶ年金拾六兩宛當時迄引續御上納致來り申候

一川 中拾六間程
右者當町表手通り北之方ニ有之拾間川流末と申傳え來申候

一橋 長拾四間 中八尺程
右者拾間川え懸渡有之候板橋ニ而尤大島町之方橋臺ニ付候地所道數長八間半ニ横道中貳間半橋付之地所ニ御座候尤橋掛ヶ替修復等之義者平助方ニ而取斗來申候ニ

付里俗平助橋と唱來り申候

一稻荷社
右者町内東之方表手河岸通り行留往還之角ニ有之尤土藏作ニ而町内御拜領之節の安置致シ山口稻荷と申唱來り候

一右者前書ニ申上候通四代以前祖々父平助の當時平助迄引續町内一圓ニ御拜領地引請地守致シ來り殊に御町方御支配御代官所御支配新地築立開發等茂仕候義ニ而先年の名主無之平助月行事ニ持切ニ致シ御公邊向其外共ニ取賄相勤來申候

本所茅場町二丁目代地

以上戊子書上

一當町起立之儀者明和五子年十一月廿二日元地本所茅場町貳町目河岸の起火仕町内惣間數京間五拾五間九寸八分之内貳拾七間四尺七分五厘此坪五百五十貳坪五合三夕八才程之處燒失致候ニ付同六丑年七月八日右類燒場所地主共町御奉行牧野大隅守様御番所え被 召出類燒地面之分猿江御材木藏火除御用地ニ被 召上同年十月廿一日右爲代地當時之場所深川佃町續稻垣對馬守様御下屋鋪御上り地跡ニ而惣間數田舍間四拾五間六尺三

寸九分餘代地ニ被下置候ニ付即町名本所茅場町貳丁目
代地と相唱申候尤茅場町起立之儀者委細元地より可申
上候

一町内東西之表四拾五間六尺三寸九分餘裏巾同斷南北之
裏行東西共貳拾間宛

但片側町

一四隣 東之方深川南松代町代地西之方松平阿波守様
御下屋鋪南之方同斷北之方貳十間川向深川永代寺門前
町

一四百六拾六坪六合六才餘 松平阿波守様御抱屋鋪
右者享和元子年十二月中當町之内町人所持屋鋪ニ御座
候處阿波守様御抱屋敷ニ相成則御同入下屋鋪之御圍込
ニ相成居り申候

一川 幅貳拾間

右者貳拾間川と唱町内北之方地先ヲ相流東之方南松代
町代地前ノ西之方阿波守様御拜領地前之方ニ相流申
候

以上戊子書上

南松代町代地

一當町元地之儀者往古武州葛飾郡南葛西領深川村之内寛

右貳ヶ所共拜領之年月書留燒失相分不申候

一川 中貳拾間

右者貳拾間川と唱當町北之地先ニ有之東之方深川佃町
ノ西之方本所茅場町代地ニ相流申候

一御檢地

右者元祿八亥年酒井河内守様御繩入有之當所ノ代地被
下置候後明和七寅年十一月伊奈半左衛門様再御檢地有
之候

一當町西葛西領之内ニ御座候

一町御奉行御代官兩御支配ニ而當時山田茂左衛門様御代
官所ニ御座候尤拜領地之分者町御奉行御一手御支配ニ
而公役銀壹ヶ年銀六匁差出申候

以上戊子書上

佃町

一佃島獵師之儀者天正年中ノ御由緒ヲ以

御成先漁獵御用御膳御肴御用御膳白魚御用其外諸御用
品々相勤來候處享保年中ニ至リ 御成先押網御用被仰
付候處獵師共近年困窮仕獵道具等不整ニ而御用相勤兼
候ニ付助成地之儀享保四亥年六月中大岡越前守様御勤
役中奉願候得者同年十月中深川八幡前ニおゐて萩原源

文之頃百姓町屋御免ニ相成本所茅場町貳丁目續ニ而深

川南松代町壹町目貳町目三町目と相唱正徳三巳年五月

中町方御支配ニ相成候處六拾四ヶ年以前明和五子年十

一月町内類燒致候ニ付同六丑年十月町御奉行牧野大隅

守様御懸ニ而右壹町目之内反別貳反三畝貳拾七步此高

貳石八斗六升八合並拜領地貳ヶ所之分三百四拾三坪八

合之地所藏江御材木藏御火除御用地ニ被召上右代地當

時之場所稻垣對馬守様御下屋鋪上ヶ地之内ニ而元坪之

通代地被下置前書之町名相唱申候尤右壹町目殘地貳丁

目三丁目一圓寛政二戌年中是亦御材木藏御火除地ニ被

召上代地之儀者當時深川常盤町壹町目貳丁目三丁目と

相唱四丁目之儀者元地ニ罷在南松代町と而已相唱申候

一町内東西之間口五拾三間三尺四寸裏巾同斷裏行南北之

東西共貳拾間

一四隣 東之方町西之方本所茅場町代地南之方松平阿波

守様御下屋鋪北之方貳拾間川向永代寺門前町

一町屋鋪拜領人名前左之通

一百七拾壹坪九合餘

御春屋

御門番

大代新太郎

蓮池

御金藏同心

山路十四郎

八郎殿上リ地壹ヶ所拜借被仰付其御ノ町家作仕佃町と

唱右助成ヲ以 御成先漁獵御用御膳御肴御用御膳白魚

御用御鳥餌御用其外諸御用品々無代ニ而相勤候得共外

獵師共と者違御雇賃銀等一切頂戴不仕 御褒美被下物

等頂戴仕候儀往古ノ數十度御座候今以 御褒美被下候

節者 兩御丸共

御城之被 召出頂戴仕候

但押網と申候者地引網同様ニ而地引網ノ者少々大イ

成方之由御座候

一享保六丑年中大岡越前守様御懸リニ而深川小松町續ニ

而千三百八拾餘坪右佃町添地ニ被下置候處寛延二巳年

九月中能勢肥後守様御勤役之節御用地ニ差上申候尤右

替地見立相願候様被 仰付事

一町内東西之表五拾八間三尺裏巾六拾間南北之裏行東之

方四拾九間西之方四拾七間

一四隣 東之方三左衛門屋鋪西之方深川南松代町代地

南之方海邊新田北之方貳十間川向深川永代寺門前町

一町内里俗海と唱申候右者往古佃町土手下海ニ而有之候

節海際之町故右之通唱來申候

一川 中貳拾間

右者貳拾間川と唱當町地先北之方ニ有之東之方三左衛

門屋鋪之西之方南松代町代地之方之相流申候
一蓬萊橋 長十六間 幅九尺

右橋者先規有之永代寺門前町之方橋臺貳拾五坪者元永代寺境内門前町之内有之候處當町起立以前萩原近江守様御屋鋪之節右橋臺地前被差上候處境杭相分兼候ニ付双方町役人立會享保六丑年九月廿七日傍示杭打申候右橋新規懸渡修復懸直共當時者佃町自分入用ヲ以一手ニ而仕候且又寬延三年四月申深川邊ニ御成御沙汰ニ付蓬萊橋急ニ掛直可申旨被仰付候ニ付町御奉行能勢肥後守様之御願申上御金五拾兩拜借仕候

一南通土手 長凡六拾間 横五間 此坪三百坪

右者佃町被下候節佃島獵師共之御預ケ被仰付候

一住吉社 社九尺四方 拜殿九尺二六尺

右者拜借地之内有之勤請中古之由ニ承候得共年月等駈と相分不申町内持ニ御座候

以上戊子書上

久右衛門町分

三左衛門屋鋪

一三左衛門屋鋪伯隆屋鋪兩町起立之儀者古證文ニ深川八

之賣渡同十二年二月亥兄ノ町醫師小林玄桂之賣渡殘り間數百拾七間貳尺地主三左衛門ノ是又明和八亥年右小林玄桂之賣渡天明五巳年右貳ノ所地面合貳拾間貳尺玄桂ノ安藤對馬守様御直名前ニ而御讓請寬政八辰年十月申御由緒有之御同人様ノ新材木町平八店甚助之御讓渡被成候處寬政九巳年壬申七月申寄合伊藤初五郎様御直名前ニ而御讓請被成寬政十二申年十二月中主膳様と改名有之文化十三年十二月中御同所様ノ龜井大隅守様之御讓渡ニ相成當時御同人様御所持ニ而武士家作ニ相成居申候

但本文玄桂ノ天明五巳年九月中安藤對馬守様御直名前ニ而御讓請被成候ニ付曲淵甲斐守様町方御勤役中右御番所之御添翰奉願山村信濃守様御番所之御訴申上御添翰頂戴屋鋪御改御月番坂部善次郎様御役所之奉願對馬守様御使者右玄桂町役人一同被召出永井傳右衛門様御列座ニ而善次郎願之通被仰付之寬政八辰年十月中御由緒有之町人新材木町甚助申請候ニ付同人ノ御月番小田切土佐守様町方御勤役之節右御番所之御添翰奉願山村信濃守様御番所之御訴申上御添翰頂戴屋鋪御改御月番田村又四郎様御役所之奉願對馬守様御使者右甚助町役人一同被召出坂部善次郎

幡前大島川通無年貢地伊勢伊勢守抱屋鋪と有之右者正徳之比御勘定御奉行御勤役被成候由年月不知御同人ノ小宮山喜之助様奥方ノ惣間數四十間四尺之内貳拾間貳尺被進享保十一年九月中右奥方ノ湯島邊ニ罷在候町人遠州屋三左衛門と申者之御讓渡ニ相成候ニ付同年中諏訪美濃守様町方御勤役之節右御番所之町銘之儀深川久右衛門町分三左衛門屋鋪と相唱並町家作御免古町同様町方ニ被仰付公役銀上納仕度旨奉願候得者願之通被仰付右殘地間口貳拾間貳尺享保十五戌年九月中御目見醫師關本伯隆殿之是又右奥方ノ御讓渡被成候ニ付同年町銘深川久右衛門町分伯隆屋鋪と相唱前書同様町家ニ仕度段地主伯隆ノ同御番所之被相願候處同年月日不知願之通被仰付候依之兩町ニ相分レ申候町銘之儀地所之事ニ付書上候節前書之通深川久右衛門町分三左衛門屋敷斷伯隆屋鋪と斗認來申候右久右衛門町分と肩書致候譯書留者無之候得共私先祖久右衛門儀久右衛門町開發任同支配請候ニ付久右衛門町分と古來ノ認來候哉ニ奉存候

一三左衛門屋鋪惣間數之内表間口三間寬延元辰年壬申七月申地地主三左衛門ノ有馬備後守様御内貞壽院之賣渡賣曆六年九月中貞壽院代高橋文右衛門ノ町醫師宮崎玄兄

樣筒井次左衛門様御列座ニ而又四郎様願之通被仰付之同九巳年壬申七月中御寄合伊藤初五郎様御直名前ニ而甚助ノ御讓請被成候ニ付村上肥後守様町方御勤役之節右御番所之御添翰奉願小田切土佐守様御番所之御訴申上御添翰頂戴仕屋鋪御改御月番筒井次左衛門様之奉願初五郎様御使者右甚助町役人一同被召出田村又四郎様佐野宇右衛門様御列座ニ而次左衛門願之通被仰付之文化十三年十二月中龜井隱岐守様御讓請被遊候ニ付双方ノ御書狀繪圖面ヲ以屋鋪御改御月番會我熊之助様御役所之被仰立其段兩御屋鋪ノ町役人之御達有之候間町役人共ノ永田備後守様町方御勤役之節右御番所之御訴申上岩瀬加賀守様御番所之茂申上被御聞置同月十六日右兩御屋鋪御使者町役人一同會我熊之助様御役所之被召出建部荒治郎様松井重左衛門様御列座ニ而御願之通被仰付候儀ニ御座候

一三左衛門屋鋪間數東西之表貳拾間貳尺裏中貳拾間五尺南北之裏行東之方五十三間西之方五拾壹間
但龜井大隅守様不殘御持町屋鋪
一四隣 東之方深川伯隆屋鋪西之方同佃町南之方海邊新田之内龜井大隅守様御抱屋鋪北之方大島川向永代寺

門前町

一川 幅貳拾間

右者拾間川流末ニ而大島川と相唱三左衛門屋鋪北之方
ヲ相流末者大川之流出申候

一入堀 巾三間
長二十間

右者當町東之方伯隆屋鋪地境ニ有之候

一橋 長二間巾壹丈

右者入堀之懸有之土橋ニ而三左衛門屋鋪伯隆屋鋪兩町
組合之橋ニ而懸始年代相知不申候

一石垣扣土手

右起立之儀者元祿年中乍恐

桂昌院様御守本尊大師空海作辨才天一跡永代浦之御安
置被成 遊度 御立願被爲在

常憲院様御本社拜殿其外共ニ御建立被成下置右辨才天
堂社御普請等之儀柳澤出羽守様御懸リニ而於 御城護

持院先大僧正隆光之被仰渡候由別當僧福院記録ニ有之
右社頭爲波除石垣扣土手丈夫ニ無之候而者風波烈敷場

所ニ而難保且地續深川者勿論本所邊迄茂高波之難難斗
一同御救として元祿十一寅年中新規御入用ニ而御築立

有之右石垣扣土手之儀元稻垣和泉守様當時松平阿波守
様御屋敷西之方武州葛飾郡砂村新田迄石垣扣土手高

サ壹丈四尺ハ壹丈八尺迄土手敷五間半ハ六間迄長凡千
五百間餘海中綾杭貳夕通檜葉尺角ニ而其節御普請御奉
行深津八郎右衛門様御懸ニ而出來仕御代官伊奈半左衛
門様之御引渡後寶永二酉年中石垣扣土手亂杭共ニ損候
處御普請御手傳水野隼人正様之被仰付御修復有之其後
書留無之伊奈半左衛門様ニ而度々御修復被成下候後御
修復無之天明七未年中伊奈半左衛門様御懸ニ而右石垣
扣土手之内吉祥寺門前辨天境内之掛凡長三拾間程石垣
扣土手御修復有之候

但右石垣西崩所之儘ニ而海手ハ凡拾間程引下新規御
築立左之通有之

元久右衛門町ハ佐賀町代地
明地海手之方

一波除堤 海長貳百八拾間餘 但 平均高五尺八寸
馬踏六丈 鋪三丈壹尺

右者享和元酉年十月中深川川々之内拾間川流末亥之堀
通六万坪町角ハ洲崎辨天脇通之流夫より永代橋下之方
ニ而海面之流落候川筋浚土ヲ以本文波除堤御築立御普
請有之右御懸御勘定御奉行中川飛彈守様同御吟味役金
澤瀨兵衛様御代官大貫次右衛門様御勘定金田左仲太様
御普請役推名幸三郎様川窪和三郎様林又太郎様星野清

助様町御奉行根岸肥前守様但與力佐野五郎右衛門殿小
田切土佐守様但與力加藤勘助殿懸り被仰付之候

一右波除堤長貳百八拾間餘之内百四拾九間餘者關東種橋
棟梁岡田次助倉田屋清右衛門兩人之被仰付之内百三拾
壹間者名主久右衛門之被仰付之

一本所川々並道造深川共前文之通川浚御普請皆御入用ヲ
以同年三月中ハ御取懸有之右拾間川流末永代橋下之方
大川口迄之御浚者同年十月廿日ハ御取懸り銘々町内地
先請ニ被仰付之

右川筋御浚之内吉祥寺門前町久右衛門町入船町佐賀町
代地伯隆屋鋪三左衛門屋敷右六ヶ町長延平均百七拾八
間五尺四寸横拾貳間壹尺八寸深壹尺四寸御仕様ニ而名
主久右衛門一手引請ニ被仰付候儀御座候

一當町葛飾郡西葛西領之内ニ御座候

一町内町御奉行御一手御支配ニ而兩御支配ニ者無御座候

一舊家

名 源 右 衛 門
先名久右衛門
禪儀有之改名

右先祖久右衛門儀者百四拾年程以前元祿年中深川八幡
表之方ニ住居仕罷在候處百廿八年以前元祿十二卯年十
月十二日深川築地武家屋鋪割地之前町屋鋪ニ被仰付候

間望之者ハ伊奈半左衛門殿深津八郎右衛門殿宅之願書
差出候様町御觸在之候ニ付洲崎辨天前御築地之内四千
十二坪貳合九夕此御代金三百七拾壹兩と銀八匁貳分但
百坪ニ付金九兩壹分之割合ニ而百廿六年以前元祿十六
未年中右御地所御買請開發仕度旨御代官伊奈半左衛門
様之相願前書之通御代金上納仕則久右衛門町壹丁目貳
丁目三丁目と相唱古町同様家作 御免公役銀上納町方
ニ被仰付被下置候様奉願候得者同年月日不知願之通被
仰付久右衛門儀名主役相勤右地面不殘壹人ニ而所持仕
罷在候處追々家作取立右地所町人共之賣拂候儀ニ有之
百拾六年以前正徳三巳年壬五月中町御奉行坪内能登守
様松野壹岐守様丹羽遠江守様御勤役之節右町之儀町方
御支配ニ被仰付久右衛門町三丁目之儀者六檢三年前
明和三年六月申年中町年寄奈良屋市右衛門方ニ而取調之
上同七月八日御代官伊奈備前守様御家來吉田清大夫殿
志村吉兵衛殿町御奉行依田豊前守様組與力本所掛磯貝
藤兵衛土屋越前守様組與力同斷山本茂一郎殿町年寄手
代町地割方手代町地割方手代共立合久右衛門町三丁目
並名主其四郎元支配石川町兩町共御引渡有之正徳三巳
年巳前ニ立辰伊奈備前守様御支配ニ相成此兩町平井新
田石小田新田と變名致其御潮竈補理里俗潮濱と相唱候

處潮寄兼無間茂潮竈相止當時者武家方抱屋鋪等ニ相成當時御代官樞本兵五郎様御支配所ニ有之且又久右衛門町壹丁目貳丁目之儀者三拾八ヶ年已前寛政三亥年八月六日九月四日兩度高波ニ而海手石垣扣土手共打崩町家作流失溺死人等有之右石垣扣土手御修復其外共品々町年寄樽與左衛門方ニ而取調有之同六寅年十二月十一日町御奉行小田切土佐守様御懸リニ而久右衛門町外貳ヶ町共右御番所ニ惣地主共被召出爲後難右地面被召上永明地ニ被仰付地主共之銘々御地代金私先祖久右衛門買受直段ヲ以被下置其外御手當等も有之石傍示洲崎辨天前壹ヶ所佐賀町代地角ニ壹ヶ所立被置御文言寫左之通御座候然ル處前書私儀案外ニ重立候支配相離レ殘支配者纔ニ當町並伯隆屋鋪二ヶ所至而小町ニ而名主役相續も難相成元祿年中久敷名主役相續致罷在候儀ニ付格別之 御仁惠ヲ以三十四ヶ年以前寛政七卯年二月中小田切土佐守様御掛ニ而深川築出新地越中島拜借地定凌屋鋪同所續上納地右四ヶ町是迄行事持之處新規私え支配付被仰付名主役相續基本と冥加至極難有奉存然ル處貳十五ヶ年以前文化元子年十一月中根岸肥前守様町方御勤役之節支配築出新地之内賣女御吟味一件ニ付名主役御取放被仰付奉恐入何卒再勤之儀御憐愍奉願候處

十五年以前文化十一戌年二月中乍恐 文照院様百回 御忌 御救ニ 御免被仰付引續名主役再勤願之通被仰付且又佐賀町代地明地之儀者元御年貢地ニ付御代官大貫次右衛門様御引渡ニ相成御同所御掛ニ而寛政七卯年十月中深川獵師町並海邊新田之右明地見守被仰付久右衛門町入船町跡明地之儀樽與左衛門方ニ而同九巳年壬七月申吉祥寺門前町入舟町當町伯隆屋鋪三十三間堂町續入舟町永代寺門前町同仲町同山本町同東仲町右九ヶ町之見守被仰付右明地異變有之入用出銀之儀者吉祥寺門前町外五ヶ町者小町ニも有之相除永代寺門前四ヶ町ニ而割合出銀可致旨申渡有之十二ヶ年以前文化十四丑年九月十七日右久右衛門入舟町立跡明地之内三千三百七拾八坪餘與御醫師澁江長伯様御持ニ相成御藥草植付場御願濟之上御同人御手付飯田源之助殿梅澤新十郎殿近藤金之助殿町御奉行永田備後守様組與力後藤三郎兵衛殿岩瀬加賀守様組與力中村又藏殿町年寄手代並町地割方手代共出役引渡相濟同十一月十三日右明地之内道式長ヲ貳百五間中四間御藥草植付場御圍込御願濟之上前書同斷出役有之引渡相濟九ヶ年以前文政三辰年四月廿八日右明地石垣際通土手外三尺通相除其外御藥草植付場御願濟之上前書同斷出役有之引渡

相濟此段見守町々書上可仕處久右衛門町起立高波以後品々變地譯等兼私申上候

石傍示

一 竿石長サ根入共七尺五寸ツ、捨杓石大サ三尺四方高サ三尺右何れも伊豆小松青目石ニ而竿石水磨兜巾頭ニ而捨杓石者上端鑿切りニいたし根入深サ壹尺五寸

御文言寫

葛飾郡永代浦築地

此所寛政三年波あれの時流レ死するもの少からす此後高なみの變はかりかたく流死の難なしといふへからす是によりて西は入船町ヲ限り東者吉祥寺前ニ至るまで凡長貳百八十五間餘の所家居とり拂ひ永くあき地になしおかるゝもの也

寛政六甲寅十二月 日

以上戊子書上

久右門町分

伯隆屋鋪

一 町内起立之儀委細三左衛門屋敷書上候通ニ御座候
一 町内貳拾間貳尺間口享保二十卯年閏二月中地主關本伯隆殿町人堺屋市兵衛之賣渡同年五月中町人山田屋太

御府内備考卷之百十五 深川之五

郎兵衛之賣渡元文三午年九月中町人朽木屋平四郎之賣渡寛延二巳年十二月中町人遠湯屋五郎左衛門之賣渡候處右惣間敷之内間口四間天明六年七月中五郎左衛門町人車屋喜平次之賣渡寛政八辰年十月中由緒有之喜平次町人加賀屋甚助之讓渡寛政九巳年閏七月中御寄合伊東初五郎様御直名前ニ而御讓請被成同十二年十二月主膳様と御改名有之文化十三年十二月龜井大隅守様之御讓渡相成當時御所持有之武士家作ニ相成居申候殘地貳間半五郎左衛門同十三間五尺傳左衛門兩人ニ而所持仕罷在候且又關本伯隆殿者當時伯曲殿と申御醫師之由ニ御座候
但右御讓渡之度ニ町御奉行屋鋪御改方之御願手續等之儀者三左衛門屋鋪書上申候通御座候

但片側町

一 四隣 東之方龜井大隅守様御下屋鋪西之方三左衛門屋鋪南之方海邊新田龜井大隅守様抱屋鋪北之方大島川向永代寺門前町

一 六百五拾四坪餘

右委細者前書起立之條ニ申上候

龜井大隅守様御所持町屋鋪

一川 巾貳拾間
右十間川流末ニ而大島川と相唱三左衛門屋鋪之相流申候

一入堀

右者三右衛門屋鋪ノ申上候通ニ御座候

一橋

右同斷

一町内之内借地

曹洞宗寶光寺末
瑞運寺

右者當町家持同所永代寺門前東仲町平四郎と申者所持地面之内百五十坪寺地ニ借請罷在候

以上戊子書上

濱中茂昌
北村季和 淨書

御府内備考卷之百十四 終

町之内町屋敷貳反貳拾七步右御用地ニ被召上堀式ニ相成同十三辰年中當町久中橋向北之方ニ而地面續西角元木挽町六丁目木置場之處並東角海邊新田之内ニ而都合壹畝貳步北川町續木挽町四丁目木置場之所ニ而九畝廿六步代地ニ被下置候尤右之内久中橋向代地之儀者當町續合之場所ニ付當時代地と相唱不申當町之内ニ籠罷在候北川町續之場所者黑江町代地と相唱申候其後正徳三年町御奉行所御支配ニ相成地方者前々之通御代官所ニ而當時兩御支配ニ御座候此外地所起立之義者委細熊井町ノ申上候

一當町南之方川筋御堀割以前當町ニ續合候元御賄藏地所之義者先年高外ニ而名主助右衛門御預被仰付運上永上納致候處元祿八亥年御檢地之節一旦黑江町高ニ入町人拜借いたし炭薪置場ニ相成居候處元祿十二卯年南之方川筋御堀立之節右地所川向飛地面ニ相成候然ル處同十四巳年右場所御用地ニ被召上猶又蛤町町人御買請地ニ被仰付其節ノ蛤町分ニ相成申候且又町内ニ先年有之候淨土宗眞光寺境内壹反七畝之地所天和二戌年十二月廿八日類火ニ而同寺燒失いたし新地故寺建候儀相成不申地所被召上元祿八亥年中御拂地ニ相成候處町内町人三郎右衛門御買請被仰付候上相對ヲ以同十五年九月二

御府内備考卷之百十五

深川之五

黑江町

一町内起立之儀者同所熊井町ノ申上候趣ニ而當助之丞ノ十一代以前助右衛門外七人之者寛永六巳年地所築立之儀御代官伊奈半十郎様之願出候處願之通被仰付同年築立出來之上惣名深川獵師町と唱當町之義者助右衛門住居最寄ニ付右町名主役相勤自分名前之町銘相付助右衛門町と唱御茶御肴御用其外諸役相勤無年貢地ニ御座候處寛文十戌年伊奈半十郎様御繩入有之御年貢地ニ被仰付元祿八亥年六月四日酒井河内守様守藤對馬守様再御檢地有之當町高貳拾四石九斗九升貳合此反別町八畝八步ニ御定有之其砌獵師町一統町銘改候ニ付當町之儀者北之方川筋一圓黑江川と唱候ニ付町銘之儀も黑江町と相改申候且又元祿十二卯年築地御普請御奉行深津八郎右衛門様御掛リニ而南之方町屋裏通川筋堀割之砌當

日同所熊井町名主理左衛門名前ニ而當吉町ニ元罷在候西本願寺末一向宗西念寺之讓渡所持いたし元祿十三辰年九月中右地所表通者町屋敷ニ相願御年貢諸役町並相勤罷在候處同十五年右西念寺境内者地窪之場所ニ付當町所持地面表通家作地之外奥之方明地三百坪之内九拾壹坪之處當吉町境内除地之替地ニ相願卵塔場ニ致殘貳百九坪明地之儀者町並之通御年貢上納致西念寺持添地ニ致度旨寺社御奉行永井伊賀守様之願出候處同十二月六日願之通九拾壹坪之除地御引替ニ被仰付尤卵塔場之義者右除地之分並持添地之内九坪都合百坪之場所を御免ニ相成翌午年西念寺引移候ニ付前書眞光寺上り地跡九拾壹坪者西念寺除地ニ相成猶貳百九坪之持添地並表通家作地之儀者當時町並御年貢地ニ御座候間元祿八亥年御檢地後當町高反別共増減有之當時高三拾石三斗六升四合此反別町五反三畝壹步ニ相成申候

一町内間數三百拾七間三尺四寸

一八幡橋南角東側南北之間口拾五間半餘裏巾同斷東西之北裏行貳拾三間半餘南裏行貳拾四間餘

一同北角東側南北之間口四間餘裏巾拾四間半餘東西之南裏行拾五間餘北裏行拾三間餘

一同所續北側東西之間口五拾七間餘裏巾六拾貳間半餘南

北之東裏行三拾壹間半餘西裏行拾四間半
 一同側西念寺大門西角東西之間口七間裏中四間半南北之西裏行三拾間東裏行同斷
 一同側同東角東西之間口八間裏中同斷南北之裏行六間
 一同向南側東西之間口五拾六間半餘裏中五拾五間餘南北之西裏行拾八間東裏行貳拾間餘
 一久中橋南角東側南北之間口五拾間半餘裏中六拾貳間九尺餘東西之南裏行貳拾壹間餘北裏行貳拾三間
 一黑江橋南角南側東西之間口五拾貳間半餘裏中五拾八間半餘南北之東裏行貳拾間餘西裏行貳拾間餘
 一同北角北側東西之間口貳拾五間餘裏中貳拾壹間半餘南北之東裏行貳拾五間半餘南北之東裏行貳拾五間半餘西裏行貳拾壹間
 一久中橋北角北側東西之間口三拾九間半餘裏中四拾壹間餘南北之東裏行貳拾間半餘西裏行拾六間半
 一四隣 東之方永代寺門前仲町海邊新田松平加賀守様御抱屋敷川向佐賀町代地同蛤町同平野町西之方川向中島町同北川町奥川町南之方蛤町北之方一色町坂本代地町川向奥川町同當町代地同大島町代地
 一町内里俗之唱北之方黑江川河岸通を濱拾三町八幡橋通を通黑江町坂本代地町向合之所ヲ東黑江町又者かはら

け町と唱久中橋より黑江橋南岸通を日影町西念寺脇横町を西念寺横町と相唱申候
 一抱屋敷四百三拾壹坪 松平加賀守
 右者寛文五巳年中加賀守様え御抱入有之其後元禄十五年申中當町家作御改御免之御當御抱屋敷之分者家作無之場所ニ而別段御改御免御願不申候處寶永四亥年中家作御改御免之儀右御屋敷御家來湯原重左衛門殿ノ屋敷御改倉橋三左衛門様杉山安兵衛様え御願有之候處同十二年九日家作御免ニ相成當時町並御年貢地ニ御座候
 一自身番屋 間口貳間 奥行四間半
 右者町内黑江川縁ニ有之尤先年者當所八幡橋際ニ壹ヶ所有來猶又寛政三亥年黑江橋際商番屋建廣新規自身番屋相建都合貳ヶ所ニ有之候處九ヶ年以前文政三辰年十一月當地所え新規自身番屋相建度旨紳原主計頭様御番所え願出候處願之通被仰付候ニ付八幡橋黑江橋自身番屋取拂前々之通九尺四方之商ひ番屋ニいたし當自身番屋新規相建申候
 一商番屋 貳ヶ所共九尺四方
 右壹ヶ所者八幡橋際ニ有之壹ヶ所者黑江橋際ニ有之建始年代委細之義者床番屋之條ニ申上候
 一床番屋 間口貳間 奥行壹間

右三ヶ所共寶永年中ニ建來候旨申傳ニ御座候
 一物置場 四百七拾五坪六合餘
 右者四ヶ所ニ分れ有之壹ヶ所者八幡橋南角長拾五間三尺三寸中三間壹ヶ所は同北角ノ町内自身番屋際迄長七拾六間餘中三間壹ヶ所者右自身番屋際ノ久中橋南角迄長五拾間餘中三間壹ヶ所者久中橋北角長拾六間餘中三間右地所之儀者一躰
 御公儀地ニ有之候處先年ノ町内之者共物置場等建繼來格別辨利茂宜敷候ニ付爲冥加五ヶ年以前文政七申年中ノ月々壹坪ニ付銀壹分宛上納仕候義ニ御座候
 一八幡橋 長七間 巾貳間
 右者町内西南之方有之御掛渡年月相分り不申候得共元禄十六未年三月二日御入用ヲ以御掛替有之尤右名目付候儀者八幡宮え通行之橋ニ付八幡橋と相唱當町並同所北川町中島町え見守被仰付候當時御入用橋ニ御座候
 一久中橋 長六間 巾九尺
 右者當町北之方ニ有之御掛渡年月等並名目之譯相分り不申候得共寶永二酉年二月中御入用ヲ以御掛替有之以來御入用橋ニ御座候尤當町ニ而見守仕候
 一黑江橋 長六間 巾九尺

右者當町東之方ニ有之御掛渡年月等相分り不申先年御入用ヲ以御掛渡有之候處正徳四年九月十八日中山出雲守様御番所え被召出向後最寄町々模合所入用ヲ以掛渡修復可致旨被仰渡候ニ付其節ノ町内並一色町永代寺門前仲町同所門前山本町右四ヶ町入用ヲ以掛替修復とも仕來申候
 一川
 右者東北之方ニ有之東之方永代寺門前仲町ノ當町地先ヲ流西之方蛤町大島町地先ノ末者大川之方え落申候尤當町黑江橋際ノ八幡橋際迄之内一圓ニ黑江川と唱候義者獵師町起立以前當所干潟ニ有之候砌右川筋之處水道附有之其頃黑江川と唱候と申義ヲ以寛永六巳年當所築立之節右ヲ川筋ニ附則黑江川と唱候旨申傳有之候川幅之儀者八幡橋際八間久中橋西之方拾貳間同東之方五間黑江橋際七間西之方蛤町佐賀町代地南本所代地向合之所川中拾五間ニ御座候
 一川 巾八間
 右者當町南之方ニ有之北之方川筋蛤町之方え流堀割之義者元禄十二卯年築地御普請御奉行深津八郎右衛門様御掛リニ而町内町人所持屋敷御用地ニ被召上右川筋御堀割有之尤里俗唱等無御座候

一 右者金毘羅日本武尊船玉大明神右三社居宅構内之勸請いたし神跡何れも幣帛ニ而貳拾壹年以前文化辰年十月之當住居仕候

一 非人小屋 間口貳間 奥行貳間半

右者町内北之方地先ニ有之先年同所佐賀町地先ニ罷在候處元祿十一寅年中永代橋御掛渡之節右地所御取携相成候ニ付其砌之當時之場所之小屋建仕候旨申傳當時非人金左衛門住居仕候

以上戊子書上

黒江町代地

一 右代地之儀者元祿十二卯年築地御普請御奉行深津八郎右衛門様御掛リニ而元地之内南之方川筋新規御掘割之砌貳反廿七步御用地ニ被召上候地所之内同十三辰年中元木挽町四町目木置場ニ而右代地被下置黒江町代地と相唱申候右高反別之義者元地之籠リ罷在候

但右之外ニも代地相渡候得共元地續之場所ニ付元地之籠申候

一 町内間數拾九間五尺九寸
一 因速寺大門西之方東西之間口九間餘裏巾拾五間半餘南北之西裏行拾五間餘東裏行拾七間
一 同所東之方東西之間口拾間裏巾七間半餘南北之西裏行拾七間東裏行拾七間半餘
一 四隣 東之方大島町代地西之方北川町南之方川向黒江町北之方因速寺万徳院

以上戊子書上

永代寺門前町

一 當町起立之儀者寛永四卯年中御老中堀田加賀守様伊奈半十郎様向井將監様當所御見分之上於 御城堀田加賀守様御立合八幡宮惣境内京間六万五百八坪別當永代寺拜領被仰付右拜領地之内承應二巳年四月中伊奈半十郎様御掛ニ而門前町屋ニ起立仕家作御免被仰付其砌之切之家作ニ而右年限立候得者取拂可申證文永代寺之出シ來申候然處天和二戌年十二月廿八日本所深川燒失ニ付家作御差留ニ相成候處元祿十五年申八幡宮社頭寺院爲相續町並家作奉願且又右拾年限ヲ相改町人共銘々扣地ニ仕度段永代寺之相願同寺ノ社御奉行永井伊賀守

様々奉願候得者同年六月十八日伊賀守様御内寄合ニ而願之通被仰付町並家作ニ相成其砌ノ扣地と唱町人共所持仕地頭永代寺之金子壹ヶ年九拾五兩貳分ト銀五匁貳分壹厘夫銀拾兩壹分ト銀拾四匁五分貳厘差出來申候其後延享二丑年閏十二月十八日寺社御奉行大岡越前守様御内寄合ニ而町人共御町方御支配被仰付候儀ニ御座候

但右拜領屋敷以前之儀者相知不申候得共往古右場所之儀者海邊ニ續葭草生シ干潟之場所之由申傳ニ御座候

- 一 町内惣小間數四百六拾八間
- 一 一ノ鳥居通八幡表門前東角迄南側東西之表間口百三拾九間半餘裏巾同斷南北之裏行貳拾間
- 一 同所續表門前西角ノ入船町境迄同斷東西之表間口八拾間餘裏巾同斷南北之西裏行貳拾間東裏行拾貳間
- 一 貳拾間川通河南北側東西之表間口百四拾壹間裏巾百四拾六間南北之西裏行拾間東裏行五間
- 一 八幡表門前廣小路東側南北之表間口八間裏巾六間半東西之裏行拾六間半餘
- 一 一ノ鳥居通里俗番横町東角迄北側東西之表間口七拾壹間半餘裏巾同斷南北之西裏行貳拾三間東裏行貳拾

御府内備考卷之百十五 深川之五

間

- 一 一ノ鳥居通里俗葛屋横町西角ノ八幡表門東角迄北側東西之表間口貳拾七間裏巾同斷南北之東裏行拾五間西裏行貳拾間
- 一 里俗自身番横町八幡宮入堀際南側東西之表間口五間裏巾同斷南北之裏行貳拾間
- 一 里俗神橋横町西側南北之表間口四拾間裏巾同斷東西之裏行貳拾間
- 一 同斷東側南北之表間口四拾壹間裏巾同斷東西之裏行貳拾間
- 一 里俗葛屋横町八幡宮入堀際南側東西之表間口五間裏巾同斷南北之裏行貳拾間
- 一 四隣 東之方同所入船町西之方同門前仲町南之方河岸ニ而川向者本所茅場町貳丁目代地之内松平阿波守様御抱屋敷並御同人様御下屋敷同所南松代町代地同所佃町同所三左衛門屋敷伯隆屋敷右兩町之内龜井大隅守様御抱屋敷小西助右衛門様御屋敷松平越中守様御屋敷北之方右同町八幡宮境内
- 一 町内里俗一圓八幡町と唱來申候
- 一 町内一ノ鳥居内ノ東之方同所入船町境迄之往還ヲ馬場通と唱申候右者於八幡宮天下安全爲御祈禱慶安五年七

月廿五日流鏑馬執行之儀被仰渡同八月六日横八間整三町之馬場出來同十五日當日執行有之候ニ付馬場通と唱來候由御座候

一町内北側金子横町右之譯柄者同門前山本町申上候

一町内北側自身番横町右者横町入口角往還ニ自身番屋有之候ニ付右之通唱來申候

一町内北側神橋横町右者八幡宮裏門ニ參候横町故往古ノ前書之通唱來申候

一町内北側里俗拾貳軒と唱來候右者往古料理茶屋拾貳軒軒ヲ並建續有之候場所ニ付右之通唱來候由ニ御座候

一町内北側葛屋横町右者横町入口ニ以前葛屋と申料理茶屋有之候ニ付右之通唱來申候當時無御座候

一町内南側摩利支天横町右之譯柄者同門前仲町申上候

一町内二十間川河岸通里俗濱拾三町と唱候内ニ御座候

一町内南側稻荷横町右者横町角ニ稻荷社有之候ニ付往古ノ前書之通唱來申候尤右社者八幡宮末社之内ニ而別當永代寺持ニ御座候

一町内南側八幡宮表門前東之方里俗一圓ニ土橋と唱申候右之譯柄者同門前東仲町申上候

町内中程北側木戸際

一自身番屋 間口貳間 奥行五間三尺

一商番屋 間口九尺 奥行貳間

東之方同所入船町境木戸際

一商番屋 間口九尺 奥行貳間

右自身番商番屋共建始御願濟之年月書留燒失仕相知不申候

一貳拾間川 巾貳拾間

右者同所築出新地川口ノ同所木場町之方ニ相續申候當町内地先凡長貳百拾九間程有之候

一蓬萊橋 巾壹間半 長貳拾間

右者當町ノ同所佃町ニ渡候橋ニ而貳拾間川ニ相掛り有之佃町一手持ニ付掛始年月相知不申候

一橋 巾壹間半 長貳拾間

右者當町南之方松平阿波守様御抱屋敷ニ渡候橋ニ而貳拾間川ニ相掛り申候石嶋橋と唱右御屋敷御一手持ニ付掛始年月相知不申候

一荒神社

右者町内南側ニ有之八幡宮末社之内ニ而永代寺持ニ御

座候

一當社八幡宮祭禮之儀者寛永二十年同濟ニ相成其砌ノ八月十五日放生會興行祭禮之儀者隔年ニ差出申候

一八幡境内ノ町内ニ掛ケ毎年十二月十四日十五日注連飴其外正月之品商申候右者享和二戌年十二月七日寺社御奉行脇坂淡路守様ニ同濟ニ相成申候

一御手當金五兩

當町忠藏店 刀鍛冶 宗 吉

正 五拾八歳 近

右之者儀者上總國天羽郡百首村出生ニ而鍛冶渡世惣右衛門と申者伴ニ有之右惣右衛門ノ業ヲ請天明三卯年中江戸表ニ罷越其後寛政六寅年中ノ秋元但馬守様御家來刀鍛冶川部儀八殿門人ニ相成日々通イ業躰再習仕候右惣吉儀同所入船町勘右衛門店ニ罷在候節享和二戌年四月中風邪流行ニ付御救錢頂戴仕候猶引續相煩文化二丑年四月九日町御會所ニ御救奉願米錢頂戴仕快罷成當時行步者不自由ニ候得共家業ハ可成ニ相成候茂畢竟危急難澁之節御救致頂戴取續候

御仁惠之程難有心願之上打立候短刀三腰差上度由ニ而右品持參町御奉行根岸肥前守様御勤役中文化五辰年四月廿二日奉願候得者夫々御取調之上同廿三日御訴訟申

上御吟味ニ相成全欲心ニ不拘危急之節御救ニ而全快仕廣大之御仁惠と一徹之氣質ヲ以打立候趣御上向ニ御留被置候筋ニ者無之然共御差戻ニ相成候ハ、無本意事ニ可存間短刀者右御役所ニ御留置ニ相成奇持之儀ニ付爲御手當前書之通頂戴被仰付候

白鞘 一短刀一腰 刀鍛冶 宗 吉

同 鏢下壹尺アマタレ又 實名正近

同 壹腰 同九寸七分種有ハタヤキ

同 壹腰 同九寸 フトスク又

右宗吉正近儀者十ヶ年程以前病死仕家内身寄之者相知不申候

以上戊子書上

永代寺門前仲町

一當町起立之儀者寛永四卯年中御老中堀田加賀守様伊奈半十郎様向井將監様當所御見分之上於 御城堀田加賀守様御立合八幡宮惣境内京間六万五百八坪別當永代寺拜領被仰付右社地之内承應二巳年四月中伊奈半十郎様御掛ニ而門前町屋ニ起立仕拾年切之仕切地家作御免被

仰付候然處天和二戌年十二月廿八日本所深川燒失仕候
 二付家作御差留ニ相成申候處元祿十五年申八幡宮社頭
 寺院爲相續町並家作奉願且又拾年限ヲ相改町人共扣地
 二直シ申度旨別當永代寺之申出同寺ノ寺社御奉行永
 井伊賀守様之奉願候得者同年六月十八日伊賀守様御内
 寄合ニ而願之通町並家作御免被仰付則右砌ノ扣地ト
 唱町人共所持仕地頭永代寺之金子金夫銀共壹ケ年金八
 拾五兩ト銀四匁貳分壹厘六毛差出申候寺社御奉行御支
 配之所延享二丑年閏十二月十八日寺社御奉行大岡越前
 守様御内寄合ニ而町人共御町方御支配被仰付候且又町
 銘之儀者同門前之内名主兩人有之候ニ付前書之町名ニ
 相願支配場所之差別ヲ付候哉右年月書留燒失仕相知不
 申候

但右地所往古者海邊ニ續葭草生シ干潟之場所之由申
 傳ニ御座候

- 一 町内惣小間數四百貳拾九間四尺
- 一 一ノ鳥居通南側東西之表間口百拾貳間餘裏中同斷南北
 之裏行貳拾間
- 一 右同斷北側東西之七拾壹間餘裏中同斷南北之裏行貳拾
 間
- 一 同斷之内同門前山本町門前町兩町續北側東西之表間口

- 一 貳拾三間半裏中同斷南北之裏行貳拾三間
- 一 北入堀通南側東西之表間口三拾五間半餘裏中同斷南北
 之裏行貳拾間
- 一 里俗自身番横町西側南北之表間口貳拾間裏中同斷東西
 之裏行貳拾間
- 一 里俗西横町西側南北之表間口八拾六間半餘裏中七拾八
 間半餘東西之南裏行貳拾間北裏行拾間
- 一 里俗西横町續南側東西之表間口拾貳間裏中同斷南北之
 裏行四間
- 一 同所續東側南北之表間口四間裏中同斷東西之裏行拾八
 間
- 一 同所續西側南北之表間口四間餘裏行同斷東西之裏行貳
 拾間
- 一 同所續南側東西之表間口三間餘裏中貳間半南北之西裏
 行四間餘東裏行四間餘
- 一 同所續北側東西之表間口五拾三間半餘裏中同斷南北之
 裏行貳拾間
- 一 同所續黑江町境東側南北之表間口三間半餘裏中同斷南
 北之裏行貳拾間
- 一 同所續黑江町境東側南北之表間口三間半餘裏中同斷東
 西之裏行貳拾間

一 四隣 東之方同所同門前山本町西之方同所黑江町南之
 方同所蛤町北之方同所黑江町並同町之内松平加賀守様
 御抱屋敷海邊新田御同人様御抱屋敷十五間川向北本所
 代地町南本所石原町代地永代寺境内

一 町内里俗表通往還一ノ鳥居ノ同門前東仲町境同所入船
 町迄之所馬場通と唱來申候右者慶安五年八月十五日御
 代官伊奈半十郎様御掛ニ而馬場出來流鑄馬御座候故ニ
 御座候

- 一 一ノ鳥居通南側西之方横町ヲ疊横町と申候右者同所ニ
 往古疊屋平左衛門と申者住居仕候ニ付唱來申候
- 一 同側中程横町ヲ行留リ横町と申候右者横町行留ニ付右
 之通唱來申候
- 一 同側東之方横町ヲ摩利支天横町と申候右者同所ニ摩利
 支天社有之候ニ付唱來申候
- 一 一ノ鳥居通北側中程間數拾五間之間銀座長屋と申來候
 右者往古銀座御用達大黒屋作左衛門住居仕候ニ付唱來
 申候
- 一 入堀通横町ヲ西横町と申候右者八幡宮山内ノ西ニ當リ
 候故ニ御座候
- 一 右西横町中程拾間程之所猪口長屋と申候右者往古猪口
 屋と申酒屋御座候ニ付申習候

一 右同斷横町之内長貳拾間之所錢屋長屋と申候右者往古
 錢屋久兵衛と申者住居仕候ニ付相唱申候

一 一ノ鳥居ノ南側通地尻蛤町境中三尺之下水ヲ往古蜷川
 と唱申候右者往古汐入ニ而巾壹尺餘も有之蜷取レ候故
 前書之通唱來申候

- 一 自身番屋 表間口貳間半 奥行五間半
- 一 右者町内東境火之見櫓下ニ有之
- 一 商番屋 間口貳間 奥行貳間
- 一 右者一ノ鹽居脇木戸際ニ有之
- 一 商番屋 間口貳間半 奥行三間
- 一 右者十五間川河岸通木戸際ニ有之
- 一 床番屋 間口九尺 奥行九尺
- 一 右者町内東境前書自身番屋建並有之右自身番屋商番屋
 床番屋御願濟年月書留燒失仕相分不申候
- 一 拾五間川
- 一 右者町内北之方北本所地境ニ有之長貳拾三間半中拾五
 間東之方山本町ノ西之方黑江町之流行申候
- 一 入堀 長六拾三間 中四間半
- 一 右者町内東之方山本町境ニ有之火之見櫓下堀留ノ拾五

間川之續申候
一橋 橋臺共長四間半
中壹間餘

右者町内之同門前山本町之續候板橋ニ而入堀之懸渡有之尤山本町一手持ニ而掛始年月相知不申候里俗猪ノ口橋と相唱申候右者里俗猪ノ口長屋之地先ニ有之候ニ付申習候

一 毎年十二月十四日十五日正月之鏝物商仕候是者享和二戌年十二月七日永代寺ノ寺社御奉行脇坂淡路守様ニ伺濟ニ御座候且又毎年七月十三日朝斗草花類商仕來候是者御願濟之年月相知不申候

忠兵衛店
相撲行司

木村庄之助

右先祖者真田伊豆守様御家來ニ而中立羽左衛門と申年月不知御暇願浪人致寛永年中寺地宮地爲造營御屋敷様方ノ力士相願勸進寄相撲と申を始右奉加を以堂宮造立致候義ニ有之右中立羽左衛門ノ三代目ニ至木村庄之助と姓名相改五代目庄之助儀寛延二巳年八月中肥後國熊本ニ吉田豊後守家次孫有之由及承り右吉田家ハ細川越中守様御家來ニ而其頃吉田善左衛門と申職業ニ而者追風と名乗祿三百石之由元來舊家ニ而往古年恐後鳥羽院様相撲御節會之節本朝相撲司御行司と蒙

右者免狀燒失仕候

六代目 庄之助

七代目 庄之助

右者天明七未年十二月十七代追風ノ免狀有之文面五代目庄之助免狀之通り

八代目 庄之助

右者寛政十一未年三月中十九代目追風ノ免狀有之文面右同斷

當庄之助之免狀寫左之通

無事之唐團扇並紅緒方屋之内上草履之事免之候可有受用候仍免狀如件

本朝相撲司御行司

二十代 吉田追風印

文政八年三月

江府 木村庄之助との

前書吉田家ハ當代ニ有之善左衛門と申職業ニ付而者古來ノ追風と申候

右之通免狀所持仕庄之助職業ニ付而者吉田家ノ差配請古來ノ帶刀致來候得共身分之儀者町方御支配を請候者ニ有之旅行之節者相撲御由緒有之京都五條様ノ御繪府

勅命候家柄ニ村庄之助罷越右御規式御法傳請門弟入致候處同家門弟之内四人を南ハ日高北ハ水本西ハ金田右三人名前不知東者木村と四姓ニ被分日高金田ハ斷絶致水本ハ南部大膳大夫様御家來ニ而當時子孫有之長瀬越後と申右御領分ニ相撲興行有之節者行司相勤他國之者一切出不申故庄之助義吉田家ニ而高弟ニ相成日本相撲行司目付と被定右目付之譯者以後御節會相撲之節東三十三ヶ國力士共ヲ庄之助召連上京仕行司相勤候様ニ吉田家ノ被申渡西三十三ヶ國者同家ニ而力士共召連相勤且又三代目庄之助木村と名乗候者幸ハ東者春ニ而木を形末々ニ至迄木村と可名乘旨被申渡五代目庄之助ノ代替之節者吉田家ノ神文致且免許狀其時々被相渡候仕來ニ仕先祖中立羽左衛門ノ當庄之助迄九代目ニ有之則五代目庄之助之免許狀寫左之通

免許狀

無事之唐團扇並紅緒方屋之内上草履之事免之候可有受用候仍免狀如件

寛延二年

巳八月

本朝相撲司御行司

十六代 吉田追風印

江府 木村庄之助との

頂戴致し來り候

一 御府内相撲記立者寛永年中宮地寺地爲造營御屋敷様方ノ力士相願寄相撲致來候處其後勸進相撲年寄行司共ノ度々御頼申上御處御聞濟無之貞享元子年中寺社御奉行本多淡路守様ニ奉願上御得者願之通勸進寄相撲御免被仰付候ニ付深川八幡境内ニ而始而興行仕夫ノ永御免ニ而相撲年寄共申合年々四季ニ所々ニ而勸進相撲興行仕候

一 寛政三亥年四月中本所回向院ニ而相撲興行之節同六月十一日始而吹上於 御殿相撲御上覽有之其節

御銀三百枚

行司 共之被下置候
年寄

一同六寅年三月中深川八幡境内ニ而興行之節同四月九日

濱於 御殿

御上覽有之其節

御米百俵

右兩度共此者罷出
行司相勤申候

行司 共之被下置候
年寄

御銀百枚

七代目 庄之助

一 享和二戌年十一月中本所回向院ニ而興行之節同十二月四日矢來御門内ニ而

御上覽有之其節

御米百俵

御銀百枚

行力士寄 共之被下置候

一文政六未年春中本所回向院ニ而興行之節矢來御門内ニ而同四月三日 御上覽有之其節

御米百俵

御銀百枚

行力士寄 共之被下置候

此度者多人數ニ付別段

八代目

右兩度共此者罷出行司相勤申候

庄之助

去亥十一月中町御奉行筒井伊賀守様御番所之庄之助被召出相撲行司力士年寄身分之儀御尋有之委細書面を以可申立旨被仰渡候其節差上候書付之寫

恐乍以書付奉申上候

一深川永代寺門前仲町忠兵衛店相撲行司庄之助奉申上候相撲取並行司身分之儀御尋ニ付左ニ申上候

一相撲取身分之儀並帶刀致候事

此度帶刀致候義者御屋敷方御抱又者御家來ニ相成候節帶刀致申候御抱ニ不相成者浪人者ニ而旅行致候節歟又者祝儀不祝儀之節斗帶刀致候得共平日者脇差斗

帶申候

一相撲取名乘之外ニ苗字名乘候事

此段名乘之外苗字を名乘候儀者無御座候尤御屋敷方御抱ニ相成候節者御屋敷御家風ニ寄苗字御附被成候儀も有之候得共取極候義者無御座候其外之者共名乘斗ニ而苗字者無御座候

一相撲取之内町方住居致諸侯方又者倍臣之抱ニ相成候儀扶持宛行等有之哉町人抱ニ相成候義有之哉

但諸侯方抱ニ而御屋敷住居致格式等貫居候者も有之哉

此段町方住居致候義者年寄等之跡も無之候歟又者御屋敷内手狭之事も有之候得者町方住居仕候尤御屋敷内ニ住居致御扶持御宛行被下候も有之候年寄共弟子之分八年寄共方ニ同居仕罷在候御屋敷御抱ニ相成相撲職業中格式等被下候儀者先者無御座候御共取格候儀者無御座候且又倍臣之抱並町人抱杯ニ相成候義者決而無御座候

一相撲取諸侯方抱ニ相成春秋興行ニ出候事

此段四季勸進相撲ニ罷出候儀者御抱有之御屋敷方之勸進元年寄共拜借願仕右興行中場所之差出申候一相撲取旅行致候節宿々人馬之事

御番所様

右御開置ニ相成候

右古來之書留其外申傳を以申上候前書廉々之外書留申傳等無御座候

以上戊子書上

永代寺門前山本町

一當町起立之儀者寛永四卯年中御老中堀田加賀守様伊奈半十郎様向井將監様當所御見分有之於 御城堀田加賀守様御立合八幡宮境内京間六万五千八百坪別當永代寺拜領被仰付候處右境内之内六千貳百八拾九坪之場所 堀道申候 享保十六亥年中山本屋十兵衛と申者町屋ニ取建申候 申度旨永代寺ニ申込候ニ付同年六月廿七日其段同寺ニ神社御奉行所之奉願候處元文四未年四月中黒田豊前守様於御内寄合町並家作御免被仰付右地所十兵衛之引渡町屋起立仕候ニ付山本町と相唱其砌之町人共所持仕扣地と唱地頭永代寺之地子金夫銀廿壹ヶ年金五拾九兩差出來申候尤寺社御奉行御支配ニ御座候處延享二丑年閏十二月十八日寺社御奉行大岡越前守様御掛ニ而町方御支配ニ被仰付候

一町内惣小間數百九拾壹間七分五厘

一行司苗字名乘帶刀致候儀並職業之儀ニ付願出候節之事

此段私儀者元浪人者ニ而古來之木村と苗字相名乘來帶刀致當時之相撲年寄仲間加入致罷在行司職業之儀ハ私並式守伊之助兩人共先祖之細川越中守様御家來吉田追風之免許賞請候儀ニ而伊之助先祖も其砌之式守と苗字相名乘帶刀致是又浪人者ニ而其外之行司共者一切帶刀仕候義者無御座候尤身分之儀ニ付御願之儀有之節ハ町御奉行所様之御願申上候儀ニ御座候

右御尋ニ付奉申上候以上

深川永代寺門前仲町

忠兵衛店

相撲行司

文政十亥年十一月晦日

庄之助

家主 忠兵衛

五人組 藤

名主傳次頼ニ付 藤

助

八

衛

助

- 一ノ鳥居通北側 東西之表間口三拾間裏中同斷南北之裏行貳拾間
- 一入堀通東側南北之表間口貳拾四間裏中同斷東西之裏行貳拾八間
- 一同所續里俗裏櫓と唱候場所東側南北之表間口四拾七間裏中同斷東西之南裏行拾六間北裏行拾五間
- 一拾五間川通里俗裾織と唱候場所南側東西之表間口七間裏中同斷南北之裏行七間
- 一同所續南側東西之表間口三拾三間裏中同斷南北之裏行貳拾三間
- 一中横町北側東西之表間口三拾九間裏中同斷南北之裏行貳拾八間西裏行貳拾間
- 一中横町南側東西之表間口貳拾間裏中同斷南北之裏行貳拾壹間
- 一里俗金子横町西側南北之表間口拾七間半裏中同斷東西之裏行拾八間
- 一四隣 東之方八幡宮境内同門前仲町西之方同門前仲町南之方同門前仲町同門前町北之方拾五間川向北本所代地町南本地所代地町
- 一右町内一ノ鳥居通往還ノ里俗馬場通と唱申候右者慶安五年八月十五日御代官伊奈半十郎様御掛ニ而馬場出來

流鏑馬有之候故ニ御座候
 一町内表通北側凡三拾間程之場所ヲ里俗櫓下と唱候右者隣町同門前仲町火之見櫓之脇ニ御座候ニ付右之通唱來申候尤表櫓共相唱申候
 一町内入堀通東側凡四拾間程之場所里俗裏櫓と唱候右者前書表櫓横町ニ付右之通唱來申候
 一町内北之方河岸通北側凡五拾五間程之所里俗裾織と唱候右者表櫓裏櫓と唱候場所續末之方ニ付裾織と唱來申候
 一町内東之方同門前町續横町ヲ里俗金子横町と唱候右者安永之頃金子屋新八と申者同所ニ住居仕候故ニ唱來申候
 一町内東ノ西之横町ヲ里俗中横町と相唱申候
 右者中程ニ有之横町ニ付右之通唱來申候
 一自身番屋 間口七間 奥行貳間
 右者町内北之方入堀橋際ニ有之
 一商番屋床番屋 間口貳間 奥行五間
 右者表通同門前仲町火之見櫓下に有之
 但商番屋床番屋共壹ヶ所ニ而裏之方ヲ床番屋ニ相用申候

- 右自身番外番屋共建始願濟年月書留燒失仕相知不申候
- 一拾五間川 長六拾間 中拾五間
- 右者當町北之方地先ニ有之東之方永代寺裏手ノ西之方同門前仲町之相流申候
- 一入堀 長六拾三間 中四間半
- 右者町内西之方同門前仲町境ニ有之同所火之見櫓下堀留ノ十五間川之續申候右者當町起立以前ノ有之永代寺構堀ニ御座候處町屋取立後引續入堀ニ相成申候
- 一橋 長橋臺共四間半 中九尺
- 右者入堀ニ掛渡有之名目無之里俗猪ノ口橋と相唱申候當町ノ同門前仲町之渡候橋ニ而一手持ニ而掛始年月書留燒失仕相分不申候

永代寺門前東仲町

一當町起立之儀者寬永四卯年御老中堀田加賀守様並伊奈半十郎様向井將監様當所御見分之上於 御城堀田加賀守様御立合八幡宮惣境内京間六万五百八坪別當永代寺之拜領被仰付右拜領地之内承應二巳年四月中伊奈半十郎様御掛ニ而門前町屋ニ起立仕家作御免被仰付其砌

以上戊子書上

前書之町銘ニ唱來申候右家作御免之節町人共銘々拾年切之家作ニ而右年限相立候得者取拂可申證文永代寺之出シ來申候然處天和二戌年十二月廿八日本所深川燒失仕候ニ付家作御差留ニ相成候處元祿十丑年中八幡宮社頭地院爲相續町並家作奉願且又右拾年切ヲ相改町人共銘々扣地ニ仕度段永代寺之相願同寺ノ神社御奉行永井伊賀守様之奉願同六月十八日願之通町並家作御免被仰付其砌ノ扣地と唱町人共所持仕地頭永代寺之金子金夫銀共壹ヶ年金四拾壹兩貳分ト銀三匁四分四厘差出來其後延享二丑年閏十二月十八日寺社御奉行大岡越前守様御内寄合ニ而町人共町方御支配被仰付候東仲町と唱候名目之儀者永代寺境内ノ東ニ當リ候故右之通唱來申候
 但右地所同寺拜領以前之儀者相分り不申候得共往古者海邊ニ續葭草生シ干潟之場所之由申傳候
 一町内惣小間數貳百九拾壹間貳尺
 一ノ鳥居通八幡表門東角ノ入船町境木戸際迄北側東西之表間口七拾貳間五尺裏中七拾間餘南北之西裏行拾五間東裏行貳拾間
 一里俗東横町北側東西之表間口四間裏中同斷南北之裏行拾七間

一同所續西側南北之表間口貳拾五間半餘裏中同斷東西之裏行四間
 一同所續東側南北之表間口百三拾貳間餘裏中同斷東西之裏行拾五間
 一同所續拾五間川通南側東西之表間口五拾五間半餘裏中同斷南北之東裏行拾六間半西裏行拾六間半餘
 一四隣 東之方同所三十三間堂町並堂地同所宮川町川向同所島田町西之方八幡宮境內南之方同門前町北之方拾五間川向大和町
 一町内里俗町内表通ヲ馬場通と唱申候委細之儀者同所同門前町山本町ニ而申上候通御座候
 一町内表通ヲ土橋と唱候右者寶永之頃永代寺東構堀往還ヲ横限南之方貳拾間川之續有之候節右往還之内ニ土橋有之其後年月不知理立右橋取拂候得共今以右之通相唱申候
 一北側之内東寄横町ヲ東横町と唱申候右者八幡境内ノ東之當り候故ニ御座候
 一東横町之内續河岸通東側ニ而長貳拾間程之所永木長屋と申候ニ付其邊ヲ惣而永木と唱申候右者往古永木屋と申材木屋住居仕候ニ付右之通相唱申候
 一自身番屋 間口貳間半 奥行四間半

右者町内北側東横町入口ニ有之
 一商番屋 間口貳間 奥行九尺
 右者永居橋際ニ有之
 一床番屋 間口四間 奥行三間
 右者町内北側西角ニ有之
 右自身番屋商番屋床番屋共建始御願濟之年月書留燒失仕相知不申候
 一拾五間川 巾拾五間 長八拾間程
 右者町内北境ニ有之
 一永居橋 長橋臺共拾五間 巾九尺
 右者前書拾五間川ニ掛渡有之町内ノ同所大和町之相渡候橋ニ而當町並大和町三十三間堂町宮川町永代寺門前町都合五ヶ町ニ而新規修復共仕候
 一御褒美鳥目三拾貫文 平左衛門店 龜 太 亥十三歲
 右者孝行奇特ニ付爲御褒美前書之通被下置其節被仰候御座候御書付左之通
 深川永代寺門前東仲町 平左衛門店 龜 太 亥十三歲 支拾三歲

此者儀平生何事も母きん申旨ニ隨ひ子供交り等も不致少々宛之物商致至而不如意ニ而きんも賃仕事等致暮居候處同人儀去春中ノ中症相煩當春中ノ者別而相勝腰立不申候處食事並藥用等之義差支無之様手當致相店之者えも願置日々商出精致候故可成ニ取續罷在尤商ノ歸候節者きん好候品ヲ見斗少々宛調參り爲給側ニ付添撫さすり等致其外兩便等之儀も心付介抱致遺候段幼年ニ者別而奇特之儀ニ付右之趣申上爲御褒美鳥目拾貫文爲取遣ス
 右者享和三亥年六月十一日根岸肥前守様御番所之被召出前書之通被仰渡御褒美頂戴仕候當時右龜太郎儀何方之罷越候哉相知不申候
 以上戊子書上

三拾三間堂町

一町方起立之儀者寬永十九年十一月廿三日三十三間堂屋鋪地始而於淺草六千貳百四拾七坪八合之地所被下置右堂出來後明曆三酉年十一月四日御評定所阿部豐後守様松平出雲守様神尾備前守様石谷將監様御立合ニ而御堂御修復銀頂戴仕候節右堂地惣坪數之内貳千四百八拾坪八合七夕之場所惣堀を埋立商賣人等差置候而地代取

立堂守助成仕候様堂守久右衛門之被仰渡候後右三拾三間堂之儀町方御支配ニ駈と相定り不申候間延寶八申年中ノ數度御願申上候處元祿七戌年十一月御評定所之被召出段々御調之上町御奉行能勢出雲守様御懸リニ而右堂之儀町方御支配ニ被仰付同十二月十九日町年寄衆之御證文差上申候書留左之通御座候
 一三拾三間堂拜領地之内ニ町屋店借等は迄町御觸書等無之候處地内店借者之諸事町御觸等町御支配同様ニ被仰付候ニ付自今以後町方諸事御法度之御觸等者拙者共者不及申借屋店借召仕之者迄急度相守可申候並名主之義者地主久右衛門之被仰付候旨被仰渡難有奉存候然ル上者 御公用其外借屋之者出入等久右衛門支配請可申候爲後日手形差上申候仍如件
 元祿七年戊十二月十九日 三拾三間堂屋敷 外 三左衛門 印 廿四人 印

町三人

年寄衆中

右之通私支配可仕旨被仰付難有奉存候然ル上者諸事之儀念ヲ入支配可仕候以上
 印名 久右衛門 印

戊十二月十九日

右之通御證文差上翌廿日川口攝津守様能勢出雲守様共

御兩所之御目見仕候

同月廿四日兼而被仰渡候外廻り貸地取建町並地ニ相成候ニ付樽屋藤左衛門殿懸リニ而堂守久右衛門儀名主役相勤罷在候處同十一寅年九月六日大火ニ而類焼仕候間其段町御奉行川口攝津守様並松前伊豆守様之御訴訟申上候

但右前書淺草地所之儀者淺草東本願寺御門跡西向新堀付之地所ニ而今以里俗堂前と相唱候場所ニ御座候同十月十三日堂地所之儀御用地ニ被召上同十二月廿三日松前伊豆守様御番所之儀召出永代島築地えおゐて替地拜領被仰付翌十二卯年五月廿五日築地御奉行伊奈半左衛門様深津八郎右衛門様御役人方町御奉行御役人方御立合之上地所元坪之通御渡被下置右之内是又元坪之通坪數貸屋御免被成下以來建來り候町方ニ御座候尤御公役之儀者享保七年寅十二月被仰付翌卯年ノ相勤來申候

右三拾三間堂起立以後委細之譯等別紙ニ申上候

一町内間數南北え表間口百拾四間半餘裏巾九拾九間半餘但表門幅七間相除申候尤裏巾之内道敷左右ニ而貳間宛入組有之候

東西之南之方ニ而裏行三拾九間餘北之方ニ而同貳拾壹

古橋上ノ洲崎浦一圓見通候ニ付右頃ノ潮見橋と名目ヲ申上ケ相唱來り候由申傳候

一先祖久右衛門儀者三州鹿鹽村出生之由ニ而應長年中御當地之罷出其頃者何れニ住居致候哉相分不申寛永年中之頃本材木町五丁目ニ住居材木渡世仕罷在候砌三拾三間堂初メ而造立之節諸式引請致候處出來後代金相渡吳不申ニ付弓師備後と申者相手取御訴訟申上候得者寛永二十一年申十一月二日御評定所え一同被召出其砌堂地一圓拜領被仰付堂守役被仰付候後遠方之儀故万事不行届手代作左衛門と申者淺草堂地之遣置御用向等爲相勤正保年中ニ勘兵衛と申者手代相勤寛文二寅年三月ノ治郎右衛門と申者手代相勤罷在候處元祿七戌年中堂地町方御支配ニ相極其節久右衛門儀名主役被仰付候ニ付淺草堂地之引移り申候其後淺草地所御用地ニ被召上同十一寅年中深川只今之地所代地被仰付其節ノ同所之住居仕堂守名主役共相勤罷在候儀ニ御座候都而巨細之儀者堂舊記書ニ而申上候

以上戊子書上

濱中茂昌淨書

御府内備考卷之百十五 終

御府内備考卷之百十六 深川之六

間

但裏門巾三間相除申候

一四隣 東之方川境深川島田町西之方同所永代寺門前東仲町南之方同所入船町並川境同町北之方同所宮川町

一火之番屋 間口壹間 奥行貳間半

右者町内堂裏門通南角ニ有之家作地之内ニ御座候尤去文政五年年中迄者店並ニ而相勤來候處差支之儀有之同年六月中御願濟ニ而只今之處え建置申候

一川 巾貳拾間 長百貳拾貳間六寸

右者町内北之方ノ南之方え相懸り名無之貳拾間川ニ而川筋御堀割ニ相成年月等此儀書留起立之儀者寛政三亥年洲崎浦高波之節書物流失仕委細相知レ不申尤東之方ノ相流末者築出シ新地大川口え相流申候

一潮見橋 巾九尺五寸 長拾五間

右者當町並同所入船町境ノ南之方同町え相渡り候橋ニ而元祿年中ニ相懸候由ニ而是又起立之儀同斷流失仕巨細相知不申候尤

御公儀様御入用を以御懸ケ被下異變取斗之儀者右橋中央ノ東之方名主甚四郎支配入船町ニ而取斗同西之方之儀者當町並行事持入船町組合取斗來申候名目之儀者往

御府内備考卷之百十六

深川之六

宮川町

一町内起立往古之譯平野町ニ而申上候當町之義者元祿十四年巳七月御築立地之處西河岸町櫻井屋次郎右衛門と申者御代官伊奈半左衛門様え右場所一圓江戸町並同前家作御改御免之町屋鋪ニ御買請奉願候處願之通被仰付地代金上納仕御同所様御支配所ニ而同十六未年四月中町名奉願候得者唱之譯相知不申其後正徳三巳閏五月松野壹岐守様坪内能登守様丹羽遠江守様町御奉行之節ノ町方御支配ニ被仰付引續御公役相勤候古町同様之町屋敷ニ御座候

一町内北之方地續巾田舎間三間長南之方同六拾間五寸北之方同四拾九間三尺五寸行留り之道鋪有之候處先年ノ往來も無之自然と葭茅生茂り不用心ニ付町内申合文化九年申五月永田備後守様町方御勤役之節同町地主古座

屋清兵衛儀右道敷之處家作御改御免御公役相勤候町屋
鋪ニ御買請仕度奉願候處御吟味之上同十年酉九月廿七
日願之通被仰付同年十月六日地所御引渡被下置同十一
日備後守様御番所之代金上納仕新規御買請町屋敷ニ
御座候

一町内惣間敷 京間貳拾八間四尺五寸田舎間三間

南北之東之方表京間貳拾八間四尺五寸西之方裏中同三
拾四間壹尺

東西之南之方裏行京間五拾四間貳尺北之方同五拾五間
三尺

北之方續

南北之東之方表田舎間三間西之方裏中同斷東西之南
之方裏行田舎間六拾間五寸北之方同四拾九間三尺五
寸

一四隣 東之方往還川を境深川島田町西之方同所永代寺
門前東仲町南之方深川三拾三間堂町北之方同所永代寺
門前東仲町

一里俗此邊ヲ夷子之宮と相唱申候此譯隣町永代寺門前東
仲町地先川岸地ニ永代寺八幡末社夷之宮有之候ニ付前
々々唱來申候
一御高札場

右者町所入船町汐見橋際西南之方ニ建有之當町之義も
前々々組合見守仕候委細之義者入船町申上候

一川 長三拾四間五寸巾貳拾間
但町内地先之分

右者町内東之方を相流北南之方三十三間堂町永代寺門
前仲町之方之相流候横川ニ御座候

一垠堀板橋 長貳間三尺巾九尺

右者町町家主六兵衛屋敷前之新規垠堀板橋寬延三年午
十二月朔日能勢肥後守様町方御勤役之節奉願候處同月
六日右御番所御内寄合之被召出願之通被仰付候其後有
來之通度々修復掛替仕猶又去ル文政三年二月修復奉
願當時右橋ニ御座候

一雨覆輪木 東西之長田舎間拾貳間巾同貳間半

右者町内東之方往還道幅之内川岸ニ建有之御願濟ニ御
座候處去ル文政八四年正月々冥加銀上納仕候
一橋跡

右者町内北之方道敷御買請地前々同所島田町之相渡候
板橋ニ而森田橋と相唱御公儀様御入用橋ニ御座候よし
申傳候得共後年流失ニ候哉御取拂ニ候哉右譯年代等相
知不申申傳而已ニ御座候

以上戊子書上

島田町

一町内起立往古之譯々東平野町ニ而申上候當町之義者元
祿十五年御築立明地之内村田屋傳兵衛紀伊國屋彦兵
衛兩人之者右地所元地河岸地とも江戸町並同前家作御
改御免之町屋敷ニ御買請仕度御代官伊奈半左衛門様之
奉願候處願之通被仰付御同所様御支配所ニ而同十六未
年四月町名相願候得とも唱之譯相知不申其後正徳三年
巳閏五月松野壹岐守様坪内能登守様丹羽遠江守様町御
奉行之節々町方御支配ニ被仰付引續御公役相勤候古町
同様之町屋敷ニ御座候

一町内惣間敷 京間七拾貳間五尺
田舎間八拾六間五尺七寸

西之方三方角

南北之南之方表京間七拾貳間五尺東之方裏幅同七拾

貳間貳尺

但菅沼大膳様御下屋敷御門道相除申候

東西之南北共裏行京間貳拾間宛

東向三方角

南北之東之方表間八拾五間五尺五寸西之方裏幅八拾

八間壹尺

東西之南之方裏行六拾三間組入込有之北之方同六拾

御府内備考卷之百十六 深川之六

間壹尺

一四隣

東之方往還川を境深川木場町西之方同斷同所永代寺門
前東仲町宮川町三拾三間堂町南之方同斷同所入船町金
田伊織様御下屋敷北之方同斷同所露歩町

一入船町 長七間貳尺五寸幅六尺

右者町内南之方同所入船町之相渡候當町手切入用を以
相掛候橋ニ而諸御願並異變等有之候節ハ當町申立執
斗仕尤起立之儀者元祿十六年未三月初而相掛入船町之
相渡候橋ニ付入船橋と名目相唱候様御代官伊奈半左衛
門様被仰付候由申傳ニ御座候

但橋臺前後左右壹丈壹尺宛

一築島橋 長八間
巾七尺

右者町内東之方同所木場町之相渡候町内手切入用を以
相掛候橋ニ而起立年月其外共都而入船町同様ニ御座候
名目之義者御築立地之場所之相掛ヶ候橋故築島橋と相
唱候よし是又申傳ニ御座候

但橋臺前後左右八尺宛

一垠堀板橋 長三間
巾壹間

右者町内南之方ニ而家主八郎兵衛地面内材木圍堀之水門口無之難義仕候ニ付屋敷前往還堀割長三間幅壹間之扒堀橋新規補理申度明和三年戌六月三日依田豊前守様町方御勤役之節奉願候處同六日同御番所御内寄合之被召出願之通被仰付其後度々修復仕當時之場所ニ有來申候

一扒堀板橋長三間四尺中七尺

右者町内東之方ニ有之候處年來相立起立相知不申候

但橋臺前後左右七尺宛

一雨覆輪木 東之方南北之長五拾貳間中貳間半

一同 同斷 南北之長拾七間中貳間半

一同 南之方南北之長九間中貳間半

一同 北之方東西之長貳拾八間中貳間半

右者町内往還道幅之内河岸之方ニ建有之御願濟ニ御座候處去ル文政八酉年正月ノ冥加銀上納仕候

一川四ヶ所

西之方有之候川長九拾四間五尺幅貳拾間北之方有之候川長九拾九間五尺幅拾五間南之方長六拾五間四尺

五寸幅拾間東之方川長九拾六間五尺五寸幅拾間

右者町内四方ニ有之何茂堀割年代相知不申候

一御高札場

右者町所入船町汐見橋際西南之方ニ建有之當町之義茂前々ノ組合見守仕委細之義者入船町ノ申上候

一河岸地三ヶ所

西之方壹ヶ所貳百三拾六坪五合南之方六拾五坪北之方六拾五坪

右者元地同様御買請地之内ニ付冥加銀相納不申候

一橋跡

右者町内西之方地先ノ同所宮川町之相渡候森田橋右橋跡有之候處委細者宮川町ノ申上候

以上戊子書上

入船町

一町内起立往古之義者東平野町ニ而申上候當町之義も元祿年中御築立地之内ニ而同十四巳年十一月東南角地面壹ヶ所朽木屋甚左衛門同十五年二月西南角地面壹ヶ所和泉屋半四郎同年三月西北之角地面壹ヶ所津國屋平助同年八月東北之方地面壹ヶ所島居屋屋茂兵衛寶永三戌年十一月南之方川を隔地面壹ヶ所尾張屋傳兵衛元祿年

中西北之方川を隔地面壹ヶ所山本屋勘兵衛右六人之者共追々御代官伊奈半左衛門様之元地河岸地共御買請奉願尤江戸町並同前家作御改御免之町屋敷ニ奉願候處願之通被仰付代金上納仕伊奈半左衛門様御支配ニ而元祿十六未年四月町名之義奉願其頃貳拾間川通り茅葺等

生茂リ罷在通船等薄々御座候ニ付往々町内最寄繁昌爲仕度旨存入船町と相願候由申傳其後正徳三巳年閏五月松野壹岐守様坪内能登守様丹羽遠江守様御奉行之節ノ町方御支配ニ被仰付引續御公役相勤候古町同様之町屋ニ御座候然處右之内元祿年中山本勘兵衛御買請仕候壹ヶ所地面之義ハ寛保元年之頃賣女一件ニ而御取上地ニ相成同四子年御小人方御拜領町屋敷ニ相渡右之内其後上地相對替等有之當時五人ノ御拜領地ニ御座候

但町内中道角拜借地之義者元祿十五年閏三月樋橋棟梁拜借地ニ相成候委細之義者末ニ申上候

一右町内南之方川を隔佐賀町代地東續波除土手附ニ惣坪數千三百四拾七坪壹合貳才五寸之地所當町名之内ニ有之右者元祿十五年十二月十七日冬木屋彌平治上田屋十兵衛木置場御用地代地ニ被下置候貳ヶ所之内ニ御座候處寛政三亥年八月六日同年九月四日兩度之高波之節流失仕同六亥年十二月十一日前書流失仕候町方一同小

田切土佐守様御番所之被召出永々明地ニ被仰付候ニ付最初御買請仕候御地代金地主共之被下置候以來九ヶ町見守明地ニ罷成候委細之義者見守組合一同ノ別記ニ申上候

一町内東之方ニ有之候元道式間數左之通

南北之幅五間東西之長三十壹間貳尺

右者東之方ニ有來候中道式年久敷往來も無之自然茅葺生茂不用心ニ付町内申合熟談之上右潰道之處家作御改御免公銀上納仕候町屋鋪ニ御買請仕度文化九年申五月永田備後守様町方御勤役之節同町地主新右衛門奉願候處御吟味之上同十年酉九月廿七日願之通被仰付同十月七日地所御引渡被下置同十一月備後守様御番所之地代金上納仕右新右衛門所持之地面内之圍込一圓ニ仕所持罷在候

一町内惣間數 京間百三拾六間六尺田舍間百五拾三間五尺

但拜領地共

西南之角

東西之北之方表京間五拾三間南之方裏幅六拾四間四尺南北之東之方裏行京間貳拾七間貳尺五寸西之方同長延三拾貳間貳尺

西北角

南北之西之方表京間三十三間六尺東之方裏幅同三十三間東西之南之方裏行京間貳拾四間三尺北之方同貳拾間

東之方南角

東西之南之方表京間貳十間北之方裏幅同斷南北之東之方裏行京間二十間西之方同斷

東之方北角

南北之東之方表田舍間四十九間貳尺西之方裏幅五拾五間四尺東西之南之方裏行田舍間三十壹間貳尺北之方同貳十九間貳尺

川上境南之方西角

東西之北之方表田舍間折廻六拾八間半南之方裏幅同六拾間南北之東之方裏行田舍間貳拾間半西之方同五拾貳間

川上境西北之角

東西之北之方表田舍間三拾六間南之方裏幅同三拾間但拜領地南北之東之方裏行田舍間拾五間三尺西之方同拾貳間三尺

町内中道角

南北之西之方表京間三十間東之方裏幅同貳拾間貳尺

東西之南之方裏行京間三十六間北之方同貳拾四間三尺

一四隣

東之方往還川を境深川木場町西之方同所三拾三間堂町同所永代寺門前町松平越中守様御下屋敷南之方川を隔同所久右衛門町立蹟明地同所入船町立蹟明地同所佐賀町代地立蹟明地北之方同斷同所島田町内藤大和守様御下屋敷

一町内中程=挾有之御武家御屋敷御寄合金田伊織様御下屋鋪表御高家衆六角頼母様御下屋敷 峯姫君様御附奥御取次大西卯十郎様御拜領地町同心神田造酒右衛門様御拜領地關所物奉行御支配手代衆六人御拜領大繩屋敷但大西卯十郎様神田造酒右衛門様御拜領屋敷之義元道式=御座候處文政十亥年七月十日御拜領地=相渡申候

一町内里俗木場と相唱候一圓木置場=付唱來候
一武家拜領並拜借人名面左之通

一五拾坪

右拜領地之義者享和二戌年十一月廿三日相對替拜領被致候當所之義者次=申上候

御膳所臺所人

高橋甚兵衛

一五拾坪

同堀内作二一郎

右拜領地之義ハ寛政三丑年十二月拜領仕候前書貳ヶ所拜領地之義者元御小人高木嘉助寛保年中拜領仕其後高木專之助代寛政五丑年四月中出奔致上り地=相成候處同年十二月御小間使柴田文五郎同堀内作右衛門兩人=而右地面百坪之處一圓拜領仕然處右兩人相談之上二ツ割=相成西之方=而表田舍間四間西裏行拾貳間三尺東裏行拾貳間三尺裏幅同四間此坪五拾坪之處前書柴田文五郎拜領之地所=相成東之方表間口田舍間四間東裏行拾貳間三尺裏幅田舍間四間之場所=而此坪數五拾坪之儀當時堀内作次郎拜領=御座候右之内柴田文五郎拜領地五拾坪之義者享和二戌年十一月中御臺所人高橋甚兵衛北楨町=拜領地有之候處右文五郎拜領地と相對替願之通被仰付當時高橋甚兵衛拜領罷在候

一百坪

御留守居番同心
向山初太郎

右拜領地之義者寛保四亥年八月七日拜領被致候其砌向山德左衛門代=而其後拜領相續=御座候

一百坪

右拜領地之義者寛保四子年中渡沼惣左衛門代拜領其後

御小人
渡沼清次郎

引續拜領仕候

一百貳拾六坪

右拜領地之義者寛保四子年中拜領地主小作人小澤次右衛門=有之候處賣女一件=而御上ヶ地=相成罷在候處當時拜領地主山田平藏先祖山田平右衛門延享三年八月十六日拜領被致是迄相續=御座候

小石川御藥園同心

山田平藏

拜借地
一七百六拾坪

樋橋棟梁
岡田治助

右者元祿十五年午閏三月御代官伊奈備前守様御掛リ樋橋棟梁南本所出村町利右衛門同所花町長右衛門右兩人義爲御忠節壹ヶ年仕手大工手間五拾人宛作料飯米不奉請相勤候=付兩人之者切組所々拜借仕引續兩人之俸拜借仕罷在候處安永三年三月廿九日樋橋棟梁岡田治助拜借仕當時右治助俸治助拜借仕同人義者御勘定御奉行御支配=而深川扇町住居仕罷在候

一御高札場 横六尺一寸五分幅貳尺五寸

右御高札之義者先年見守町=御代官所御支配之節伊奈半左衛門様御掛=而町入用を以御高札建可申様被仰渡尤場所見立繪圖差出候様右御役所=而被仰付則繪圖差出候所正徳三已閏五月右町々不殘御町方御支配=被仰

付同五未年坪内能登守様町方御勤役之節御懸リニ而猶
又御高札建場御調有之同年十二月中右御高札四枚並御
高札場雨覆駒寄等町々入用を以新規ニ相建候様被仰付
候よし其後大岡越前守様町方御勤役之節在々ニ而銃炮
打候者之義ニ付御高札御文言相改候ニ付御高札板右御
番所之差出候處享保六年丑二月中御書替有之候由其後
右御高札場損申候ニ付元文二年巳四月十日松波筑後守
様町方御勤役之節有來之通修復仕度奉願候處願之通被
仰付延享四年卯八月朔日馬場讃岐守様町方御勤役之節
御文言見之兼候ニ付貳枚を削直外貳枚を新規仕直御書
替被成下置候様奉願並御高札場之義茂修復仕度奉願候
處同三日本所方御掛見分之上來ル六日讃岐守様御番所
之御高札板持參候様被仰渡候間同日新規御高札板削直
貳枚都合四枚右御番所之持參差上候處來ル八月御高札
請取ニ罷出可申候様被仰渡候同日罷出候處御高札四枚
御文言御書改御渡被下置候然御高札場とも出來仕同十
六日御見分相濟申候其後安永八亥年九月六日右御高札
古ニ罷成御文言之兼候ニ付四枚とも削直シ御書替被成
下置候様曲淵甲斐守様町方御勤役之節御高札場修復と
も奉願候處同八日本所方御掛御見分之上願之通被仰付
候同年十一月二日御高札場出來仕候ニ付右御番所之御

訴申上候處同月四日御高札御書替御渡被下置御高札相
掛ケ候ニ付同七日日本所方御懸リ御見分相濟申候寛政八
年辰三月小田切土佐守様町方御勤役之節御高札並御高
札場とも損古ニ罷在御文言見之兼候ニ付四枚共削直書
替被下置候様奉願候處同四月四日本所方御懸リ御見分
之上御高札場者勝手次第取掛可申旨被仰付御高札削直
之義者追而御沙汰可被下旨被仰渡候處同月八日右伺相
濟候間削直可差出旨被仰被候ニ付則土佐守様御番所之
持參差上候所同月十二日御文言御書改御渡被下置御高
札場とも出來仕候ニ付本所方御掛御見分被下置候猶又
文化十一戌年七月申永田備後守様町方御勤役之節御高
札古ニ罷成御文言見之兼候ニ付御書替被成下置候様並
御高札場修復共奉願候處願之通被仰付同八月廿五日
御文言御書改御渡被下置出來仕建來申候
但右御高札見守候町々深川平野町同一色町同伊勢崎
町同東平野町同西平野町同山本町同西永町同三好町
同元加賀町同末廣町石島町同島崎町同吉永町同扇町
同茂森町同六萬坪町同木場町同島田町同入船町同宮
川町同大和町同六人屋敷同龜久町同冬木町同龜歩
町
一海

右者南之方地先ニ而永代浦と相唱申候石垣扣土手之義
者風波烈敷場所ニ而深川者勿論本所邊迄茂高波之難難
斗一同爲御救元祿十一寅年中御普請御奉行深津八郎右
衛門様御懸ニ而西之方元稻垣和泉守様御下屋敷當時松
平阿波守様御下屋敷境ノ武州葛飾郡西葛西領砂村新田
迄石垣扣土手高壹丈四尺ノ壹丈八尺迄土手敷五間半ノ
六間迄凡長千五百間餘海中之綾杭貳通り御打渡何れも
御公義様御入用を以新規御築立出來仕御代官伊奈半左
衛門様之御引渡相成申候其後度々御修復有之候

一川貳ヶ所

西ノ北之方折廻シ壹ヶ所長百三拾七間四尺五寸幅貳
拾間南ノ北之方折廻シ壹ヶ所長貳百五拾六間四尺
幅拾間

前書拾間川之義者攝州大坂東之方ニ當リ平野川と申有
之町内開發之節辰之名主甚四郎支配境ニ付右名目ヲ當
所之移申度東者同所六萬坪町前通ノ同所木場町前通西
者當町地先を限り平野川と相唱來候よし申傳ニ御座候
此外貳拾間川と相唱別段名目無御座何れも堀割年代相
知不申候

一汐見橋 長拾五間幅九尺橋臺石垣東之方五間二尺ニ貳
間西之方二間半ニ六尺

右者町内西之方並三拾三間堂兩町境ノ東之方當町之相
渡候御公儀様御入用橋ニ而起立年代相知不申尤初而御
掛渡之節橋上ノ永代浦海手一圓ニ見渡候場所ニ付汐見
橋と名目相唱候よし申傳ニ御座候

但右橋見守之儀ハ當町並拜領地入船町三拾三間堂町
ニ而見守仕異變等有之候節者右三ヶ所ニ而本所方御
懸リ之申立執斗仕來申候

一平野橋 長八間三尺幅七尺貳寸橋臺南之方貳間宛北之
方右貳間左六尺

右者南之方久右衛門町立跡之相渡候橋起立之儀元祿十
六年未三月二日初而相掛候橋ニ而名目之儀ハ名主甚四
郎先祖舊地攝州天滿橋大川之枝川ニ而東堀通り東西平
野町筋ニ平野橋一橋有之當町之儀者甚四郎支配境ニ付
右橋名目とも當所之移申度御代官伊奈半左衛門様之奉
願候處願之通被仰付其節ノ前書名目相唱來候得共町橋
ニ無之 御公儀様御入用御座候譯相知不申當町ニ而見
守仕異變等有之節者本所御掛之申立執斗仕來申候
一入船橋 長七間貳尺五寸幅六尺橋臺前後左右とも壹丈
壹尺宛

右者町内ノ北之方同所島田町之相渡候右町手切持之橋
ニ有之委細之儀者右島田町ノ申上候

一金岡橋 長八間五尺五寸幅六尺五寸橋臺前後左右とも
貳間半宛
右者町内之東之方同所木場町之相渡候同町一手持之橋
ニ有之委細者右木場町之申上候
一河岸地四ヶ所 東之方壹ヶ所南北之長七拾壹間幅三間
西之方壹ヶ所南北之長六拾九間壹尺五寸幅三間南之
方壹ヶ所東西之長貳拾壹間四尺幅三間北之方東西之
長五拾壹間幅三間

以上戊子書上

木場町

一町内起立往古之譯東平野町ニ而申上候當所ニ罷在候材
木問屋とも之儀者慶長年中御當地ニ而商賣仕追々御
當地御繁榮ニ罷成然所寬永之頃大火之後爲火除延寶年
中ノ只今之深川元木場ニ而諸材木問屋商賣仕候處右元
木場御用地ニ被召上以後本所猿江之相引ヶ候處是又御
用地ニ相成候ニ付元祿十四年巳四月材木問屋拾五人
者御築立場殘地之内四圍之所江戸町並同前家作御改御
免之町屋ニ仕度御代官伊奈半左衛門様御買請奉願候處
願之通被仰付地代金上納仕御同所様御支配ニ而同十
六年未四月右問屋とも木置場ニ付木場町之名目奉願唱

來候處其後正徳三年巳閏五月松野壹岐守様坪内能登守
様丹羽遠江守様御奉行御勤役之節町方御支配ニ被
仰付引續御公役相勤候古町同様之町屋敷ニ御座候尤問
屋とも方度々之類焼ニ付舊記書留焼失仕委細之義相
知不申候得とも延寶年中木場材木問屋共之被下置候御
高札寫並言上御帳附御願濟其外先年之書上寫左ニ申上
候

以書付申上候
深川木場材木問屋共古來之譯並御高札被下置候譯御
尋ニ付申上候

一材木問屋とも之儀者慶長年中御當地ニ而右商賣仕候
處段々御當地御繁榮ニ付木置場之義爲火除之延寶年中
ノ只今之深川元木場町と申所ニ而諸材木問屋商賣仕候
其節材木取締之爲御高札御建被下置右木置場之義其後
御用地ニ被召上本所猿江之相引候處是又御用地ニ相成
尤其節之書留等者度々之類焼ニ付問屋とも方ニ而焼失
仕候得とも右之譯者先祖ノ申傳罷在候よし問屋とも申
立候

一元祿十四巳年當木場其砌者地窪ニ有之候處九万坪餘御
買請仕材木問屋とも自分入用を以四方土手築立自分川
堅横六通り新規ニ相掘り往來橋拾ヶ所相掛木場町ニ開

發仕只今ニ相續仕罷在候尤御買請仕候節之書付者只今
ニ問屋とも方ニ所持仕罷在候義ニ御座候よし問屋とも
申立候

一右御高札之譯延寶年中之木場ニ而材木問屋とも商賣仕
候節者 御公儀様御手山御伐出しと申義者無御座諸國
ノ問屋とも之儀者慶長年中御當地ニ而商賣仕追々御
者右木場ニ御差置被遊並問屋共材木茂夥敷有之義ニ付
右取締之爲御高札貳ヶ所之御建被下置候其後元祿十二
卯年右木置場猿江之相引候様被仰付候ニ付右貳ヶ所御
高札之内壹ヶ所ハ大川口ニ殘置残り壹箇所者猿江之引
キ相建置候處右猿江者御材木藏御用地ニ相成候ニ付元
祿十四巳年當時之木場之引移候節猿江ノ引取候御高札
木場町へ引相建置今以大川口ニ壹ヶ所木場町ニ壹ヶ所
相建有之候尤右御高札問屋とも材木取締之爲御建被下
置候義ニ付延寶年中於今御書替並修復等之節者本所御
掛之御願申上御見分之上御月番之御番所様ニ而御書替
被下置候右入用之義者問屋共之差出來申候
一古來ノ 御公儀様御材木御用之節ハ右問屋とも之御買
上被仰付御上納仕來並材木問屋とも諸木有木高材木立
直段等毎年春秋兩度御藏御役所之書上申候尤材木御入
用之節ハ御用之木品直段等書上仕候處其内御用ニ不相

成追而御下ケ木被仰付候而茂一旦書上候木品御下知無
之内者何時迄茂圍置罷在候義ニ御座候よし問屋共申立
候

一猿江御材木藏方角出火之節ハ木場問屋共ノ人足召連駈
付毎度相働來候處先年出火之砌嚴敷相働御材木消防仕
候段右御藏御掛様御覽之上御言葉之御褒美有之於今右
之通相心得罷在候よし問屋共申立候

一元文四年靈岸島邊ニ而材木問屋仲間ニ而茂無之者材
木猥ニ取捌候ニ付木場問屋とも其段石河土佐守様御
勤役之節御願申上候處御吟味之上木場問屋共之外猥ニ
材木取捌候儀不相成段被仰付候ニ付此段同年十一月十
八日言上御帳面ニ御記被下置候同五年申四月十八日右
相手之者共之内問屋共仲間之加入仕候者共又ハ仲買等
ニ相成候段一同言上御帳面末御記被下置候

一延享二年丑十月川邊組合之者共材木猥ニ引請商賣仕候
ニ付其段島長門守様御勤役之節御願申上候處段々御吟
味之上能勢肥後守様御番所ニ而材木搏木之類取捌之義
者木場問屋共ニ相限候段被仰付川邊古問屋七拾七人材
木問屋仲間之加入仕一株を持木場町ニ賣場ヲ相建賣買
仕候様仰渡其段同四卯年言上御帳面ニ御記被下置候且
又惣年番名主共之右御番所ニ而前書之趣右商賣筋之者

共々名主支配限り不洩様申聞置候様被仰渡候事
右之通材木問屋共々相尋以書付申上候以上

天明元年丑六月 深川木場町 名主 辨 内

元文四年未十一月十八日言上御帳附寫

一深川木場町材木問屋行事清次郎外拾壹人申上候私共古
來材木問屋仕來候處右問屋ニ而茂無之者數多有之材
木搏木引請商賣仕候ニ付先月三日私共當御番所様之御
願申上候得者右之者とも仲買ニ相片付候共問屋仲間
相加り候とも又は商賣相止候とも片付候様御訴訟申上
候得者奈良屋市右衛門方之御吟味被仰付猶又今日土佐
守様御番所御内寄合之被召出御吟味之上私共願之通此
以後猥ニ商賣仕候者茂有之候ハ、御訴可申上旨被 仰
渡奉畏候私とも商賣仕候諸材木左之通言上御帳記置度
奉願候

- 一諸材木角平物 大小長短
- 一諸木搏木 大小長短
- 一諸木末口丸物 大小長短
- 一諸木板 大小長短
- 一廻船帆柱同桁 大小長短

延享四年卯年正月十八日言上御帳附寫

一深川材木問屋拾壹人川邊問屋八人並問屋名題五百貳拾
四人之内鯨船廻り御用相勤候古問屋七拾七人之内之
常行事拾四人之者とも申上候角木商賣之儀ニ付出入及
再三御吟味之上今日變方御内寄合被召出被仰渡御裁許
之趣材木問屋ともは九年以前元文四年未十一月十八日
之言上帳ニ記候趣有之川邊問屋共茂五年以前寛保三年
亥五月朔日鯨船御用請負候節角材木挽木板貫小割丸太
竹炭薪商賣之品々書上候趣茂有之ニ付右御用相勤候古
問屋七拾七人之者とも向後材木問屋仲間之致加入七拾
七人ニ而壹株を持深川木場町之賣場を建仲間作法申合
材木大小長短並搏木之類者右深川木場ニ而致商賣尤近
國山方之伐出候丸太筏ニ組交差送候押角之半角ハ大小
長短ニ不限古來之賣來候通川邊問屋居宅前ニ而可致商
賣候右七拾七人之外脇々ニ而者猥ニ角物類向後取捌申
間敷候若此上角物取捌又者外之仕入金遣ニ置候荷を不
埒引請問屋之定を破候者有之候ハ、可訴出且又只今深
川材木問屋共々仲買共々材木賣渡シ一注文と申小金ニ
者不賣渡候趣仲買とも商賣手狭ニ而難義之由ニ付向後
左様ニ手狭成私法を相止差支無之様ニ可申合候並問屋
名題讓請候節ハ相改 御番所之相届候上問屋常行事之
爲相知元帳ニ茂記置取縮候様ニ可申合旨今日於御内寄

合ニ被仰渡難有奉存候名題有之町々之者名主仲間之致
通達其支配之名主之右之趣銘々可申聞旨奉畏候爲後證
言上御帳ニ記置可申旨被仰渡候ニ付右材木問屋西河岸
町天満屋助右衛門印米津屋久右衛門印伊勢屋佐七印本
湊町栖原屋角兵衛印中川三十郎印築地十軒町雜賀屋伊
兵衛印深川蛤町齋藤屋伊右衛門印一色町館屋清次郎印
北川町村山屋三右衛門印中島町升田屋長右衛門印相川
町伊勢屋市兵衛印川邊問屋北八町堀川通上總屋又兵衛
印大坂屋庄三郎印青梅屋傳七印靈岸島川通花屋七右衛
門印角屋與兵衛印本所川通二目三目北南大和屋吉
兵衛印伊勢屋六兵衛印平野屋庄兵衛印川邊問屋五百貳
拾四人之内鯨船御用相勤候古問屋七拾七人之内常行事
松井町貳丁目忠兵衛店常陸屋權左衛門印同人店海野屋
佐治兵衛印林町五丁目家主萬屋武右衛門印德右衛門町
貳丁目大兵衛店平野屋庄兵衛印相生町三丁目治兵衛店
府中屋孫七印同五丁目三右衛門店小山屋喜左衛門印綠
町三丁目伊兵衛店立野屋權兵衛印花町與兵衛店伊勢屋
忠兵衛印同町伊兵衛店伊勢屋六兵衛印神田佐久間町四
町目殘地長兵衛店戸田屋喜右衛門印淺草諏訪町喜兵衛
店岸部屋甚兵衛印同所三好町家主近江屋久左衛門印龜
島町九兵衛店丸屋五郎兵衛印同町治右衛門店近江屋忠

左衛門印深川蛤町名主八左衛門印一色町名主茂次郎印
中島町名主吉左衛門印相川町名主新兵衛印西河岸町名
主清右衛門印靈岸島川通名主孫市印同長兵衛印築地十
軒町名主善三郎印德右衛門町名主太郎兵衛印相生町綠
町名主平内印花町名主治郎右衛門印本湊町名主十左衛
門仲買貳拾壹ヶ所組合神田三拾間堀新材木町年番行事
惣右衛門店善左衛門印同町伊兵衛印茅場町本材木町四
町目年番行事家主太兵衛印同町久兵衛店勘右衛門印芝
口濱松町神田佐久間町同新町淺草材木町同新川新材木
町年番行事六兵衛店喜兵衛印同町家主惣兵衛印本所二ッ
目三ッ目深川元番所同元木場藥研堀聖堂下本郷元町淺
草新川深川六間堀年番行事家主惣左衛門印同町家主喜
左衛門一同ニ申來候
一御高札場 貳ヶ所
木場町北之方入口木戸際壹ヶ所
横四尺五寸巾三尺八寸九分
佐賀町下之橋際地先川中
横七尺貳寸四分巾四尺五分
但高三尺四寸四方折廻シ駒寄雨覆附
右御高札文言貳ヶ所共左ニ申上候
定

一深川御材木並商人之諸材木等外へ流出る時大川より外之内堀にて一切ひろひ取へからず御用木ハいふに及はず商人の材木たりといふとも斷次第返すへき事

一大川筋又ハ海邊へ流出る木ハうきしづみ其品によりとりあくる材木之内浮木ハ三拾分一沈木ハ貳拾分一御定のことく取揚る者に遣へき事

一深川材木積置所堀入る川口にみたりに船をつなき船路を留へからざる事

右可相守此旨若於相背者可爲曲事者也

正徳元年五月日

奉行

右御高札之儀正徳元年の元文三年迄之間御書替修復等之有無相知不申然處佐賀町下之橋際 御高札場損申候ニ付修復仕度元文三年七月廿九日松波筑後守様町方御勤役之節奉願候處本所方御掛御見分之上願之通被仰付同九月三日出来仕候ニ付御訴申上候處同日御見分被下置候以後延享元年子五月十日石河土佐守様町方御勤役之節右御高札並木場町御高札とも古相成御文言見

へ兼候ニ付貳ヶ所御高札場とも修復建替仕度御文言御書替共奉願候處本所方御掛御見分之上願之通被仰付候一佐賀町下之橋際御高札場寶曆二年申六月廿三日修復奉願明和九年辰二月十日修復奉願天明八年申十月十七日山村信濃守様町方御勤役之節御高札御文言御書替奉願享和三年亥七月廿八日小田切土佐守様町方御勤役之節同御文言御書替奉願文政二年卯十二月廿日岩瀬伊豫守様町方御勤役之節御文言御書替奉願然處御高札場損申候ニ付文政十一年子六月廿七日筒井伊賀守様御番所え修復奉願候處本所方御掛御見分之上願之通被仰付候一木場町入口御高札明和九年辰五月十二日山村信濃守様町方御勤役之節御文言御書替奉願寛政九年巳三月十一日小田切土佐守様町方御勤役之節御文言御書替奉願文政二年卯十二月廿日岩瀬伊豫様町方御勤役之節御文言御書替奉願文政二年卯十二月廿日岩瀬伊豫様町方御勤役之節御文言御書替奉願何レ茂御見分被下置願之通被仰付候一町内東西え南之方百九拾三間九寸北之方貳百貳拾壹間九寸南北え東之方三百四拾六間但角折曲り長延西之方三百三拾間三尺一四隣 東之方川を境武州葛飾郡西葛西領平井新田増山河内守様御抱屋敷林肥後守様御抱屋敷松平因幡守様御抱屋敷深川六万坪町西之方川を境深川入船町同島田町

同鶴歩町南之方川を境深川吉祥寺門前同久右衛門町立跡明地北之方川を境深川扇町同茂森町

一町内里俗木場と相唱候譯材木問屋共住居之木置場ニ付相唱申候

一自身番屋 間口四間奥行四間

右者當町地面内に有來候町内手切持之自身番屋ニ御座候處起立相知不申候

一高札場之義者同所入船町汐見橋際西南之方ニ建有之當町之義茂前々々組合見守仕委細之義ハ入船町申上候

一川

右者町内四方ニ有之長幅間數不同有之候且又堀割年代何茂相知不申尤東之方平井新田前通々南西之方に折廻し場所名目平野川と相唱來申候委細之譯入船町申上候其外名目無御座候

一自分板橋十ヶ所

右橋之義長巾不同起立之義ハ元祿十四年巳四月材木問屋拾五人之者共地所御買請仕銘々割合所持仕候節地面内自分通路之爲掛渡候橋ニ御座候尤地面内之義ニ付起立之節々何方え茂不奉願新規修復とも只今以自分勝手ニ仕來候義ニ御座候町内之義者前々ニ申上候通一圓御

買請沽券地ニ付四方圍外之義者何事ニ不依御町方え奉願取斗仕圍内之義ハ都而不奉願取斗候前々々仕來ニ御座候

一扒堀板橋 長三間半巾五尺三ヶ所

右三ヶ所扒堀橋之義茂前書ニ申上候通同様之義ニ御座候

一金岡橋 長八間巾壹間

右者町内々西之方同所入船町え相渡候當町手切入用を以相掛候橋ニ而諸御願其外とも都而一手之持ニ御座候處起立名目とも相知不申候

一龜井橋 長拾間巾壹間

右者町内北之方々同所扇町え相渡り候橋ニ而當町内並扇町右貳ヶ町入用を以相掛候橋ニ有之尤諸御願之節並異變等有之候節々木場町申立取斗仕來申候起立名目相知不申候

一築島橋 長八間巾七尺

右者西之方同所島田町々當町え相渡候島田町手切持之橋ニ付委細之義者右町申上候

一江島橋 長拾間巾壹間

右者南之方同所吉祥寺門前々町内地先え相掛有之候吉祥寺門前手切持之橋ニ付委細之義者右町申上候

深川木場町家持
材木問屋 和 助

右和助儀年來材木問屋商賣仕罷在候處文化五辰年中小田切土佐守様町方御勤役之節右御番所御掛りニ而永代橋新大橋右兩御橋御掛替御用被仰付候ニ付爲冥加諸材木直段引下ケ出精相勤御普請中無御差支二橋共皆出來仕候ニ付同年十二月廿七日土佐守様御番所御内寄合エ被召出爲御褒美御銀五枚被下置候

一文化六巳年中兩國橋御修復ニ付小田切土佐守様町方御勤役之節御掛りニ而右御用被仰付候處前文同様出精仕無御差支御橋出來仕候ニ付同年十月廿一日土佐守様御番所之被召出爲御褒美御銀三枚被下置候

一同七午年中根岸肥前守様町方御勤役之節右御番所御建替御普請ニ付右御用被仰付候處同様出精仕無御差支御普請出來仕候ニ付爲御褒美御銀五枚被下置候

一同八未年中根岸肥前守様永田備後守様町方御勤役之節大川橋御掛替有之候ニ付右御用被仰付候處御普請中出情仕無御差支出來仕候ニ付同年十二月廿七日御番所之被召出爲御褒美御金五百疋被下置候

一同十三子年中岩瀬伊豫守様町方御勤役之節右御番所御類焼ニ付御普請急御用被 仰付候處万専心懸材木類出

精仕相勤御普請無御差支出來仕候ニ付其節爲御褒美御金七兩被下置候

一文政七申年中町御奉行榊原主計頭様御掛ニ而新大橋御掛替之節和助同居之伴七左衛門之右御用被仰付候處前書父和助同様出精仕候普請中無御差支御橋出來仕候ニ付同年五月廿七日主計頭様御番所御内寄合エ被召出爲御褒美御銀三枚被下置候

一同八酉年中町御奉行榊原主計頭様御掛ニ而大川橋御掛替之節右御用和助之被 仰付候處前々之通出精相勤無御差支御橋出來仕候ニ付同年十二月廿九日主計頭様御番所之被召出爲御褒美御銀三枚被下置候處其節之書留紛失仕御褒美之御高相知不申候

以上戊子書上

吉祥寺門前

一右門前町屋起立之義者元祿十三辰年中深川州崎辨財天別當吉祥寺惣坪數千百七拾坪拜領被仰付其後元祿十五年申年中門前家作之義奉願同年四月廿二日寺社御奉行永井伊賀守様御掛ニ而右地所之内三百四拾坪餘門前町屋ニ被仰付寺社御奉行御支配ニ有之候處右門前町屋延享二五年中町御奉行能勢肥後守様馬場讚岐守様御勤役之

筋町方御支配ニ相成申候

一町内南北間數四拾三間半
此内譯

南側 東西表間口拾間三尺裏幅拾六間三尺南北之西裏行拾間東裏行拾壹間

但東裏行之外六間入込御座候

表門並西側

南北之表間口拾間裏幅同斷東西之裏行拾壹間

北側

東西之表間口拾五間裏中同斷南北之裏行五間

飛地

東西之表間口貳間裏中同斷南北之裏行三間

一四隣

東之方辨財天境内西之方深川久右衛門町建跡明地南

之方海手北之方拾間川境深川木場町

一里俗ニ此邊一圓ニ州崎と相唱申候

一川 巾拾間長拾六間半程

右者町内北之方ニ而拾間川と唱深川築出新地川口ノ相續平井新田之方ハ流申候堀割年代相知不申候

一江島橋 長拾間巾壹間橋臺左右ニ而貳間

右者町内ノ深川木場町之渡候橋ニ而前書拾間川ニ掛渡

有之元祿十三年辰年中江島様と申御年寄御女中御寄進有之候故江島橋と唱來其後只今以吉祥寺一手持ニ而新規修復並異變非常之義共引請取斗候義ニ御座候
一葭簀張腰掛茶屋 長東西貳拾間巾三間一續内分四軒
右者御掛役所並建物年代等一向ニ相知不申候右門前町家坪數之外ニ御座候

以上戊子書上

内山毘世淨書

御府内備考卷之百十六終

御府内備考卷之百十七

深川之七

小松町

一 町内起立之儀者委細材木町申上候當所之儀者元祿十四巳年六月中町人共御代官伊奈半左衛門様申立江戸町並家作御改御免之地所ニ被成下候様奉願御聞濟之上代金上納仕引續町銘相願候得共右唱之儀不相知御同人様御支配ニ候處正徳三巳年閏五月中松野壹岐守様丹羽遠江守様坪内能登守様町御奉行之節町方御支配ニ相成引續公役銀上納仕候町屋敷ニ御座候

一 町内惣間數 南北ニ表京間四拾三間餘裏幅四拾四間半餘東西ニ奥行貳拾間

一 北之方横通東西ニ表京間四拾三間半餘裏幅四拾四間半餘南北ニ奥行東之方五間半餘西之方六間餘

一 但往還道幅相除申候

一 四隣 東之方川境同所伊澤町同所一色町西之方松平織

部正様御下屋敷久松榮三郎様御下屋敷眞田彈正忠様御下屋敷石井滿五郎様御屋敷南之方御寄合小堀織部様御屋敷北之方川境同所松賀町續拜借屋敷

一 當町里俗干鯛場と相唱申候

一 河岸地 長四拾七間九寸 巾四間

一 右者町内東南之方地先河岸ニ而元地同様御買請之河岸地ニ御座候

一 御高札之儀者同所萬年町地先ニ有之町内之儀も見守仕來尤委細之儀者右萬年町申上候

一 自身番屋 間口九尺 奥行貳間半

一 右者町内北之方河岸ニ有之町内一ト手持ニ而右起立書留無御座候と相分不申候

一 石置場 五拾壹坪三合三夕貳才

一 右者町内北之方入堀端往還之内ニ有之古來ノ差置候所文政六未年ノ冥加銀上納仕候

一 干鯛市場

一 右者町内東之方表通並同所西永代町共同様一圓干鯛問屋共所持地面ニ有之候ニ付右荷物賣買仕候場所ニ御座候委細之儀者右西永代町申上候

一 川 巾拾間程 長五拾間程

一 右者町内東之方ニ有之東北之方油堀ノ之枝川ニ而末者

大川之方ニ相流名目無御座候

一 入堀 幅拾間 長五拾八間

右者町内北之方ニ有之前書枝川ノ之入堀御座候名目無御座候

以上戊子書上

松賀町

一 町内起立之儀委細材木町申上候當所之儀者元祿十三辰年十二月中町人共御代官伊奈半左衛門様申立江戸町並家作御改御免之地所ニ被成下候様奉願御聞濟之上代金上納仕引續町銘相願候得共右唱之譯不相知御同人様御支配ニ候處正徳三巳年閏五月中松野壹岐守様丹羽遠江守様坪内能登守様町御奉行之節町方御支配ニ相成引續公役銀上納仕候町屋敷御座候

一 町内惣間數東西ニ表京間四拾五間半餘裏幅同斷南北ニ奥行貳拾間

一 但往還道幅相除申候

一 四隣 東之方川境同所材木町同所一色町西之方松平織部正様御下屋敷南之方同所拜借屋敷北之方川境同所堀川町

一 里俗唱之儀者町内東之方ニ勢州住宅家持九郎右衛門と

申者所持地面之内者一圓土藏有之四拾八戸前有之候ニ付右地面之場所里俗ニいろは藏と相唱申候

一 河岸地 長四拾九間三尺四寸 巾東北ニ四間

一 右者町内北之方油堀之側ニ有之

一 河岸地 長貳拾壹間四尺 巾西南ニ四間

一 右者町内東之方枝川付ニ有之右貳ヶ所共惣坪數貳百八拾四坪九合町内地先河岸共横地先河岸共元地同様御買請仕候

一 御高札之儀者同所萬年町貳丁目海邊橋際ニ有之委細之儀者萬年町申上候

一 自身番屋 間口九尺奥行三間

一 右者町内北之方御買下河岸ニ有之町内並同所拜借屋敷右兩町持合ニ而右起立書留無御座候と相分不申候

一 物揚場 幅六尺程 長拾八間程

一 右者町内北之方河岸地之方ニ有之先年ノ有來申候願濟之年月書留無御座相分不申候得共寶永之度ノ出來仕候由ニ御座候

一 千鳥橋 巾九尺五寸 長拾三間

一 右者町内東之方ニ有之同所堀川町ノ相渡り候橋ニ而

御公儀様御入用ニ而出来仕候御橋ニ御座候異變取斗方者右兩町ニ而申上候尤起立名目書留無御座相分不申候

一 綠橋 中壹丈 長拾間程

右者町内東之方枝川ニ相懸り有之同所一色町ノ相渡候橋ニ而

御公儀様御入用ニ而出来仕候御橋ニ御座候異變取斗方者右兩町ニ而申上候尤起立名目書留無御座相分不申候

一 川 長東北之七拾間餘 中拾五間

右者町内北之方ニ有之深川木場町邊ノ末者大川之方ニ相流尤名目油堀と相唱申候唱之譯同所一色町ノ申上候南之方ニ相流候枝川有之幅拾間町内地先長三拾間程有之末者大川ニ相流名目無御座候

以上戊子書上

松賀町續

拜借屋鋪

一 町内起立之儀者材木町ニ而申上候通元木置場跡之内ニ御座候得共其頃町人共御買請仕候場所ニ者無御座明地ニ而御座候哉外拜借人等御座候哉委細相知不申候其後

一 川 幅拾五間 長拾四間

右者町内東之方ニ有之同所松賀町ニ而申上候油堀之枝川ニ御座候

一 入堀 中拾間 長五拾八間程

右者町内南之方ニ有之同所小松町ニ而申上候通前書枝川ノ入堀ニ御座候

以上戊子書上

一 色 町

一 町内起立之儀者材木町ノ申上候通往古者此邊一鉢木置場之内ニ而當町之儀者其頃三十間堀邊材木間屋共木置場跡之由其後御町屋割ニ相成元祿十三辰年十二月ノ同十四巳年四月迄之内兩度ニ靈岸島銀町伊勢屋又四郎同庄兵衛大傳馬町貳丁目加藤屋傳右衛門本湊町栖原屋勘右衛門同半平町名不知廣屋孫四郎深川大工町熊野屋傳左衛門同所相生町鐔屋龜之丞右八人之者共御代官伊奈半左衛門様之右場所江戸町並同所家作御改御免之町屋鋪ニ御買請奉願候處願之通被仰付地代金上納仕御同所様御支配所ニ而同年六月殘地之場所ニ候哉委細相知不申御坊主衆拜領町屋鋪ニ相成何れも正徳三巳年閏

享保三戌年御材木取次役箕田彦次郎と申者一圓拜借地ニ相成箕田屋敷と相唱引續町方御支配ニ相成候處右取

次御用御免ニ而寛政二戌年十二月中上り地ニ相成同三亥年正月御材木藏住居則御材木石奉行御支配之同心

衆三拾五人ニ而内譯無之一同之拜借地ニ相成其砌ノ拜借屋敷と相唱當時右之内地面掛り石崎利右衛門様篠塚

久右衛門様兩人ニ而進退仕先拜借人之節ノ引續公役銀上納仕候町屋敷ニ御座候

一 町内 東西ニ表間口四拾九間裏中同斷南北ニ與行九間但往還道幅相除申候

一 四隣 東之方川境一色町西之方松平織部正様御下屋敷南之方入堀隔同所小松町北之方同所松賀町

一 御高札之儀者同所萬年町貳丁目地先ニ有之町内之儀も先年ノ見守仕來候委細者右萬年町ノ申上候

一 河岸地 中東西ニ四間 長 九間

右者町内東之方ニ有之寛保四子年二月町々繪圖面御改之節河岸地間數書上仕候通ニ而拜借地河岸之儀ニ付冥

加上納等無御座候

一 自身番屋之儀者同所松賀町ニ有之番屋ニ組合ニ罷在町用相勤申候委細右町ノ申上候

五月松野壹岐守様坪内能登守様丹羽遠江守様町御奉行

之節ノ町方御支配ニ被仰付引續公役相勤候古町同様之町屋鋪ニ御座候且町名之儀年月相知不申元木置場御用

地ニ不相成已前之事ニ候哉材木間屋一色十左衛門と申者古住居仕罷在右故御町屋割之節ノ一色町と町名相

唱候由何れ茂申傳ニ御座候尤度々類燒之節書留燒失仕委細之儀相知不申候

一 町内ニ而表京間十貳間五尺裏中同斷裏行同貳拾間石高壹石貳斗此反別壹反步之地所殘地ニ候哉上ケ地跡ニ候

哉相知不申元祿十五年壬八月本所中之郷元町之内御用地ニ相成寶永二酉年壬四月右場所ノ代地被下置候得

共町名者矢張右一色町ニ相籠候町並屋鋪ニ御座候間御年貢之儀者中之郷地方名主庄太郎ノ取立御代官山田茂

左衛門様御役所ニ相納申候

一 町内惣間數京間百四拾三間

一 中道ノ東之方東西ニ北之方表京間五拾貳間半餘南之方裏中同三拾九間半餘南北ニ東之方裏行京間貳拾間西之方同貳拾貳間餘

一 中道ノ西之方東西ニ北之方表京間八拾間餘南之方裏中同斷南北ニ東之方裏行京間貳拾間西之方同斷

一 裏道南角南北ニ西之方表京間拾間東之方裏中同斷東西

之南之方裏行京間貳拾間北之方裏行同斷
但片側町往還道中相除申候

一四隣 東之方往還川境深川平野町同所三角屋鋪西之方
往還川を境同所松賀町南之方往還を境同所黒江町下谷
坂本町代地深川松村町同所伊澤町大場斧三郎様田村武
右衛門様松田専藏様根岸吉右衛門様墨山忠右衛門様大
竹孫左衛門様御屋敷北之方往還川を境同所富久町同所
材木町

一町内里俗唱之儀者當町南裏通より伊澤町松村町裏通へ
掛ケ一圓網打場と相唱申候右者前々船頭共右場所家
前往来ニ而網ヲ打候より唱候儀ニ御座候
一町屋敷拜領人名前左之通

一百貳拾七坪六合九夕

御同朋支配
奥陸尺 岩 本 甚 藏

右者元祿十四巳年六月元木置場跡二ノ丸御留居支配御
坊主組頭櫛田長養拜領其子長順伴長養迄拜領之處安永
七戌年十一月地面差上町内之御預ニ相成候處同八亥年
六月奥陸尺岩本甚平拜領仕寛政十二申年五月十三日其
子甚藏之跡式被仰付當時右甚藏拜領仕候

一百貳拾七坪六合九夕

西御丸御切手御門番頭
吉本與惣左衛門組同心
山田 熊右衛門

右者元祿十四巳年六月元木置場跡御坊主關久和拜領天
明六年迄久和跡隆録拜領之處同年七月地面差上町内
之御預ケニ相成候處同七年九月朔日奥陸尺前田久藏
拜領之處寛政三亥年山田忠次郎拜領屋鋪赤板新町と前
田久藏拜領深川一色町屋鋪と相對替仕度奉願候處同年
七月十九日願之通被仰付山田忠次郎拜領致候處寛政七
卯年十一月五日父忠次郎跡家督被仰付當時熊右衛門拜
領仕候

一百貳拾七坪六合九夕

御勘定奉行支配湯呑所之者
野口兵一 郎

右者元祿十四巳年六月元木置場跡御坊主堤道齋拜領其
子道陸寛保三亥年迄拜領之處神田松下町貳丁目ニ而高
濱清與上り屋敷拜領致候ニ付同年壬四月廿六日一色町
拜領屋敷差上町内之御預ケニ相成候處同七月十一日西
御丸奥陸尺野口兵左衛門拜領其子幸三郎拜領之處享和
二年戌十一月廿五日幸三郎伴兵一郎家督被仰付拜領仕
候

一百貳拾九坪七合

御留守居同心
雨宮藤三 郎
御疊手代
内田 庄右衛門

右者元祿十四巳年六月元木置場跡御坊主山本甫三拜領

之處享和六丑年九月廿三日病死跡目無之地面被召上同
年十月町内之御預ケニ相成同八卯年十一月十五日御儒
者菅野彦兵衛之拜領之處本所松坂町貳丁目常凌上ケ地
を拜領致候ニ付上ケ地ニ致享保十五戌年九月十一日町
内之御預ケニ相成同十六亥年八月廿二日 竹姫君様御
輿昇雨宮吉左衛門内田權八郎拜領仕其後代々兩人拜領
仕當時雨宮藤三郎内田庄右衛門拜領仕候

一百八坪七合六夕

御裏御門御切手番同心
栗田 彌八 郎

右者元祿十四巳年六月元木置場跡御坊主淺井清由拜領
致候處享保十七壬五月七日永島町ニ而永井久悦上ケ地
ヲ拜領致候ニ付上ケ地ニ致町内之御預ケニ相成候處同
十八年丑五月廿六日奥陸尺會祖父栗田彌右衛門拜領祖
父栗田佐兵衛拜領當時彌八郎拜領仕候

一百貳拾八坪

御贈陸尺
中澤平七 郎

右者元祿十四巳年六月元木置場跡御坊主竹内道宜拜領
其子友永拜領之處竹島町ニ而屋代久意上ケ地ヲ拜領致
候ニ付上ケ地ニ致享保十九年寅十二月九日町内之御預
ケニ相成候處同二十年卯十二月廿八日奥陸尺祖父中澤
爲右衛門拜領父中澤平八郎拜領當時平七郎拜領仕候

一河岸地 貳ヶ所

御府内備考卷之百十七 深川之七

右壹ヶ所者北之方油堀之端ニ而東西之長百四拾四間九
寸中四間壹ヶ所者西之方横川端ニ而南北之長拾間五尺
中四間右貳ヶ所共最初ノ御買請地並拜領町屋敷等ニ付
冥加銀相納不申候

一自身番屋 間口三間半
奥行三間半

右者町内北之方河岸地ニ有之手切番屋ニ御座候處起立
相知不申候

一床番屋 間口貳間
奥行九尺

右者町内東之方富岡橋際ニ有來候橋番屋ニ候處起立相
知不申凡享保之頃相建候哉之趣申傳ニ御座候

一商番屋 間口九尺
奥行貳間

右者町内西之方縁橋際ニ有來候橋番屋ニ而前書床番屋
同様ニ御座候

一御高札場

右者同所入船町汐見橋際西南之方ニ建有之當町之儀も
前々ノ組合見守仕委細之儀者入船町ノ申上候

一富岡橋 長拾間三尺
中壹丈三尺

右者前書油堀之方ニ而町内ノ同所平野町相渡候御公儀
様御入用橋ニ候處起立相知不申尤當町並同所黒江町同

所平野町右三ヶ町ニ而見守仕異變等有之候節者右三ヶ町本所方御掛之御訴申上取斗仕尤里俗闇魔堂橋と相唱申候其外名目申傳無御座候

一 緑橋 長拾間 巾貳間

右者町内横川之方ニ而町内ノ同所松賀町ニ相渡候御公儀様御入用橋ニ候處起立相知不申當町並同所松賀町右貳ヶ町ニ而見守仕異變等有之候節者右貳ヶ町ノ本所方御懸リ之御訴申上取斗仕候尤名目申傳無御座候

一 川 長六拾間三尺五寸 巾拾五間

右者町内北之方ニ而東之方永代寺裏通ノ西之方大川口之流出里俗油堀と相唱申候右者前ニ申上候元祿年中伊勢屋又四郎同庄兵衛御買請仕リ町屋鋪之處寶永元年丑十月油問屋共組合三拾人之者共方ニ仲間地ニ買取右之者共所持仕罷在候處仲間追々減少仕享保二十年卯三月油問屋丸吉兵衛同吉十郎同勘兵衛丸屋三郎兵衛江坂屋久右衛門伊勢屋長兵衛大黒屋藤右衛門荒布屋源兵衛伊勢屋庄右衛門同孫兵衛植村屋七郎兵衛伊勢屋五郎兵衛油屋惣兵衛右前之油問屋共油置場ニ所持仕候處其後追々外商賣躰之者共賣渡當時ニ而者油問屋共登人茂無御座候得共右之場所故西者大川口ノ町内前川通里

俗油堀と唱來申候西之方横川有之巾拾四間長四拾六間三尺町内地先之分南之方大川口ニ通申候尤當所川名別段無御座候

日本橋大工町仙壽院配下 羽黒修驗 正 覺 院

右者文化元子年中神田小柳町貳丁目大行院弟子ニ罷成去ル文化十二亥八月中ノ同所一色町小八店借請住宅仕罷在候

一 非人小屋 三ヶ所

右者町内西之方中程往還河岸ニ有之間口四間奥行五間半此坪數貳拾貳坪有之同所三十三間堂町續非人頭善三郎手下權太郎同所間口貳間奥行四間半此坪數九坪有之同手下桑松並北之方中程往還河岸ニ間口三間奥行長延四間半此坪數十八坪餘但シ入込有之前書同斷手下長吉三人とも元祿十四巳年六月中ノ罷在町内番非人ニ御座候

以上戊子書上

伊澤町

一 町内起立之儀委細材木町ノ申上候當所之儀者元祿年中元木置場跡同年十四巳年中御坊主方町内一圓拜領町屋敷ニ候所御代官伊奈半左衛門様ニ引續町銘相願御同人

一 九拾五坪五合 表御坊主 小坂 長 俊

右者同年勝村長益拜領町屋敷ニ御座候處文政元寅年十月二月廿一日右地所相對替願之通被仰付候

一 九拾五坪五合 表御陸尺 内 田 善 六

右者同年御同朋野口文碩拜領町屋敷之處安永八亥年六月四日右地所相對替願之通被仰付候

一 同 御數寄屋御坊主 大 竹 祐 益

右者同年御坊主池田宗立拜領町屋敷之所文政五年十一月十九日右先代相對替願之通被仰付候

一 九拾五坪五合 表御陸尺 中 林 吉 之 助

右者同年御同朋吉野三喜拜領町屋敷之處寶曆十二年四月廿七日相對替願之通被仰付候

一 同 小普請 青 柳 宗 知

右者同年御同朋本村圓齋拜領町屋敷之所文政七年五月九日相對替願之通被仰付候

一 町並屋鋪貳百四拾坪五合 勢州住宅町人 三 郎 右 衛 門

右者先年ノ深川伊澤町之内ニ相籠リ町御奉行御代官兩御支配ニ相成當時御代官山田茂左衛門様御支配之内ニ

所平野町右三ヶ町ニ而見守仕異變等有之候節者右三ヶ町本所方御掛之御訴申上取斗仕尤里俗闇魔堂橋と相唱申候其外名目申傳無御座候

一 緑橋 長拾間 巾貳間

右者町内横川之方ニ而町内ノ同所松賀町ニ相渡候御公儀様御入用橋ニ候處起立相知不申當町並同所松賀町右貳ヶ町ニ而見守仕異變等有之候節者右貳ヶ町ノ本所方御懸リ之御訴申上取斗仕候尤名目申傳無御座候

一 川 長六拾間三尺五寸 巾拾五間

右者町内北之方ニ而東之方永代寺裏通ノ西之方大川口之流出里俗油堀と相唱申候右者前ニ申上候元祿年中伊勢屋又四郎同庄兵衛御買請仕リ町屋鋪之處寶永元年丑十月油問屋共組合三拾人之者共方ニ仲間地ニ買取右之者共所持仕罷在候處仲間追々減少仕享保二十年卯三月油問屋丸吉兵衛同吉十郎同勘兵衛丸屋三郎兵衛江坂屋久右衛門伊勢屋長兵衛大黒屋藤右衛門荒布屋源兵衛伊勢屋庄右衛門同孫兵衛植村屋七郎兵衛伊勢屋五郎兵衛油屋惣兵衛右前之油問屋共油置場ニ所持仕候處其後追々外商賣躰之者共賣渡當時ニ而者油問屋共登人茂無御座候得共右之場所故西者大川口ノ町内前川通里

一 九拾五坪五合 表御坊主 小坂 長 俊

右者同年勝村長益拜領町屋敷ニ御座候處文政元寅年十月二月廿一日右地所相對替願之通被仰付候

一 九拾五坪五合 表御陸尺 内 田 善 六

右者同年御同朋野口文碩拜領町屋敷之處安永八亥年六月四日右地所相對替願之通被仰付候

一 同 御數寄屋御坊主 大 竹 祐 益

右者同年御坊主池田宗立拜領町屋敷之所文政五年十一月十九日右先代相對替願之通被仰付候

一 九拾五坪五合 表御陸尺 中 林 吉 之 助

右者同年御同朋吉野三喜拜領町屋敷之處寶曆十二年四月廿七日相對替願之通被仰付候

一 同 小普請 青 柳 宗 知

右者同年御同朋本村圓齋拜領町屋敷之所文政七年五月九日相對替願之通被仰付候

一 町並屋鋪貳百四拾坪五合 勢州住宅町人 三 郎 右 衛 門

右者先年ノ深川伊澤町之内ニ相籠リ町御奉行御代官兩御支配ニ相成當時御代官山田茂左衛門様御支配之内ニ

而御年貢之儀ハ南本所石原町名主友太郎方之差出來申候

一御高札之儀者同所萬年町貳丁目海邊橋際ニ有之先年ノ當町内並外組合町々ニ而見守仕來申候委細之儀者万年町貳丁目ノ申上候

一河岸地百七拾九坪四合餘

右者寛保四子年二月町々繪圖面御改之節右之通書上仕候然ル處右間數之内西之方田舎間四間長同拾壹間貳尺御年貢町並屋敷地先ニ而先年御願濟上之土藏相建有之此分文政七申年ノ冥加銀上納仕候地所ニ御座候

一川 中拾間 長七拾五間

右者町内北南之方ニ有之町内ノ北之方油堀ノ之枝川ニ而名目無之堀割年月相分不申候

一坂田 中七尺 長八間

右者町内並同所松村町ノ同所蛤町之相渡候橋ニ而委細之儀者右松村町ニ而申上候

一土橋 間口貳間 奥行九尺

右者町内南之方前書橋際ニ有之御願濟ニ而相建起立相分不申候尤右地所文政七申年ノ冥加上納仕候

一非人小屋 間口三間 奥行四間半

右者町内西之方往還河岸際ニ有之坪數拾三坪五合有之候右起立相分り不申候右者深川三拾三間堂町續ニ罷在候非人頭善三郎手下ニ而吉十郎吉太郎政五郎右三人當時住居仕罷在候町内番非人ニ御座候

以上戊子書上

松村町

一町内起立往古之儀者材木町ノ申上候通元木置場跡ニ而其後年月不知御武家方御屋敷ニ相成候由其後御上り地ニ相成享保六丑年四月中木挽町續松村町拜領町屋敷之内御用地ニ被召上右爲代地御醫師並御小人方其外御拜領町屋敷之代地ニ相成當時も一圓拜領町屋敷ニ而御座候右町名之儀者元地同様相唱公役銀上納仕候町屋敷ニ御座候

一町内惣間數九拾三間四尺四寸

一内分南之方表通東西之表間口四拾貳間七尺裏中五拾五間六尺餘南北之西之方奥行貳拾貳間餘東之方同貳拾間半

但中道間數相除申候

一東之方裏通東西之表間口三拾五間餘裏中拾九間七尺餘南北之西之方ニ而奥行拾四間半餘東之方ニ而同貳拾壹間半

御小人 高橋助三郎

御小人 大森市左衛門

間半 一 中道西側南北之表間口七間餘裏中同斷東西之奥行拾七間餘

但往還道中相除申候

一四隣 東之方深川坂本代地町往還境同所一色町西之方往還境同所伊澤町南之方往還川境同所奥川町北之方大場斧三郎様田村武右衛門様松田專藏様根岸吉右衛門様墨山忠右衛門様大竹孫右衛門様野田勘次郎様富永喜三郎様御屋敷往還境同所一色町

一町内里俗網打場と相唱申候右者町内北之方同所一色町裏通りニ而廻船碇網打候場所ニ御座候故此近邊右之通相唱候儀と奉存候

一町屋敷拜領人名別左之通

御細工所御支配

御調師

松川 紋次

一貳百七拾坪八合

右者享保六丑年四月中小普請御醫師御名前不知替地拜領之町屋敷ニ御座候處上り地ニ相成候跡寶曆十二年壬子月中ノ右先代拜領被仰付候

御小人

白井藤三郎

右者同年同斷御役名不知服部宗節拜領町屋敷ニ候處享保八卯年十月上り地ニ相成候跡同九卯年壬子月中右三人之先代拜領被仰付壹ヶ所地面ニ而内分無御座候

御作事方手代

深町 權兵衛

一百拾七坪

右者同年同斷御名前不知御醫師方拜領町屋敷ニ相成其後上り地ニ相成寶曆元未年中大工頭支配勘定御披官等拜領地ニ相成候處猶又上り地ニ相成候哉享和二戌年中右先代拜領被仰付候

小普請

田村 新兵衛

一百拾七坪

右者同年同斷御醫師方拜領町屋敷相成其後年月不相知御作事方手代坪井喜惣次拜領地ニ相成文化八未年八月申右喜惣次と相對替願之通被仰付候

吹上奉行支配

役人目付

山田 傳藏

一五拾八坪餘

右者同年同斷御醫師方拜領町屋敷ニ御座候處年月不知上り地ニ相成候跡文化三寅年六月中右傳藏拜領被仰付候

一五拾八坪

吹上下役 朝比奈三八

右者同年同斷御醫師方拜領町屋敷ニ御座候處年月不知上り地ニ相成文化三寅年六月中吹上下役下條百助拜領地ニ相成候處文政五年六月中相對替願之通被仰付候

一百拾七坪

御簾中様御用人支配添番格御侍 井上 與市

右者同年同斷御醫師方拜領町屋敷ニ相成候處其後年月不知上り地ニ相成寛政三亥年十一月十九日右拜領被仰付候

一貳百三拾四坪七合

表御番醫師 福井 立助

右者同年同斷御醫師方拜領町屋敷ニ御座候處其後上り地ニ相成引續文政六未年十月十二日拜領町屋敷ニ相成申候

二百貳拾四坪五合

御材木石奉行羽田半藏様組同心 吉村 百助 成家 善藏

右者同年同斷御醫師古田休甫拜領町屋敷ニ御座候處其後上り地ニ相成候跡拜領被仰付當時も兩人内分無之町屋敷ニ御座候

一三百五拾貳坪八合

御賄頭支配御定筆師 赤澤 八之助

右者同年中御拜領地ニ相成右御上り地跡ニ候哉同年十巳年九月中廻船目當濤杭御請負人之拜借地ニ相成候處上り地ニ相成寛政八辰年二月九日右地所拜領被仰付候

一百貳拾六坪四合

御大工頭支配作事方勘定役 加藤 郡兵衛

右者同年中御醫師方拜領町屋敷ニ御座候處同十三年九月中上り地ニ相成元文三年十月七日拜領被仰付候

一百貳拾四坪五合

御寄合御醫師小石川養生所付 井上 玄丹

一自身番屋

但間口九尺 奥行四間

右者町内往還南之方河岸ニ有之御願濟年月書留無御座相分不申候

一御高札之儀者同所万年町貳丁目地先ニ有之先年當町内外貳拾ヶ町ニ而見守仕來申候委細者右万年町申上候

一川 巾拾間 長四拾五間

右者町内南之方ニ有之深川永代寺境内後末者大川海手之方之相流候枝川ニ而尤名目無御座候

右者町内並同所伊澤町同所奥川町同所蛤町ニ相渡候自分入用を以相掛り候橋異變取斗方都而右四ヶ町ニ而相心得來申候右起立名目共書留無御座相分不申候

以上戊子書上

坂本町代地

一當町起立之儀者東叡山御領下谷坂本町壹丁目貳丁目掛り西側裏上野御山裾通ニ有之候處壹丁目方幅七間餘長サ四拾八間三尺貳寸貳丁目掛り候方幅七間長サ拾八間之場所享保三戌年月日不相知御火除地ニ被召上同年月日相不知當所何跡ニ候哉不相知代地ニ被下置前書御領町並地ニ而延享二丑年中月日不相知町奉行御支配ニ相成御年貢之儀者東叡山御目代田村權右衛門役所之坂本町同様相納申候御火除地被召上代地被下置町御奉行御支配ニ相成候月日之儀者古書物類燒仕候間相分不申候

一町内間敷 西ノ南ニ表間口拾壹間餘東ノ北ニ裏幅拾五間南ノ東ニ奥行四拾間餘北ノ西ニ奥行四拾貳間餘

但片側町

一四隣 東之方往還境深川黒江町西之方同所松村町南之方往還境同所黒江町川を隔同所奥川町北之方往還境同

所一色町

一河岸地 巾三間半 長拾壹間

右者町内西南之方ニ有之

一川 巾拾間 長拾壹間

右者西南之方ニ而家前ニ有之名目無御座候

一御檢地

右者寛延三年九月神尾若狹守様曲淵豊後守様御改尤御檢地代地被下置候後下谷坂本町惣御檢地之節ニ御座候

一町内反別二反廿三步

一町内三分葛飾郡西葛西領深川坂本代地町と御鳥見方ニ相認來申候

但里俗かわらけ町と相唱候義者隣町黒江町之方ニ候得共右續ニ付唱來候此儀黒江町ニ而申上候

當山派先達奥州仙臺城下 明王院配下眞言宗 寶鏡院

右者文政八酉年八月ノ深川坂本町代地伊兵衛店借罷在候

一非人小屋 間口貳間 奥行三間

右者町内地先ニ有之先年同所佐賀町地先ニ罷在候處元
祿十一寅年永代橋御掛ケ渡之節右地所御取拂ニ相成候
ニ付其砌ノ當時之場所ニ小屋建候旨申傳ニ御座候尤右
者深川三拾三間堂町續非人頭善三郎手下ニ而金左衛門
ト申者町内番非人ニ御座候

以上戊子書上

蛤町續

北本所代地町

一當町之義者往古北本所表町之内ニ有之候處元祿十一寅
年中松平對馬守様御屋敷ニ相成候ニ付御用地ニ被召上
寶永二酉年五月中當時之場所深川妙榮寺跡地所之内ニ
而代地被下置寶永三戌年御役不相知赤井六兵衛様瀧川
清右衛門様御勤役中奉願家作御免被仰付町並屋敷ニ罷
成正徳三巳壬五月中町御奉行坪内能登守様丹羽遠江守
様松野壹岐守様御勤役之節町方御支配被仰付地方之儀
者御代官ニ而兩御支配之町並屋敷ニ御座候
一町内間數東西ニ表間口貳拾六間餘裏中三拾壹間半餘南
北ニ裏行東之方ニ而三拾間餘西之方ニ而貳拾三間半餘
一四隣 東之方南本所石原代地町西之方川向深川黒江町
南之方川向同所永代寺門前山本町北之方深川佐賀町代

御座候

武州幸手不動院配下
東山修驗 林 明 院

右者文政四巳年三月ノ當町家主六右衛門店ニ罷在候

南本所石原代地町

一町内往古者南本所石原町之内ニ而元祿十二卯年中右地
所之内御用地ニ被召上 當時杉浦房之助様御屋敷同十三辰
年深川妙榮寺ト申候寺跡地内ニ而代地被下置且亦南本
所外手町之内ニ而元祿十二卯年御用地ニ被召上阿部主
水様御屋鋪ニ相渡右代地深川伊勢崎町續ニ而何跡ニ候
哉不相知代地被下置貳ケ所共石原代地町ト相唱寶永二
酉年中屋敷御改阿部甚三郎様赤井六兵衛様御勤役中奉
願追々町並家作御免被仰付候處正徳三巳年中町御奉行
御支配ニ相成地方之儀者御代官所御支配ニ御座候
一町内蛤町續代地之分南表間口貳拾三間餘北裏中貳拾貳
間半餘南北ニ裏行東之方三拾七間餘西之方三拾間餘
但片側町
一同伊勢崎町續代地之分南北ニ表間口拾貳間裏中同斷東
西ニ裏行南之方三拾三間北之方三拾四間
一四隣 蛤町續之分東之方深川平野町足地西之方北本所

御府内備考卷之百十七 深川之七

地

一町内里俗此邊わくらと相唱申候町内ノ東之方ニ御賄方
御組屋敷有之同所ニ御椀藏有之候ニ付相略シ唱來候由
ニ御座候

一自身番屋 表間口三間
奥行九尺

右者町内西北之方深川佐賀町代地境ニ有之寬延四未年
七月願上御奉行山田伊豆守様御懸リニ而同八月二日御
見分相濟同六日御内寄合ニ而被仰付富岡町佐賀町代地
平野町添地蛤町南本所石原代地町並當町組合ニ而町用
相勤申候

一川 巾拾四間
長折廻し五拾間

右者町内南之方ノ西之方ニ相掛東之方木場町並八幡境
内後口之方貳ケ所ノ流來北之方油堀ニ相流申候

一御檢地

右者元祿十五年十二月元地之砌酒井河内守様御改ニ御
座候

一町内反別貳反五畝歩

但北本所表町反別之内ニ御座候

一町内武州葛飾郡西葛西領ニ御座候
一町御奉行兩御支配ニ而當時山田茂左衛門様御支配所ニ

代地町南之方川境同所永代寺門前山本町北之方川境同
所蛤町

一同伊勢崎町續之分東之方上田佐太郎様御下屋鋪秋田中
務様御下屋敷西之方久世長門守様御下屋敷廣瀬吉之丞
様御屋敷南之方同所伊勢崎町同所西平野町北之方芝田
久次郎様御屋敷

一里俗唱之儀蛤町續之分都而わくらと相唱申候此儀者蛤
町ノ申上候伊勢崎町續之分者一圓水場ト相唱申候此儀
者元來地低之場所故相唱候儀ト奉存候

一御高札之儀者南本所元町東之方小橋際ニ建有之南本所
一同組合之御高札ニ而町内之義茂右御高札相守申候

一自身番屋之儀者町内無之貳ケ所共蛤町番屋ニ組合相勤
申候

一寺跡

右者蛤町續地面之内御年貢地ニ而田舎間百七坪有之町
並屋敷之内先年仁兵衛ト申者所持之節寶永七寅年十二
月中小石川柳町金太郎ト申者地面借地致罷在候眞言宗
松林寺ト申寺ニ貸地ニ仕勿論其砌同寺ノ寺社御奉行本
多彈正少弼様御勤役中願濟之上當所ノ引移候由尤右松
林寺事普門院ト申候所元祿五申年寺社御奉行戸田能登
守様御勤役中借地古跡御免ニ相成松林寺ト相改候段申

二付其砌元地主並所之者猶又傳通院代官之承尋候處松
林寺申通紛無之候然ル處文化元子年八月七日夜右松林
寺住持照空儀子細不知寺社御奉行脇坂中務大輔様之被
召捕右照空儀子細不知品々不届之儀有之御仕置ニ相成
申候右寺廢寺ニ被仰付寺付品々並家作共不殘本寺高野
山在番所之御引取地面者明地ニ相成候ニ付翌丑年四月
廿七日其節之地主喜兵衛之被下置候

一川 巾拾五間
右者蛤町之續地面南之方地先ニ有之油堀之川上ニ而有
之候

一反別之儀者蛤町續之分貳反五畝拾三步此高三石六升
一町内飛地反別伊勢崎町續之分壹反三畝拾壹步此高壹石
六斗四合 但南本所惣高之内ニ御座候

一御檢地
右者見取屋敷ニ而古高立返ニ付享保十七子年御代官伊
奈半左衛門様御勘定蘭部源次郎様同粕谷金太夫様御改
ニ御座候

一町御奉行御代官兩御支配ニ而山田茂左衛門様御代官所
ニ御座候
一領名之儀者武州葛飾郡西葛西領之内ニ而御座候
以上戊子書上

富岡町

一町内起立之儀者駝と相分不申候得共往古町内並近邊一
圓日蓮宗ニ而妙蓮寺と申候寺院有之候處年月不知上り
地ニ相成候由申傳御座候其後寶永之頃ニ候哉町人共追
々御買請仕御代官伊奈半左衛門様御支配ニ候處正徳三
巳年閏五月中松野壹岐守様丹羽遠江守様坪内能登守様
町御奉行之節之町方御支配ニ相成引續公役銀上納仕候
町屋敷ニ御座候
但町内之西之方富岡橋際迄往古者富岡町と申候由申
傳ニ御座候

一町内惣間數南北之表京間四拾五間半餘裏巾同斷東西之
輿行北之方五間同南之方六間餘
但往還道巾相除申候

一四隣 東之方川境永代寺境内西之方同所蛤町南之方川
境永代寺境内北之方御貽御組屋敷同側戸田土佐守様御
下屋敷

一里俗之儀者此町並近邊都而わくらと相唱申右者町内西
北之方御貽御組屋敷内ニ往古御枕藏有之候由尤當時
者無御座候共右組屋敷ヲ御枕藏御組屋敷と相唱候之此
邊之唱相略シ候而前書之通唱來候由申傳候
一河岸地 巾貳間半
長四拾九間貳尺七寸

御府内備考卷之百十八

深川之八

中川町

右者町内北之方往還之内ニ有之古來ノ物置納屋御願濟
之上相建差置候處文政七年ノ冥加銀上納仕候
一御高札之儀者同所万年町貳丁目地先ニ有之町内之儀茂
先年ノ見守仕來申候委細之儀者右町ノ申上候
一自身番屋之儀者同所蛤町地先河岸番屋之組合町用相勤
申候

一川 巾拾五間
長四拾五間餘

右者町内東南之方ニ有之深川木場町邊ノ末者大川之方
之相流油堀之川上ニ而此邊名目無御座且堀割年月相分
不申候

以上戊子書上

濱中茂昌淨書

御府内備考卷之百十七終

一當町起立之儀者委細材木町ノ申上候當所之儀者元祿十
三辰年十一月中町人共御代官伊奈半左衛門様之申立江
戸町並同様家作御改御免之地所ニ被成下候様奉願御開
濟之上代金上納仕引續町銘相願候前書御買請以前者町
内南之方川筋並東之方川筋前後御埋立ニ相成東南地先
之御堀割ニ而中之堀出來左右之相通シ候場所ニ付相唱
來候由申傳ニ御座候御同人様御支配ニ候處正徳三巳年
閏五月中松野壹岐守様丹羽遠江守様坪内能登守様御奉
行之節之町方御支配ニ相成引續公役銀上納仕候町屋鋪
ニ御座候

一町内 南北間口京間五拾間餘裏巾同斷東西裏行拾七間
餘
一同裏之方町屋 南北間口京間拾貳間餘裏巾拾貳間半餘
東西裏行南之方拾三間半餘北之方拾四間餘

一四隣 東之方川境富田町西之方同所佐賀町並鈴木吉五郎様御屋鋪南之方同所堀川町北之方川境同所佐賀町同所今川町

一御高札之儀者萬年町貳丁目地先ニ有之町内之儀茂先年見守仕來委細之儀者右町申上候

一自身番屋 間口九尺奥行三間

右町内南之方ニ有之尤起立年代相知不申候

一川 中拾間長二方折廻シ七拾五間餘

右町内南之方ノ北之方地先ニ有之中ノ堀と唱申候委細之儀者同所富田町申上候

一田中橋 中七尺長八間

右者前書中ノ堀ニ懸渡有之同所富田町ニ相渡候橋ニ而委細之儀者同町申上候

善右衛門店 小揚 三左衛門養子 一拾七歳 五郎 一拾七歳

一御褒美金貳拾兩

右之者寶曆五亥年養父三左衛門方ニ養兄與七俱々同居仕兩人ニ而小揚渡世仕罷在候處右五郎八儀者病身ニ有之右渡世相成兼兄世話ニ而別宅いたし候得共渡世難相成ニ付翌子年三月中同人實姉婿本所善兵衛屋鋪文次郎店忠兵衛と申者方ニ被引取世話ニ相成居一躰幼少之節

今川町

一當町起立之儀者委細材木町申上候當所之儀者元祿十三辰年十一月中町人共御代官伊奈半左衛門様ニ右地所

河岸共御買請之儀申立江戸町並家作御改御免之地所ニ被成下候様奉願御開濟之上代金上納仕引續町名相願候得共唱之譯相知不申御同人様御支配ニ候處正徳三巳年

閏五月中松野壹岐守様丹羽遠江守様坪内能登守様御御奉行之節ノ町方御支配ニ相成引續公役銀上納仕候町屋敷ニ御座候尤町内中道京間中三間一尺七寸五分之儀者

御買請家作地之内ニ有之候處自分道敷ニ仕度段元祿十四巳年中御代官伊奈半左衛門様ニ奉願御開濟ニ相成候道敷ニ御座候

一町内 東西間口京間六拾四間半餘裏中同斷南北裏行貳拾一間餘

一四隣 東之方往還川境深川伊勢崎町同所永堀町西之方同所佐賀町並川境同所中川町南之方同所西永代町同所富田町北之方往還川境松平陸奥守様御藏屋鋪

一御高札之儀者同所万年町二丁目地先ニ而町内之儀茂見守仕來申候委細者右町申上候

一河岸地 貳ヶ所

兄弟中宜兩人ニ而親三左衛門を養育いたし候得共其頃米高直殊ニ渡世茂薄ク取續兼親三左衛門養育行届不中心勞いたし候上却而身分茂病身ニ而世話ニ相成候ヲ氣之毒ニ存候哉店相仕舞又々養父三左衛門方ニ罷在候處同月廿四日淺草觀音ニ參候由ニ而相斷晝時頃罷出暮時立歸り申聞候者右忠兵衛方ニ立寄候處明日返留ニ參候様申聞候間罷越候旨ニ付翌朝差遣候得共右躰病中ニ之儀ニ茂有之候間途中氣遣敷存跡ノ與七ニ候哉忠兵衛方ニ罷越様子相尋候處忠兵衛方ニ申聞候者渡世茂成兼候間法躰いたし度由養兄與七ニ相咄候得共同人方ニ而差留候ニ付在所鎌倉邊ニ參着次第其段申越候旨忠兵衛方ニ申置立出候由ニ付右ヲ相待罷在候處同七丑年七月廿六日通旅籠町市兵衛店善五郎家前右五郎八儀自分指ヲ切養父三左衛門兄與七兩人名前ヲ認書付狀箱ニ入右善五郎家前ニ捨有之候ニ付同所ノ御訴申上御吟味之上同月廿八日依田和泉守様御番所ニ一同被召出五郎八ニ右之通被下置候尤委細之儀者書留無御座相分り不申候得共右養父三左衛門養育不行届前書之儀ヲ相敷キ右躰及始末候段右五郎八儀奇特之旨御尋之上相分り前書之通御金頂戴仕候義申傳ニ御座候尤其節被仰渡書付無御座候前書相記置候趣ニ而申上候

但北之方仙臺堀之側ニ而中南北ニ四間長二ヶ所合而六拾九間餘

一河岸地

但東之方枝川付中東西ニ四間長二拾三間餘

右三ヶ所共町内北東地先ニ有之元祿十三辰年中元地同様町人共御買請仕候河岸地ニ御座候

一自身番屋 間口貳間奥行三間外ニ一間ニ二間ノ建出有之

右町内北之方河岸地面ニ有之候尤起立年代相知不申候一床番屋 間口貳間奥行三間

右町内東之方河岸ニ有之尤建初年代相知不申候

一川 中貳拾間長八十間程

右町内北之方ニ有之深川木場町邊ノ末者大川之方ニ相流仙臺堀と唱申候委細之儀者同所万年町二丁目申上候右川ノ東南之方地先ニ相掛り候枝川有之巾拾四間長地先之分ニ拾間餘ニ而前書川ノ南之方油堀ニ相通申候

一松永橋 幅一丈長拾間

右町内東之方前書枝川ニ掛り有之同所永堀町ニ相渡候橋ニ而御公儀様御入用橋ニ御座候異變取斗方右兩町ニ而相心